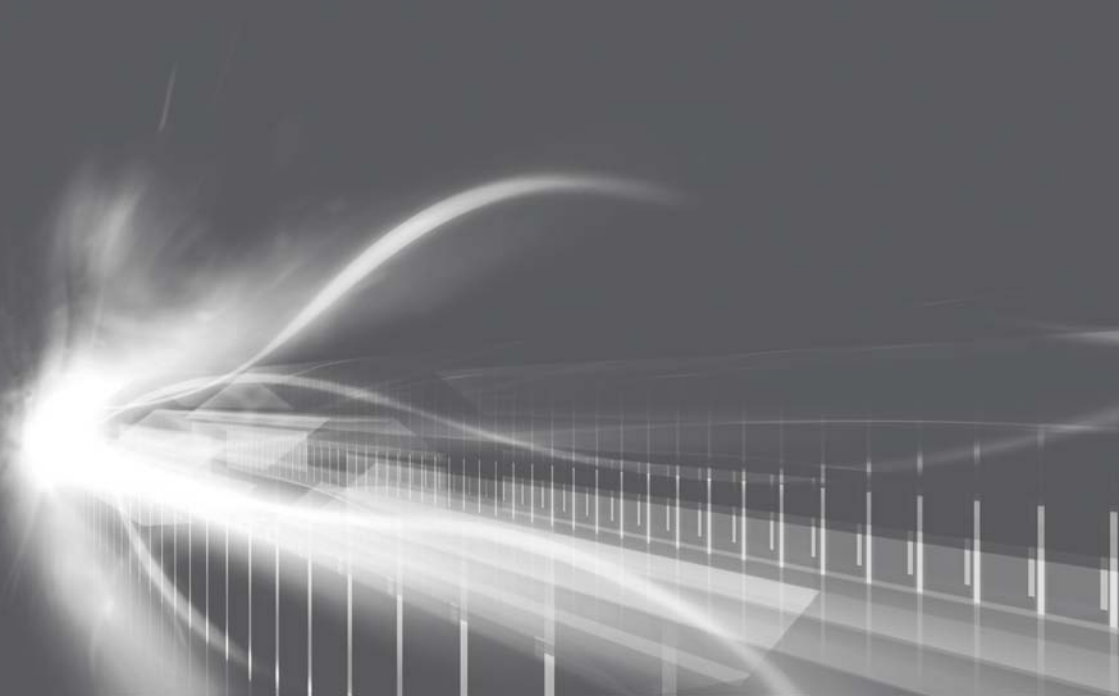


取 扱 書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

CROWN

TOYOTA

	イラスト目次	**イラスト**から検索
1	安全・安心のために	お客様に**必ずお読みいただきたいこと**
2	メーターの見方	メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など
3	各部の操作	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など
4	運転	運転に必要な操作やアドバイス
5	室内装備・機能	室内装備の使い方など
6	お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法
7	万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処
8	車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など
	さくいん	**症状**から検索
		音から検索
		アルファベットで検索
		五十音で検索

知っておいていただきたいこと 6
本書の見方 10
検索のしかた 11
イラスト目次 12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 22
安全なドライブのために 24
シートベルト 26
SRS エアバッグ 31
ポップアップフード 39
排気ガスに対する注意 42

1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは 43
チャイルドシート 44

1-3. 盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム 64
オートアラーム 65

2 メーターの見方

2. 計器の見方
警告灯／表示灯 72
計器類 79
マルチインフォメーションディスプレイ 83
ヘッドアップディスプレイ 105
燃費画面 112

3 各部の操作

3-1. キー
キー 116

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア 122
トランク 130
スマートエントリー＆スタートシステム 136

3-3. シートの調整
フロントシート 143
リヤパワーシート 145
パワーイージーアクセスシステム／マイコンプリセットドライビングポジションシステム／メモリーコール機能 147
ヘッドレスト 152

3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル 155
インナーミラー 158
デジタルインナーミラー 160
ドアミラー 172

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉
パワーウインドウ 175
ムーンルーフ 179

4 運転

4-1. 運転にあたって
運転にあたって.....184
荷物を積むときの注意.....195

4-2. 運転のしかた
エンジン（イグニッション）スイッチ.....196
オートマチックトランスミッション.....202
方向指示レバー.....209
電動パーキングブレーキ.....210
ブレーキホールド.....214

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方
ランプスイッチ.....217
AHS（アダプティブハイビームシステム）.....220
AHB（オートマチックハイビーム）.....225
フォグランプスイッチ.....229
ワイパー＆ウォッシャー.....231

4-4. 給油のしかた
給油口の開け方.....238

4-5. 運転支援装置について
Toyota Safety Sense..... 242
PCS（プリクラッシュセーフティ）..... 248
LTA（レーントレーシングアシスト）..... 258
RSA（ロードサインアシスト）..... 270
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）..... 275
先行車発進告知機能..... 291
ITS Connect..... 294
Stop & Start システム..... 307
BSM（ブラインドスポットモニター）..... 316
クリアランスソナー..... 322
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）..... 335
RCD（リヤカメラディテクション）..... 342
PKSB（パーキングサポートブレーキ）..... 346
パーキングサポートブレーキ（静止物）..... 353
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）..... 361
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）..... 367
インテリジェントパーキングアシスト2..... 371
ドライブモードセレクト..... 419
運転を補助する装置..... 423

4-6. 運転のアドバイス
寒冷時の運転..... 432

5 室内装備・機能

5-1. エアコンの使い方

フロントエアコン.....436
リヤエアコン.....449
ステアリングヒーター／
シートヒーター／
シートベンチレーション.....452

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧.....458
・インテリアランプ.....459
・パーソナルランプ.....460

5-3. 収納装備

収納装備一覧.....462
・グローブボックス.....463
・コンソールボックス.....464
・カップホルダー／
ボトルホルダー.....465
・小物入れ.....467
トランク内装備.....468

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備..... 470
・サンバイザー..... 470
・バニティミラー..... 470
・時計..... 471
・アクセサリーソケット..... 471
・アクセサリー
コンセント..... 472
・おくだけ充電
（ワイヤレス充電器）..... 473
・リヤアームレスト..... 479
・リヤサンシェード／
リヤドアサンシェード..... 480
・アシストグリップ..... 483
・コートフック..... 483
トヨタマルチ
オペレーションタッチ..... 484

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ..... 492
内装の手入れ..... 497

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット..... 501
ガレージジャッキ..... 504
エンジンルームカバー..... 505
ウォッシャー液の補充..... 506
タイヤについて..... 508
タイヤの交換..... 512
タイヤ空気圧について..... 518
エアコンフィルターの
交換..... 520
電子キーの電池交換..... 523
ヒューズの点検・交換..... 526
電球（バルブ）の交換..... 530

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは.....536
非常点滅灯（ハザードランプ）.....537
発炎筒.....538
車両を緊急停止するには.....540
水没したときは.....541

7-2. 緊急時の対処法

けん引について.....542
フューエルポンプシャットオフシステム.....549
警告灯がついたときは.....550
警告メッセージが表示されたときは.....556
パンクしたときは.....561
エンジンがかからないときは.....577
電子キーが正常に働かないときは.....579
バッテリーがあがったときは.....582
オーバーヒートしたときは.....589
スタックしたときは.....593

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....596

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧.....602

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目.....611

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）.....614
車から音が鳴ったときは（音さくいん）.....618
アルファベット順さくいん.....621
五十音順さくいん.....623

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

- ナビゲーション
- オーディオ＆ビジュアル
- 音声操作システム
- バックガイドモニター
- パノラミックビューモニター
- ハンズフリー
- T-Connect
- ETC システム／ ETC2.0 システム

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

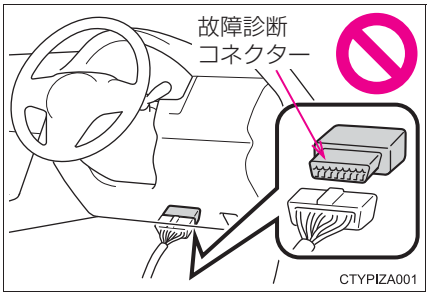
イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
  - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  - ・電装品・無線機の取り付け・取りはずし
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
    RF 送信機の取り付けについては、P. 9 も参照してください。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。
電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

・エンジン回転数／電気モーター回転数
・アクセルペダルの操作状況
・ブレーキペダルの操作状況
・車速
・運転支援システムの作動状況
・カメラの画像情報

車両には複数のカメラがついています。どのカメラが画像を記録しているかは、トヨタ販売店にお問い合わせください。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・トヨタが訴訟で使用する場合
・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● 記録した画像情報はトヨタ販売店にて消去することが可能です。
また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

T-Connect によるデータの取り扱いについて

お客様が T-Connect をご利用の場合、記録データとその使用について、T-Connect 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

・車両の各システムの作動状況
・アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

・データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- EFI コンピュータ
- Toyota Safety Sense
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください（法律で義務付けられています）。

本書の見方

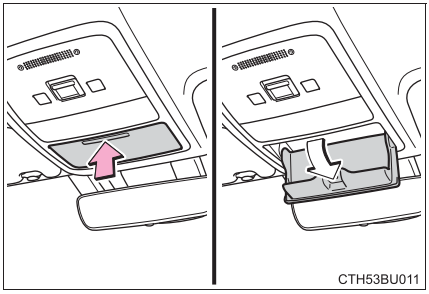
警告 お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

注意 お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3… 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

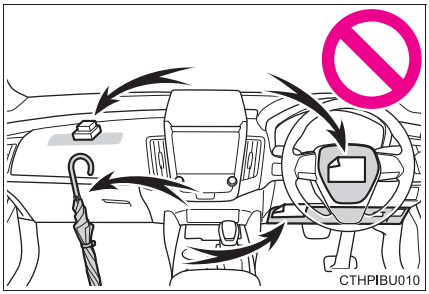
押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



説明の対象となるもの・場所を示しています。

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味です。

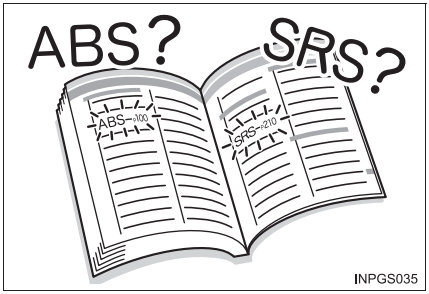


知識 機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

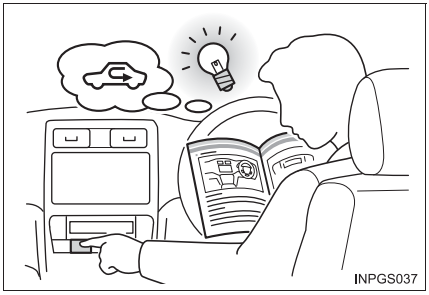
■ 名称から探す

・五十音順さくいん.....623
・アルファベット順
さくいん.....621



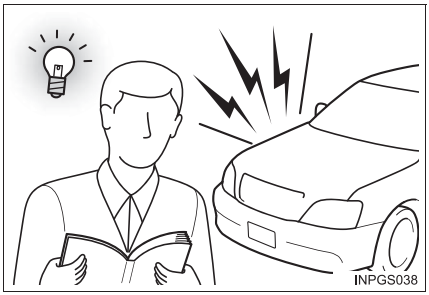
■ 取り付け位置から探す

・イラスト目次.....12



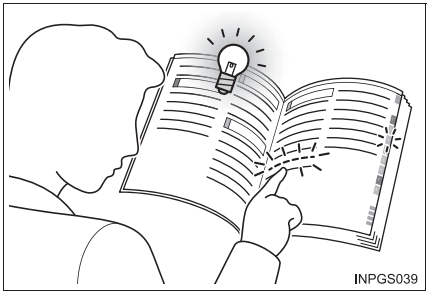
■ 症状や音から探す

・こんなときは
（症状別さくいん）.....614
・車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....618



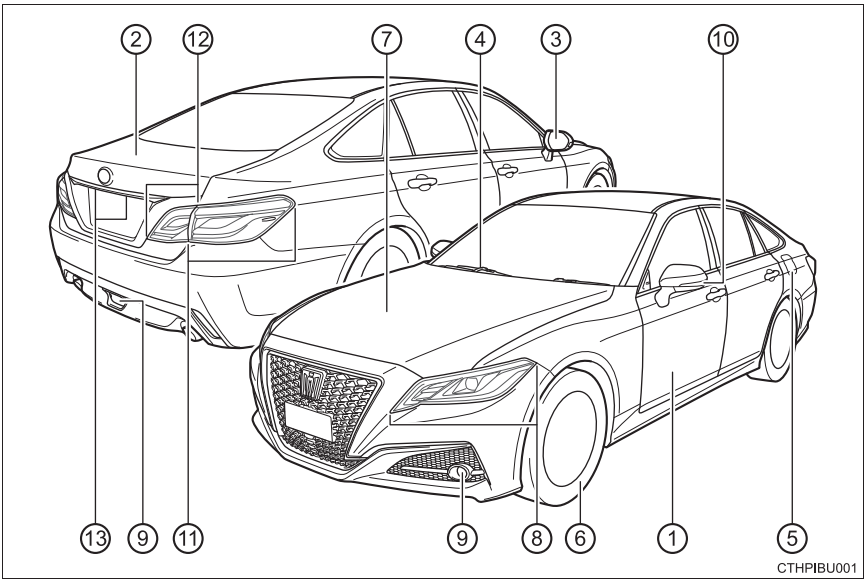
■ タイトルから探す

・目次 2



イラスト目次

■外観



ヘッドランプの形状は、グレードなどで異なります。

① **ドア . . . . . P. 122**

施錠／解錠 . . . . . P. 122, 124

ドアガラスの開閉 . . . . . P. 175

メカニカルキーでの施錠／解錠 . . . . . P. 579

② **トランク . . . . . P. 130**

車内から開ける . . . . . P. 130

車外から開ける . . . . . P. 130

メカニカルキーで開ける . . . . . P. 579

③ **ドアミラー . . . . . P. 172**

鏡面の角度調整 . . . . . P. 172

ミラーの格納 . . . . . P. 172

調整位置の登録★ . . . . . P. 147

曇りを取る（ミラーヒーター） . . . . . P. 442

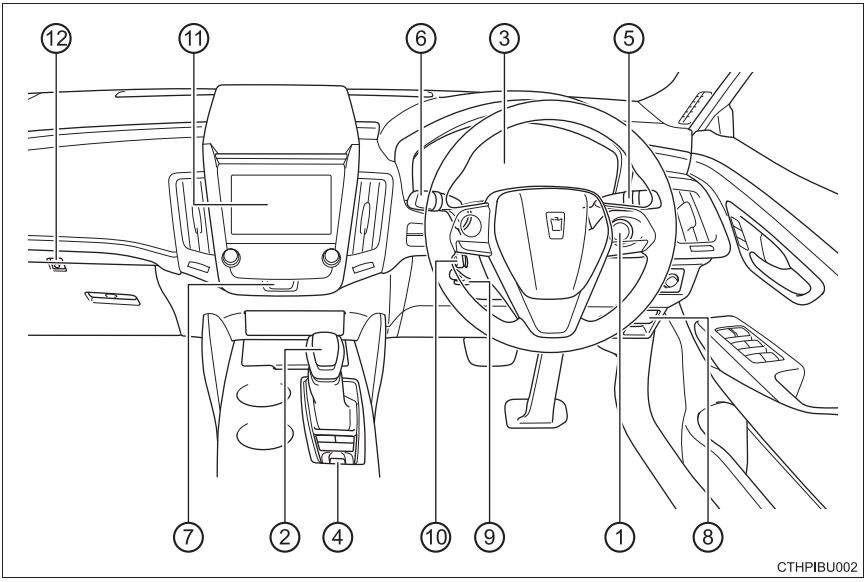
④ **ワイパー** . . . . . **P. 231**
冬季の注意 . . . . . P. 432
凍結防止（ウインドシールドデアイサー）★ . . . . . P. 442
洗車時の注意 . . . . . P. 494
⑤ **給油口** . . . . . **P. 238**
給油方法 . . . . . P. 238
燃料の種類・燃料タンク容量 . . . . . P. 596
⑥ **タイヤ** . . . . . **P. 508**
サイズ・空気圧 . . . . . P. 600
冬用タイヤ・タイヤチェーン . . . . . P. 432
点検・ローテーション . . . . . P. 508
パンク時の対処 . . . . . P. 561
⑦ **ボンネット** . . . . . **P. 501**
開け方 . . . . . P. 501
エンジンルームカバー . . . . . P. 505
エンジンオイル . . . . . P. 597
オーバーヒート時の対処 . . . . . P. 589

走行に関わる外装のランプバルブ
（交換要領：P. 530, ワット数：P. 601）

⑧ **ヘッドランプ・方向指示灯・車幅灯・LED デイライト★** . . . . . **P. 217**
⑨ **フロントフォグランプ・リヤフォグランプ★** . . . . . **P. 229**
⑩ **方向指示灯** . . . . . **P. 209**
⑪ **尾灯・制動灯・方向指示灯** . . . . . **P. 217**
⑫ **尾灯** . . . . . **P. 217**
後退灯
シフトポジションを R にする . . . . . P. 202
⑬ **番号灯** . . . . . **P. 217**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■インストルメントパネル



① **エンジンスイッチ . . . . . P. 196**

エンジンの始動・モード切りかえ . . . . . P. 196

エンジンの緊急停止 . . . . . P. 540

エンジンが始動できないときの対処. . . . . P. 577

② **シフトレバー . . . . . P. 202**

シフトポジションの切りかえ. . . . . P. 202

けん引時の注意. . . . . P. 542

シフトレバーが動かないときの対処. . . . . P. 207

③ **メーター. . . . . P. 79**

見方・明るさの調整 . . . . . P. 79, 81

警告灯／表示灯. . . . . P. 72

警告灯点灯時の対処 . . . . . P. 550

マルチインフォメーションディスプレイ . . . . . P. 83

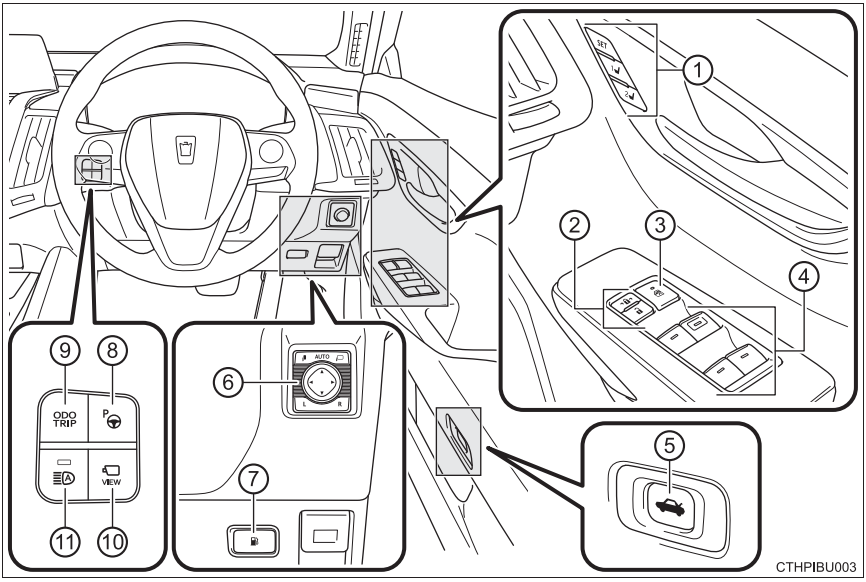
表示内容. . . . . P. 83

警告メッセージ表示時の対処. . . . . P. 556

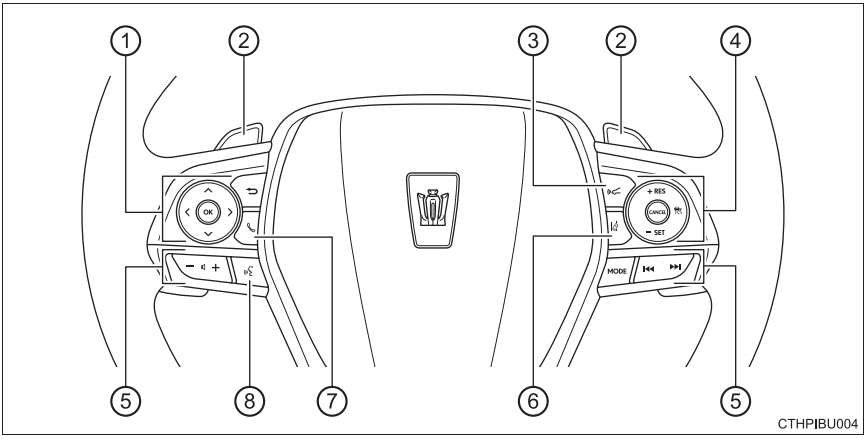
④ **パーキングブレーキスイッチ.....P. 210**
かける・解除する.....P. 210
冬季の注意.....P. 433
警告灯・警告ブザー.....P. 550
⑤ **方向指示レバー.....P. 209**
ランプスイッチ.....P. 217
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯・LED デイライト★.....P. 217
フロントフォグランプ・リヤフォグランプ★.....P. 229
⑥ **ワイパー＆ウォッシャースイッチ.....P. 231**
使い方.....P. 231
ウォッシャー液の補充.....P. 506
⑦ **非常点滅灯スイッチ.....P. 537**
⑧ **ボンネット解除レバー.....P. 501**
⑨ **ハンドル位置調整レバー★.....P. 155**
⑩ **ハンドル位置調整スイッチ★.....P. 155**
調整方法.....P. 155
調整位置の登録★.....P. 147
⑪ **トヨタマルチオペレーションタッチ※.....P. 484**
エアコンの操作方法.....P. 436
走行モードの選択.....P. 419
後席の操作★.....P. 145, 480
⑫ **トランクオープナーメインスイッチ.....P. 131**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

■スイッチ類

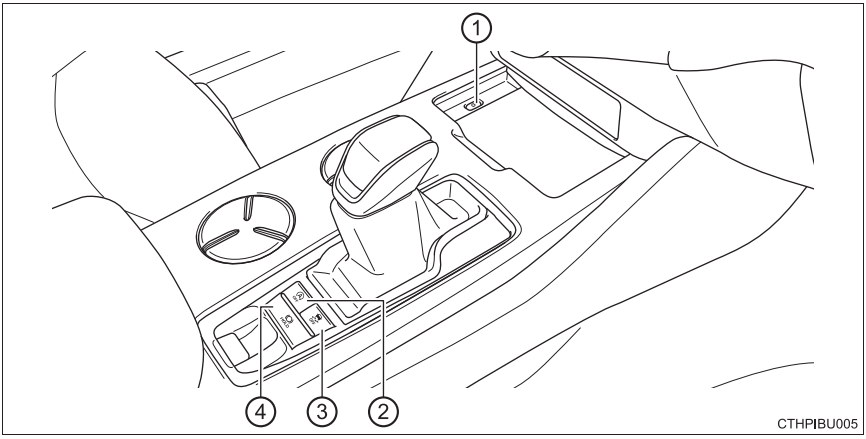


① マイコンプリセットドライビングポジションシステムスイッチ★.....P. 148
② ドアロックスイッチ .....P. 124
③ ウインドウロックスイッチ .....P. 175
④ パワーウインドウスイッチ .....P. 175
⑤ トランクオープナースイッチ.....P. 130
⑥ ドアミラースイッチ .....P. 172
⑦ 給油扉オープナースイッチ .....P. 240
⑧ IPA スイッチ★.....P. 374
⑨ オドメーター／トリップメーター切りかえ・トリップメーターリセットスイッチ.....P. 85
⑩ パノラミックビューモニターメインスイッチ★ ※
⑪ アダプティブハイビームシステムスイッチ★ .....P. 220
オートマチックハイビームスイッチ★ .....P. 225



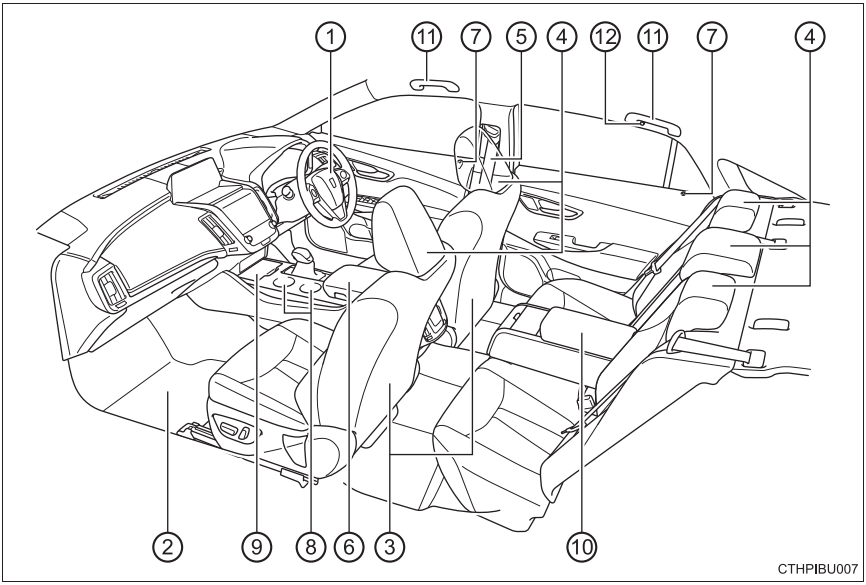
① メーター操作スイッチ . . . . . P. 85
② パドルシフトスイッチ★ . . . . . P. 204, 205
③ 車間距離切りかえスイッチ . . . . . P. 281
④ クルーズコントロールスイッチ . . . . . P. 275
⑤ オーディオスイッチ ※
⑥ LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ . . . . . P. 258
⑦ 電話スイッチ ※
⑧ トークスイッチ ※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。



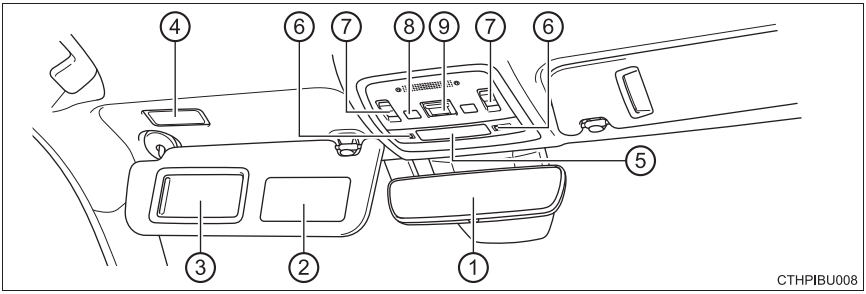
① おくだけ充電（ワイヤレス充電器）スイッチ★ . . . . . .P. 473
② Stop & Start キャンセルスイッチ. . . . . .P. 308
③ VSC OFF スイッチ . . . . . .P. 425
④ ブレーキホールドスイッチ . . . . . .P. 214

■室内



① SRS エアバッグ . . . . . P. 31
② フロアマット . . . . . P. 22
③ フロントシート . . . . . P. 143
④ ヘッドレスト . . . . . P. 152
⑤ シートベルト . . . . . P. 26
⑥ コンソールボックス . . . . . P. 464
⑦ ドアロックボタン . . . . . P. 124
⑧ カップホルダー . . . . . P. 465
⑨ 小物入れ★ . . . . . P. 467
⑩ リヤアームレスト . . . . . P. 479
⑪ アシストグリップ . . . . . P. 483
⑫ コートフック . . . . . P. 483

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



① インナーミラー.....P. 158, 160
② サンバイザー ※1.....P. 470
③ バニティミラー.....P. 470
④ バニティミラーランプ.....P. 470
⑤ インテリアランプ.....P. 459
⑥ パーソナルランプ ※2.....P. 460
⑦ ムーンルーフスイッチ★.....P. 179
⑧ 侵入センサー OFF スイッチ★.....P. 68
⑨ ヘルプネットボタン ※3

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→ P. 47）

※2：図はフロントですが、リヤにも装着されています。

※3：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全に
お使いいただくために
運転する前に.....22
安全なドライブのために.....24
シートベルト.....26
SRS エアバッグ.....31
ポップアップフード.....39
排気ガスに対する注意.....42
1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは.....43
チャイルドシート.....44
1-3. 盗難防止装置
エンジンイモビライザー
システム.....64
オートアラーム.....65

運転する前に

点検整備

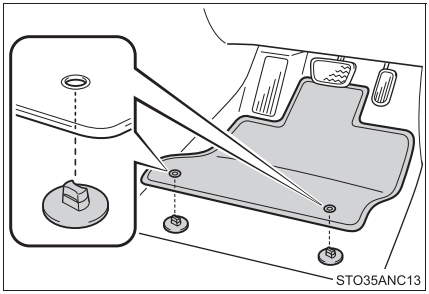
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

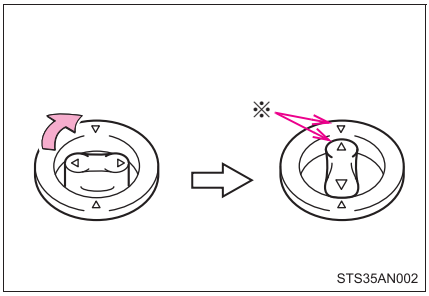
フロアマット

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する
※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

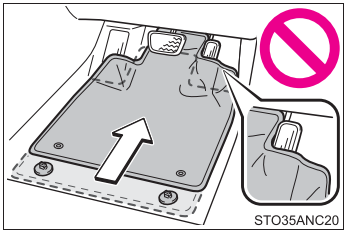
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

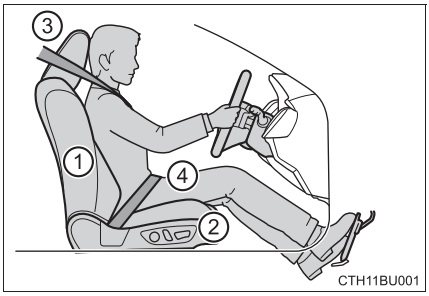
- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する



安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について



① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 143）

② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 143）

③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 152）

④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 26）

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 26）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→ P. 44）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→ P. 158, 160, 172）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

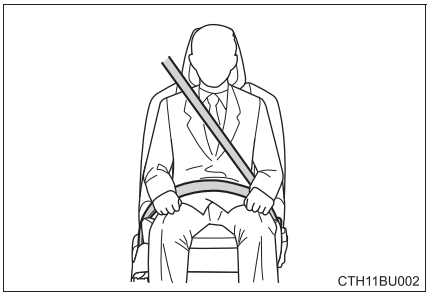
走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

- 肩部ベルトを肩に十分かける

  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

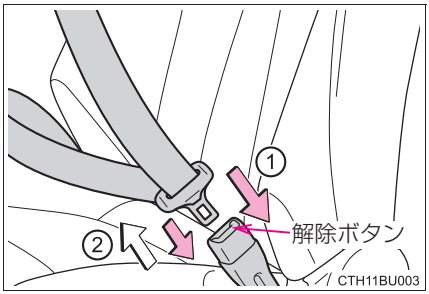
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



着け方・はずし方

① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す

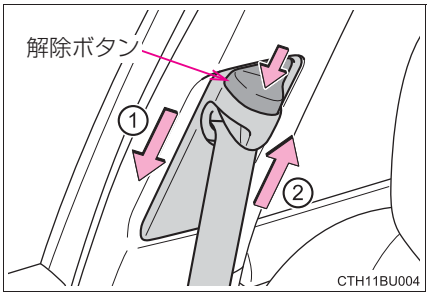


シートベルトの高さ調節（フロント席）

① 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる

② アジャスターを上げる

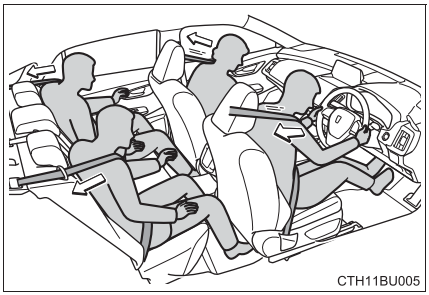
“カチッ” と音がして固定されるところまで動かしてください。



シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）

前方・側方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方･側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。（→ P. 44）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→ P. 26）

■シートベルトプリテンショナーについて

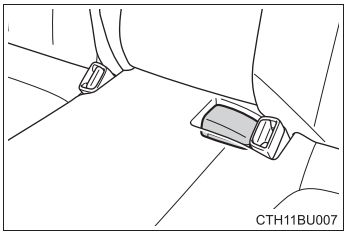
シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■予防連携機能について

レーダーと前方カメラからの情報により、車両との衝突の可能性が高いとプリクラッシュセーフティが判断したとき、シートベルトプリテンショナーの作動準備を整えます。

■リヤ中央席シートベルトを使用したあとは

バックルを格納してください。



警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

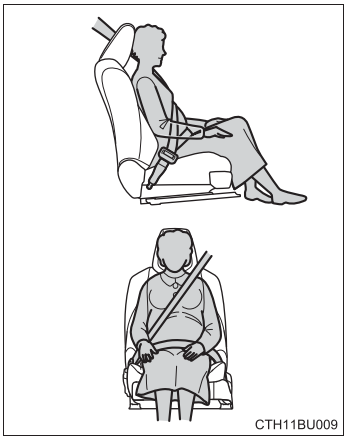
■シートベルトの着用について

- ●全員がシートベルトを着用する
- ●シートベルトを正しく着用する
- ●シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- ●お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- ●背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- ●肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- ●腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→ P. 26）
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

警告

■**お子さまを乗せるとき**

→ P. 60

■**プリテンショナー付きシートベルトについて**

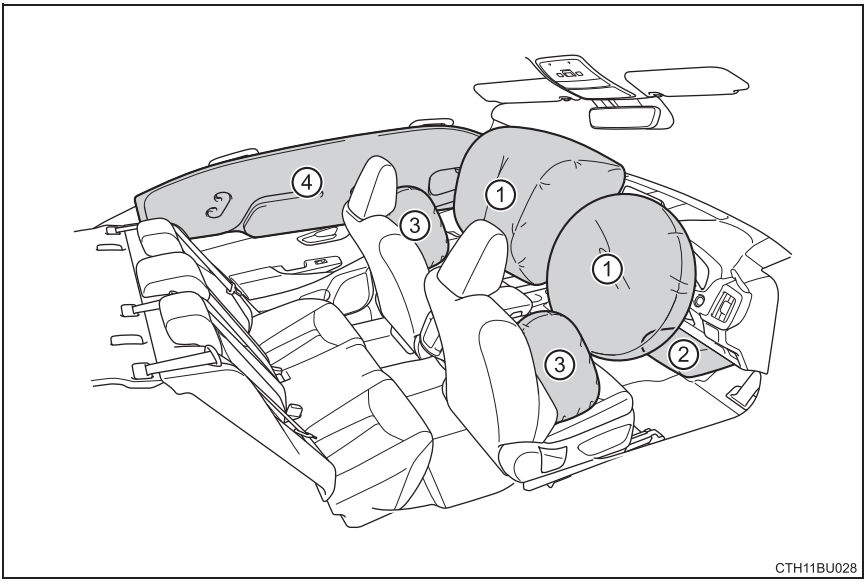
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■**シートベルトの損傷・故障について**

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

② SRS ニーエアバッグ
（運転者の衝撃緩和を補助）

◆ SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ

③ SRS フロントサイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

④ SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

警告

■SRS エアバッグについて

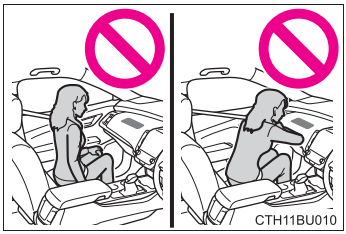
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

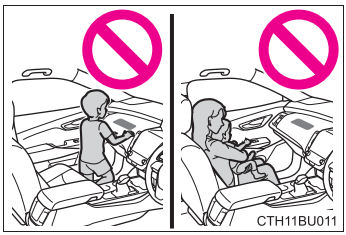
●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。（→ P. 44）

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



●お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



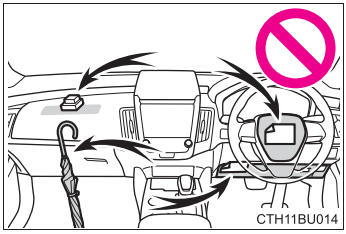
警告

■SRS エアバッグについて

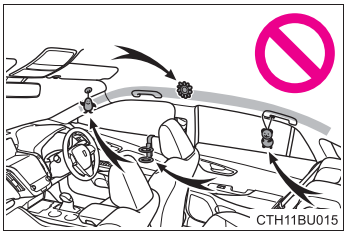
●ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

●助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



●ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない
（速度制限ラベルを除く：→ P. 569）



●コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS　ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。

警告

■SRS エアバッグについて

●SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS　エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理

●ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール・フロントドアパネル・フロントドアトリム・フロントドアスピーカーなどの周辺の修理・取りはずし・改造

●フロントドアパネルの穴あけなどの改造

●フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造

●グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け

●サスペンションの改造

●CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

知識

■SRS エアバッグが作動すると

●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

●室内灯が自動で点灯します。（→ P. 461）

●非常点滅灯が自動で点滅します。（→ P. 537）

●T-Connect をご利用のお客様は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両などを手配します。
詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

・SRS エアバッグが作動した
・シートベルトプリテンショナーが作動した
・後方から強い衝撃を受けた

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナー、SRS ニーエアバッグのみ作動する場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

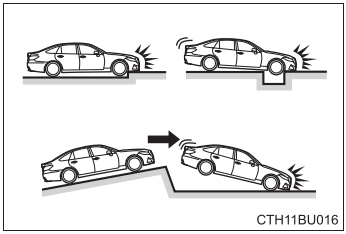
●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

●前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロントSRSエアバッグ、SRSカーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

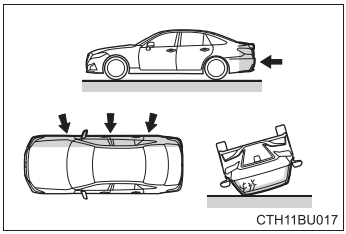
- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき


CTH11BU016

■SRSエアバッグが作動しないとき（フロントSRSエアバッグ）

フロントSRSエアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロントSRSエアバッグが作動することがあります。

- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

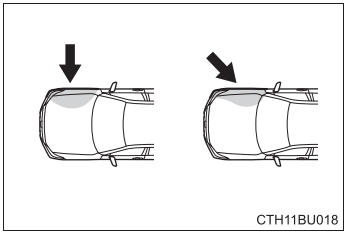

CTH11BU017

■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

●客室部分以外の側面への衝撃

●斜めからの衝撃

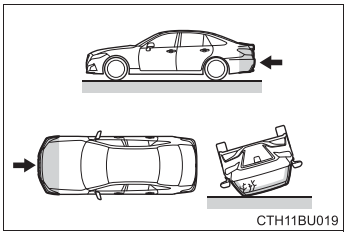


SRS サイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●前方からの衝突

●後方からの衝突

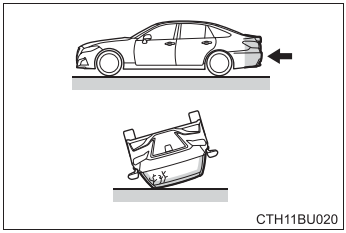
●横転



SRS カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●後方からの衝突

●横転

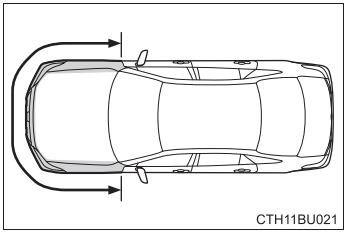


■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

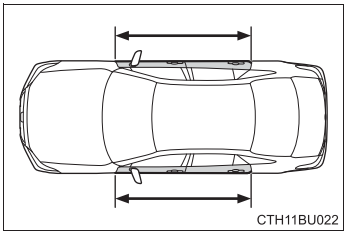
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

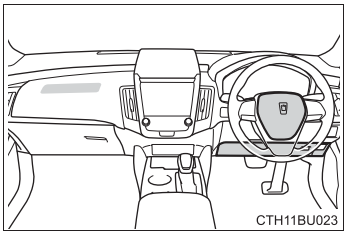
●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき


CTH11BU021

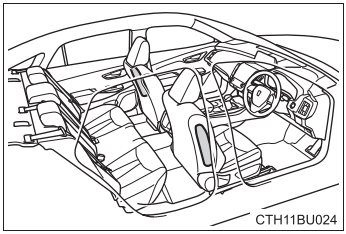
●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき


CTH11BU022

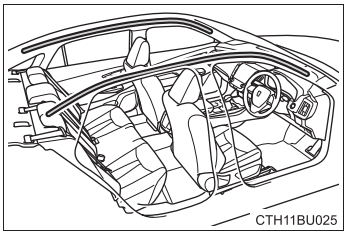
●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


CTH11BU023

●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


CTH11BU024

●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


CTH11BU025

ポップアップフード

ポップアップフードは前方向からの衝突時にボンネットの後方を持ち上げ、エンジンルーム内の空間を確保し、歩行者の頭部への衝撃を緩和させます。

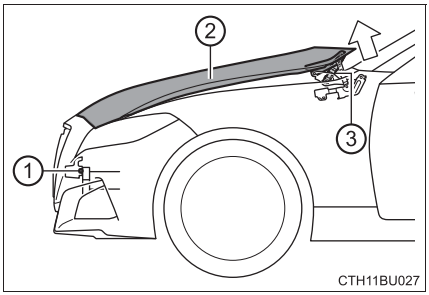
ポップアップフード

作動速度範囲での走行時に歩行者やその他の物体との衝突により、フロントバンパー裏にあるセンサーが一定以上の衝撃を感知すると、システムが作動し、ボンネットが持ち上がります。

① センサー

② ボンネット

③ リフター



ポップアップフードが作動するとき

次のような衝撃を受けたときに作動します。

- 作動速度範囲（約 25 ～ 55km/h）での走行時、フロントバンパーに歩行者と同等、もしくはそれ以上の衝撃を正面から受けたとき（衝突したときにフロントバンパーに痕跡が残らないような場合でも、一定以上の衝撃が加われば作動します。また、軽いもの・小さな動物や他の小さな物体でも衝突の状況、速度によっては作動することがあります）
- その他に、次のような車両下部やフロントバンパーに衝撃を受けたときも作動することがあります。
  - ・縁石に衝突したとき
  - ・深い溝や穴に落ち込んだとき
  - ・ジャンプして地面にぶつけたとき
  - ・駐車場のスロープ・うねりのある道路・突起物や落下物などにぶつけたとき

警告

■ポップアップフードが作動したとき

●ボンネット解除レバーを引かないでください。ポップアップフードが作動したあとにボンネット解除レバーを引くと、さらにボンネットが上がり、思わぬけがをするおそれがあり危険です。ボンネットが上がったまま走行すると視界がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
ボンネットを無理に押しもどさないでください。作動したボンネットは手動では下げることができないため、ボンネットが変形したり、思わぬ傷害につながるおそれがあり危険です。ポップアップフードが作動したあとは点検・修理が必要なため、車両を安全な場所に停車し、トヨタ販売店に連絡してください。

●ポップアップフードが作動した直後は、リフターにふれないでください。作動直後はリフターが熱くなっているため、やけどをするおそれがあります。

知識

■ポップアップフードについて

●廃車するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●ポップアップフードは、一度作動すると再使用できません。トヨタ販売店で交換してください。

■予防連携機能について

レーダーと前方カメラからの情報により、歩行者・自転車運転者との衝突の可能性が高いとプリクラッシュセーフティが判断したとき、ポップアップフードの作動準備を整えます。

■ポップアップフードが作動しにくいとき

●走行中、フロントバンパーの左右の角や側面に歩行者がぶつかったときは、衝撃を検知しにくいため、作動しないことがあります。
また、歩行者の衝撃によっては作動しにくい場合があります。

●車両が横すべりするなどして、車速が正しく検知できないときは正常に作動しないことがあります。

■ポップアップフードが作動しないとき

次のようなときは作動しません

●横たわっている歩行者に衝突したとき

●作動速度範囲外での走行時にフロントバンパーが衝撃を受けたとき

●横方向や後部から衝撃を受けたとき

●横転、転覆したとき（事故の状況、形態によっては、ポップアップフードが作動することがあります）

⚠注意

■ポップアップフードについて

- ボンネットが完全に閉まっていないと、正常に作動しないおそれがあります。走行前に必ず確認してください。
- 4 輪とも指定されたサイズのタイヤを指定空気圧（→ P. 600）で使用してください。異なるサイズのタイヤを使用すると、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- フロントバンパー周辺に何かがぶつかったときは、ポップアップフードが作動していなくても、センサーが損傷しているおそれがあります。必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。
- ポップアップフードの部品や配線などを取りはずしたり修理しないでください。誤って作動したり、正常に作動しなくなるおそれがあります。修理や交換作業が必要なときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- フロントバンパー・ボンネット・サスペンションなどをクラウン純正品以外のものに交換しないでください。また、取りはずしたりしないでください。システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- フロントバンパーやボンネットにものを取り付けないでください。衝撃を正しく検知できず、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ボンネットを強く閉めたり、リフターに荷重を加えないでください。リフターが損傷し、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- サスペンションを改造しないでください。車高がかわると、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

トランクを閉じてください。
トランクが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
  やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
  まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→ P. 44）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→ P. 125）・ウインドウロックスイッチ（→ P. 175）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・トランクやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。（→ P. 44）

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
  取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
  トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 44
チャイルドシートを使用するときは・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 46
シート位置別チャイルドシートの適合性について・・・・・・・・・・P. 49
チャイルドシートの取り付け方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 57
・シートベルトで固定する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 58
・ISOFIX ロアアンカレッジで固定する・・・・・・・・・・・・・・・P. 60
・トップテザーアンカレッジを使用する・・・・・・・・・・・・・・・P. 62

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。（→ P. 49）

警告

■お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください。（→ P. 49）本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、トランク内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

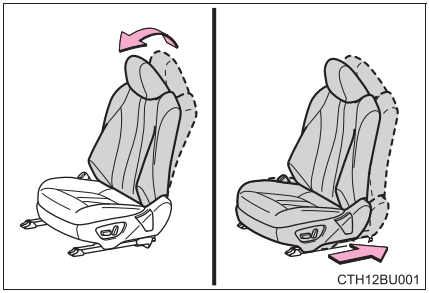
お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

● 背もたれを可能な限り起こす

背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

● シートをいちばんうしろに下げる



● ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げる

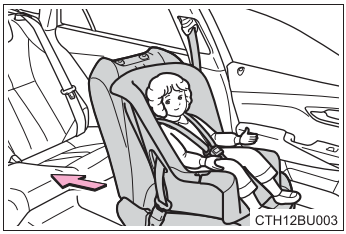
警告

■チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
  うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
  助手席SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



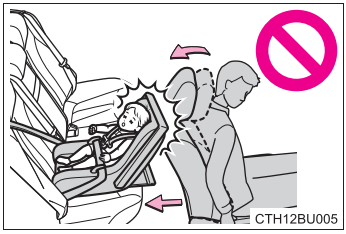
警告

■チャイルドシートを使用するとき

●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。



●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。

●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→ P. 51）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→ P. 55）

次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

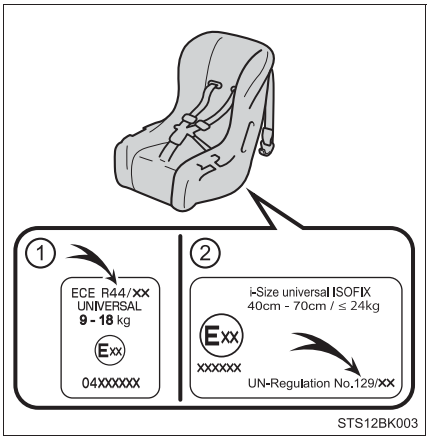
1 チャイルドシートの規格を確認する

UN（ECE）R44※1 または、UN（ECE）R129※1 に適合したチャイルドシートを使用してください。
適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。
チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

法規番号の表示例

① UN（ECE）R44 認可マーク※2
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

② UN(ECE) R129認可マーク※2
対象となるお子さまの身長の範囲および使用可能な体重が記載されています。



※1 UN (ECE) R44、UN (ECE) R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

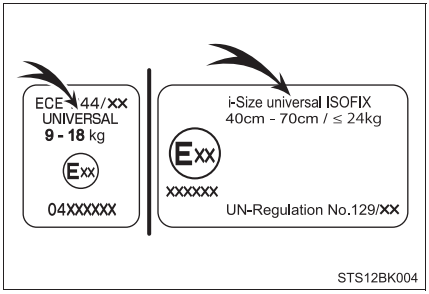
※2 表示されているマークは、商品により異なります。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

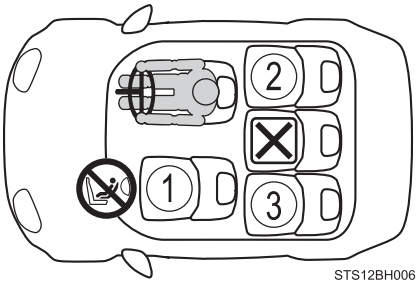
チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

・ユニバーサル「universal（汎用）」
・セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
・リストリクティッド「restricted（限定）」
・ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」



■ シート位置別チャイルドシートの適合性



※1,2,3 ①	※4 U L
※2,3 ②	U L
※2,3 ③	U L

車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→ P. 55）に記載されたチャイルドシートに適しています。

i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートに適しています。

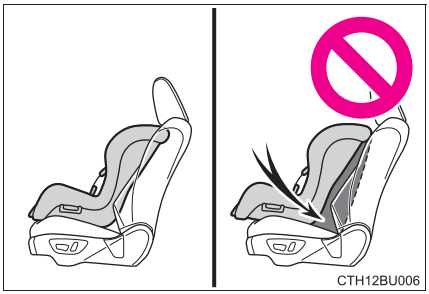
トップテザーアンカレッジが装備されています。

チャイルドシートの取り付けに適していません。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※1 シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2 背もたれを可能な限り起こしてください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※4 チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置			
シート位置の番号	①	②	③
ユニバーサル（汎用）ベルト式に搭載可能な着座位置（有／無）	有	有	有
アイサイズ着座位置（有／無）	無	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシート着座位置の治具（L1 ／ L2）	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1 ／ R2X ／ R2 ／ R3）	×	R1、R2X、R2、R3	R1、R2X、R2、R3
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X ／ F2 ／ F3）	×	F2X、F2、F3	F2X、F2、F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2 ／ B3）	×	B2、B3	B2、B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

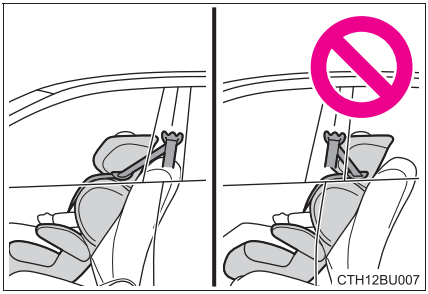
治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

質量グループ	推奨チャイルドシート	着座位置		
		①	②	③
0, 0+ (13kg まで)	トヨタ純正 NEO G-Child baby	×	○	○
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	○
Ⅰ (9 ～ 18kg)	トヨタ純正 NEO G-Child baby	○ 前向きのみ	○	○
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	○
Ⅱ , Ⅲ (15 ～ 36kg)	トヨタ純正 ジュニアシート	○	○	○

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

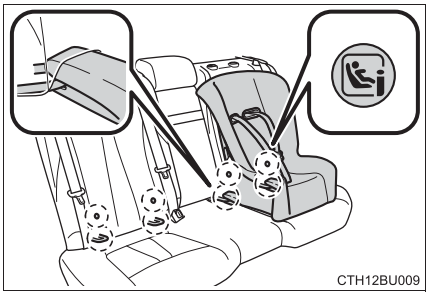
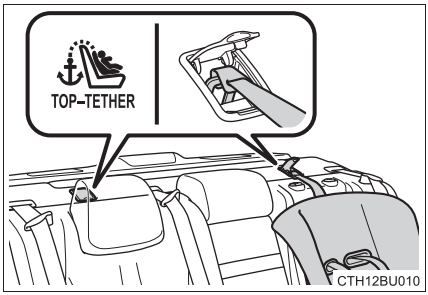
- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシート取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する	CTH12BU008	P. 58
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する	 CTH12BU009	P. 60
テザーベルトを固定する	 CTH12BU010	P. 62

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 50, 51）

1 シートの調整

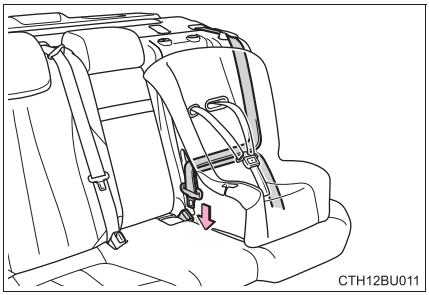
助手席：
やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→ P. 46）

リヤパワーシート装着車：
背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→ P. 152）

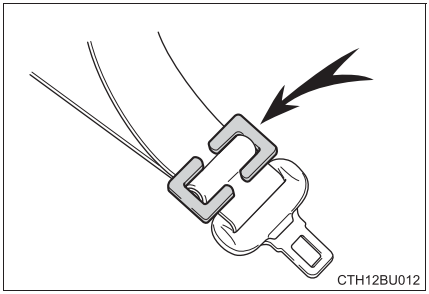
3 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む
ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



4 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください（ロッキングクリップ品番：73119-22010）。



5 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→ P. 60）

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。
チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。

●チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。

●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

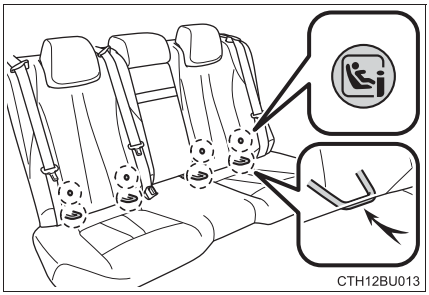
●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

●必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIX ロアアンカレッジについて

この車はリヤ外側席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています（ロアアンカレッジが装備されていることを示すマークがシートに付いています）。



■ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 50, 51）

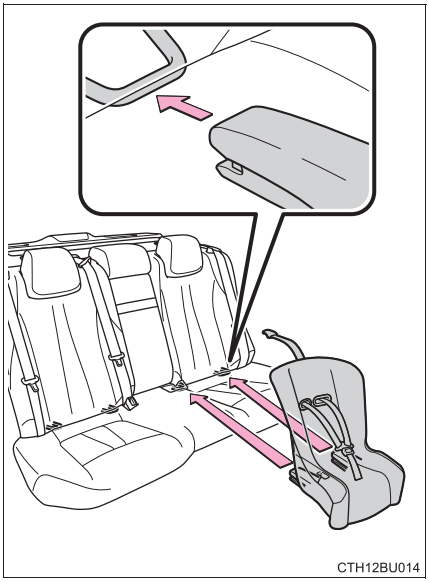
1 シートの調整（リヤパワーシート装着車）

背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→ P. 152）

3 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をロアアンカレッジに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



4 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→ P. 60）

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

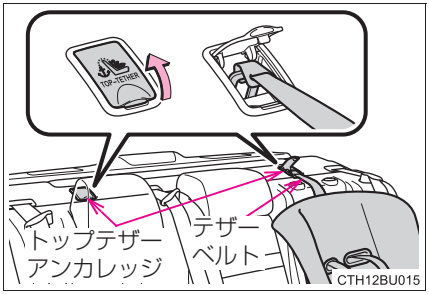
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。



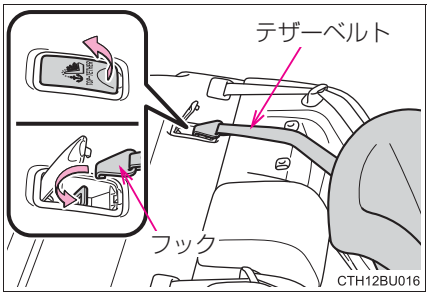
■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 ヘッドレストをはずす（→ P. 152）

2 フタを開けてトップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。（→ P. 60）



警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。

●テザーベルトは、必ずチャイルドシートを取り付けたシートのトップテザーアンカレッジに掛けてください。

●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

●必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

注意

■トップテザーアンカレッジについて

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

エンジンイモビライザーシステム

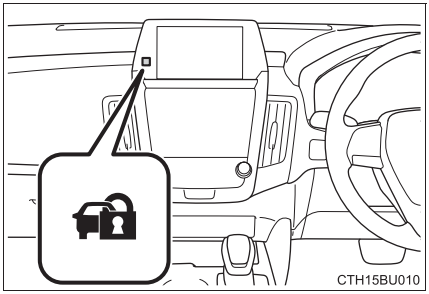
キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

エンジンスイッチをOFFにすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

●キーが金属製のものに接したり、覆われているとき

●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

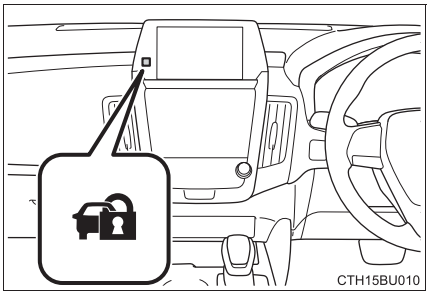
- 施錠されたドアまたはトランクが、スマートエントリー＆スタートシステム･ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき
- 侵入センサー★が車内で動くものを検知したとき（侵入者が車内に乗り込んだとき）

T-Connectサービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合Eメールや電話でお知らせすることができます。
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書／ T-Connect ／マイカーサーチ／マイカーサーチ Plus」を参照してください。

オートアラームを設定する

ドア・トランク・ボンネットを閉め、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。
30 秒以上経過すると自動的に設定されます。

オートアラームがセットされるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。



オートアラームの設定を解除・作動を停止する

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアまたはトランクを解錠する
- エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするか、エンジンを始動する（数秒後に解除・停止します）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ドアを施錠する前の確認

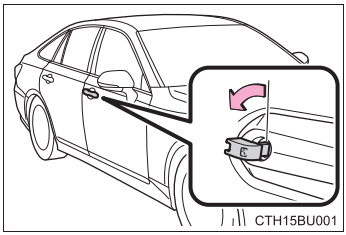
オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフ★が閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

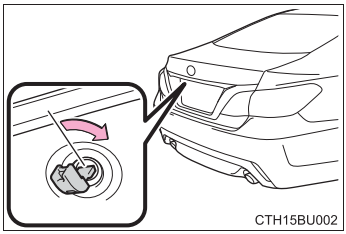
■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除・作動を停止する操作を行ってください。

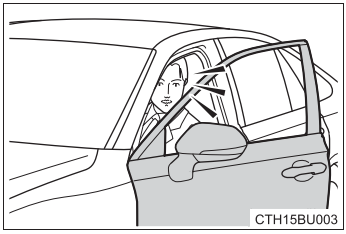
- メカニカルキーを使ってドアを解錠したとき



- メカニカルキーを使ってトランクを開けたとき

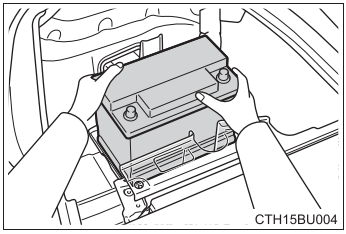


- 車内に残った人が、ドア・トランク・ボンネットを開けたり、ロックボタンで解錠したとき



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●施錠後、バッテリーあがりなどでバッテリーの充電や交換をしたとき（→ P. 585）



■オートアラーム作動によるドアロック機能について

次のような場合、車内への不正な侵入を防止するため自動的に施錠されることがあります。

●車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき

●オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき

●バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

■T-Connect（ご契約のお客様のみ）

●うっかり通知機能によって、施錠のし忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラスの閉め忘れ、ムーンルーフ★の閉め忘れを、ご指定の E メールアドレスへお知らせすることができます。
うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー＆スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。

●リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどを携帯電話で確認できます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書／ T-Connect ／マイカーサーチ／マイカーサーチ Plus」を参照してください。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→ P. 602）

⚠注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

侵入センサー★とは

侵入センサーは、車内に不正に入り込んだ侵入者の動きを超音波で検知するセンサーです。侵入者の動きで検知するため、ドアを開けずガラスを割って入り込んだ侵入者なども検知できます。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

■ 侵入センサーを設定する

オートアラームを設定すると、自動でセットされます。（→ P. 65）

■ 侵入センサーを停止する

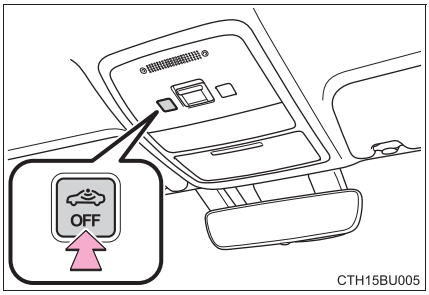
車内で動くものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入センサーを停止してからオートアラームを設定してください。

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 侵入センサー OFF スイッチを押す

もう一度スイッチを押すと、侵入センサーは再びセットされます。

侵入センサーを OFF/ON にするたびに、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■侵入センサーの作動・停止について

●侵入センサーの作動を停止しても、オートアラームは作動します。

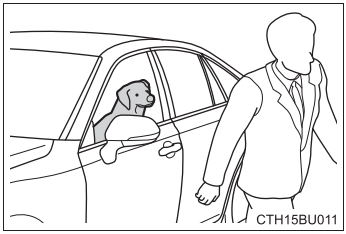
●侵入センサーを停止したあとにエンジンスイッチを押すか、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンによる解錠操作を行うと、侵入センサーは復帰します。

●オートアラームの設定を解除するたびに侵入センサーは復帰します。

■侵入センサーについての留意事項

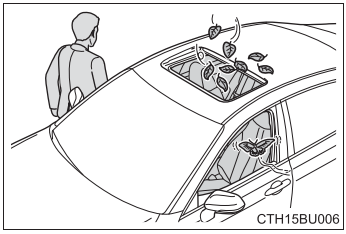
次のような場合、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

●車内に乗員やペットなどを残して車両から離れる場合



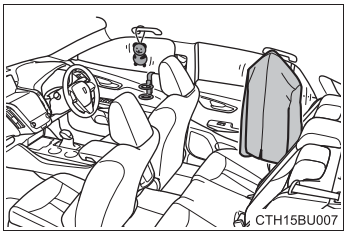
●ドアガラスやムーンルーフ★などが開いている場合、次のものを検知することがあります。

・室内に入った落ち葉・虫・風など
・他車の侵入センサーなどが発する超音波
・室外の歩行者の動き



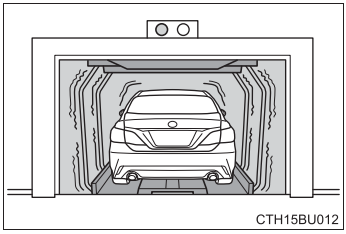
●蛾やハエなど小さな虫が車内にいる場合

●マスコットやアクセサリーをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にある場合

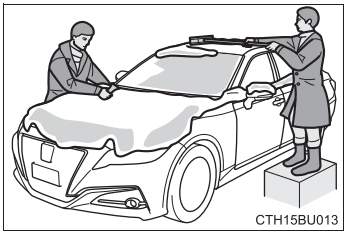


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●立体駐車場のような振動や騒音の激しい場所に駐車した場合


CTH15BU012

●雪かきやガラスに付着した氷を削り落とすときに、連続的な衝撃や振動が車両に伝わった場合


CTH15BU013

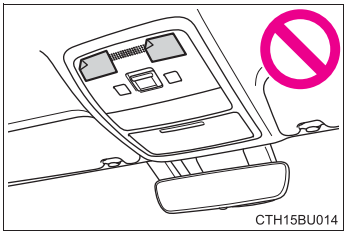
●高圧洗車機や自動洗車機などを使う場合

●ひょうや落雷などにより、連続的な衝撃や振動が車両に伝わった場合

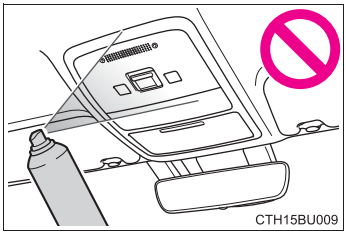
⚠注意

■侵入センサーを正しく作動させるために

●センサーの穴はふさがないようにしてください。


CTH15BU014

●センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴霧しないでください。


CTH15BU009

●運転席と助手席のシートのあいだに、トヨタ純正品以外のアクセサリーを装着したりものを放置したりすると、検知性能が低下することがあります。

●電子キーがお車の近くにある場合は、センサーの作動を停止する場合があります。

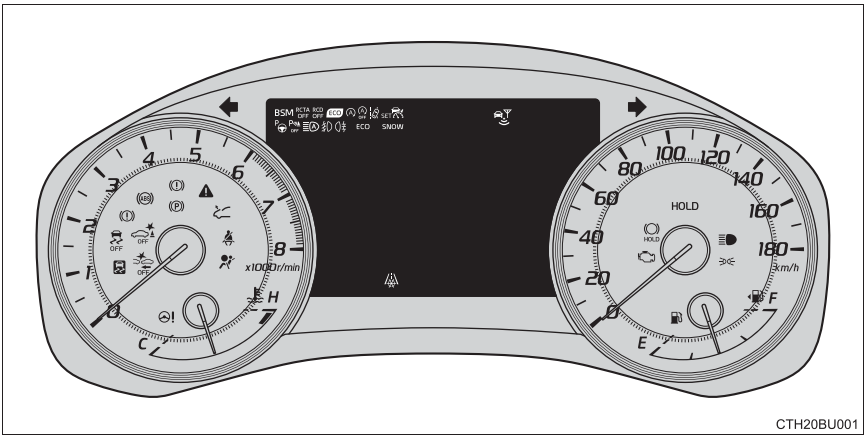
メーターの見方

2

2. 計器の見方
警告灯／表示灯.....72
計器類.....79
マルチインフォメーション
ディスプレイ.....83
ヘッドアップ
ディスプレイ.....105
燃費画面.....112

警告灯／表示灯

メーター・ナビゲーション画面の横・ドアミラーの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。



イラストの意匠は装備などにより異なります。

警告灯

万一のシステム異常などを警告します。

※1
（赤色）
ブレーキ警告灯
（→ P. 550）

※1
（黄色）
ブレーキ警告灯
（→ P. 550）

※2
高水温警告灯（→ P. 550）

※2
充電警告灯（→ P. 550）

※2
油圧警告灯（→ P. 550）

※1
エンジン警告灯
（→ P. 550）

※1
SRS エアバッグ／
プリテンショナー警告灯
（→ P. 551）

ポップアップフード警告灯
（→ P. 551）

※1
ABS ＆ブレーキアシスト警告灯（→ P. 551）

※2
ブレーキオーバーライドシステム警告灯／ドライブスタートコントロール警告灯／ PKSB 警告灯
（→ P. 551）

※1
（赤色／黄色）
パワーステアリング警告灯
（→ P. 551）

燃料残量警告灯
（→ P. 552）

運転席・助手席シートベルト非着用警告灯
（→ P. 552）

※3
リヤ席シートベルト非着用警告灯（→ P. 552）

※2
（橙色）
LTA 表示灯（→ P. 552）

※2
（点滅）
Stop & Start キャンセル表示灯（→ P. 552）

※1, 2
（点滅）
クリアランスソナーOFF 表示灯（→ P. 552）

※1, 2
（点滅）
RCTA OFF 表示灯★
（→ P. 553）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1, 2
RCD OFF
（点滅）
RCD OFF 表示灯★
（→ P. 553）

※1
OFF
（点滅）
PKSB OFF 表示灯
（→ P. 553）

※1
OFF
（点滅または点灯）
PCS 警告灯（→ P. 553）

※1
スリップ表示灯
（→ P. 554）

（点滅）
パーキングブレーキ表示灯
（→ P. 554）

※1
HOLD
（点滅）
ブレーキホールド作動表示灯（→ P. 554）

※1
マスターウォーニング
（→ P. 554）

※1 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※3 ナビゲーション画面の横に表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯
（→ P. 209）

尾灯表示灯（→ P. 217）

ハイビーム表示灯
（→ P. 217）

※1

AHS（アダプティブハイビームシステム）表示灯★
（→ P. 221）
AHB（オートマチックハイビーム）表示灯★
（→ P. 225）

※1

フロントフォグランプ表示灯（→ P. 229）

※1

リヤフォグランプ表示灯★
（→ P. 229）

※2, 3

PCS 警告灯（→ P. 248）

※1

クルーズコントロール表示灯（→ P. 283）

※1

レーダークルーズコントロール表示灯（→ P. 275）

※1

クルーズコントロールセット表示灯（→ P. 275）

※1, 4

LTA 表示灯（→ P. 264）

※5, 6

（橙色点滅）
BSMドアミラーインジケーター★（→ P. 316, 335）

※1

BSM 表示灯★（→ P. 316）

※1, 3

インテリジェントパーキングアシスト 2 表示灯★
（→ P. 377）

※1, 2, 3

クリアランスソナーOFF 表示灯（→ P. 324）

※1, 2, 3

RCTA OFF 表示灯★
（→ P. 336）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1, 2, 3
RCD OFF 表示灯★
（→ P. 342）

※2, 3
PKSB OFF 表示灯
（→ P. 346）

※1
Stop & Start 表示灯
（→ P. 307）

※1, 2
Stop & Start キャンセル表示灯（→ P. 308）

※3
スリップ表示灯
（→ P. 425）
（点滅）

※2, 3
VSC OFF 表示灯
（→ P. 426）

※1
スマートエントリー＆スタートシステム表示灯
（→ P. 196）

パーキングブレーキ表示灯
（→ P. 210）

※1
エコドライブインジケーターランプ（→ P. 108）

※3
ブレーキホールドスタンバイ表示灯（→ P. 214）

※3
ブレーキホールド作動表示灯（→ P. 214）

※1, 7
低温表示灯（→ P. 79）

※8
セキュリティ表示灯
（→ P. 64, 65）

※1
ITS Connect アイコン★
（→ P. 296）

※1
ITS Connect アイコン★
（→ P. 296）

※1
ITS Connect アイコン★
（→ P. 296）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 SNOW スノーモード表示灯（→ P. 203）

※1 SPORT S+ スポーツS+モード表示灯★（→ P. 419）

※1 ECO エコドライブモード表示灯（→ P. 419）

※1 COMFORT コンフォートモード表示灯★（→ P. 419）

※1 SPORT スポーツモード表示灯★（→ P. 419）

※1 CUSTOM カスタムモード表示灯★（→ P. 419）

※1 SPORT S スポーツ S モード表示灯★（→ P. 419）

※1 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※2 システムが OFF のときに点灯します。

※3 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※4 システムの作動状態により、表示色と点灯・点滅の状態が変化します。

※5 作動確認のため次の条件のときインジケーターが点灯します。
- BSM か RCTA の機能を ON にしている状態で、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたとき
- エンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態で、BSM の機能を ON にしたとき
- エンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態で、RCTA の機能を ON にしたとき

システムが正常であればインジケーターは数秒後に消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※6 ドアミラーに表示されます。

※7 外気温が約 3 ℃以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。

※8 ナビゲーション画面の横に表示されます。

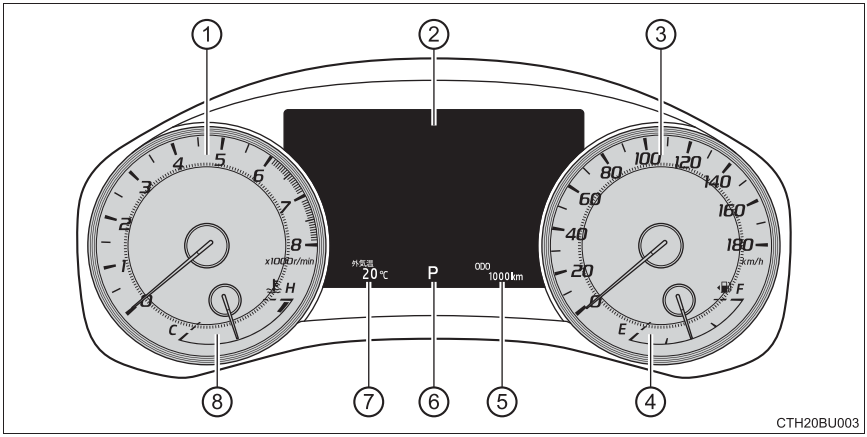
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**安全装置の警告灯が点灯しないとき**

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がエンジンスイッチをイグニッションONモードにしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

計器類



① タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

② マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。（→ P. 83）

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→ P. 556）

③ スピードメーター

車両の走行速度を示します。

④ 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
・坂道など傾いた場所に停車したとき
・坂道やカーブを走行したとき

⑤ オドメーター／トリップメーター（→ P. 101）

⑥ シフトポジション表示（→ P. 202）

⑦ 外気温

外気温度を－ 40 ℃～ 50 ℃の間で表示します。外気温が約 3 ℃以下のときは、低温表示灯が点灯します。

⑧ 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

メーター照明の明るさを調整するには

マルチインフォメーションディスプレイの⚙(→ P. 89)から、メーター照明の明るさを変更することができます。

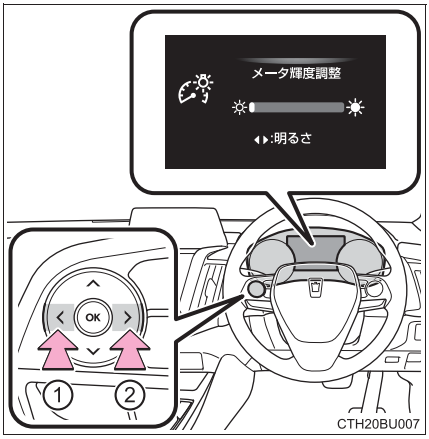
ハンドルのメーター操作スイッチを操作して明るさを調整します。(→ P. 89)

① 暗くする

② 明るくする

昼照度と夜照度 ※、それぞれの明るさのレベルを調整することができます。

※ 昼照度と夜照度：→ P. 81



知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■メーターの照度について（昼照度と夜照度）

●メーターの照度には昼照度と夜照度があり、次のときに照度が切りかわります。

・昼照度：周囲が明るいときに車幅灯が点灯しているとき、または車幅灯が消灯しているとき
・夜照度：周囲が暗いときに車幅灯が点灯しているとき

●夜照度になるとメーター照明が減光されます。

■外気温表示について

●次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

・停車しているときや、低速走行（約 25km/h 以下）のとき
・外気温度が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

● “--” または “E” が表示されたときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

1 車両を平坦な場所に停車させる

燃料タンク内の燃料の動きがおさまるまで、しばらくお待ちください。

2 ODO/TRIP スイッチを押してオドメーター / トリップメーターの表示をオドメーター（ODO）に切りかえる（→ P. 85）

3 エンジンスイッチを OFF にする

4 ODO/TRIPスイッチを押したまま、エンジンスイッチをイグニッションONモードにする

5 そのまま約 5 秒間 ODO/TRIP スイッチを押し続け、オドメーター（ODO）が点滅を開始したら手をはなす

オドメーター（ODO）が約 5 秒間点滅したあと、通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象で、異常ではありません。

注意

■**エンジンや構成部品への損傷を防ぐために**

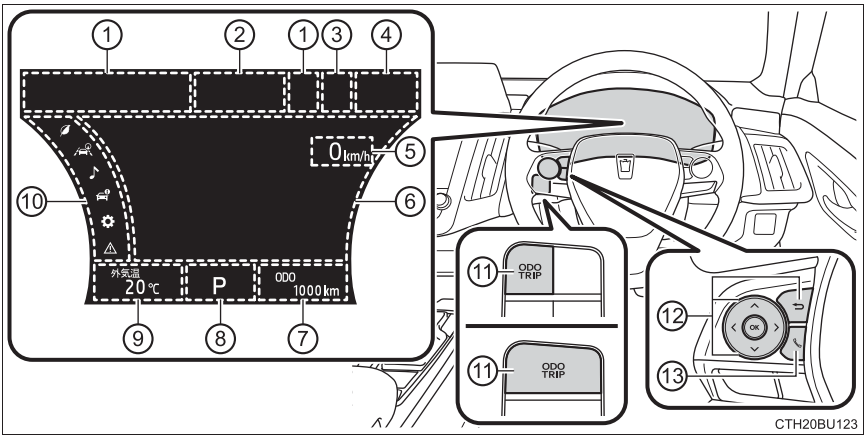
●タコメーターの表示がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。

●水温計の表示がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→ P. 589）

マルチインフォメーションディスプレイ

機能概要

マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関するさまざまな情報を表示したり、設定を切りかえることができます。



① 表示灯エリア（→ P. 72）

② 運転支援表示エリア

次のシステムの作動状況を表示します。
・LTA（レーントレーシングアシスト）（→ P. 258）
・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→ P. 275）

③ RSA（ロードサインアシスト）表示（→ P. 270）

④ 時計

表示される時刻は、ナビゲーション画面の時計と連動しています。（→ P. 471）

⑤ 車速表示

表示・非表示を⚙から変更することができます。（→ P. 89）

⑥ コンテンツ表示エリア

メニューアイコンを切りかえることにより、様々な情報を表示することができます。
また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

・各メニューの表示内容（→ P. 86）
・提案サービス機能（→ P. 101）
・Ⓐアイドリングストップ時間（→ P. 102）
・ITS Connect★（→ P. 294）
・警告メッセージ（→ P. 556）

⑦ オドメーター／トリップメーター（→ P. 101）

⑧ シフトポジション表示（→ P. 202）

⑨ 外気温表示（→ P. 79）

⑩ メニューアイコン（→ P. 86）

⑪ ODO/TRIP スイッチ（→ P. 85）

⑫ メーター操作スイッチ（→ P. 85）

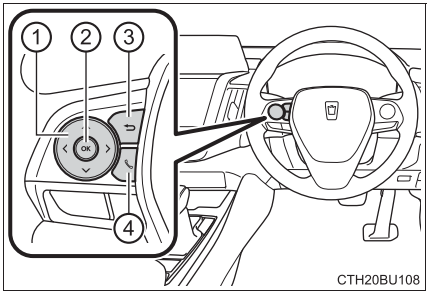
⑬ 電話スイッチ（→ P. 85）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

操作方法

◆ コンテンツ表示エリアの操作方法

メーター操作スイッチ・電話スイッチを使って次のように操作します。



① 〈 〉:メニューの切りかえ

∧ ∨:コンテンツの切りかえ、ページ送り、カーソル移動

② 短押し:決定

長押し:リセット/次の画面を表示

③ 前の画面にもどる

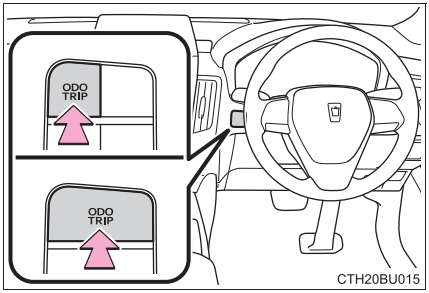
短押しと長押しで戻ることができる階層がかわります。

④ 電話の発着信・履歴表示

ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。ハンズフリーシステムについて詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

◆ オドメーター/トリップメーターの操作方法

ODO/TRIP スイッチを使って次のように操作します。



短押し:表示の切りかえ

スイッチを押すごとに表示される項目が切りかわります。

長押し:リセット

トリップメーターを表示中にスイッチを長押しすると、走行距離を 0 にもどします。

メニューアイコン

メニューアイコンを選択して、次の項目を表示することができます。

エコドライブインフォメーション（→ P. 87）

燃費に関するさまざまな情報を表示します。

運転支援システム情報

次のシステムの作動状況を表示します。
・LTA（レーントレーシングアシスト）（→ P. 258）
・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→ P. 275）
・RSA（ロードサインアシスト）（→ P. 270）

ナビゲーションシステムと連携して次の情報を表示します。
・目的地案内
・コンパス（ヘディングアップ表示）

オーディオシステム連携表示

オーディオソースの選択、選曲などを操作することができます。

車両情報

次のシステムの作動状態を確認することができます。
・PCS（プリクラッシュセーフティ）（→ P. 248）
・クリアランスソナー（→ P. 322）
・BSM（ブラインドスポットモニター）★（→ P. 316）
・RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★（→ P. 335）

からシステムの作動・非作動を変更することができます。

設定（→ P. 89）

さまざまな機能の設定やメーターの表示設定などを変更することができます。

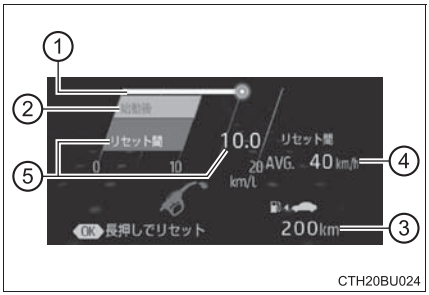
警告メッセージ（→ P. 556）

確認可能な警告メッセージがあるときのみ表示されます。
車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エコドライブインフォメーション（ ）

■ 燃費



① 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

② 平均燃費（始動後）

エンジン始動後の平均燃費を表示します。※1

③ 航続可能距離

燃料残量による走行可能な距離を表示します。※2、3

④ ガジェット ※4

からガジェット表示選択とドライブインフォ演算種類選択（燃費表示種類選択）を選択すると、次の項目を表示することができます。（→ P. 89）

項目		表示内容
ガジェット表示	燃費表示種類	
非表示	ブランク	情報を非表示にします。
平均車速	始動後	エンジン始動後の平均車速を表示します。
	リセット間	リセット後の平均車速を表示します。※5
走行距離	始動後	エンジン始動後の走行距離を表示します。
	リセット間	リセット後の走行距離を表示します。※5
走行時間	始動後	エンジン始動後の経過時間を表示します。
	リセット間	リセット後の経過時間を表示します。※5

⑤ 平均燃費（リセット間・給油後）

表示する平均燃費の種類は⚙からドライブインフォ演算種類選択（燃費表示種類選択）画面を選択すると変更することができます。（→ P. 89）
表示できる平均燃費の種類は次のとおりです。

● リセット間

リセット後の平均燃費を表示します。※1、5

● 給油後

給油後の平均燃費を表示します。※1、2

※1 表示される燃費は参考として利用してください。

※2 燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。
この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。（→ P. 81）

※3 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。

※4 初期設定は非表示です。

※5 表示中に㊋を長押しするとリセットされます。

■ エコドライブインジケーター

→ P. 103

■ デジタル車速

→ P. 99

設定（⚙）

◆ 設定変更のしかた

ハンドルのメーター操作スイッチを操作して、次のように設定を変更します。

1. ∧または∨スイッチを押して⚙を選択して、設定画面を表示させる
2. 〈または〉スイッチを操作して、変更する項目にカーソルを合わせる
3. OKスイッチを短押しまたは長押しする

OKスイッチの短押し・長押しで設定できる内容が異なります。
画面に表示されている内容に従って操作してください。

◆ 設定変更できる項目

■ メータ輝度調整（→ P. 80）

OKスイッチを長押しすると次の項目が変更できます。

項目	設定内容	説明
明るさ	明るい	メーター照明の明るさを変更することができます。
	暗い	

■ LTA（レーントレーシングアシスト）（→ P. 258）

OKスイッチを長押しすると次の項目が変更できます。

項目	設定内容		説明
操舵支援	ON		ハンドル操舵支援の作動・非作動を変更することができます。
	OFF		
センタートレース制御	ON		車線維持支援機能の作動・非作動を変更することができます。
	OFF		
警報感度	高		警報の感度を変更することができます。
	普通		
ふらつき検知	ON		ふらつき警報機能の作動・非作動を変更することができます。
	OFF		
ふらつき検知感度	高		ふらつき警報機能の感度を変更することができます。
	普通		
	低		

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）（→ P. 248）

OKスイッチを押すごとに PCS（プリクラッシュセーフティ）の作動・非作動を変更することができます。

項目	設定内容	説明
PCS	ON	PCS（プリクラッシュセーフティ）の作動・非作動を変更することができます。
	OFF	

OKスイッチを長押しすると次の項目が変更できます。

項目	設定内容		説明
警報感度	早い		警報タイミングを変更することができます。
	中間		
	遅い		

■ BSM（ブラインドスポットモニター）★（→ P. 316）

OKスイッチを押すごとに BSM（ブラインドスポットモニター）の作動・非作動を変更することができます。

項目	設定内容	説明
BSM	ON	BSM（ブラインドスポットモニター）機能の作動・非作動を変更することができます。
	OFF	

OKスイッチを長押しすると次の項目が変更できます。

項目	設定内容		説明
明るさ（ドアミラーインジケーター）	明るい		ドアミラーインジケーターの明るさを変更することができます。
	暗い		
感度	早い		接近車両の検知を知らせるタイミングを変更することができます。
	中間		
	遅い		
	死角領域のみ		

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ クリアランスソナー（→ P. 322）

OKスイッチを押すごとにクリアランスソナーの作動･非作動を変更することができます。

項目	設定内容	説明
クリアランスソナー	ON	クリアランスソナーの作動・非作動を変更することができます。
	OFF	

OKスイッチを長押しすると次の項目が変更できます。

項目	設定内容		説明
音量	大		ブザー音量を変更することができます。
	中		
	小		

■ RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★（→ P. 335）

OKスイッチを押すごとに RCTA（リヤクロストラフィックアラート）の作動・非作動を変更することができます。

項目	設定内容	説明
RCTA	ON	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能の作動・非作動を変更することができます。
	OFF	

OKスイッチを長押しすると次の項目が変更できます。

項目	設定内容		説明
音量	大		ブザー音量を変更することができます。
	中		
	小		

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ RCD（リヤカメラディテクション）★（→ P. 342）

OKスイッチを押すごとに RCD（リヤカメラディテクション）の作動・非作動を変更することができます。

項目	設定内容	説明
RCD	ON	RCD（リヤカメラディテクション）の作動・非作動を変更することができます。
	OFF	

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）（→ P. 346）

OKスイッチを押すごとに PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動・非作動を変更することができます。

項目	設定内容	説明
PKSB	ON	PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動・非作動を変更することができます。
	OFF	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ HUD HUD（ヘッドアップディスプレイ）★（→ P. 105）

OKスイッチを押すごとに HUD（ヘッドアップディスプレイ）の表示・非表示を変更することができます。

項目	設定内容	説明
HUD	ON	HUD（ヘッドアップディスプレイ）の表示・非表示を変更することができます。
	OFF	

OKスイッチを長押しすると次の項目が変更できます。

項目	設定内容	説明
HUD 明るさ／位置		HUD（ヘッドアップディスプレイ）の表示の明るさや位置を調整することができます。 ・〈／〉スイッチで表示の明るさを調整できます。 ・∧／∨スイッチで上下位置を調整できます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

<table>
<tr><th>項目</th><th colspan="2">設定内容</th><th>説明</th></tr>
<tr><td rowspan="9">HUD 表示カスタマイズ</td><td colspan="2">タコメーター切替</td><td>次のいずれかから HUD（ヘッドアップディスプレイ）に表示する項目を選択することができます。
・ブランク画面（表示なし）
・エコドライブインジケーター表示
・タコメーター表示</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ナビゲーション</td><td>ON</td><td rowspan="8">HUD（ヘッドアップディスプレイ）に表示する内容の表示・非表示を変更することができます。</td></tr>
<tr><td>OFF</td></tr>
<tr><td rowspan="2">レーン</td><td>ON</td></tr>
<tr><td>OFF</td></tr>
<tr><td rowspan="2">運転支援</td><td>ON</td></tr>
<tr><td>OFF</td></tr>
<tr><td rowspan="2">オーディオ</td><td>ON</td></tr>
<tr><td>OFF</td></tr>
<tr><td colspan="3">HUD 傾き調整</td><td>〈 ／ 〉スイッチで HUD（ヘッドアップディスプレイ）表示の傾きを調整することができます。</td></tr>
</table>

■ RSA（ロードサインアシスト）（→ P. 270）

OKスイッチを押すごとに RSA（ロードサインアシスト）の作動・非作動を変更することができます。

項目	設定内容	説明
RSA	ON	RSA（ロードサインアシスト）の作動・非作動を変更することができます。
	OFF	

OKスイッチを長押しすると次の項目が変更できます。

項目	設定内容		説明
告知手段	速度超過	告知なし	最高速度標識を認識したときの警報方法を変更することができます。
		表示のみ	
		表示と警報	
	追い越し	告知なし	はみ出し通行禁止標識を認識したときの警報方法を変更することができます。
		表示のみ	
		表示と警報	
	その他	告知なし	車両進入禁止標識を認識したときの警報方法を変更することができます。
		表示のみ	
		表示と警報	
告知車速	10km/h		最高速度標識の認識時、制限速度に対してどの程度、速度超過した場合に警報を実施するかを変更することができます。
	5km/h		
	2km/h		

■ 車両設定

OKスイッチを長押しすると次の項目が変更できます。

項目	設定内容			説明
Ⓐ(Stop & Start システム [→ P. 307])	Normal			エアコンの「A/C」を ON にしているときの、Stop & Start システムによるアイドリングストップ時間を変更することができます。
	Long			
先行車発進告知	先行車発進告知		ON	先行車発進告知機能の作動・非作動を変更することができます。(→ P. 293)
			OFF	
	告知距離	遠い		先行車の発進を告知する距離を変更することができます。
		普通		
		近い		
ITS Connect★	信号情報		ON	赤信号注意喚起などの作動・非作動を変更することができます。(→ P. 303)
			OFF	
	道路環境情報		ON	一時停止注意喚起などの作動・非作動を変更することができます。(→ P. 303)
			OFF	
	緊急車両通知		ON	緊急車両存在通知の作動・非作動を変更することができます。(→ P. 303)
			OFF	
	通知感度	高い		ITS Connect で各注意喚起を通知するタイミングを変更することができます。
		低い		

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

<table>
<tr><th>項目</th><th colspan="2">設定内容</th><th>説明</th></tr>
<tr><td rowspan="2">クルーズ（ITS）★</td><td colspan="2">ON</td><td rowspan="2">通信利用型レーダークルーズコントロールの作動・非作動を変更することができます。
（→ P. 303）</td></tr>
<tr><td colspan="2">OFF</td></tr>
<tr><td rowspan="4">IPA（インテリジェントパーキングアシスト 2）★</td><td rowspan="2">リバース連動</td><td>ON</td><td rowspan="2">シフトレバーを R にしたときの、インテリジェントパーキングアシスト 2 連動機能の作動・非作動を変更することができます。
（→ P. 387）</td></tr>
<tr><td>OFF</td></tr>
<tr><td rowspan="2">音声案内</td><td>ON</td><td rowspan="2">インテリジェントパーキングアシスト 2 の、音声案内の作動・非作動を変更することができます。
（→ P. 377）</td></tr>
<tr><td>OFF</td></tr>
</table>

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 表示設定

OKスイッチを長押しすると次の項目が変更できます。

項目	設定内容	説明
言語		表示される言語を変更することができます。
ECO（エコドライブインジケーター）	ON	エコドライブインジケーターの作動・非作動を変更することができます。（→ P. 103）
	OFF	
デジタル車速（車速表示）	ON	車速表示の表示・非表示を変更することができます。
	OFF	
ガジェット表示選択	非表示	表示なし
	平均車速	ガジェット表示を選択することができます。
	走行距離	
	走行時間	
ドライブインフォ演算種類選択（燃費表示種類選択）	始動後 ※1	平均燃費とガジェットに表示する燃費種類を選択することができます。
	リセット間	
	給油後 ※2	
MID（マルチインフォメーションディスプレイ）消灯	—	マルチインフォメーションディスプレイの表示をオフにすることができます。 マルチインフォメーションディスプレイを再度表示させるには ∧／∨／＜／＞ のいずれかのスイッチを押してください。

項目	設定内容		説明
割込表示	交差点案内	ON	割り込み表示される項目の表示・非表示を変更することができます。
		OFF	
	電話	ON	
		OFF	
	(Stop & Start システム)作動時間	ON	
		OFF	
	(Stop & Start システム)状態通知	ON	
		OFF	
	通信車両接近通知	ON	
		OFF	
表示設定初期化	はい		メーターの表示設定を初期状態にもどすことができます。
	いいえ		

※ 1 この項目を選択するとガジェット表示のみ変更されます。

※ 2 この項目を選択するとガジェット表示が非表示になります。

オドメーター／トリップメーター表示

■ オドメーター

走行した総距離を表示します。

■ トリップメーター A ／トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

リセットするには、リセットしたい方のトリップメーターを表示中に ODO/TRIP スイッチを長押しします。

提案サービス機能

状況に応じて運転者に提案メッセージを表示する機能です。提案メッセージが表示されたときにメーター操作スイッチを操作することで、提案された内容を直接操作することができます。

カスタマイズ機能により、提案サービス機能の作動・非作動を変更することができます。（→ P. 602）

■ ヘッドランプ消灯提案

エンジンスイッチを OFF にした後にランプスイッチが「AUTO」の状態でヘッドランプを点灯したまましばらく車内にいると、ヘッドランプの消灯を提案するメッセージを表示します。
このとき「はい」を選択すると、ヘッドランプが消灯します。

エンジンスイッチを OFF にしてからメッセージが表示されるまでの間に運転席ドアを開けたときは、提案メッセージが表示されません。

■ 窓閉め提案（ワイパー連動）

雨が車内に入ることを防ぐために、ドアガラスが開いている状態でワイパーが動き始めるとドアガラスを閉める提案メッセージを表示します。
このとき「はい」を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。

ウインドウロックスイッチを ON にしているときは、提案メッセージが表示されません。

Stop & Start システム情報（Ⓐ）

■ 現在のアイドリングストップ時間／状態通知

現在のアイドリングストップ時間（Stop & Start システムによるエンジン停止時間）を表示します。

また、アイドリングストップの状態を状況に応じて割り込み表示でお知らせします。（→ P. 313）

■ Stop & Start システム設定

マルチインフォメーションディスプレイの⚙（→ P. 89）から、Stop & Start システムの設定を変更することができます。

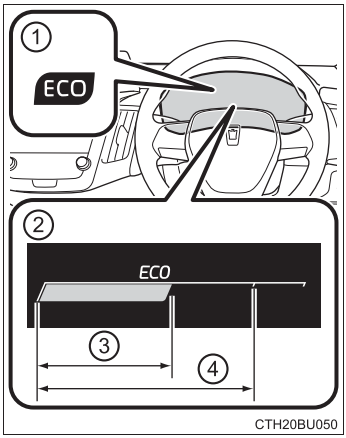
設定画面では、次の操作を行うことができます。

Ⓐ（Stop & Start システム）

エアコンの「A/C」をONにしているときのアイドリングストップ時間をNormalと Long の 2 段階から選択することができます。

知識

■エコドライブインジケーター



① エコドライブインジケーターランプ
環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。
必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

② エコドライブインジケーターゾーン表示
エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。

③ 現状のアクセル開度
現状のアクセル開度がエコ運転の範囲をこえたとき、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側が点灯します。
このとき、エコドライブインジケーターランプは消灯します。

④ エコ運転の範囲

次の場合、エコドライブインジケーターは作動しません。

- シフトレバーが D 以外にあるとき
- パドルシフトスイッチ★を操作しているとき
- 走行モードがノーマルモード、コンフォートモード★またはエコドライブモード以外のとき（→ P. 419）
- 車速が約 100km/h 以上のとき

■表示灯／シフトポジション表示エリアの背景色について

走行モード（→ P. 419）によって背景色が切りかわります。

- エコドライブモード：青色
- スポーツモード：赤色

■設定画面の操作について

- 一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。
- 警告メッセージが表示されたときは、設定画面の操作が一時中断されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■割り込み表示について

割り込み表示される項目によっては、一部の表示エリアが非表示になります。割り込み表示終了後、もとの表示にもどります。

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象で、異常ではありません。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→ P. 89, 602）

警告

■運転中の使用について

- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばギヤ段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにギヤ段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ディスプレイの設定を変更するとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

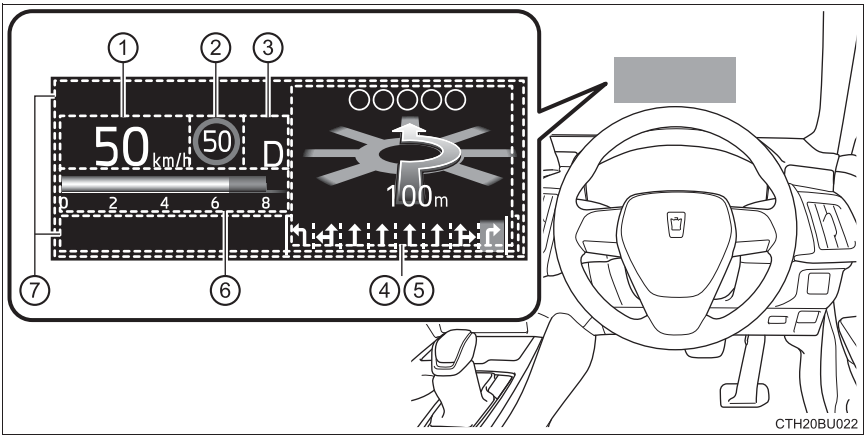
■ディスプレイの設定を変更するとき

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

ヘッドアップディスプレイ★

機能概要

ヘッドアップディスプレイはマルチインフォメーションディスプレイやナビゲーションシステムと連携して、運転者の視界前方に現在の車速などのさまざまな情報を表示することができます。



イラストは説明のための例であり、実際の表示状況とは異なります。

① 車速（スピードメーター）表示エリア

② RSA（ロードサインアシスト）表示（→ P. 270）

③ シフトポジション表示（→ P. 202）

④ 運転支援システム表示エリア（→ P. 107）

⑤ ナビゲーションシステム連携表示エリア（→ P. 107）

ナビゲーションシステムと連携して、次の内容が表示されます。

・ 目的地案内
・ 交差点名表示
・ レーン（車線）案内

⑥ エコドライブインジケーター／タコメーター表示エリア（→ P. 108）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⑦ メッセージ表示エリア

次の内容が表示されます。
・メッセージ表示
・外気温表示
・ハンズフリー作動表示
・オーディオ表示

ヘッドアップディスプレイの使い方

マルチインフォメーションディスプレイの⚙から HUD を選択します。（→ P. 89）

◆ ヘッドアップディスプレイの表示 / 非表示

OK を押すごとにヘッドアップディスプレイの表示／非表示を変更することができます。（→ P. 94）

◆ ヘッドアップディスプレイの設定変更

OK を長押しすると次の設定を変更できます。（→ P. 94）

■ HUD 明るさ／位置

表示の明るさや上下位置を調整することができます。

■ ブランク画面／エコインジケーター／タコメーター

ブランク画面（表示なし）／エコドライブインジケーター表示／タコメーター表示のいずれかから選択することができます。

■ HUD 表示カスタマイズ

次の内容の表示／非表示を設定することができます。
・ナビゲーション表示
・レーン表示
・運転支援表示
・オーディオ表示

■ HUD 傾き調整

〈 ／ 〉スイッチで表示の傾きを調整することができます。

運転支援システム表示エリア

次のシステムの作動状況を表示します。
・LTA（レーントレーシングアシスト）（→ P. 258）
・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→ P. 275）
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）（→ P. 346）
・ITS Connect★（→ P. 294）
・クリアランスソナー（→ P. 322）
・ドライブスタートコントロールシステム（→ P. 186）
・ブレーキオーバーライドシステム（→ P. 185）

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。詳しくは各システムの説明を参照してください。

ナビゲーションシステム連携表示エリア

ナビゲーションシステムと連携して、次の内容が表示されます。
（詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください）

■ 目的地案内

ナビゲーションシステムで目的地案内を実行しているときに表示されます。交差点に接近すると、進行方向を矢印で指示します。

■ 交差点名表示

状況に応じて、通過する交差点の名称が表示されます。

■ レーン（車線）案内

交差点にさしかかったとき、車線・進行方向などのレーン情報が表示されます。

ナビゲーションシステムで目的地案内を実行しているときは、走行を推奨する車線が青色で表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エコドライブインジケーター／タコメーター表示エリア

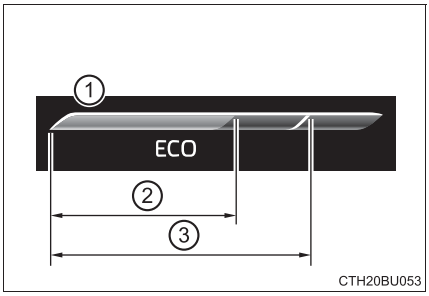
■ エコドライブインジケーター

① エコドライブインジケーターゾーン表示

② 現状のアクセル開度

③ エコ運転の範囲

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイのエコドライブインジケーターと同様です。詳しくは、P. 103 を参照してください。



■ タコメーター

毎分のエンジン回転数を表示します。

⚠／ⓘアイコン

マルチインフォメーションディスプレイと連携して、次のアイコン、メッセージが表示されます。

● ⚠マスターウォーニングアイコン

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているときに表示されます。（→ P. 556）

● ⓘインフォメーションアイコン

マルチインフォメーションディスプレイに提案メッセージ・操作アドバイスメッセージが表示されているときに表示されます。（→ P. 101）

メッセージ表示エリア

状況に応じて、次の内容が表示されます。

■ メッセージ表示

状況に応じて、警告／注意喚起／通知／作動状況を表示します。

● 警告メッセージについて

一部の警告メッセージが表示されます。

● 割り込み表示について

運転支援システムの作動に連動して、マルチインフォメーションディスプレイに表示される情報の一部が、ヘッドアップディスプレイに割り込み表示されます。

● ETC に関する通知

■ 外気温表示

次の時に外気温が表示されます。

・ エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたとき（約 10 秒間表示されます）

・ 低温表示灯が点滅しているとき

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの外気温表示と同様です。詳しくは、マルチインフォメーションディスプレイの外気温表示を参照してください。（→ P. 83）

■ ハンズフリー作動表示

ハンズフリーの使用中に表示されます。
（詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください）

■ オーディオ表示

ハンドル上のオーディオ操作スイッチを使用したときに表示されます。
（詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください）

知識

■ヘッドアップディスプレイの作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ヘッドアップディスプレイを使用するときは

サングラス（特に偏光サングラス）を着用していると、ヘッドアップディスプレイの表示が見づらくなる場合があります。表示が見づらい場合は、輝度を調整するか、サングラスをはずしてください。

■表示の明るさについて

マルチインフォメーションディスプレイの⚙による明るさの調整に加えて、周囲の明るさに応じて表示の明るさが自動で調整されます。

■ヘッドアップディスプレイ表示位置の自動調整

お好みのヘッドアップディスプレイ表示位置をマイコンプリセットドライビングポジションシステムに登録すると、自動で調整されます。（→ P. 147）

■ヘッドアップディスプレイの表示／非表示について

ヘッドアップディスプレイを非表示にしたときは、エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度イグニッション ON モードにしても、非表示のままです。

■交差点名表示について

地図データに情報がない場合など、状況によっては交差点名称が表示されない場合があります。

■レーン（車線）表示について

地図データに情報のない交差点では、レーン表示は行われません。また、交差点によっては、レーン表示と実際の交差点形状が異なる場合があります。現場の標識、道路形状に従ってください。

■外気温表示について

外気温が約 3 ℃ 以下のとき、低温表示灯が約 10 秒間点滅し非表示になります。外気温がいったん約 5 ℃以上になり再度外気温が 3 ℃以下になると表示されます。

■割り込み表示について

割り込み表示される項目によっては、一部の表示エリアが非表示になります。割り込み表示終了後、もとの表示にもどります。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→ P. 89, 602）

警告

■ヘッドアップディスプレイ使用上の留意点

●映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。
調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ヘッドアップディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■ヘッドアップディスプレイの設定を変更するとき

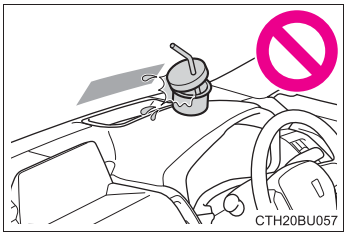
エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ヘッドアップディスプレイ映写部についての注意

●映写部の付近に飲み物を置かないでください。水やそのほかの液体が映写部にかかると、装置が故障する原因になります。

●映写部の上にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。
ヘッドアップディスプレイの表示のさまたげとなります。



●映写部の内部にふれたり、とがったものを押し付けたりしないでください。
装置が故障する原因となります。

■ヘッドアップディスプレイの設定を変更するとき

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

燃費画面

燃費に関する情報をナビゲーション画面およびトヨタマルチオペレーションタッチに表示します。

表示のしかた

1 画面外の MENU スイッチを押し、トヨタマルチオペレーションタッチで「情報」を選択して、情報画面を表示させる

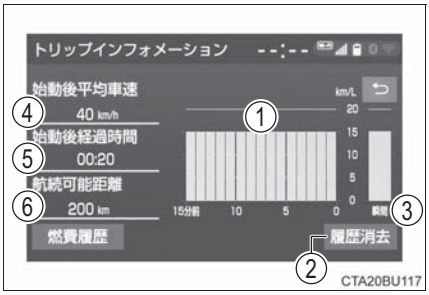
2 トヨタマルチオペレーションタッチで「エコ情報」を選択する

3 「トリップインフォメーション」、または「燃費履歴」を選択する

燃費画面の見方

■ トリップインフォメーションの見方

トリップインフォメーション画面以外が表示されたときは、「トリップインフォメーション」を選択する



① 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）

② 履歴消去

③ 瞬間燃費

④ エンジン始動後平均車速

⑤ エンジン始動後経過時間

⑥ 航続可能距離（→ P. 81）

平均燃費はエンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてからと、前回走行時で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ 燃費履歴の見方

燃費履歴画面以外が表示されたときは、「燃費履歴」を選択します。

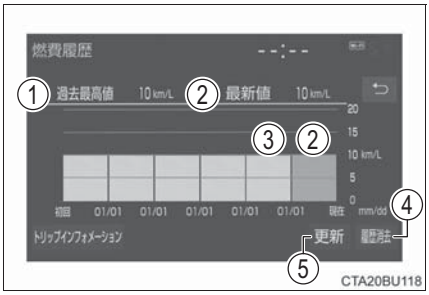
① 過去最高値表示

② 最新値表示

③ 過去平均燃費表示

④ 履歴消去

⑤ 最新値更新



平均燃費は最後に更新してからの平均、過去の平均で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

知識

■過去の平均燃費の記録を更新するには

燃費履歴画面で「更新」を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■燃費データをリセットするには

「履歴消去」を選択すると、燃費データがリセットされます。

■航続可能距離について

→ P. 81

各部の操作 3

3-1. キー

キー 116

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア 122

トランク 130

スマートエントリー＆スタートシステム 136

3-3. シートの調整

フロントシート 143

リヤパワーシート 145

パワーイージーアクセスシステム／マイコンプリセットドライビングポジションシステム／メモリーコール機能 147

ヘッドレスト 152

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル 155

インナーミラー 158

デジタルインナーミラー 160

ドアミラー 172

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉

パワーウインドウ 175

ムーンルーフ 179

キー

キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

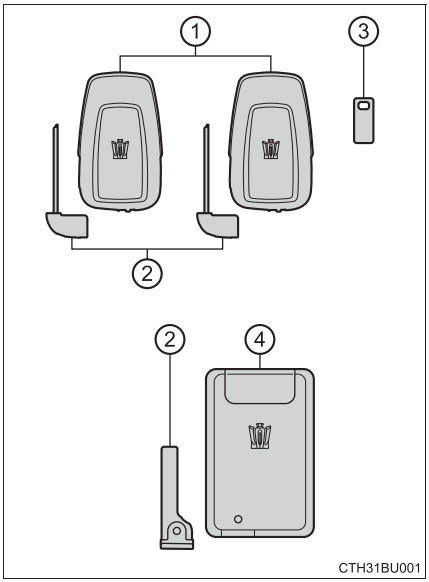
① 電子キー
- スマートエントリー＆スタートシステムの作動 （→ P. 136）
- ワイヤレス機能の作動

② メカニカルキー

③ キーナンバープレート

④ カードキー★

スマートエントリー＆スタートシステムの作動 （→ P. 136）



ワイヤレスリモコン

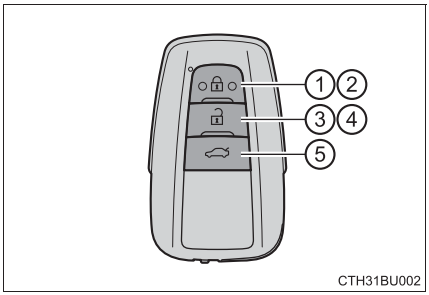
① ドアの施錠（→ P. 122）

② ドアガラスとムーンルーフ★を閉める※（→ P. 122）

③ ドアの解錠（→ P. 122）

④ ドアガラスとムーンルーフ★を開く※（→ P. 122）

⑤ トランクを開ける（→ P. 131）



※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。（→ P. 606）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

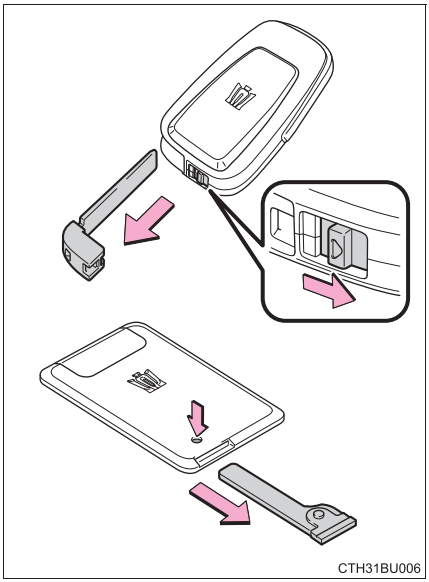
メカニカルキーを使うには

電子キーからメカニカルキーを取り出すには、解除レバーをスライドさせてキーを取り出してください。

カードキー★からメカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出してください。

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→ P. 579）



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

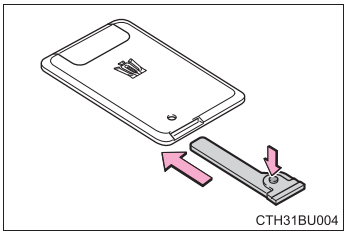
■カードキー★について

●カードキーは非防水です。

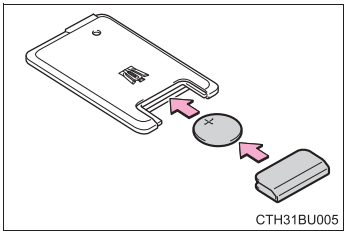
●カードキーに内蔵されているメカニカルキーは、カードキーが正常に作動しないなどの緊急時にのみ使用してください。

●メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などでロック解除ボタンを押してください。引き出しにくいときは、コインなどで引っかけてください。

●メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、ロック解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。


CTH31BU004

●電池カバーがはずれたときやぬれたときに電池をはずした場合は、電池の＋極をクラウンエンブレム面側にして取り付けてください。


CTH31BU005

■駐車場などでキーを預けるとき

必要に応じてトランクオープナーメインスイッチを OFF にして、グローブボックスを施錠します。（→ P. 131, 463）
メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■メカニカルキーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。
キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は1～2年です（カードキーの電池は1年半程度で消耗します）。

●電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●長時間使用しない電子キーの電池消耗を抑えることができます。（→ P. 138）

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを保管しないでください。

・TV
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■電池の交換方法

→ P. 523

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

■不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

⚠注意

■キーの故障を防ぐために

- ●落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- ●温度の高いところに長時間放置しない
- ●ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- ●キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- ●分解しない
- ●電子キー表面にシールなどを貼らない
- ●テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない
- ●電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身につけたまま治療を受けない

■電子キー取り扱いの注意

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守り下さい。
・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
・必ず日本国内でご使用下さい。

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キー（カードキーを含む）をお持ちください。

■電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーとカードキーをすべてお持ちのうえ、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

⚠注意

■カードキー★の取り扱いについて

- メカニカルキーをカードキーに挿し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。
- 電池やカードキーの電極がぬれた場合は、電池が腐食するおそれがあります。水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分をふき取ってください（電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください）。電池が腐食した場合は、トヨタ販売店で電池を交換してください。
- 電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。
  無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷を付けたりするおそれがあります。
- 電池カバーをひんぱんに取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなることがあります。
- 電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。
- 次のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷を付けたり塗装がはがれたりするおそれがあります。
  - ・小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき
  - ・シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき
  - ・シンナーやベンジンでカードキーの表面をふいたとき

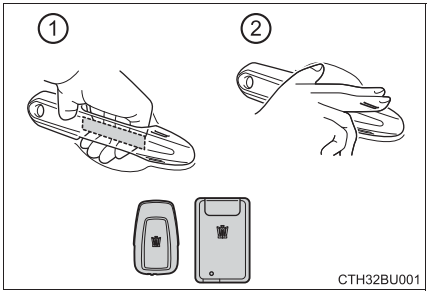
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドア

車外からの解錠／施錠

◆ スマートエントリー＆スタートシステム

電子キーを携帯して操作します。



① ドアハンドルを握って解錠する

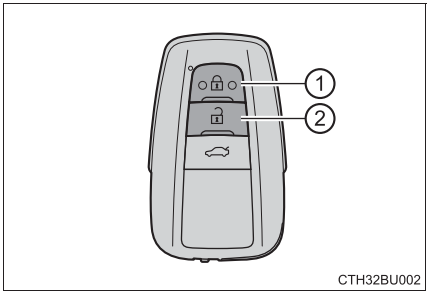
ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

② ドアハンドル上側のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

◆ ワイヤレスリモコン



① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ★が閉まります。※

② 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ★が開きます。※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。（→ P. 606）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます（施錠は 1 回、解錠は 2 回）。

ドアガラスとムーンルーフ★の開閉をブザーで知らせます。

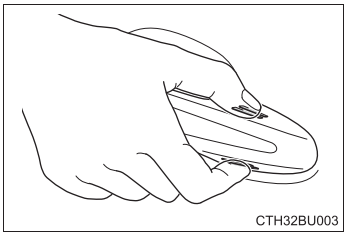
■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ドアハンドル上側のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル上側のロックセンサー部にふれても施錠できないときは、上下のロックセンサー部に同時にふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■オートアラームの設定

施錠するとオートアラームが設定されます。（→ P. 65）

■スマートエントリー＆ スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 579）
電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→ P. 523）

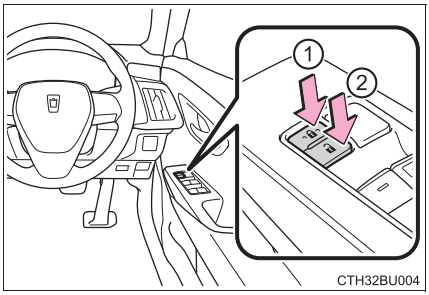
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車内からの解錠／施錠

◆ ドアロックスイッチ（施錠／解錠）

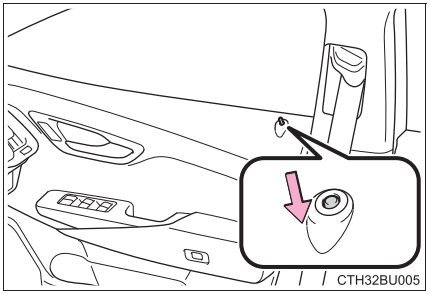
① 全ドアを施錠する

② 全ドアを解錠する



◆ ドアロックボタン（施錠）

ドアロックボタンを押し下げて、ドアを施錠する



◆ ドアハンドル（解錠）

▶ 運転席ドア

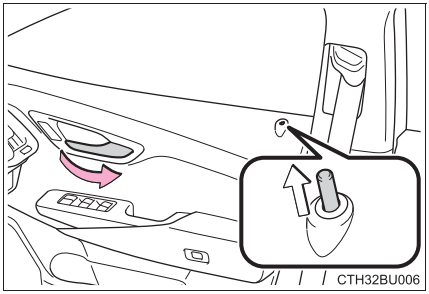
ドアハンドルを引くとドアが解錠され、ドアが開きます。

ドアが解錠されると、ドアロックボタンが上がります。

▶ 運転席以外のドア

ドアハンドルを引くとドアが解錠され、再度ドアハンドルを引くとドアが開きます。

ドアが解錠されると、ドアロックボタンが上がります。



キーを使わずに外側からフロント席を施錠するとき

1 ドアロックボタンを押し下げる

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

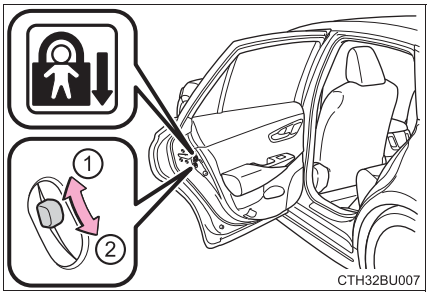
チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

① 解錠

② 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。



オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定一覧については、P. 602 を参照してください。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	エンジン回転中にシフトレバーをPから動かすと全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトレバーをPに入れると全ドアが解錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	エンジンスイッチを OFF にしてから約 45 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

知識

■解錠ドアの切りかえ機能

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー＆スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 オートアラームの侵入センサー★を停止する
（操作中のオートアラーム誤作動防止：→ P. 68）

3 キー表面のインジケーターが消灯しているときに 🔒 ボタンと同時に、🔓 または 🚗 のいずれかを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります（続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離したあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 3 を行ってください）。

マルチインフォメーションディスプレイ表示	解錠できるドア	ブザー音
	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠	車外：“ピピッ”（3 回） 車内：“ポーン”（1 回）
	助手席・リヤ席★のドアハンドルを握ると全席解錠	
	フロント席・リヤ席★のいずれかのドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピピッ”（2 回） 車内：“ポーン”（1 回）

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください（🔓 ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます）。
オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。（→ P. 65）

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。
衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■メカニカルキーでの施錠・解錠

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 579）

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■半ドア走行時警告ブザー

全ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえるとマスタウォーニングが点滅し、警告ブザーが鳴ります。

開いているドアがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 139

■イージークローザー（イージークローザー装着車）

ドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し自動で完全に閉まります。

●エンジンスイッチが OFF になっていても、イージークローザーは作動します。

●車内のドアハンドルや車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、イージークローザーは作動しません。

●イージークローザーが作動中でも、車内のドアハンドルや車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます（ドアロックボタンやチャイルドプロテクターが施錠側のときを除く）。

●イージークローザーでドアが閉まったあと数秒間モーター音が聞こえますが、異常ではありません。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→ P. 602）

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
  特に、運転席はドアロックボタンが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときの留意事項

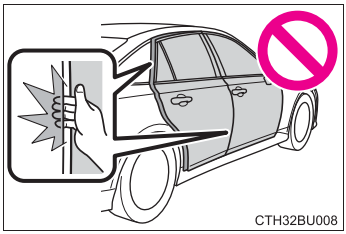
傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスやムーンルーフ★を操作するとき

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■イージークローザーについて（イージークローザー装着車）

- ドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などをドアのあいだに挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



- ドアロックボタンやチャイルドプロテクターが施錠側になっているドアは、イージークローザーの作動を停止できないため、特にご注意ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■**イージークローザーの故障を防ぐために（イージークローザー装着車）**

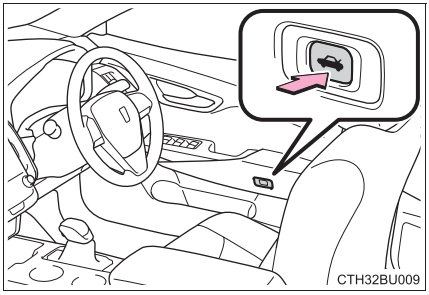
ひんぱんにドアの開閉をくり返したり、イージークローザーの作動中にドアに無理な力をかけないでください。

トランク

トランクオープナーやスマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って開けることができます。

車内からトランクを開ける

トランクオープナースイッチを押す



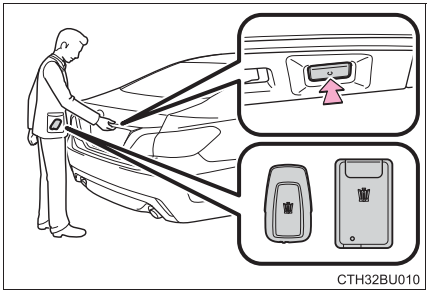
車外からトランクを開ける

◆ スマートエントリー＆スタートシステム

電子キーを携帯し、トランクのスイッチを押す

次のいずれかの方法ですべてのドアを解錠したときは、電子キーを携帯しなくてもトランクを開けることができます。

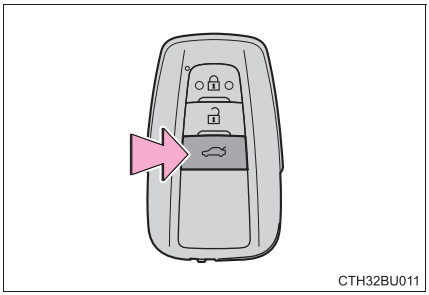
・スマートエントリー＆スタートシステム
・ワイヤレス機能
・ドアロックスイッチ
・メカニカルキー
・オートドアアンロック機能



◆ ワイヤレスリモコン

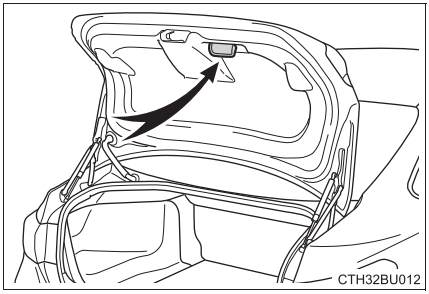
スイッチを押し続ける

ブザーが鳴ります。



トランクを閉めるとき

トランクグリップを持って、横方向に力をかけないようにトランクを引き下げ、外から押して閉めてください。



トランクオープナーを一時的に無効にする

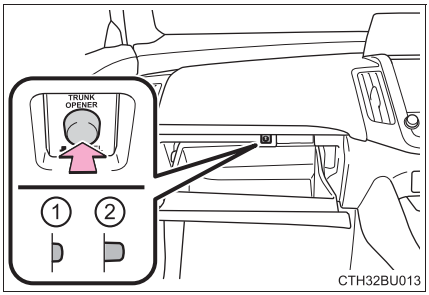
トランクに積んだ荷物の盗難防止などのために、トランクオープナースイッチを一時的に無効にすることができます。

グローブボックス内のメインスイッチを OFF にする

① ON

② OFF

ワイヤレスリモコン・スマートエントリー＆スタートシステムでもトランクを開けられなくなります。



知識

■トランクランプ

●トランクを開けたとき、トランクランプが点灯します。

●エンジンスイッチが OFF の場合、トランクランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

■イージークローザー（イージークローザー装着車）

トランクが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で閉まります。

●エンジンスイッチが OFF になっていても、イージークローザーは作動します。

●イージークローザーが作動しないときには、いったんトランクを半分以上開けてから、再度閉めてください。

■トランク内キー閉じ込み防止機能について

●すべてのドアが施錠されている場合、トランク内に電子キーを置いたままトランクを閉めると、警告音が鳴ります。この場合、車外にあるトランクオープンスイッチで開けられます。

●すべてのドアが施錠されている状態で、予備のキーをトランクに入れたときも、キー閉じ込み防止機能が働き、トランクを開けることができます。盗難防止のため、車から離れるときは必ずすべての電子キーを携帯してください。

●すべてのドアが施錠されている状態でトランク内に電子キーを置いても、電子キーが置かれた場所や、周囲の電波状況によっては、トランク内の電子キーを検知できないことがあります。この場合は、キー閉じ込み防止機能が働かず、トランクを閉めたときに施錠されてしまいます。トランクを閉めるときには、必ず電子キーの所在を確認してください。

●ドアがひとつでも解錠されている場合は、キー閉じ込み防止機能は働きません。この場合は、車内のトランクオープナースイッチでトランクを開けてください。

■トランク開警告ブザー

トランクが確実に閉まっていない状態のまま、車速が5km/hをこえるとマスターウォーニングが点滅し、警告ブザーが鳴ります。

■メカニカルキーについて

トランクはメカニカルキーを使用して開けることもできます。（→ P. 579）

■スマートエントリー＆ スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってトランクを開けることができます。（→ P. 579）
電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→ P. 523）

■駐車場などでキーを預けるときは

→P. 118

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→P. 602）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行する前に

●走行前にトランクが閉まっていることを確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

●トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。
不意にトランクリッドが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■走行中の留意事項

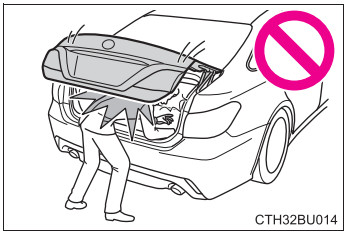
トランク内には絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

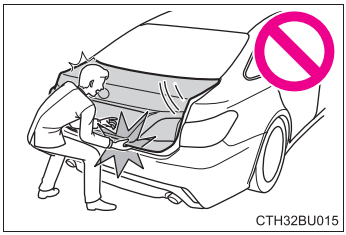
■ **トランクの使用にあたって**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが突然閉じるおそれがあります。
- トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
  トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 半開状態で使用すると、トランクリッドが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。


CTH32BU014

- トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。
- トランクは必ず外からトランクリッド上面を軽く押して閉めてください。トランクグリップで直接トランクを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

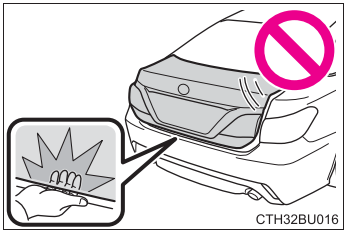

CTH32BU015

- トランクリッドにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに突然閉じるおそれがあります。

警告

■**イージークローザーについて（イージークローザー装着車）**

トランクが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などをトランクのあいだに挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



注意

■**イージークローザーの故障を防ぐために（イージークローザー装着車）**

イージークローザーの作動中は、トランクに無理な力をかけないでください。

スマートエントリー&スタートシステム

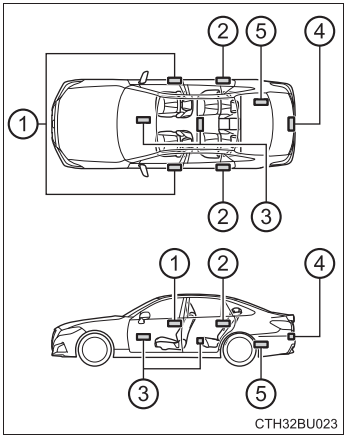
電子キー（カードキーを含む）をポケットに携帯すると、次の操作が行えます。必ず運転者がキーを携帯してください。

- ドアを解錠・施錠する（→ P. 122）
- トランクを開ける（→ P. 130）
- エンジンを始動する（→ P. 196）

知識

■アンテナの位置

① 車外アンテナ（フロント）
② 車外アンテナ（リヤ）★
③ 車室内アンテナ
④ トランク外アンテナ
⑤ トランク内アンテナ

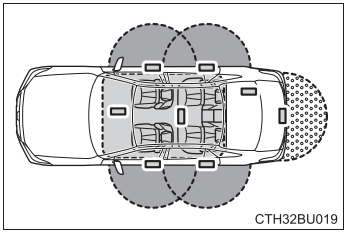


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■作動範囲

：ドアの施錠・解錠時

フロント席・リヤ席★のドアハンドルから周囲約70cm以内で電子キーを携帯している場合に作動します（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）。



：トランクの解錠時

トランクオープンスイッチから周囲約70cm以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

：エンジン始動時またはエンジンスイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。（→ P. 556）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のようになります。

警告音	状況	対処方法
車外から “ピー” と5秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。
	全ドアが施錠されている状態で電子キーをトランク内に置いたままトランクを閉めた	トランク内から電子キーを取り出したあと、トランクを閉めてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告音	状況	対処方法
車内から “ポーン、ポーン” と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをアクセサリーモードにした（エンジンスイッチがアクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	エンジンスイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉めてください。
	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをOFFにした	運転席ドアを閉めてください。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。

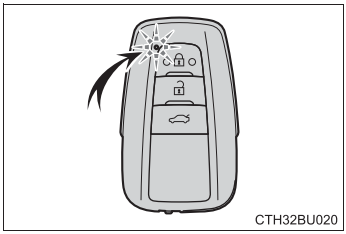
・車の外約2m以内に電子キーを10分以上放置した
・5日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

●14日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーの節電モードについて

節電モードに設定すると、電子キーによる、電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの🔒を押しながら、🔓を2回押し、電子キーのインジケータが4回光ることを確認してください。


CTH32BU020

節電モード中は、スマートエントリー＆スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→ P. 579）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき

・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
・他の車の電子キー、自車のもう一つの電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くに電子キーを置いたとき

●コインパーキングに駐車しているとき

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。

・ドアの施錠･解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある
・トランクの解錠時に電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎている
・エンジン始動時やエンジンスイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上･リヤシート後方のパッケージトレイ上･ドアポケット・またはグローブボックス内などに置かれていた

●インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。

●車外でも電子キーがドアガラスに近づいていると、エンジンを始動できることがあります。

●電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）。

●ワイヤレスリモコンなどでの施錠時に電子キーが車両の近くにあると、スマートエントリー＆スタートシステムでの解錠ができないことがあります（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）。

●手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。※

●電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。

・電子キーを車両から約 2m 以上離れた場所に置く（盗難に注意し保管してください）
・電子キーを節電モードに設定してスマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→ P. 138）

●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作するか、ドアハンドル下部のロックセンサーを使って操作してください。

●すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

●ドアハンドルを操作するときに、爪がドアにあたる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないよう注意してください。

※ トヨタ販売店での設定変更が可能です。

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から約 2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。（→ P. 604）

●電子キーを節電モードに設定すると、電池消耗を抑えることができます。（→ P. 138）

■システムを正しく作動させるために

●電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります）。

●トランク内に電子キーを置かないでください。
電子キーの場所（トランク内側の端）、状況（金属製のかばんの中、金属製のものの付近など）、または周囲の電波環境によっては、キー閉じ込み防止機能が作動しない場合があります。（→ P. 132）

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき

●ドア・トランクの施錠・解錠：→ P. 579

●エンジンの始動：→ P. 580

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→ P. 602）

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたとき

●ドア・トランクの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドア・トランクの施錠・解錠ができます。（→ P. 122, 131, 579）

●エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切りかえ：→ P. 580

●エンジンの停止：→ P. 197

警告

■電波がおよぼす影響について（スマートエントリー＆スタートシステムアンテナ）

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→ P. 136）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

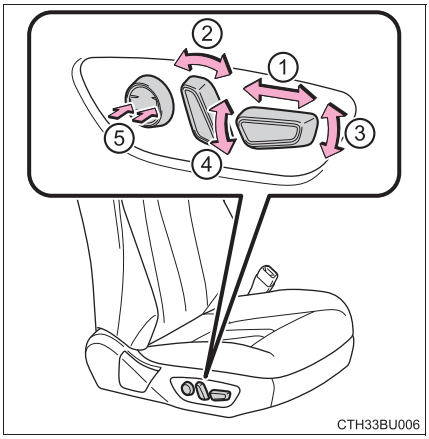
●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

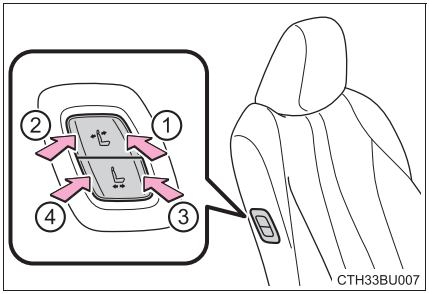
調整のしかた

① 前後位置調整
② リクライニング調整
③ クッション前端の上下調整（運転席のみ）
④ シート全体の上下調整（運転席のみ）
⑤ 腰部位置調整（ランバーサポート）（運転席のみ）



助手席側面スイッチ★

① 背もたれを前に傾ける
② 背もたれをうしろに傾ける
③ シートを前方に動かす
④ シートを後方に動かす



知識

■パワーイージーアクセスシステム★

エンジンスイッチのモード切りかえ・運転席のシートベルト脱着に連動して、運転席シートとハンドルが動きます。（→ 147）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■シートを調整するとき

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席からの助手席操作について（助手席側面スイッチ装着車）

助手席に乗員がいるときは操作をしないでください。また、操作中は、助手席に座らないでください。
足を挟むなどして助手席乗員がけがをするおそれがあります。

注意

■シートを調整するときは

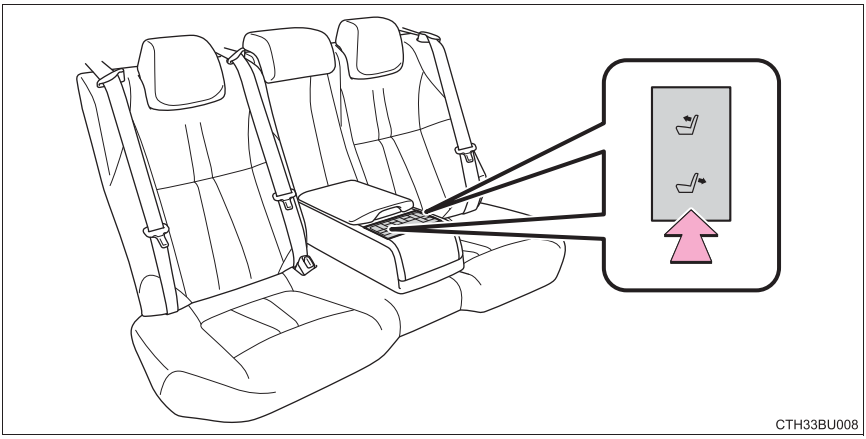
ヘッドレストが天井にあたらないように注意してください。ヘッドレストや天井が損傷するおそれがあります。

■運転席からの助手席操作について（助手席側面スイッチ装着車）

操作するときは助手席の上や足元に作動をさまたげるものがないことを確認してください。シートに無理な力がかかり故障するおそれがあります。

リヤパワーシート★

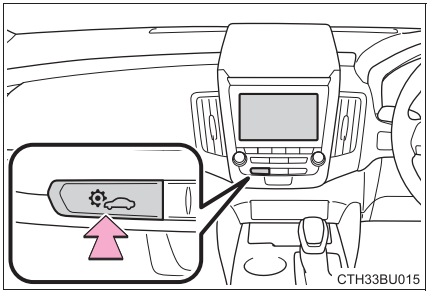
調整のしかた



リクライニング調整

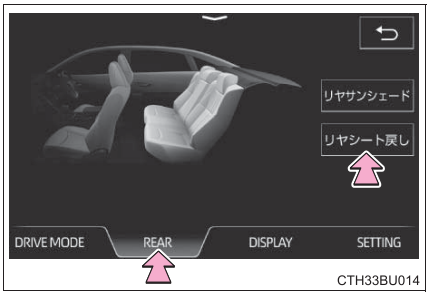
フロント席からリヤシートをもどす

1 車両設定スイッチを押す



2 「REAR」を選択し、「リヤシート戻し」を選択する

スイッチを押しているあいだリヤシートがもどります。



イラストの意匠は装備などにより異なります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■フロント席からリヤシートをもどす操作について

エンジンスイッチが OFF のときでも、車両設定スイッチを押すことにより「リヤシート戻し」画面が表示され、リヤシートをもどすことができます。

警告

■リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■フロント席からリヤシートをもどすときは

リヤシートの乗員が車を降りてから操作してください。

パワーイージーアクセスシステム／マイコンプリセットドライビングポジションシステム／メモリーコール機能★

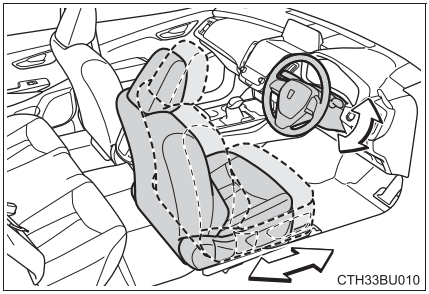
自動で運転席・ハンドル・ドアミラー・ヘッドアップディスプレイ★を動かし、乗り降りしやすい位置に調整したり、お好みのドライビングポジションに調整したりします。

パワーイージーアクセスシステム

乗降時に運転者が乗り降りしやすいよう、シートやハンドルが自動で動きます。

次のすべての操作を行ったとき、シートとハンドルが乗り降りしやすい位置に自動で調整されます。

・シフトレバーを P に入れる
・エンジンスイッチを OFF にする
・シートベルトをはずす



次のいずれかの操作を行ったとき、シートとハンドルがもとの位置にもどります。

・エンジンスイッチをアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードにする
・シートベルトを着用する

知識

■パワーイージーアクセスシステムの作動について

降車時に、シートの位置が最後方付近にあると、パワーイージーアクセスシステムが作動しない場合があります。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→ P. 602）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

マイコンプリセットドライビングポジションシステム

お好みのドライビングポジション（シートの位置・ハンドルの位置・ドアミラーの角度・ヘッドアップディスプレイ表示★）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。ドライビングポジションは、2 パターンまで登録できます。

■ 登録方法

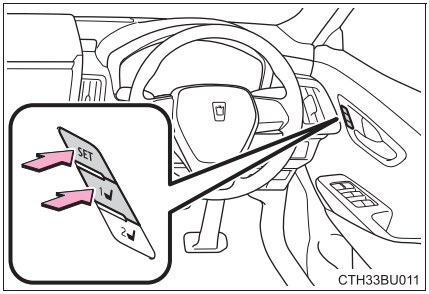
1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

3 運転席・ハンドル・ドアミラー角度・ヘッドアップディスプレイ表示★をお好みの位置に調整する

4 SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと 3 秒以内に 1 または 2 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。

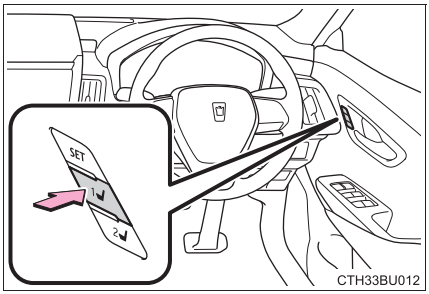


■ 呼び出し方法

1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

3 1 または 2 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

●SET ボタンを押す

●1 または 2 のボタンを押す

●シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）

●ハンドル位置調整スイッチを操作する（ハンドルのみ作動停止）

■登録できるシート位置（→ P. 143）

腰部位置調整（ランバーサポート）以外の位置が登録できます。

■エンジンスイッチ OFF 後の作動

運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉め 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。ハンドルの位置は、エンジンスイッチを押すと調整されます。

■ドライビングポジションシステムを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

メモリーコール機能

お好みのドライビングポジションに電子キー（カードキーを含む）を登録することで、電子キーごとにお好みのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

■ 登録方法

お好みのドライビングポジションをあらかじめ 1 または 2 のいずれかのボタンに登録しておきます。

登録させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に登録できません。

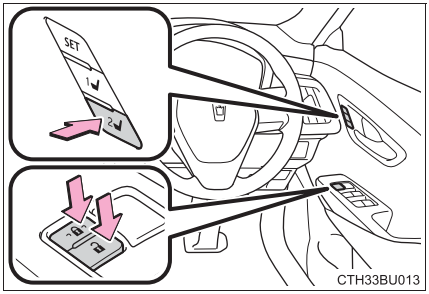
1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

3 登録させたいドライビングポジション（1 または 2）を呼び出す

4 呼び出したドライビングポジションのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を“ピー”とブザーが鳴るまで押す

登録できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。



■ 呼び出し方法

1 ドライビングポジションを登録した電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

ハンドルおよびヘッドアップディスプレイ表示★を除くドライビングポジションが登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は、シートやミラーは動きません。

2 エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするか、シートベルトを着用する

シート･ハンドルおよびヘッドアップディスプレイ表示★が登録したドライビングポジションに動きます。

■ 解除方法

解除させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に解除できません。

1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

3 SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を“ピッピッ”とブザーが鳴るまで押す

解除できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて

●電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯する電子キーによっては、呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。

●運転席ドア以外のドアをスマートエントリー＆スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出しは行われません。その場合は、登録したドライビングポジションのボタンを押してください。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→ P. 602）

警告

■シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

■パワーイージーアクセスシステムでハンドル・シートが作動しているときは

体や荷物などが挟まれないようにしてください。けがをしたり、荷物が破損するおそれがあります。

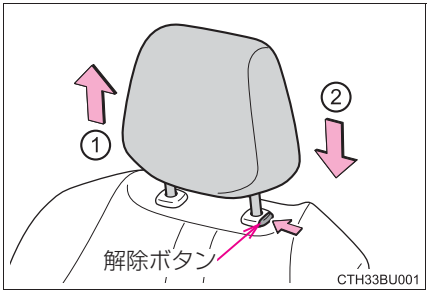
ヘッドレスト

フロント席

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

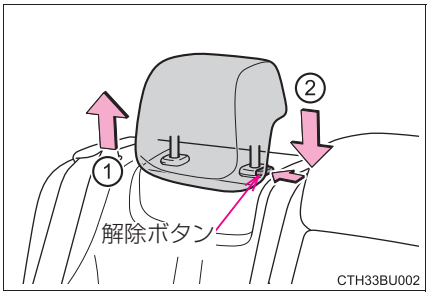


リヤ席

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

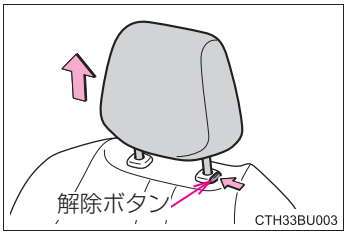


知識

■ヘッドレストを取りはずすとき

解除ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。

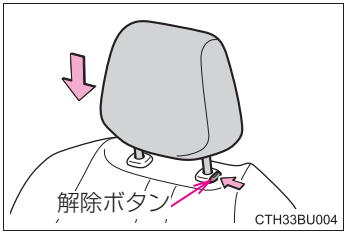
フロントシート：ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さや角度をかえてください。（→ P. 143）



■ヘッドレストを取り付けるとき

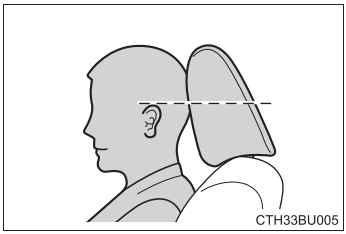
ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。



■ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する

●ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する

●ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する

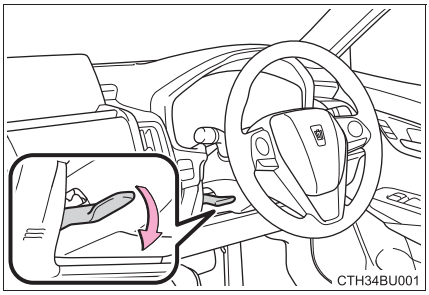
●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

ハンドル

調整のしかた

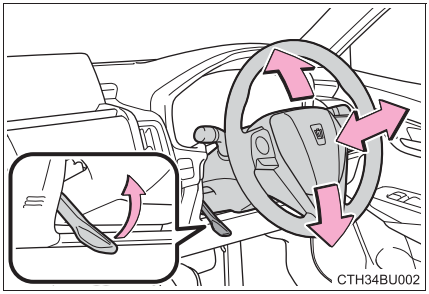
▶ マニュアルチルト＆テレスコピックステアリング装着車

1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



2 ハンドルを前後・上下に動かし、適切な位置にする

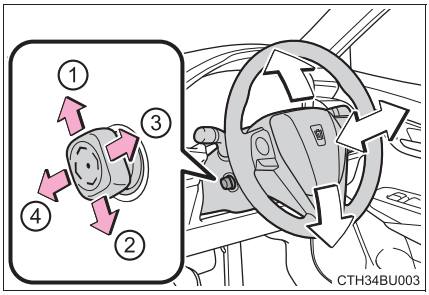
位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



▶ 電動チルト＆テレスコピックステアリング装着車

スイッチを操作すると、ハンドルを次の方向に動かします。

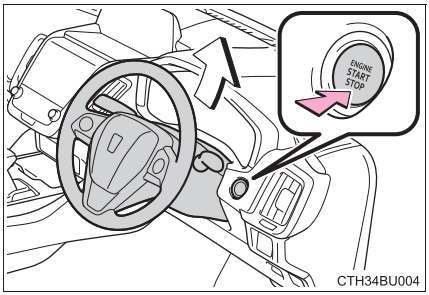
① 上方へ
② 下方へ
③ 手前へ
④ 前方へ



オートチルトアウェイ＆リターン機能★

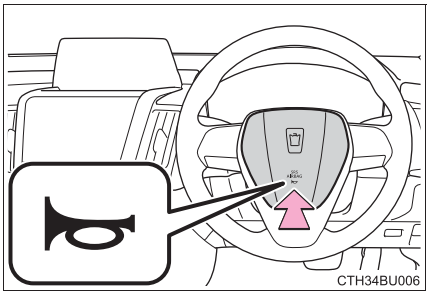
エンジンスイッチをOFFにすると、乗り降りがしやすいようにハンドルが自動で動きます。

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするともとの位置にもどります。



ホーン（警音器）

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



知識

■**電動チルト＆テレスコピックステアリングの作動条件**

エンジンスイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき※

※ 運転席シートベルトを装着していれば、エンジンスイッチのモードにかかわらず、ハンドルの調整ができます。

■**ハンドル位置の自動調整★**

お好みのハンドル位置をマイコンプリセットドライビングポジションシステムに登録すると、自動で調整されます。（→ P. 147）

■**パワーイージーアクセスシステム★**

エンジンスイッチのモード切りかえ・運転席シートベルトの脱着に連動して、ハンドルとシートが動きます。（→ P. 147）

■**カスタマイズ機能**

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→ P. 602）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**走行中の留意事項**

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**ハンドル位置を調整したあとは（マニュアルチルト＆テレスコピックステアリング装着車）**

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

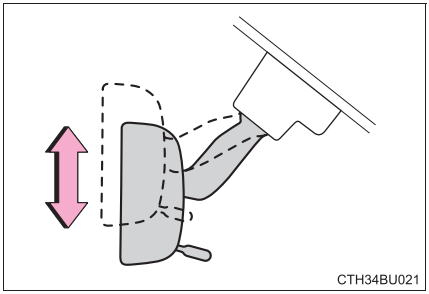
インナーミラー★

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



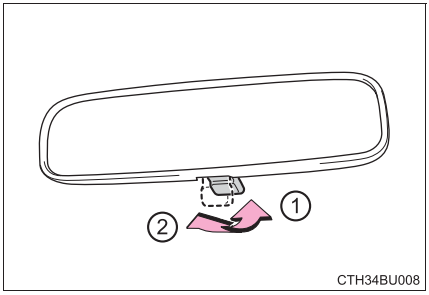
防眩機能

▶ 手動防眩ミラー装着車

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

① 通常使用時

② 防眩時



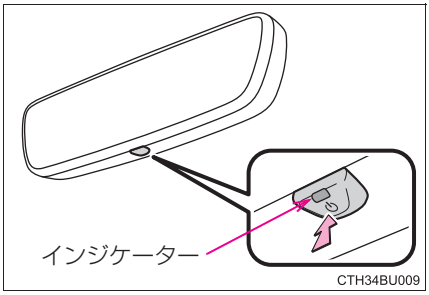
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ 自動防眩ミラー装着車

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の切りかえ
ON/OFF

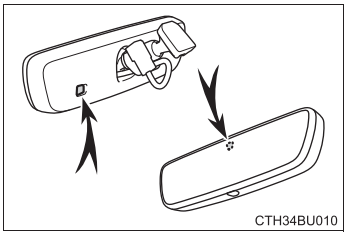
ON のときはインジケーターが点灯します。
エンジンスイッチをイグニッションON モードにしたときは、ミラーは常に自動防眩機能がONになっています。
ボタンを押すとOFFになりインジケーターが消灯します。



知識

■センサーの誤作動防止（自動防眩ミラー装着車）

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



警告

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

デジタルインナーミラー★

車両後方カメラの映像をミラー内のディスプレイに表示する装置です。

切りかえレバーを操作することで、鏡面ミラーモードからデジタルミラーモードに切りかえることができます。

ヘッドレストや荷物、リヤサンシェード★などで視界をさえぎられずに後方を確認することができるため、優れた後方視認性を確保できます。また、リヤ席を映さないことで乗員のプライバシーを保護することができます。

警告

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■デジタルインナーミラーをお使いになる前に

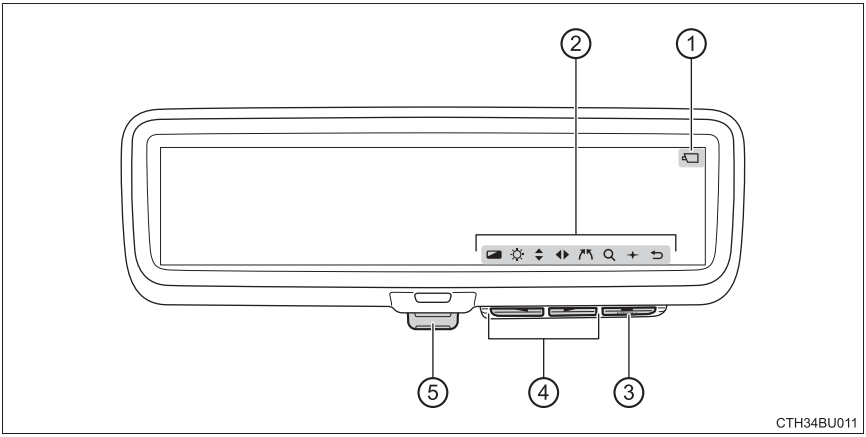
●走行前に必ずミラーの調整を行ってください。（→ P. 163）

・鏡面ミラーモードに切りかえて、鏡面を後方が正しく映る位置に調整する
・デジタルミラーモードに切りかえて、ディスプレイに表示される映像を調整する

●ディスプレイに表示される映像と鏡面ミラーに映る範囲は異なりますので、あらかじめ違いを確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

各部の名称



① カメラインジケーター

カメラが正常に作動していることを示します。

② アイコン表示エリア

調整アイコン（→ P. 163）などが表示されます。

③ メニュー／決定スイッチ

調整アイコンの表示や、項目の決定を行います。

④ 選択スイッチ

調整アイコンの選択や、ディスプレイ表示の調整を行います。

⑤ 切りかえレバー

デジタルミラーモードと鏡面ミラーモードの切りかえを行います。

モードを切りかえるには

切りかえレバーを操作することで、デジタルミラーモードと鏡面ミラーモードを切りかえることができます。

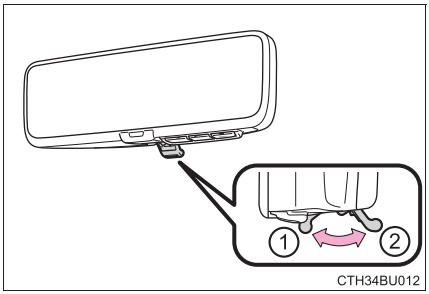
① デジタルミラーモード

車両後方の映像を表示します。

ディスプレイに が表示されます。

② 鏡面ミラーモード

映像が消え、鏡面ミラーとして使用できます。



知識

■デジタルミラーモードの作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

エンジンスイッチをイグニッション ON モードから OFF またはアクセサリーモードにすると、数秒後に表示が消えます。

■デジタルミラーモードについて

●ミラーの反射や汚れ、カメラに水滴や雪が付いているなどでディスプレイに表示される映像が見えにくい場合や、後続車のライトのちらつきや圧迫感が気になる場合は、鏡面ミラーモードに切りかえてください。

●トランクが開いているときは、デジタルインナーミラーの映像が正しく表示されません。走行前に必ずトランクが閉まっていることを確認してください。

●ディスプレイが反射して見えにくい場合は、サンシェード（ムーンルーフ装着車）を閉めてください。

●夜間など暗いところでは、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・映像の色と実際の色が異なって見える
・後続車のライトの高さなどによっては、後続車の周囲が白くぼやけて見える
・周辺を明るく見せるために映像が自動的に調整されることにより、特有のちらつきが発生する

映像が見えにくい場合や、ちらつきが気になる場合は、鏡面ミラーモードに切りかえてください。

●デジタルインナーミラー本体が発熱することがありますが、異常ではありません。

●体調、年齢などにより、ディスプレイに表示される映像に焦点が合うまで時間がかかる場合があります。焦点が合わせづらいと感じたときは、鏡面ミラーモードに切りかえてください。

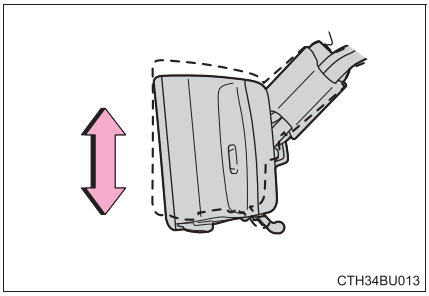
●主に同乗者がディスプレイを凝視すると、車酔いを起こすおそれがあります。

調整するには

■ ミラー本体の上下調整

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

鏡面ミラーモードに切りかえて、インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

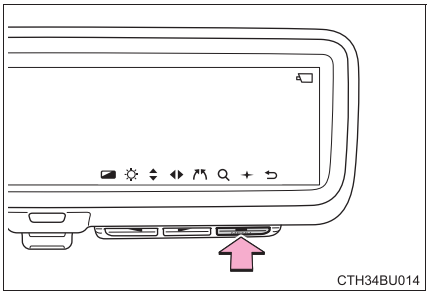


■ ディスプレイの調整（デジタルミラーモード）

デジタルミラーモードの調整や機能の ON/OFF ができます。

1 メニュー／決定スイッチを押す

調整アイコンが表示されます。



2 選択スイッチの ▬ または ▬ を押して設定変更したい項目にカーソルを合わせて、メニュー／決定スイッチを押す

3 選択スイッチの ▬ または ▬ を押して設定を変更し、メニュー／決定スイッチを押す

◪ と ✦ の ON/OFF を選択するときは、選択スイッチの ▬ または ▬ を押して ▌（ON）または ○（OFF）にカーソルを合わせて、メニュー／決定スイッチを押します。

4 選択スイッチの または を押して にカーソルを合わせてメニュー／決定スイッチを押す

調整アイコンの表示が消えます。

調整アイコン	設定内容
	自動防眩機能の ON/OFF を 切りかえることができます。※ ON にすることで、後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に調整します。 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたときは、常に自動防眩機能が ON になっています。
	ディスプレイの明るさを調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を上下に調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を左右に調整することができます。
	ディスプレイの表示映像の傾きを調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を拡大縮小することができます。
	PLS モードの ON/OFF を切りかえることができます。 ON にすることで、後続車のヘッドランプのまぶしさを抑え、ディスプレイが見えにくくなることを防止します（デジタルミラーモードで使用時）。PLS モードが ON の時はディスプレイ左上に が表示されます。

※ 鏡面ミラーモード使用時の機能ですが、デジタルミラーモード使用時にも設定できます。（→ P. 165）

■ 自動防眩機能の ON/OFF 切りかえ（鏡面ミラーモード）

鏡面ミラーモードの自動防眩機能の ON/OFF を変更できます。変更はデジタルミラーモード使用時、鏡面ミラーモード使用時のいずれからでも行えます。

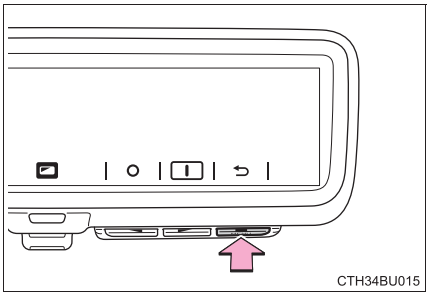
▶ デジタルミラーモード使用時

→ P. 163

▶ 鏡面ミラーモード使用時

1 メニュー／決定スイッチを押す

設定画面が表示されます。



2 選択スイッチの ▬ または ▬ を押して ▌（ON）または ○（OFF）にカーソルを合わせて、メニュー／決定スイッチを押す

設定画面の表示が消えます。

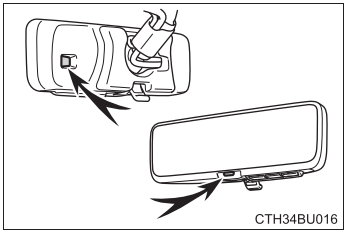
知識

■ディスプレイの調整について（デジタルミラーモード）

- 約 10 秒以上スイッチを操作しなかったときは、調整アイコンの表示が消えます。
- ディスプレイ表示の調整を行うと、映像がゆがむ場合がありますが故障ではありません。
- ディスプレイ表示が明るすぎると、目が疲れることがあります。適度な明るさに調整してください。
  目が疲れた場合には、鏡面ミラーモードに切りかえてご使用ください。
- ディスプレイ表示の明るさは、車両前方の明るさに合わせて自動でかわります。

■センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

- 走行中は、デジタルインナーミラーの位置やディスプレイに表示される映像を調整しないでください。
  デジタルインナーミラーの操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 必ず車両周辺の状況を直接確認してください。

デジタルミラーモード使用時は、ディスプレイ上に映る車両や障害物が実際の大きさと異なる場合があります。後退時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。また、夜間など暗いところで後続車が接近したときは、周囲が暗く映る場合があります。

お手入れについて

■ デジタルインナーミラーのお手入れについて

ミラー表面が汚れていると、映像が見えにくくなることがあります。あらかじめ、乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。

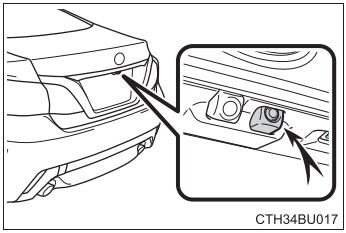
■ カメラのお手入れについて

カメラに水滴、雪、泥などの異物や汚れが付着していると、鮮明な画像を見ることができません。この場合、大量の水でカメラの汚れを流し、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってください。

知識

■カメラについて

デジタルインナーミラーのカメラは、図の位置にあります。



⚠注意

■デジタルインナーミラーの故障や誤作動を防ぐために

ミラー本体の取り外し・分解・改造はしないでください。

■カメラの故障や誤作動を防ぐために

●デジタルインナーミラーが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。

・カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
・カメラ部は取りはずし・分解・改造をしないでください。
・カメラレンズを洗うときは、大量の水でカメラの汚れを流した後、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってください。
カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷付いて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。
・カメラのカバーは樹脂ですので、有機溶剤・ボディワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
・寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
・洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

故障とお考えになる前に

デジタルミラーモード使用時に下記のような症状で気になったりお困りになった時は、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。

処置をしても直らないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像が見にくい	ミラー表面が汚れている	乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。
	強い光（太陽やヘッドランプの光など）がデジタルインナーミラーにあたった	鏡面ミラーモードに切りかえてください。 （ムーンルーフ★からの光があたっているときは、サンシェードを閉めてください）
	・夜間など暗いところで使用した ・テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くで使用した ・カメラ付近の温度が高い、または低い ・外気温が低い ・雨天時など湿度が高い ・太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズにあたった ・蛍光灯、ナトリウム灯、水銀灯などの照明の下で使用した ・排気ガスが映り込んでいる	鏡面ミラーモードに切りかえてください。 （カメラおよびその周辺環境が改善されてから、再びデジタルミラーモードをご使用ください）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像が見にくい	カメラのレンズに水滴、雪、泥などの異物や汚れが付着している	鏡面ミラーモードに切りかえてください。 大量の水でカメラの汚れを流した後、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってから、再びデジタルミラーモードをご使用ください。
ディスプレイに表示される映像がずれている	トランクが完全に閉まっていない	トランクを閉めてください。
	カメラ部に強い衝撃が与えられた	鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上に が表示され、ディスプレイに表示される映像が暗くなった	システムに異常が発生した	鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上の が消灯した		
ディスプレイ上に が表示された	デジタルインナーミラーの温度が非常に高い （徐々にディスプレイが暗くなり、その後も温度が上がり続けると映像が消えます）	ミラーの温度を下げるために、車室内の温度を下げることを推奨します。 （ミラーの温度が下がると が消えます） ミラーの温度が下がっても が消えない場合は、鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
切りかえレバーが正常に作動しない	切りかえレバーに異常が発生した	鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。 （メニュー／決定スイッチを約 10 秒間押し続けることで、鏡面ミラーモードに切りかえることができます）

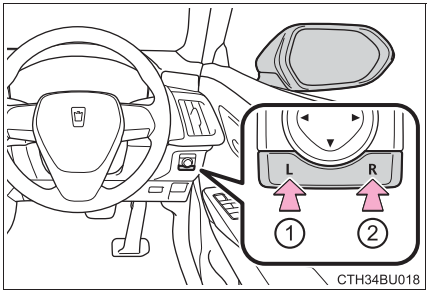
ドアミラー

調整のしかた

1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

① 左

② 右



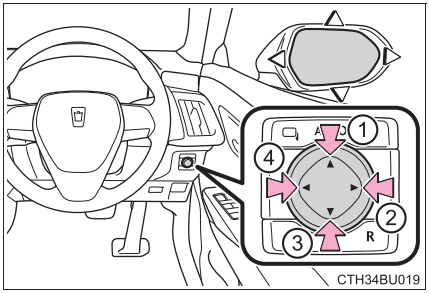
2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す

① 上

② 右

③ 下

④ 左



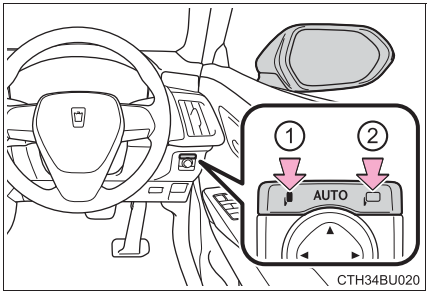
ドアミラーを格納する

スイッチを押す

① 格納する

② もとの位置にもどす

スイッチを中立の位置（AUTO）にすると自動モードに切りかわり、ドアの解錠・施錠と連動します。



リバース連動機能について★

ミラー選択スイッチのLまたはRどちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。
この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチを中立の位置（L・Rともに選択していない状態）にしてください。

■ 後退時に下向きになる角度を調整するときは

シフトレバーをRに入れた状態で、鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。
次回からシフトレバーをRにするたびに、その角度で作動します。

通常時（シフトレバーがR以外のとき）の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。
通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

知識

■鏡面調整の作動条件

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモードのとき

■ミラーが曇ったとき

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→P. 442）

■ミラー角度の自動調整★

お好みのミラー角度をマイコンプリセットドライビングポジションシステムに登録すると、自動で調整されます。（→P. 148）

■寒冷時に「AUTO」で使用するとき

寒冷時に「AUTO」で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、「マニュアル作動」で作動させるか、手で動かしてください。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→P. 602）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**走行中の留意事項**

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ミラーの調整をしない

●ドアミラーを格納したまま走行しない

●走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■**ミラーが動いているとき**

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■**ミラーヒーターが作動しているとき**

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

パワーウインドウ

開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

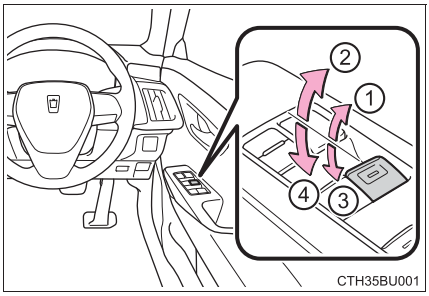
① 閉める

② 自動全閉 ※

③ 開ける

④ 自動全開 ※

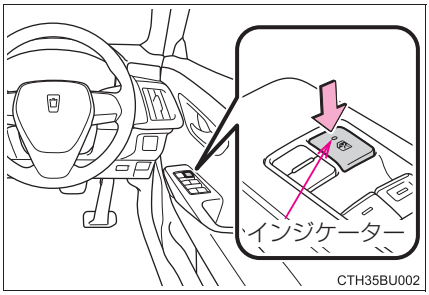
※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すとインジケーターが点灯し、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■エンジン停止後の作動

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないとき

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、エンジンスイッチをイグニッション ON モードの状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けてください。または「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

2 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする

3 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける

4 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける

5 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける

6 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

●メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※（→ P. 579）

●ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※（→ P. 122）

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。（→ P. 606）

■オートアラーム

オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→P. 66）

■バッテリーをはずしたとき

ウインドウロックスイッチが OFF になるため、バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

■窓開警告ブザー

エンジンスイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→ P. 602）

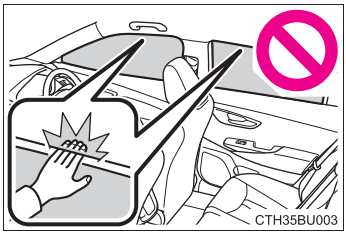
警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するとき

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→ P. 175）

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●車から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

■**挟み込み防止機能**

●挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■**巻き込み防止機能**

●巻き込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。

●巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などを巻き込まれないように注意してください。

ムーンルーフ★

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉・チルトアップ／ダウンできます。

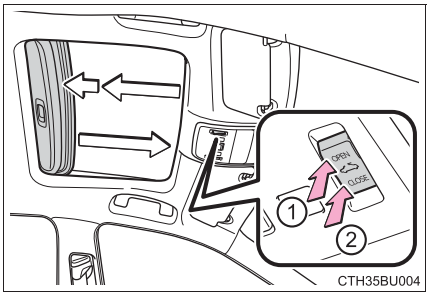
ムーンルーフを開閉する

① ムーンルーフを開く ※

全開の手前の位置で止まります（風切り音の低減機能）。
全開にしたいときは、スイッチをもう一度押してください。

② ムーンルーフを閉める ※

※ 途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。

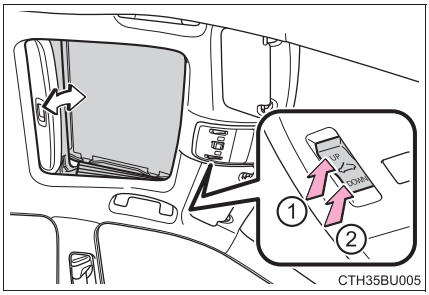


チルトアップ／ダウンする

① チルトアップ ※

② チルトダウン ※

※ 途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■エンジン停止後の作動

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間は操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■サンシェード

手動で開閉できます。また、ムーンルーフが開くと連動して開きます。

■ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能

●メカニカルキーでムーンルーフを開閉できます。※（→ P. 579）

●ワイヤレスリモコンでムーンルーフを開閉できます。※（→ P. 122）

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。（→ P. 606）

■オートアラーム

オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能でムーンルーフを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→ P. 66）

■ムーンルーフが正常に閉まらないとき

次の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2 スイッチの “CLOSE” 側を押し続ける ※1
ムーンルーフが閉じ、再び開き、10 秒間停止します。※2 その後再び閉じ、チルトアップし、1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2 スイッチの “UP” 側を押し続け※1、ムーンルーフをチルトアップ位置にする

3 スイッチから一度手を離し、再度 “UP” 側を押し続ける ※1
ムーンルーフがチルトアップの状態で 10 秒間停止し、※2 微調節後 1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

4 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※1 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

※2 10 秒間停止したあとにスイッチから手を離すと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、スイッチの “UP”、または、“CLOSE” 側を押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、1 秒間停止します。その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手を離してください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ムーンルーフ開警告ブザー

エンジンスイッチが OFF でムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
(→ P. 602)

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ムーンルーフを開けているとき

●走行中はルーフから手や顔を出さない

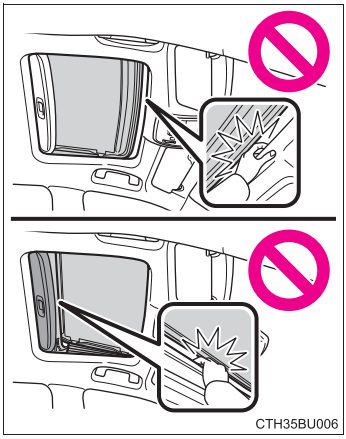
●開口部に腰かけない

■ムーンルーフを開閉するとき

●運転者は、ムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。

●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってムーンルーフを操作するときは、ムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。


CTH35BU006

●車から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

運転 4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって 184
荷物を積むときの注意..... 195

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ 196
オートマチックトランスミッション 202
方向指示レバー 209
電動パーキングブレーキ..... 210
ブレーキホールド 214

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ 217
AHS（アダプティブハイビームシステム）..... 220
AHB（オートマチックハイビーム）..... 225
フォグランプスイッチ..... 229
ワイパー & ウォッシャー..... 231

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 238

4-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense 242
PCS（プリクラッシュセーフティ）..... 248
LTA（レーントレーシングアシスト）..... 258
RSA（ロードサインアシスト）..... 270
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）.....275
先行車発進告知機能.....291
ITS Connect.....294
Stop & Start システム.....307
BSM（ブラインドスポットモニター）.....316
クリアランスソナー.....322
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）.....335
RCD（リヤカメラディテクション）.....342
PKSB（パーキングサポートブレーキ）.....346
パーキングサポートブレーキ（静止物）.....353
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）.....361
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）.....367
インテリジェントパーキングアシスト 2 371
ドライブモードセレクト 419
運転を補助する装置.....423

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転.....432

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

エンジンをかける

→ P. 196

発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→ P. 202）

2 パーキングブレーキを解除する（→ P. 210）

パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーを P 以外にしたときに、自動でパーキングブレーキが解除されます。（→ P. 210）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P にします。（→ P. 202）

駐車する

1 車を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかけて（→ P. 210）、シフトレバーを P にする（→ P. 202）

3 エンジンスイッチを押して、エンジンを停止する

4 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め ※ を使用してください。

※ 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→ P. 202）

2 パーキングブレーキスイッチを引いて、手動でパーキングブレーキをかける（→ P. 210）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏む

4 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキスイッチを押し、パーキングブレーキを解除して発進する

知識

■上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。（→ P. 424）

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■走行中のエンジン回転数について

以下の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況にあわせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

●車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき

●アクセルペダルを離したとき

●スポーツモード選択時にブレーキペダルを踏んだとき

■エンジン出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

●アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。

●ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 551）

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

●次のような通常と異なる操作が行われた場合、エンジン出力を抑制する場合があります。

・アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D、D から R、N から R、P から D、P から R）とき（D は M ポジションを含む）この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

・後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき

●ドライブスタートコントロールが作動していると、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合があります。そのようなときは、TRC の作動を停止（→ P. 425）することにより、ドライブスタートコントロールが停止し、脱出しやすくなります。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

■オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

●暑い日に長い上り坂を走行する

●高速走行直後に急減速や急停止をする

■エンジン停止前のアイドル運転について

ターボ装置などの損傷を防ぐため、高負荷走行直後は、アイドル運転を行ってからエンジンを停止してください。

走行状況	アイドル運転時間
市街地、郊外などの一般走行および高速走行（高速道路の法定または制限速度）	不要
山岳ドライブウェイなどの急な登坂路走行およびサーキットなどの連続走行	約 1 分

■環境に配慮した運転（エコドライブインジケーター）

→ P. 103

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 540を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。（→ P. 202）

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転するとき

- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。
  電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

■すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
  エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。
  オートマチックトランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。
  オートマチックトランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
  オートマチックトランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNに入れると、オートマチックトランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
  シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  シフトレバーの変更後は、メーター内のシフトポジション表示で現在のシフトポジションを必ず確認してください。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。
必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

- 空ぶかしをしないでください。
  シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
  排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P に入れ、エンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
  ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
  この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使ってしまいます。
- ブレーキシステムは２つ以上の独立したシステムで構成されており、１つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したときは

駆動輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。
駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

■運転しているとき

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーをＰにしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーをＰにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ターボ装置の故障を防ぐために

●高負荷走行直後は、エンジンを停止しないでください。必ずアイドル運転を行い、ターボ装置などを冷却してからエンジンを停止してください。
（→Ｐ. 186）

●排気管・エアクリーナ・スパークプラグなどには純正部品または同等品をお使いください。

●排気管の改造は絶対にしないでください。

●エンジンが冷えているときは、空ぶかしや急加速は絶対に行わないでください。

●定期的なオイル交換を必ず行ってください。

⚠ 注意

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 561 を参照してください。

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

●エンストする

●電装品がショートする

●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

●ブレーキの効き具合

●エンジン・オートマチックトランスミッション・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化

●プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■**積んではいけないもの**

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■**荷物を積むとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はトランクに積んでください。

●トランクに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

●次の場所には荷物を積まないでください。

・運転席足元
・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
・パッケージトレイ
・インストルメントパネル
・ダッシュボード
・ナビゲーション画面の前

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

■**荷物の重量・荷重のかけ方について**

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンのかけ方

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

3 ブレーキペダルをしっかり踏む

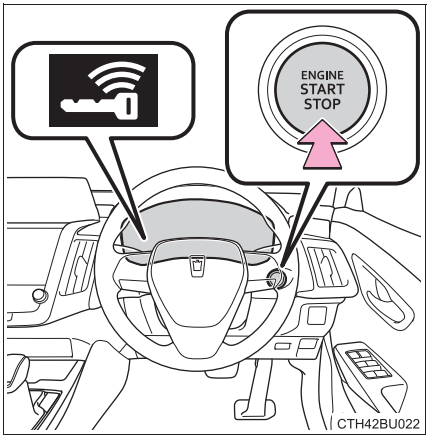
マルチインフォメーションディスプレイに とメッセージが表示されます。
表示されないと、エンジンはかかりません。

4 エンジンスイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。
エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

エンジンスイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。



エンジンの停止のしかた

1 車両を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかけて（→ P. 210）、シフトレバーを P の位置にする

3 エンジンスイッチを押す

4 ブレーキペダルから足を離してマルチインフォメーションディスプレイの「アクセサリー」や「イグニッション ON」の表示が消灯していることを確認する

エンジンスイッチの切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）。

① OFF ※

非常点滅灯が使用できます。

② アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。

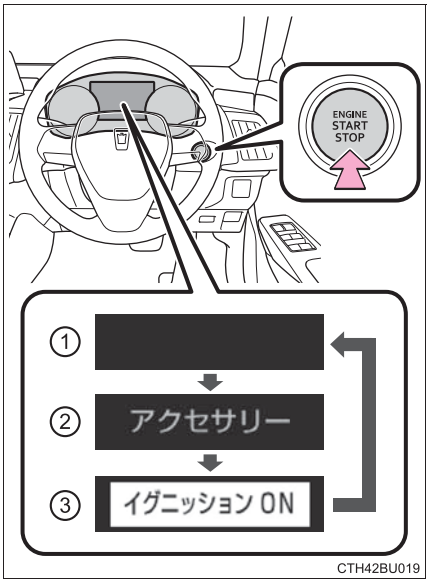
マルチインフォメーションディスプレイに「アクセサリー」が表示されます。

③ イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに「イグニッション ON」が表示されます。

※ シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。



シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したとき

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する
2. シフトレバーを P の位置にする
3. マルチインフォメーションディスプレイに「電源を Off してください」が表示されていることを確認し、エンジンスイッチを 1 回押す
4. マルチインフォメーションディスプレイの「電源を Off してください」の表示が消灯していることを確認する

知識

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、20 分以上アクセサリーモードか 1 時間以上イグニッション ON モード（エンジンがかかっていない状態）にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動で OFF になります。
ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■電子キーの電池の消耗について

→ P. 119

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 139

■ご留意いただきたいこと

→ P. 140

■エンジンが始動しないとき

●エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。
（→ P. 64）
トヨタ販売店へご連絡ください。

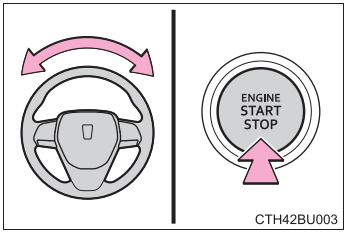
●始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

■ステアリングロックについて

エンジンスイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないとき

マルチインフォメーションディスプレイに「ハンドルを左右に回しながらエンジンスイッチを押してください」が表示されます。シフトレバーが P の位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。



■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジンの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー＆スタートシステム故障　取扱書を確認」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■電子キーの電池が切れたときは

→ P. 523

■エンジンスイッチの操作について

●スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやエンジンの始動ができない場合があります。

●エンジンスイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジンスイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは

→ P. 604

警告

■**エンジンを始動するとき**

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**走行中の警告**

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**緊急時のエンジン停止方法**

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。（→ P. 540）
ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

- 走行中にエンジンスイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。
- 走行中にエンジンを緊急停止したあと、走行中にエンジンを再始動させる場合は、シフトレバーを N にし、エンジンスイッチを押してください。停車後にエンジンを再始動させる場合は、シフトレバーを P にし、エンジンスイッチを押してください。

注意

■バッテリーあがりを防止するために

- エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。
- エンジンがかかっていないときに、マルチインフォメーションディスプレイの「アクセサリー」または「イグニッション ON」の表示が消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。
- シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチがアクセサリーモードとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因となります。

■エンジンを始動するとき

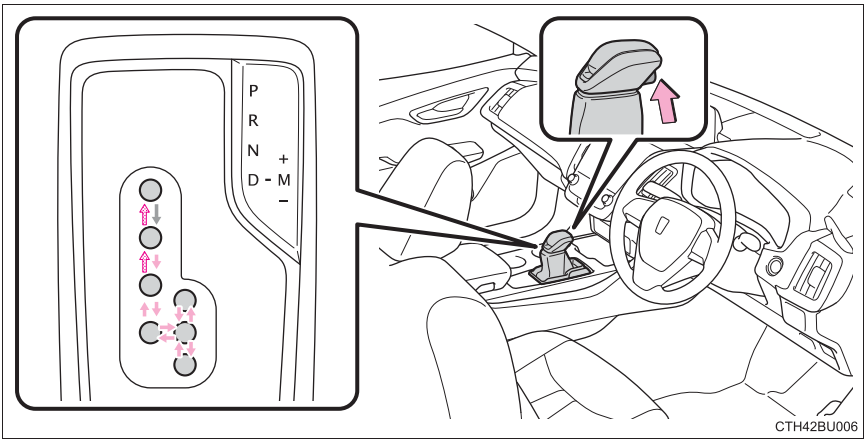
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

オートマチックトランスミッション

シフトレバーの動かし方



⬅ エンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーのボタンを押しながら操作します。※

⇦ シフトレバーのボタンを押しながら操作します。

← シフトレバーのボタンを押さずそのまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

※ シフトレバーのボタンを押す前にブレーキペダルを踏んでください。シフトレバーのボタンを始めに押してもシフトロックは解除されません。

シフトレバーの使用目的

シフトレバー	目的および状態
P	駐車またはエンジンの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※1
M	M モード走行 ※2（→ P. 205）

※1 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

※2 M モードは任意のギヤ段に固定して走行することができます。

走行モードの選択

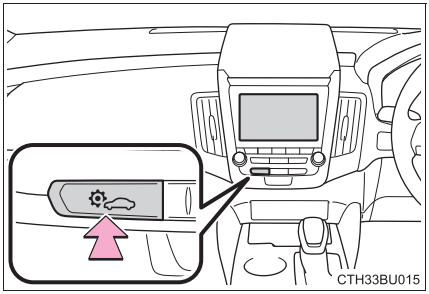
■ ドライブモード

→P. 419

■ スノーモード

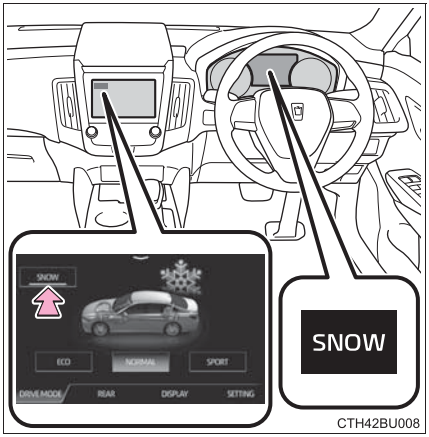
雪道など、すべりやすい路面での発進・走行するときに選択してください。

1 車両設定スイッチを押す



2 「DRIVE　MODE」を選択し、「SNOW」を選択する

通常走行モードにもどすときはもう一度「SNOW」を選択します。



イラストの意匠は装備などにより異なります。

D ポジションでのシフト選択（パドルシフトスイッチ装着車）

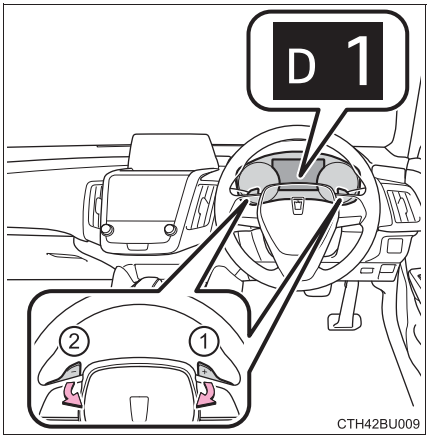
パドルシフトスイッチの “－” 側または “＋” 側を操作すると、一時的にレンジを選択する走行へ切りかわります。
パドルシフトスイッチの “－” 側を操作したとき、走行状態に適したエンジンブレーキ力を得られるレンジにダウンシフトします。パドルシフトスイッチの “＋” 側を操作したときは、現在のギヤ段より一つ上のレンジにシフトアップします。
レンジを選択することで、使用するギヤ段の上限を制限し、高速ギヤ段への不要なシフトアップを抑えたり、エンジンブレーキ力を切りかえたりすることができます。

① シフトアップ

② シフトダウン

D1 から D8 レンジのあいだで選択されているシフトレンジがメーターに表示されます。

通常走行にもどすときは、パドルシフトスイッチの “＋” 側を一定時間以上保持します。



■ シフトレンジ機能

メーター表示	機能
D2 ～ D8	スピードや走行条件に応じて、D1 レンジから選択したシフトレンジまで自動的にかわります。
D1	シフトレンジが D1 レンジに固定されます。

レンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなります。

M モードでのギヤ段選択

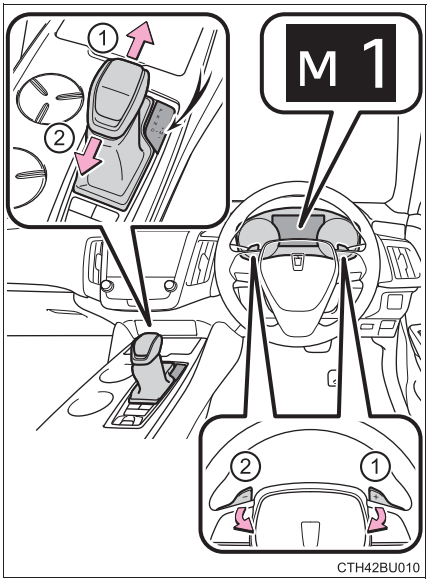
シフトレバーを M ポジションにすると、M モードに切りかわります。シフトレバーまたはパドルシフトスイッチ★の操作で思い通りのギヤ段を選択し、運転することができます。

① シフトアップ

② シフトダウン

シフトレバーまたはパドルシフトスイッチ★を操作するごとに 1 速ずつ変速します。

M1 から M8 の中で選択したギヤ段に固定され、ギヤ段がメーターに表示されます。



M ポジションでは、次の場合を除いてシフトレバーまたはパドルシフトスイッチ★を操作しない限り、変速しません。

- 車速が低下した場合（シフトダウンのみ）
- エンジン冷却水が低温のときや、オートマチックトランスミッションフルードが高温または低温のときなど、エンジンやオートマチックトランスミッションの保護が必要な場合

また、車速が低い場合はシフトアップ操作をしても変速しません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■Dポジションでパドルシフトスイッチの“－”側を操作したとき（パドルシフトスイッチ装着車）

走行状態に適したエンジンブレーキ力を得られるレンジにダウンします。

■Dポジションでのレンジ選択の自動解除（パドルシフトスイッチ装着車）

次のとき、自動的にDポジションでのレンジ選択が解除されます。

●停車したとき

●アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき

●シフトレバーをD以外にしたとき

●パドルシフトスイッチの“＋”側を長押ししたとき

■シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーまたはパドルシフトスイッチ★を操作してもシフトダウンできない場合があります（このときブザーが2回鳴ります）。

■スノーモードの自動解除

スノーモードを選択して走行後、エンジンを停止すると、自動的に通常走行モードに切りかわります。

■オートマチックトランスミッションの保護制御

オートマチックトランスミッションフルード（ATオイル）の温度が高くなると、マルチインフォメーションディスプレイに「AT オイル高温　取扱書を確認してください」が表示され、自動的に保護モードに入ります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に次の操作を行っても、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が解除されないため、エンジンブレーキは効きません。

●Dポジションでのレンジ選択走行中に7･6･5または4にレンジダウンしたとき（パドルシフトスイッチ装着車）（→P. 275）

●Dポジションで走行中に走行モードをスポーツモードにしたとき（→P. 419）

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→P. 186

■リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。エンジンスイッチがイグニッションONモードでブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押した状態でなければ、シフトレバーをPからシフトできません。

■シフトレバーをPからシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。
ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

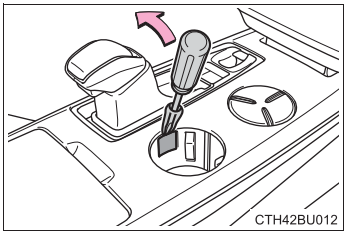
シフトロック解除のしかた：

1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにし、パーキングブレーキがかかっていることを確認する（→P. 197, 210）

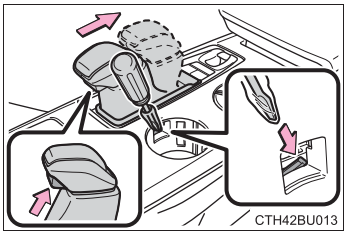
2 エンジンスイッチをOFFにする

3 ブレーキペダルを踏む

4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす
傷が付くのをふせぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



5 マイナスドライバーなどを使ってシフトロック解除ボタンを斜め後方かつ下方向に向かって押しながら、シフトレバーのボタンを押す
シフトロック解除ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



■AI-SHIFT について

●AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切なギヤ段に切りかえます。
AI-SHIFT は、シフトレバーを D ポジションにしているとき自動的に作動します（シフトレバーを M ポジションにすると機能が解除されます）。

●G AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的にスポーツ走行に適切なギヤ段に切りかえます。
G AI-SHIFT は、シフトレバーを D ポジションでドライブモードセレクトをスポーツモードにしているとき自動的に作動します（ドライブモードセレクトをノーマルモードにするか、シフトレバーを M ポジションにすると機能が解除されます）。

●NAVI・AI-SHIFT：
ナビゲーションシステムの機能を利用した、高度な自動変速制御の機能です。使用方法は別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。
誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。

① 左折

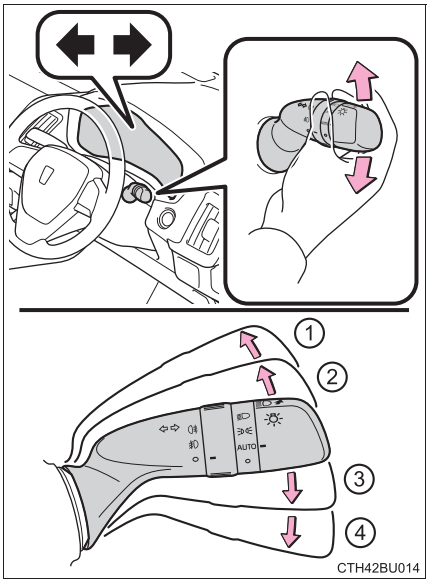
② 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

③ 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

④ 右折



知識

■**作動条件**

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■**表示灯の点滅が異常に速くなったとき**

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

電動パーキングブレーキ

お好みに応じて次のモードから選択することができます。

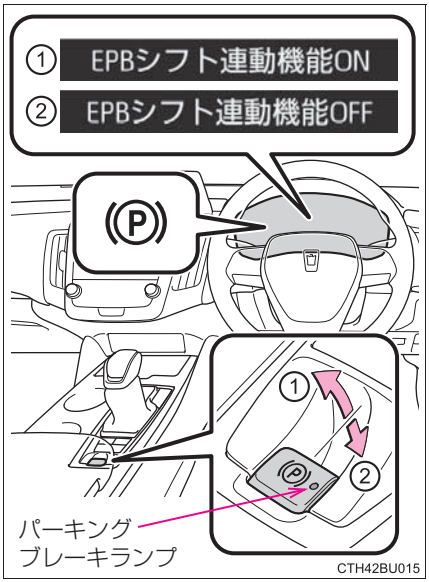
オートモード

シフトレバーの操作に応じて、パーキングブレーキが自動で作動します。オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。（→ P. 211）

① オートモードを ON にする（停車中に「EPB シフト連動機能 ON」が マルチインフォメーションディスプレイに表示されるまでスイッチを引き続ける）

P から P 以外にしたとき：
パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが消灯します。

P 以外から P にしたとき：
パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点灯します。
シフトレバーは、ブレーキペダルを踏みながら操作してください。



② オートモードを OFF にする（停車中に「EPB シフト連動機能 OFF」が マルチインフォメーションディスプレイに表示されるまでスイッチを押し続ける）

ブレーキペダルを踏みながら操作してください。

マニュアルモード

手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

① パーキングブレーキをかける

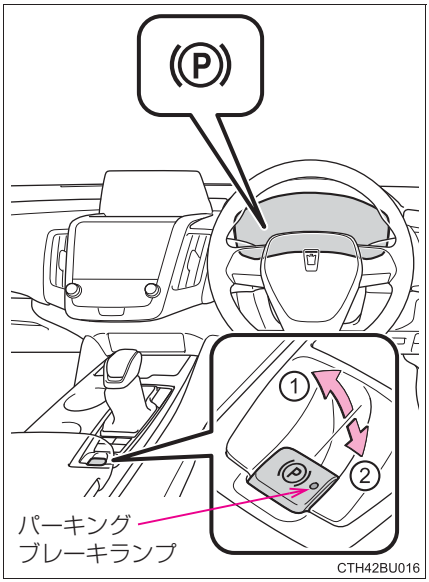
パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを引き続けてください。

② パーキングブレーキを解除する

パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが消灯します。

ブレーキペダルを踏みながら操作してください。



パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点滅した場合は、再度スイッチを操作してください。（→ P. 554）

知識

■パーキングブレーキの作動

●エンジンスイッチがイグニッションONモード以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。

●エンジンスイッチがイグニッションONモード以外では、オートモードによる作動（かける・解除する）はできません。

■自動解除機能

アクセルペダルをゆっくりと踏むとパーキングブレーキが自動で解除されます。
次の条件をすべて満たすと自動解除機能が作動します。

●運転席ドアが閉じている

●運転席シートベルトを着用している

●シフトレバーが前進もしくは後退の位置にある

●エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している

アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが解除しない場合は、手動で解除してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「EPB が連続で操作されました　しばらくお待ちください」が表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「EPB 動作が途中で停止しました」または 「EPB 現在使用できません 」が表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作してもメッセージが消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。
ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ ウィーン ” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプについて

●パーキングブレーキをかけたとき、エンジンスイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点灯します。
イグニッション ON モード：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
イグニッション ON モード以外：約 15 秒間点灯します。

●パーキングブレーキをかけた状態でエンジンスイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■駐車するとき

→P. 184

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「EPB がロックされています」が表示されます。

■警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ブレーキ警告灯が点灯したときは

→P. 550

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→P. 433

警告

■駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パーキングブレーキスイッチについて

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。
ものとスイッチが干渉して、思わぬパーキングブレーキの作動につながるおそれがあります。

注意

■駐車するとき

車から離れるときは、シフトレバーを P にし、パーキングブレーキをかけて、車が動かないことを確認してください。

■システムに異常が発生したら

安全な場所に車を停め、警告表示を確認してください。

■故障などでかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

ブレーキホールド

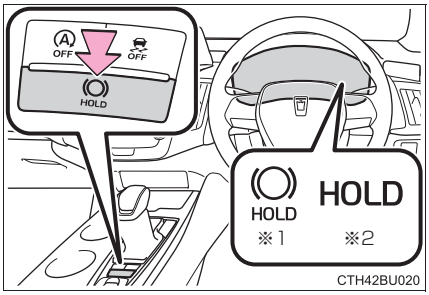
シフトレバーが D・M または N でブレーキホールドシステムが ON のとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトレバーが D または M のとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムを ON にする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯（黄）が点灯します。

※1 ブレーキホールドスタンバイ表示灯

※2 ブレーキホールド作動表示灯



知識

■システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムを ON できません。

●運転席ドアが閉まっていない

●運転席シートベルトを着用していない

ブレーキホールドシステムが ON のときに上記いずれかを検出したときは、システムが OFF になり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ブレーキ保持について

●ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約3分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●急坂路ではブレーキ保持できないことがあり、その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

●ブレーキ保持中にシステムをOFFするときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、もう一度スイッチを押してください。

■ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

●運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む

●ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する

操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。（→ P. 554）

■マルチインフォメーションディスプレイに「BrakeHold 故障」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■トヨタ販売店で点検が必要なとき

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

→ P. 554

警告

■**急坂路では**

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

■**すべりやすい路面では**

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

注意

■**駐車するとき**

ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にエンジンスイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。エンジンスイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

操作のしかた

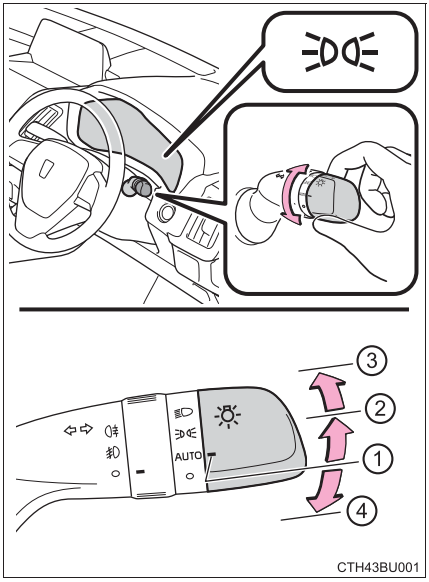
次のように スイッチを操作すると、ランプが点灯します。

① AUTO ヘッドランプ・LED デイライト★（→ P. 218）・車幅灯などを自動点灯・消灯
（エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき）

② 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを点灯

③ 上記ランプとヘッドランプを点灯

④ 消灯



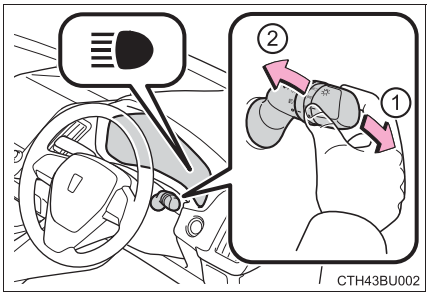
ハイビームにする

① ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

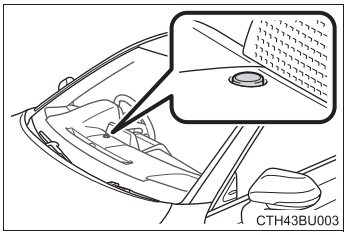
知識

■LED デイライト★

日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、エンジン始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを AUTO にすると LED デイライトが自動で点灯します（車幅灯より明るく点灯します）。
LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

■ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にして運転席ドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ランプスイッチを AUTO または ○（消灯）にもどし、再度 ≣D⇐ または ≣D の位置にします。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能

日中での走行時、ランプスイッチが AUTO でワイパーを作動してしばらくすると、自車が他車から見やすくなるようにヘッドランプが自動点灯します。※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチがアクセサリーモードまたは OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

エンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると、節電機能は解除されます。

次のいずれかを行った場合、節電機能は一旦解除され、再度節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

・ランプスイッチを操作したとき
・ドアまたはトランクを開閉したとき

■おもてなし照明★

ランプスイッチが AUTO の位置で車両周辺が暗いとき、スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠すると、車幅灯が自動で点灯します。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→ P. 602）

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

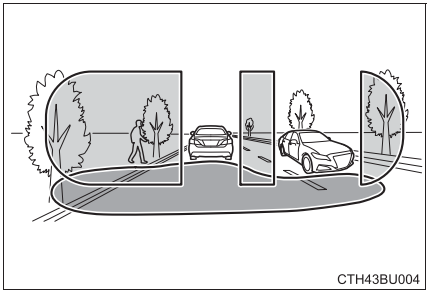
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

AHS（アダプティブハイビームシステム）★

アダプティブハイビームシステムは、フロントウインドウガラス上部に設置されたカメラセンサーにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、ヘッドランプの配光を制御します。

- 車速に応じて、ハイビームの明るさと照らす範囲を調整します。
- カーブを走行しているとき、進行方向側をハイビームでより明るく照らします。
- 前方車両の周辺を遮光したハイビームを点灯します（遮光ハイビーム）。

  前方車両へのまぶしさを緩和しつつ、前方視界の確保を補助します。


CTH43BU004

- 先行車との距離に応じて、ロービームの照らす範囲を調整します。

警告

■**安全にお使いいただくために**

アダプティブハイビームシステムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

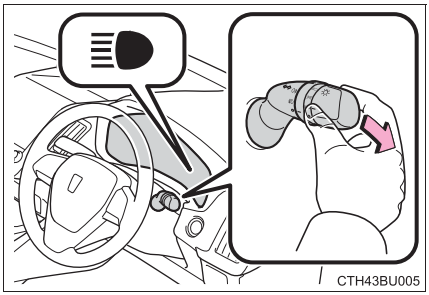
■**アダプティブハイビームシステムの誤作動を防ぐために**

荷物を積み過ぎないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

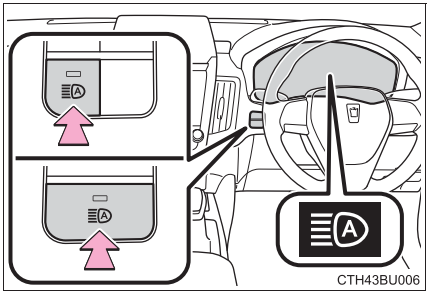
アダプティブハイビームシステムの使い方

1 ランプスイッチを **AUTO** または にし、レバーを前方へ押す



2 アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

アダプティブハイビームシステムが作動すると、アダプティブハイビームシステム表示灯が点灯します。



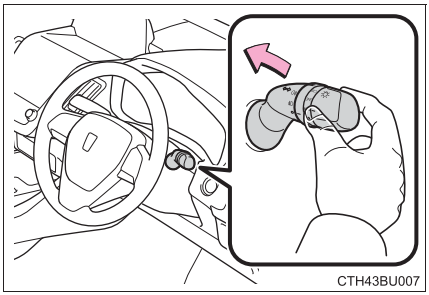
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

アダプティブハイビームシステム表示灯が消灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度レバーを前方に押します。

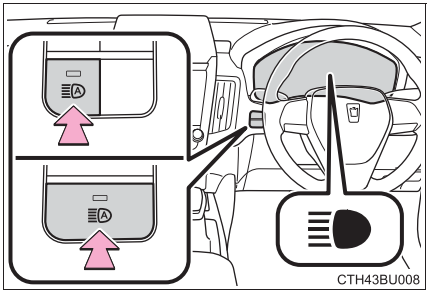


■ ハイビームへの切りかえ

アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

アダプティブハイビームシステム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度スイッチを押します。



知識

■ヘッドランプ配光の自動切りかえ条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯し、システムが作動します。

・車速が約 15km/h 以上 ※
・車両前方が暗い

※ 車速が約 30km/h 以上になると、カーブ走行時に進行方向側を明るく照らします。

●次の条件をすべて満たすと、前方車両の位置に応じて遮光ハイビームに切りかわり、ロービームの照らす範囲を調整します。

・車速が約 15km/h 以上
・車両前方が暗い
・前方にランプを点灯した車両がいる

●次の条件のいずれかのとき、ロービームに切りかわります。

・車速が約 10km/h 以下
・車両前方が明るい
・前方車両の台数が多い
・前方車両の動きが速く、その車両にまぶしさを与える可能性がある

■カメラセンサーの検知について

●次の状況では、ハイビームが自動で遮光ハイビームに切りかわらない場合があります。

・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が無灯火のとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合や切りかわらない場合、または遮光範囲が変化する場合があります。

●次の原因により、遮光範囲の追従速度やロービームへの切りかえのタイミングが変化する場合があります。

・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ヘッドランプの配光制御が運転者の感覚に合わない場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・カメラセンサーが変形しているときや、汚れているとき
・カメラセンサーが極端に高温になっているとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・先行車から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

●ランプスイッチが ○ または ≡DC の位置のとき、およびロービーム点灯中にアダプティブハイビームスイッチを押すと、マルチインフォメーションディスプレイに「AHS はハイビーム点灯が必要です」が表示されます。

■**カスタマイズ機能**

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→ P. 602）

AHB（オートマチックハイビーム）★

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置されたカメラセンサーにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

警告

■**安全にお使いいただくために**

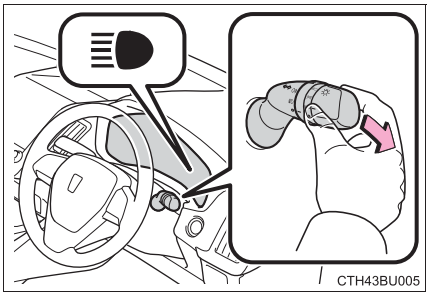
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■**オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために**

荷物を積み過ぎないでください。

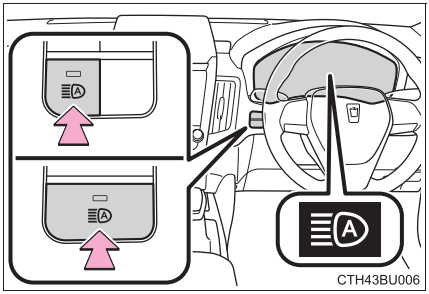
オートマチックハイビームの使い方

1 ランプスイッチを **AUTO** または にし、レバーを前方へ押す



2 オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

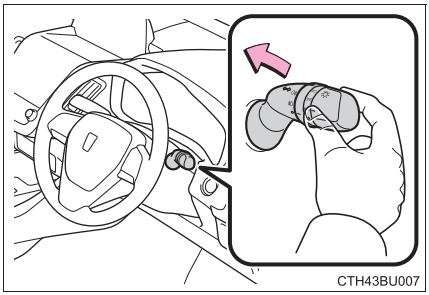
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーを前方に押します。

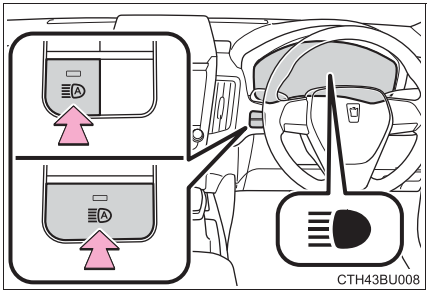


■ ハイビームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度スイッチを押します。



知識

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

・車速が約 30km/h 以上
・車両前方が暗い
・前方にランプを点灯した車両がいない
・前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

●次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

・車速が約 25km/h 以下
・車両前方が明るい
・前方車両がランプを点灯している
・前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■カメラセンサーの検知について

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。

・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が無灯火のとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームからロービームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。

・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・カメラセンサーが変形しているときや、汚れているとき
・カメラセンサーが極端に高温になっているとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・先行車から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

●ランプスイッチが ○ または ≡DC の位置のとき、およびロービーム点灯中にオートマチックハイビームスイッチを押すと、マルチインフォメーションディスプレイに「AHB はハイビーム点灯が必要です」が表示されます。

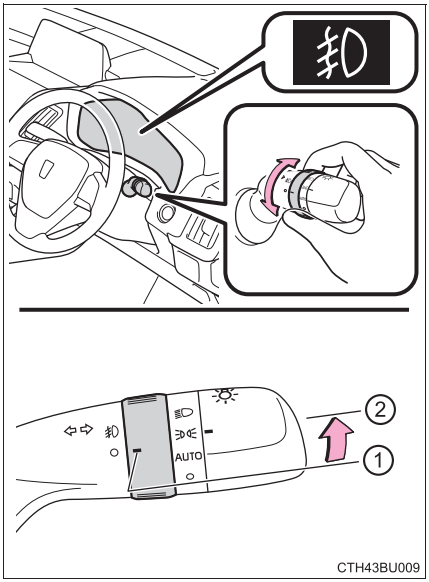
フォグランプスイッチ

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

▶ フロントフォグランプスイッチ装着車

① 消灯する

② 点灯する



▶ フロント＆リヤフォグランプスイッチ装着車

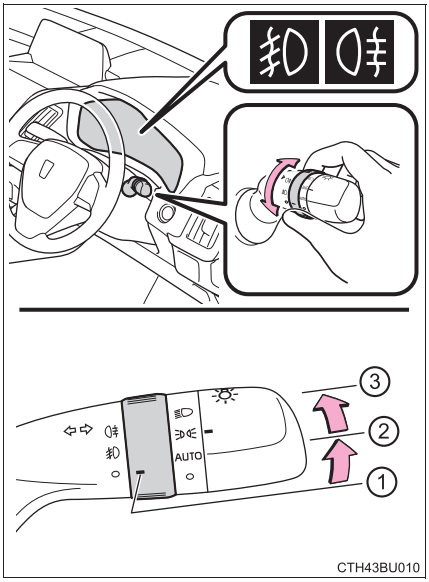
① 消灯する

② フロントフォグランプを点灯する

③ フロント＆リヤフォグランプを点灯する

手を離すと の位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。



知識

■点灯条件

フロントフォグランプ：
ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。
リヤフォグランプ★：
リヤフォグランプは、フロントフォグランプが点灯しているときのみ使用できます。

■リヤフォグランプ★について

●リヤフォグランプが点灯しているときは、マルチインフォメーションディスプレイ内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨や霧、雪などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイパー & ウォッシャー

操作のしかた

次のように レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

▶ 間欠時間調整式ワイパー

① 停止

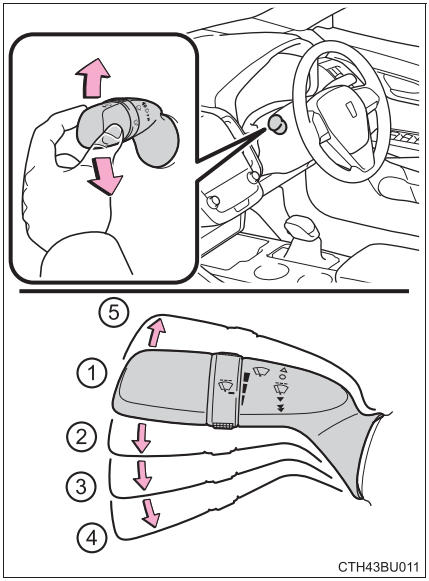
② 間欠作動

車速が高くなると、作動頻度が増えます。

③ ▼ 低速作動

④ ▼▼ 高速作動

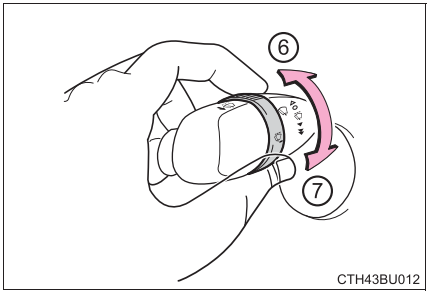
⑤ △ 一時作動



間欠作動を選択しているとき、間欠時間を調整することができます。

⑥ 間欠ワイパーの作動頻度（増）

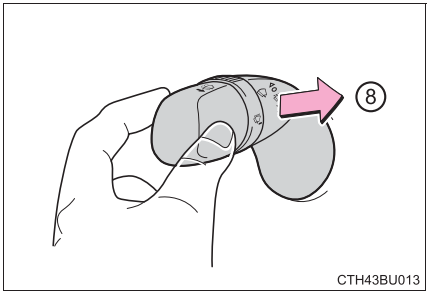
⑦ 間欠ワイパーの作動頻度（減）



⑧ ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します（数回作動したあと、液だれ防止としてさらにもう 1 回作動します。ただし、走行中は液だれ防止作動は行いません）。

ヘッドランプクリーナー装着車：
エンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態でヘッドランプが点灯しているとき、5 回手前に引くごとにヘッドランプクリーナーが作動します。



▶ 雨滴感知式ワイパー

① ○ 停止

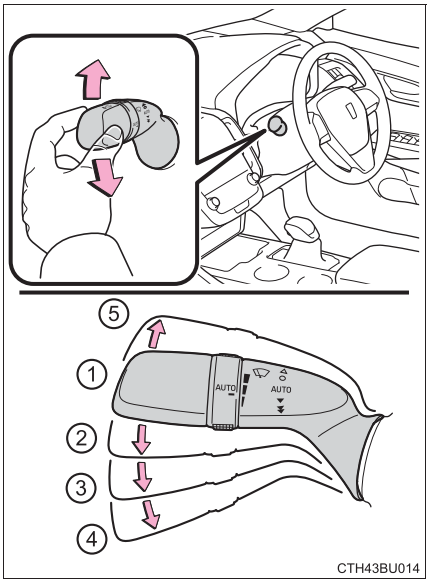
② AUTO AUTO モード

③ ▼ 低速作動

④ ▼▼ 高速作動

⑤ △ 一時作動

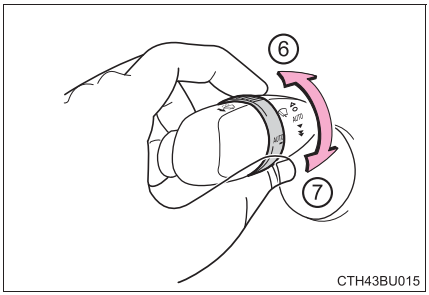
AUTO を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。



AUTO が選択されているときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。

⑥ 雨滴センサーの感度調整（高）

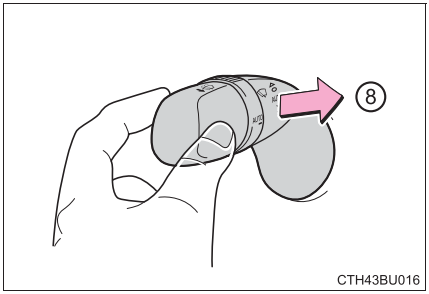
⑦ 雨滴センサーの感度調整（低）



⑧ ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します（数回作動したあと、液だれ防止としてさらにもう 1 回作動します。ただし、走行中は液だれ防止作動は行いません）。

ヘッドランプクリーナー装着車：
エンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態でヘッドランプが点灯しているとき、5 回手前に引くごとにヘッドランプクリーナーが作動します。



知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■液だれ防止作動

ウォッシャー液を噴射するとワイパーが数回作動し、その後、液だれ防止のためにさらに 1 回作動します。
ただし、走行中は液だれ防止作動は働きません。

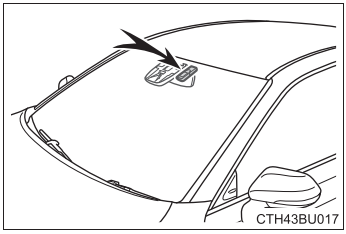
■車速による作動への影響

- 車速によってワイパー作動の間欠時間への影響があります。
- 低速作動選択時は停車時のみ間欠作動へ切りかわります。
（雨滴センサーの感度調整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます）

■雨滴感知センサー★

●雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。

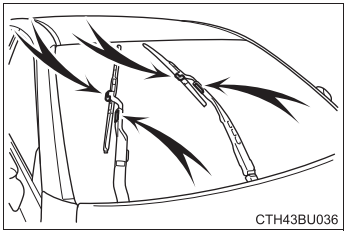


●エンジンスイッチがイグニッションONモードのときにAUTOモードにすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。

●雨滴感知センサーの温度が85℃以上または－ 15℃以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。



■ドア開連動ワイパー停止機能

AUTO 選択中、シフトレバーが P の位置にある状態でワイパーが作動しているときにフロントドアを開けると、ワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。フロントドアを閉めると作動を再開します。

■走行中にエンジンを緊急停止したときは

エンジンを停止したときにワイパーが作動していた場合は、高速作動でワイパーの作動が継続します。車両停止後にエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると通常作動を再開し、運転席ドアを開けるとワイパーの作動を停止します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**AUTO モード時のワイパー作動について**

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが動くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■**ウォッシャー使用時の警告**

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**フロントウインドウガラスが乾いているとき**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■**ウォッシャー液が出ないとき**

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■**ノズルがつまったとき**

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■**ワイパーアームを立てるとき**

ワイパーを積雪時の停止位置に切りかえてから立ててください。（→ P. 236）
停止位置を切りかえずに立てると、ワイパーアームとボンネットが干渉し、傷が付くおそれがあります。

■**雨滴感知センサー**

フロントウインドウガラスに撥水コーティングを行うと雨滴感知センサーが雨滴量を正確に感知できず、オート作動が正常に作動しないことがあります。

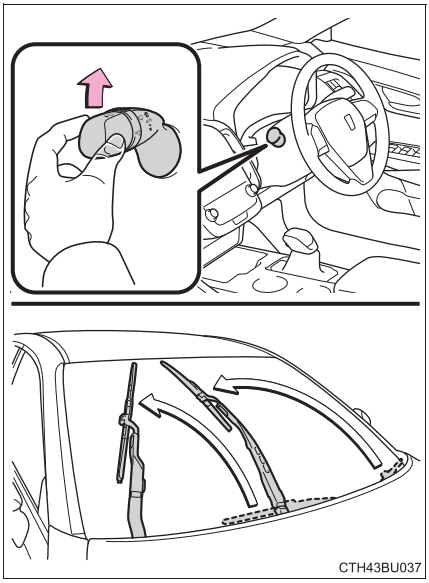
ワイパーの停止位置切りかえ／ワイパーの立て方

ワイパーは使用していないとき、ボンネット下に格納されています。
寒冷時やワイパーゴムを交換するときは、ワイパーの停止位置を格納位置からサービスポジションに切りかえた上でワイパーを立ててください。

■ サービスポジションへ切りかえる

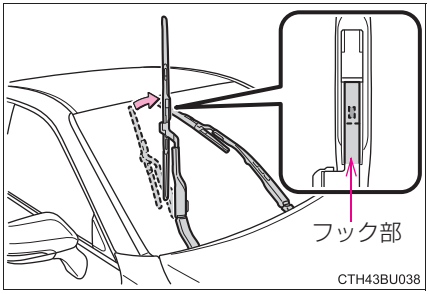
エンジンスイッチを OFF にしたあと約 45 秒以内に、ワイパースイッチを △ の位置で約 2 秒以上保持する

ワイパーがサービスポジションに移動します。



■ ワイパーを立てる

ワイパーアームのフック部を持ってガラス面から引き上げる



知識

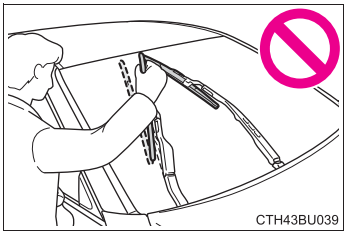
■ワイパーを格納位置にもどすには

ワイパーを倒した状態でエンジンスイッチをイグニッション ON モードにし、いずれかのワイパー操作をしてください。作動後は格納位置で停止します。

注意

■ワイパーを立てるときは

- ワイパーがボンネット下の格納位置にあるとき、ワイパーを立てないでください。この位置でワイパーを立てるとボンネットに干渉し、傷が付くおそれがあります。
- ワイパーブレードのみを持ってワイパーを立てないでください。ブレードが変形するおそれがあります。



- ワイパーを立てた状態でワイパーを作動させないでください。ワイパーがボンネットに干渉し、傷が付くおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類

●無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）

●バイオ混合ガソリン（プレミアム）

■バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

警告

■**給油するときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

●キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

●気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しないでください。

●給油口にノズルを確実に挿入してください。

●継ぎ足し給油をしないでください。

●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

⚠注意

■給油するとき

●燃料をこぼさないでください。塗装が損傷するおそれがあります。

●他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用しないでください。次のような状態になるおそれがあります。

・ガソリンエンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
・ガソリンエンジンの出力が低下する
・ガソリンエンジンの始動性が悪くなる
・排気制御システムが正常に機能しない
・燃料計部品が損傷する

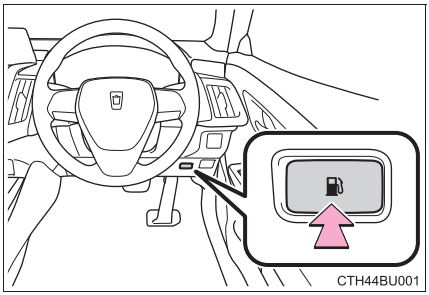
※ エタノール混合率 10%をこえるもの、または ETBE 混合率 22%をこえるもの

●無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）が入手できないときは無鉛レギュラーガソリンを使用することもできます。ただし、次のような状態になるおそれがあります。

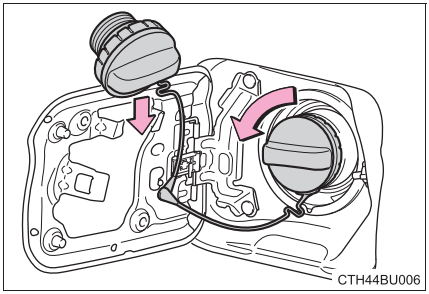
・ガソリンエンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
・ガソリンエンジンの出力が低下する

給油口の開け方

1 給油口オープナーを押して、給油口を開ける



2 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む

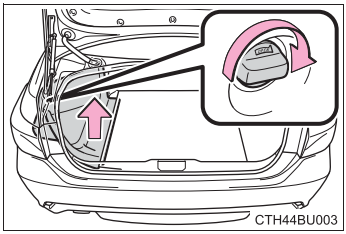


知識

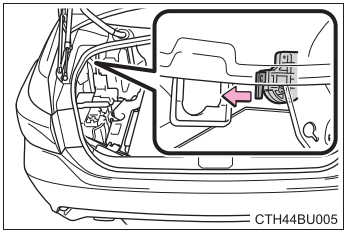
■給油口が開かないとき

給油口オープナースイッチを押しても給油口が開かないときは、以下の手順で給油口を開けることができます。

1 トランク内のカバーを取りはずす


CTH44BU003

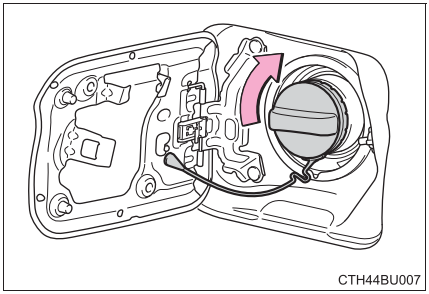
2 レバーを引く


CTH44BU005

給油口の閉め方

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。


CTH44BU007

警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。
正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

運転支援装置

◆ PCS（プリクラッシュセーフティ）

→ P. 248

◆ LTA（レーントレーシングアシスト）

→ P. 258

◆ AHS（アダプティブハイビームシステム）★

→ P. 220

◆ AHB（オートマチックハイビーム）★

→ P. 225

◆ RSA （ロードサインアシスト）

→ P. 270

◆ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

→ P. 275

◆ 先行車発進告知機能

→ P. 291

警告

■Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。
本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

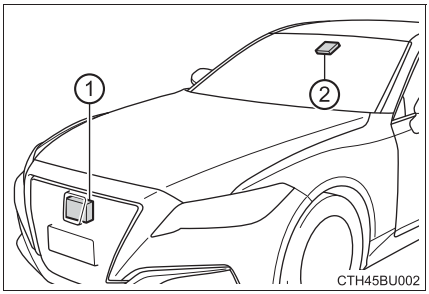
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。

① レーダー

② 前方カメラ

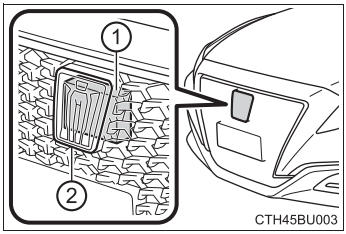


警告

■**レーダーの故障や誤作動を防ぐために**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく



① レーダー

② レーダー専用カバー

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

●レーダー周辺への強い衝撃を避ける
レーダー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

●レーダーを分解しない

●レーダーやレーダー専用カバーを改造したり、塗装したりしない

●次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

・レーダー・フロントグリルを脱着や交換したとき
・フロントバンパーを交換したとき

警告

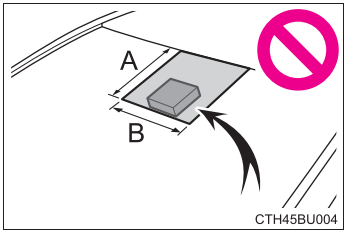
■**前方カメラの故障や誤作動を防ぐために**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

・フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
・フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
・フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない
A：フロントウインドウガラス上端から前方カメラ下端より下約 1cm まで
B：約 20cm（前方カメラ中心から左右約 10cm）



●前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→ P. 442）

●前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する

●フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない

●フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

●前方カメラに液体をかけない

●前方カメラに強い光を照射しない

警告

- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
  フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
  レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
  詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

知識

■レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

■マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

●次の状況が改善されると警告メッセージが消え、作動可能状態になります。
対処を行っても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

状況	対処法
前方センサー周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき	・汚れや付着物を取り除く ・前方カメラ周辺の汚れや付着物の場合は、ワイパーやエアコンの機能などを使用する （フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→P. 442）
炎天下や極寒の環境など、前方カメラ周囲の温度などが作動条件外のとき	炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります。
	極寒での駐車時など、前方カメラが低温のときは、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる
ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方カメラ前部にステッカーが貼り付けられているときなど、前方カメラの前方がさえぎられているとき	ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、前方カメラの視界がさえぎられないようにする

●次のときは周囲の環境が前方センサーの作動可能状態になれば警告メッセージが消えます。
周囲の環境が改善されたり、しばらく走行したりしても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・炎天下や極寒の環境など、レーダー周囲の温度などが作動条件外のとき
・暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できないとき

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→ P. 248）を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON/OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→ P. 251）

システムの作動対象

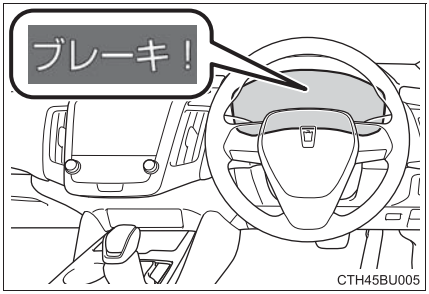
システムは次のものを作動対象として検出しています。

- 車両
- 自転車運転者
- 歩行者

機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ･･･”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

■ サスペンションコントロール

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、AVS（→ P. 424）によってショックアブソーバーの減衰力を制御することで、安定した車両姿勢の維持に寄与します。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
  プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
  次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
  - 衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→ P. 253
  - システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→ P. 255
- お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。対象（マネキンや段ボールで作動対象を模したものなど）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■プリクラッシュブレーキについて

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約2秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。
- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。
- プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

警告

■**プリクラッシュセーフティを OFF にするとき**

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引されるとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、エンジンを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- メーカー指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

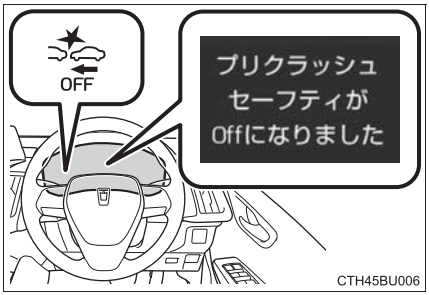
プリクラッシュセーフティの設定変更

■ プリクラッシュセーフティの ON/OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの⚙（→ P. 89）から、プリクラッシュセーフティの ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。

エンジンスイッチがイグニッション ON モードになるとシステムは ON になります。

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



■ 衝突警報の作動タイミングを変更する

マルチインフォメーションディスプレイの⚙（→ P. 89）から、衝突警報の作動タイミングを変更することができます。

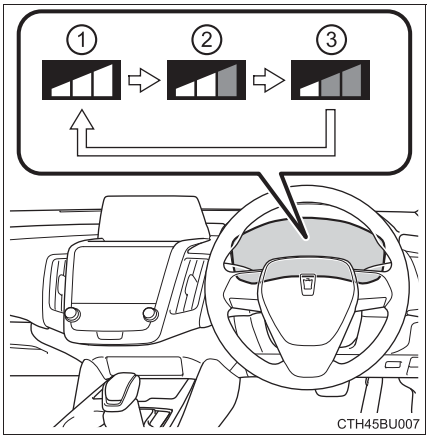
変更した作動タイミングはエンジンスイッチを OFF にしても継続しますが、プリクラッシュセーフティを OFF から ON の状態にすると「中間」に戻ります。

① 早い

② 中間

初期設定

③ 遅い



知識

■システムの作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。
各機能の作動速度は次のとおりです。

●衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

●プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h

●プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

ただし、次のときシステムは作動しません。

●バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

●シフトレバーが R のとき

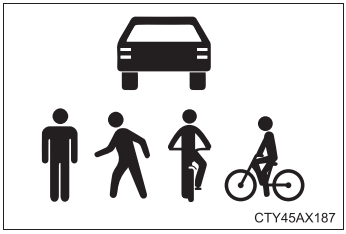
●VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

■作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。

周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。（→ P. 255）

図は作動対象として検出する対象のイメージです。



■プリクラッシュブレーキの作動解除

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

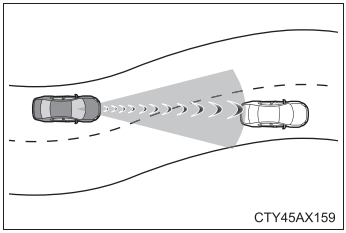
●アクセルペダルを強く踏み込む

●ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

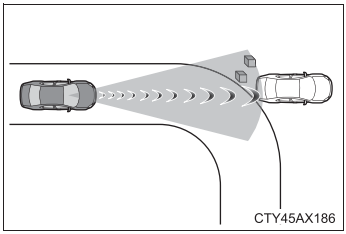
■衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

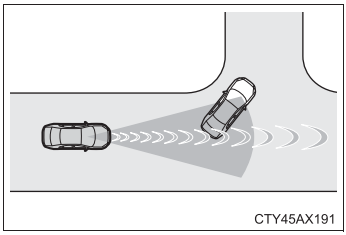
・作動対象などのすぐそばを通過するとき
・車線を変更して作動対象などを追いこすとき
・進路変更時や曲がりくねった道を走行時など、自車前方の隣車線や路側に作動対象が存在するとき


CTY45AX159

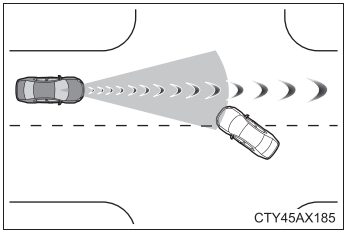
・作動対象などに急接近したとき
・道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近付いたとき
・カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき


CTY45AX186

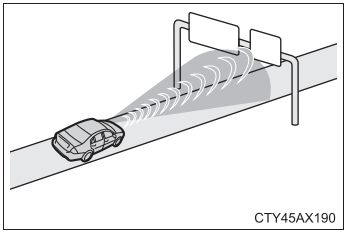
・自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
・自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
・車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき


CTY45AX191

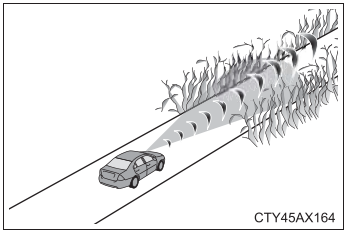
・右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



・作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
・路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
・構造物に囲まれた道（トンネルや鉄橋など）を走行するとき
・自車の前方に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき
・道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき



・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
・洗車機を使用するとき
・自車に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき

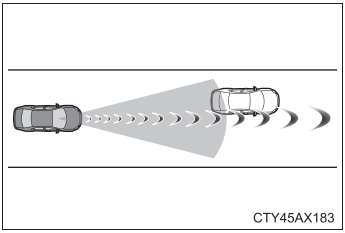


・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
・電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
・テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

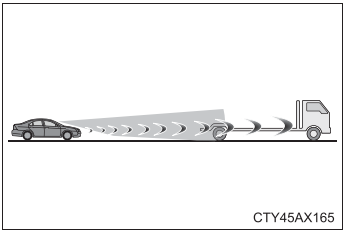
■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

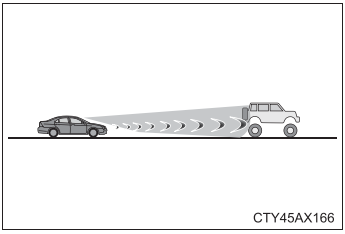
・自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
・自車や作動対象がふらついているとき
・作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
・作動対象に急接近したとき
・作動対象が自車の中心軸からずれているとき


CTY45AX183

・作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
・上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
・作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
・作動対象が複数重なっているとき
・作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
・作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
・作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
・作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
・自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
・自車の正面方向から強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラにあたっているとき
・横向き、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
・前方車両がオートバイのとき
・前方車両の全幅が狭いとき（超小型モビリティなど）
・前方車両の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
・前方車両の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）

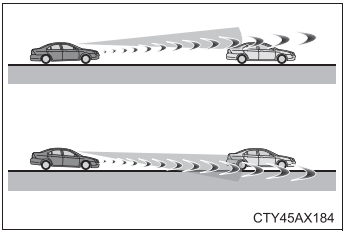

CTY45AX165

・前方車両の最低地上高が極端に高いとき



・前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
・前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
・子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2　人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
・歩行者・自転車運転者の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
・歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
・歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
・歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
・歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
・悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
・周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
・周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
・エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
・右左折中および右左折後の数秒間
・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
・自車が横すべりしているとき

・車両姿勢が変化しているとき



・ホイールアライメントがずれているとき
・ワイパーブレードが前方カメラの視界をさえぎっているとき
・過度な高速走行をしているとき
・坂道を走行しているとき
・前方センサーの向きがずれているとき

●例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。

・ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
・車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
・砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき

■VSC を停止したとき

●VSC の作動を停止（→ P. 426）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。

●PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「VSC が Off のためプリクラッシュブレーキも停止します」が表示されます。

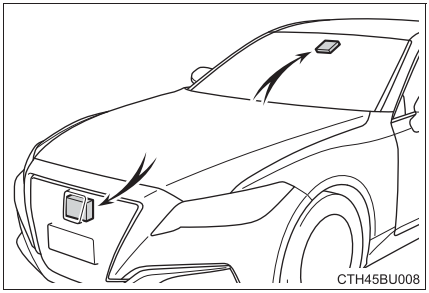
LTA（レーントレーシングアシスト）

機能概要

白（黄）線が整備された高速道路または自動車専用道路を走行中、車線または走路※からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路※からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。また、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）の作動中は、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します。

白（黄）線または走路※を前方カメラで認識します。また、先行車を前方カメラやレーダーで認識します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



⚠警告

■LTA をお使いになる前に

●LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

●適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●LTA を使用しないときは、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。

■LTA を使用してはいけない状況

次の状況では、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき

●雪道を走行しているとき

●水たまりや雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき

●工事によって規制された車線・仮設の車線を走行しているとき

●工事区間を走行しているとき

警告

- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 高速道路または自動車専用道以外の車線を走行しているとき
- 車両けん引時

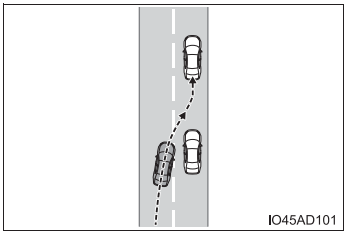
■LTA の故障、または誤作動を防ぐために

- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。
- フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

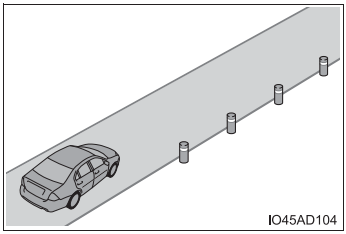
- 先行車追従表示中（→ P. 265）に、先行車が車線変更したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）



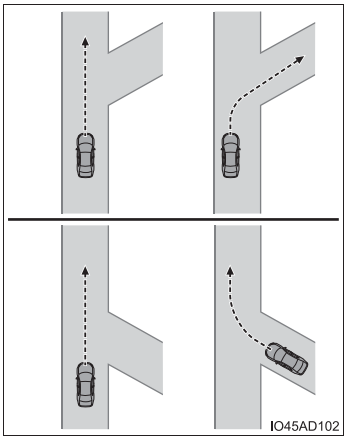
- 先行車追従表示中（→ P. 265）に、先行車がふらついたとき（先行車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 先行車追従表示中（→ P. 265）に、先行車が車線から逸脱したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）
- 先行車追従表示中（→ P. 265）に、先行車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 急カーブを走行しているとき

警告

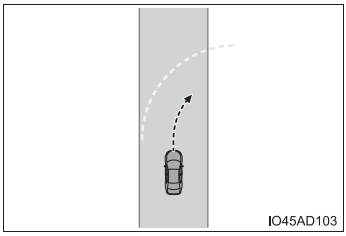
●路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・反射ポールなど）



●分岐・合流路などを走行するとき



●道路の修復で、アスファルト修復後や白（黄）線の跡が残っているとき



●白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき

●料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき

●白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋲）や置き石などがあるとき

●白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき

●雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき

●車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）

●白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき

警告

- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- アスファルトと草・土・縁石等の境界が不明瞭または直線的でないとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などが前方カメラに入射しているとき
- 坂道を走行しているとき
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 横風を受けているとき
- 周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき
- 冬用タイヤなどを装着しているとき
- 過度な高速走行をしているとき

LTA に含まれる機能

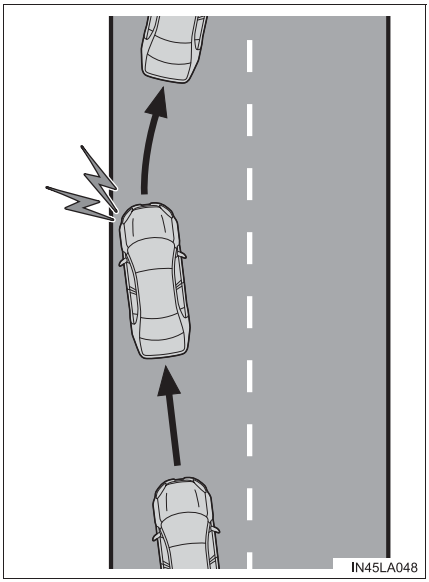
■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路 ※ から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーにより注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったときは、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線または走路※内の中央付近にもどってください。

BSM 装着車：車線逸脱により、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、方向指示灯の点滅中も車線逸脱警報機能が作動します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



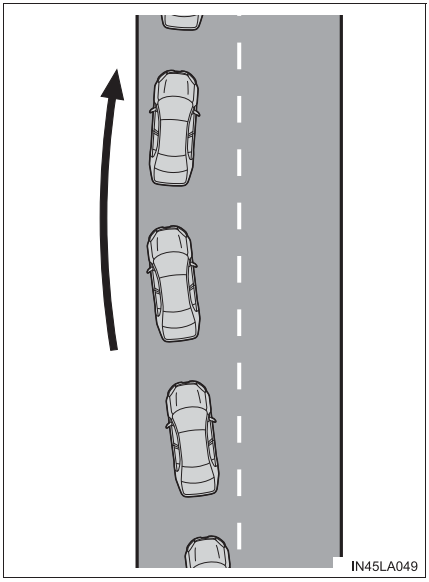
■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路 ※ から逸脱する可能性がある場合に、短時間、小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

一定時間ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、マルチインフォメーションディスプレイの表示により注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。

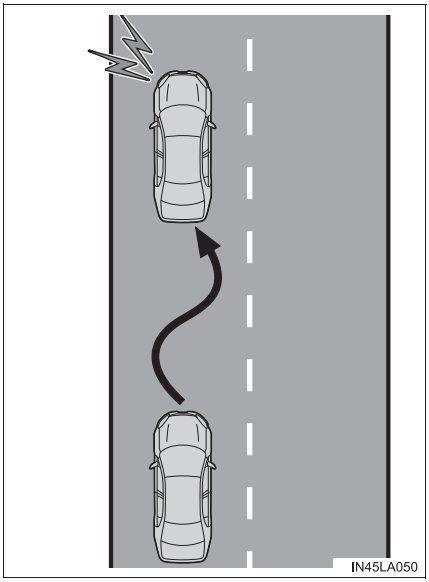
BSM 装着車：車線逸脱により、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、方向指示灯の点滅中も車線逸脱抑制機能が作動します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



■ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているときに、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。



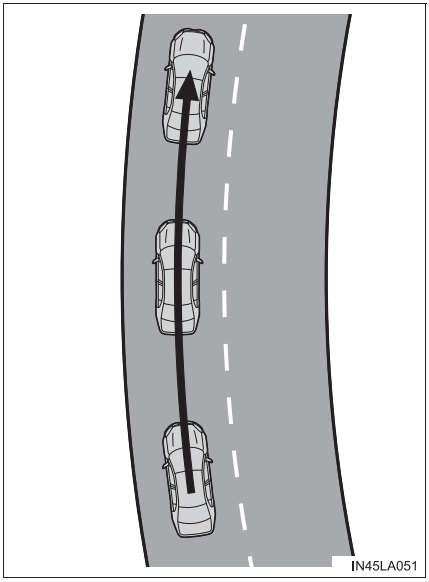
■ 車線維持支援機能

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）と連携し、現在の車線内を走行するために必要なハンドル操作の一部を、システムが支援します。

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していないときは、車線維持支援機能は作動しません。

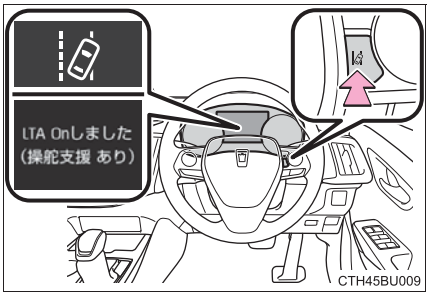
渋滞のときなど白（黄）線が見えにくい、または見えない場合、先行車の軌跡を利用して先行車に追従する支援を行います。

一定時間ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、マルチインフォメーションディスプレイの表示により注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。



設定のしかた

LTA を ON にするには LTA スイッチを押す

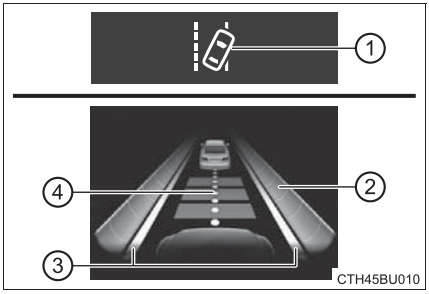


LTA 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF にするには、再度スイッチを押します。

いったん LTA を ON/OFF すると、次回エンジンを始動したときにも、そのままの状態が続きます。

マルチインフォメーションディスプレイ表示



① LTA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

白色に点灯：車線逸脱監視中

緑色に点灯：車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

橙色に点滅：車線逸脱警報中

② ハンドル操舵支援の作動表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援システム情報に切りかえると表示されます。

車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中であることを示しています。

両側点灯：車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

片側点灯：車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援が作動中

両側点滅：車線維持支援機能の注意喚起が作動中

③ 車線逸脱警報機能表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援システム情報に切りかえると表示されます。

▶ 白線表示の内側が白いとき

システムが白（黄）線または走路※を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

▶ 白線表示の内側が黒いとき

システムが白（黄）線または走路※を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

④ 先行車追従表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援システム情報に切りかえると表示されます。

車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中（先行車に追従中）であることを示しています。

先行車の動きに合わせて自車も同じ動きをする場合があります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

知識

■各機能の作動条件

●車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・LTA を ON にしているとき
・車速が約 50km/h 以上のとき ※1
・システムが白（黄）線または走路 ※2 を認識しているとき（白［黄］線または走路 ※2 が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
・車線の幅が約 3m 以上のとき
・方向指示レバーを操作していないとき（BSM 装着車：方向指示灯方向に車両がいる場合は除く）
・急カーブを走行していないとき
・システムの異常が検知されていないとき（→ P. 269）

※1 車線維持支援機能が作動中は約 50km/h 以下でも作動します。

※2 アスファルトと草・土・縁石等の境界

●車線逸脱抑制機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・マルチインフォメーションディスプレイの⚙で「操舵支援」を「ON」に設定しているとき（→ P. 89）
・一定以上の加減速がないとき
・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
・ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
・TRC または VSC を OFF にしていないとき
・手放し運転に対する注意喚起（→ P. 268）が行われていないとき

●ふらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・マルチインフォメーションディスプレイの⚙で「ふらつき検知」を「ON」に設定しているとき（→ P. 89）
・車速が約 50km/h 以上のとき
・車線の幅が約 3m 以上のとき
・システムの異常が検知されていないとき（→ P. 269）

●車線維持支援機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・LTA を ON にしているとき
・マルチインフォメーションディスプレイの⚙で「操舵支援」を「ON」かつ「センタートレース制御」を「ON」に設定しているとき（→ P. 89）
・システムが白（黄）線を認識しているとき、または先行車の軌跡を認識しているとき（先行車が二輪車の場合を除く）
・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が車間制御モードで作動しているとき
・車線の幅が約 3 ～ 4m のとき
・方向指示レバーを操作していないとき
・急カーブを走行していないとき
・システムの異常が検知されていないとき（→ P. 269）
・一定以上の加減速がないとき
・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
・ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
・TRC または VSC を OFF にしていないとき
・手放し運転に対する注意喚起（→ P. 268）が行われていないとき
・車線中央付近を走行しているとき
・車線逸脱抑制機能が作動していないとき

■機能の一時解除

●作動条件（→ P. 266）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

●車線維持支援機能作動中に、作動条件（→ P. 267）が満たされなくなった場合、“ピピッ” とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

■車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能について

●車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能が作動しなかったりすることがあります。

●これらの各機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

●車線逸脱抑制機能の作動テストを行わないでください。

■車線逸脱警報機能について

●外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。

●走路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報・制御が作動しない場合があります。

●BSM 装着車：となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性を判断できない場合があります。

●車線逸脱警報機能の作動テストを行わないでください。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

CTH45BU013

●システムの作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

●カーブを走行中に曲がりきれず車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断したとき

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。また、システムがカーブを走行中と判断した場合は、直線走行時に比べて早いタイミングで注意喚起が行われます。

●車線逸脱抑制機能による車線逸脱を避けるためのハンドル操舵支援中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに、操作しない状態が続きハンドル操舵支援が行われると、ブザーが鳴り注意喚起が行われます。ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、ブザーの継続時間が長くなります。

■ふらつき警報機能について

システムの作動中に、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したとき、ブザーと同時にマルチインフォメーションディスプレイに休憩をうながすメッセージと図で示すシンボルで注意喚起を行います。

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

CTH45BU014

■警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、LTA 表示灯が橙色で点灯した場合は、対処方法に従って適切に対処してください。また、その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

●「LTA 故障販売店で点検してください」

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

●「LTA 現在利用できません」

前方カメラ以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止しています。いったん LTA を OFF にして、しばらくしてから再度、LTA を ON にしてください。

●「LTA 現在の車速では使用できません」

車速が LTA の作動可能範囲をこえたため、使用できません。車速を落として走行してください。

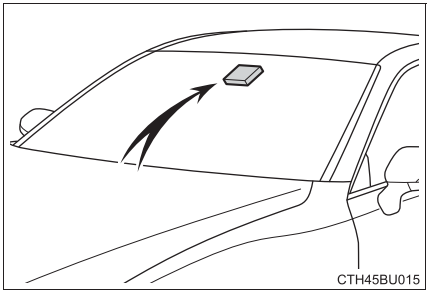
■カスタマイズ機能

機能の設定を変更することができます。
(→ P. 89)

RSA（ロードサインアシスト）

機能概要

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）を使って特定の道路標識を認識し、ディスプレイ表示によって道路標識の情報を運転者にお知らせします。



認識した道路標識の制限速度に対し、運転者が制限速度を超過して走行、または禁止行為を行っている等とシステムが判断した場合に、告知表示およびブザー音で運転者に告知します。

警告

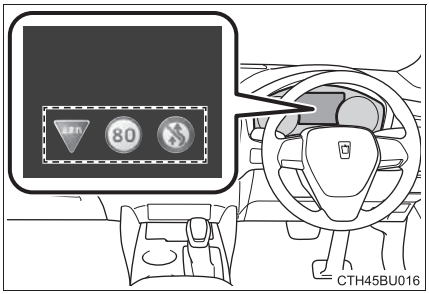
■RSA をお使いになる前に

RSA は、道路標識の情報を知らせることで運転者を支援しますが、運転者自身の確認や認識を代行するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

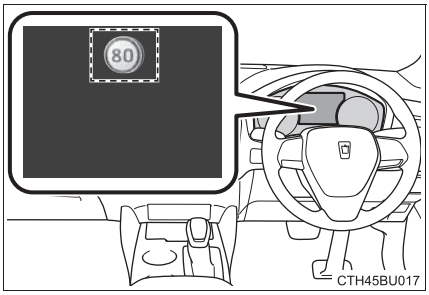
マルチインフォメーションディスプレイ表示

前方カメラによって標識を認識すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示します。

● 運転支援システム情報を選択したときは、最大3つの標識を表示できます。（→P. 83）



● 運転支援システム情報以外を選択したときは、次のいずれかの標識が表示されます。
・最高速度標識
・車両進入禁止標識（告知時のみ）



速度制限標識以外を認識した場合、速度標識の重複表示にてお知らせします。

認識される道路標識の種類

電光標識も含めて、次の種類の道路標識を認識します。

ただし、規定外の標識、新しく導入された標識は認識されない場合があります。

最高速度

はみ出し通行禁止

車両進入禁止

※

終わり

一時停止

※ マルチインフォメーションディスプレイに、表示されません。

告知機能

次の状況では、システムが告知表示で運転者に告知します。

- 自車の車速がマルチインフォメーションディスプレイに表示されている制限速度より、一定の速度を超過すると、最高速度標識の強調やブザーの吹鳴をします。
- システムが進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したと判定したときには、マルチインフォメーションディスプレイに表示される車両進入禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。
- はみ出し通行禁止標識がマルチインフォメーションディスプレイに表示されているときに、自車の追い越しを検出すると、はみ出し通行禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。

状況によっては、告知表示が正常に作動しない場合があります。

知識

■設定のしかた

→ P. 89

■RSA 標識表示

次の状況では、最高速度・はみ出し通行禁止・車両進入禁止の標識表示が消えます。

- 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
- 終わり標識の下に対象標識を認識したとき

次の状況では、一時停止の標識表示が消えます。

- 標識を通過したとシステムが判定したとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- 前方カメラやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 汚れ・雪・ステッカー等がフロントウインドウの前方カメラの近くにあるとき
- 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- 強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラに直接あたっているとき
- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- 電光標識のコントラストが低いとき
- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき
- 運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき
- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき
- システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき
- 側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき
- ロータリー（環状交差路）を走行しているとき
- 重い荷物を積むなど車両が傾いているとき
- 十分な光がなかったり、明るさが急激に変化したりしたとき
- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき

●ナビゲーションシステムの地図情報が古いとき

●ナビゲーションシステムを利用できないとき

●マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります。

■速度制限標識表示

マルチインフォメーションディスプレイに最高速度標識が表示されているときに、エンジンスイッチを OFF にすると、次回エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたときには再度同じ標識が表示されます。

■マルチインフォメーションディスプレイに「RSA　故障販売店で点検してください」が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。（→P. 89）

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

機能概要

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行い、自動的に加速・減速・停止をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。

通信利用型レーダークルーズコントロールは ITS Connect を装備している車両のみ使用できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

- 車間制御モード（→ P. 278）
- 定速制御モード（→ P. 283）
- 通信利用型レーダークルーズコントロール（ITS Connect 装着車）（→ P. 284）

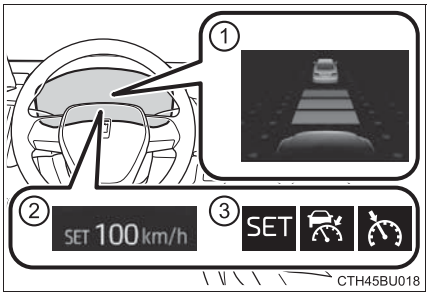
システムの構成部品

■ メーター表示

① マルチインフォメーションディスプレイ

② 設定速度

③ 表示灯



■ 操作スイッチ

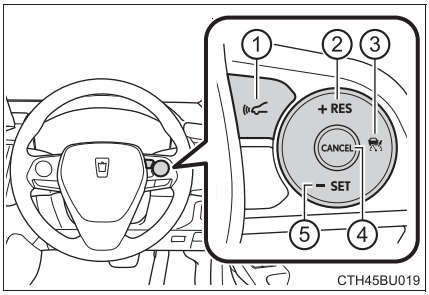
① 車間距離切りかえスイッチ

② “＋ RES” スイッチ

③ クルーズコントロールメインスイッチ

④ キャンセルスイッチ

⑤ “－ SET” スイッチ



警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車：→P. 289
・ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況：→P. 290

●設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は運転者が行う必要があります。

●システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使わないときはクルーズコントロールメインスイッチでシステムを OFF にしてください。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

警告

■**レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用してはいけない状況**

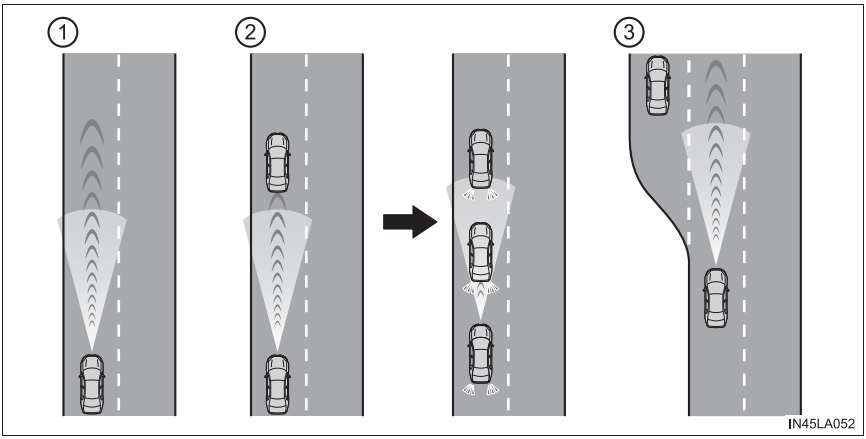
次の状況では、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
  急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- レーダー前面または、前方カメラ前面に雨滴や雪などが付着しているとき
- ひんぱんに加速・減速をくり返すような交通状況のとき
- 車両けん引時
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーにより車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短くなることがあります。



① 定速走行：
先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

② 減速走行 ― 追従走行：
設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、“＋RES” スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

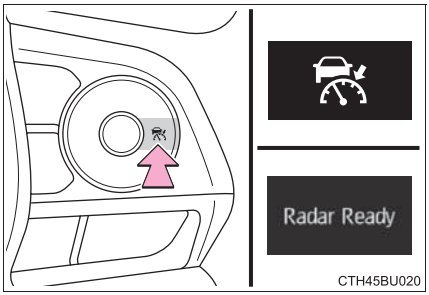
約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

③ 加速走行：
設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

速度を設定する（車間制御モード）

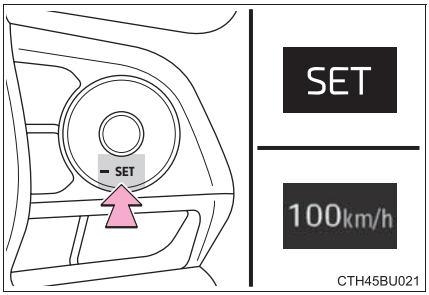
1 クルーズコントロールメインスイッチを押して、システムをONにする



レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。OFF にするには再度スイッチを押します。

クルーズコントロールメインスイッチを 1.5 秒以上押し続けると定速制御モードでシステムが ON します。
（→ P. 283）

2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、“－ SET” スイッチを押して速度を設定する



クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

スイッチを離したときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる

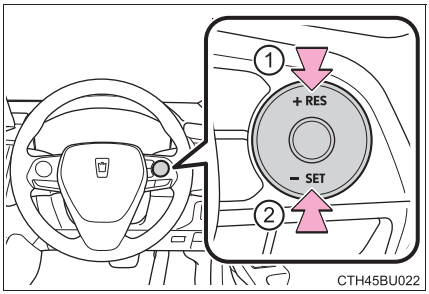
設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで “＋RES” スイッチまたは “－SET” スイッチを押します。

① 速度を上げる
（車間制御モードの制御停車中は除く）

② 速度を下げる

微調整：スイッチを押す

大幅調整：スイッチを押し続けて速度をかえ、希望の速度で手を離す



車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ、5km/h ずつ

定速制御モード（→ P. 283）では、設定速度は、次のとおりに増減されます

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ連続して変化

車間距離を変更する（車間制御モード）

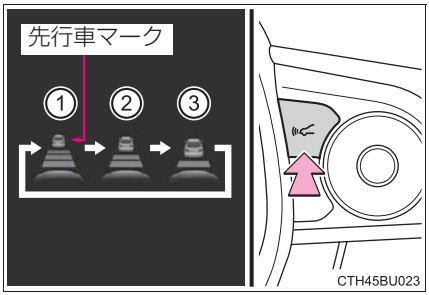
スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

① 長い

② 中間

③ 短い

エンジンスイッチをイグニッションON モードにするたびに車間距離は①にもどります。



先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

車間距離選択の目安（車間制御モード）

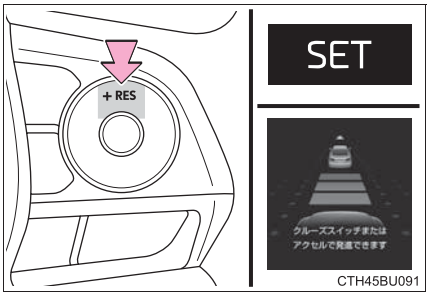
次の目安を参考に車間距離を選択してください。
（車速 80km/h で走行している場合）
なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

制御停車から追従走行に復帰させる（車間制御モード）

先行車の発進後、“＋ RES” スイッチを押す

先行車の発進後にアクセルペダルを踏んでも追従走行に復帰します。

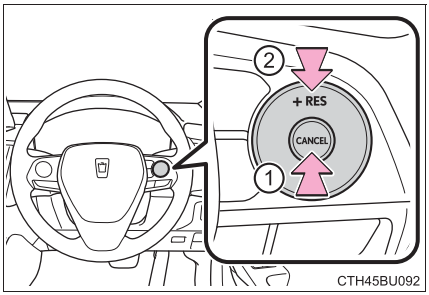


制御を解除する・復帰させる

① 制御を解除するには、キャンセルスイッチを押す

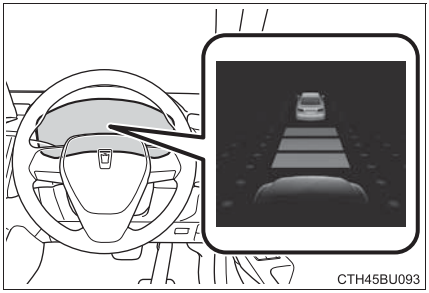
ブレーキペダルを踏んだときも解除されます（車間制御モードの制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）。

② 制御を復帰させるには、“＋RES”スイッチを押す



接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



■ 警報されないとき

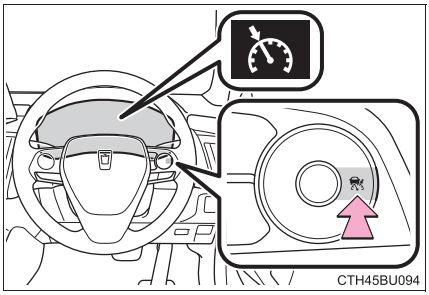
車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。レーダーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

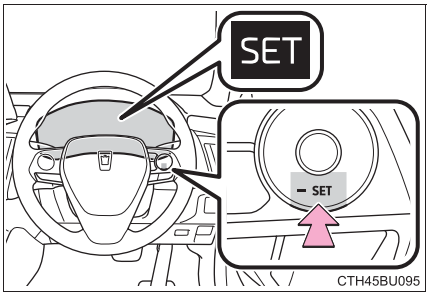
1 クルーズコントロールが OFF の状態で、クルーズコントロールメインスイッチを 1.5 秒以上押し続ける



クルーズコントロールメインスイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、クルーズコントロール表示灯に切りかわります。

システムが OFF の状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切りかえが可能です。

2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、“－ SET” スイッチを押して速度を設定する



クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

スイッチを離したときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる
→ P. 280

制御を解除する・復帰させる
→ P. 282

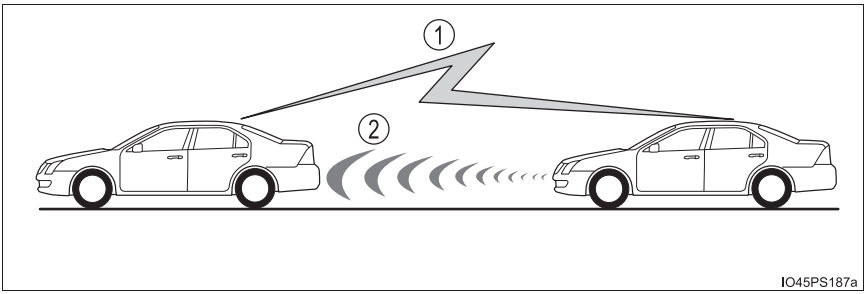
通信利用型レーダークルーズコントロール（ITS Connect 装着車）

通信利用型レーダークルーズコントロールは、ITS Connect が装着されている車両のみ利用できます。

ITS Connect については P. 294 を参照してください。

このシステムは車間制御モードでの追従走行中、先行車も通信利用型レーダークルーズコントロールに対応している場合に自動的に作動します。

■ 情報取得



① 先行車との通信

加減速情報などを取得します。

② ミリ波レーダー

車間距離情報などを取得します。

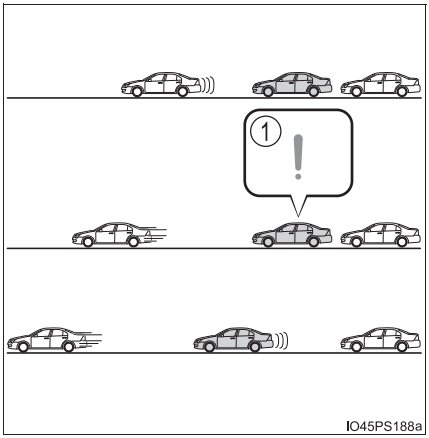
■ システム作動について

先行車の加減速の情報を通信で取得することにより、先行車の加減速に素早く追従して車間距離や速度の変動を抑制し、スムーズな追従走行に寄与します。また、先行車が認識できなくなった場合は自動的に車間制御モードに切りかわります。

車間制御モードに比べて次のような作動になります。

● 車間制御モード

① 先行車の発進に遅れて気づく

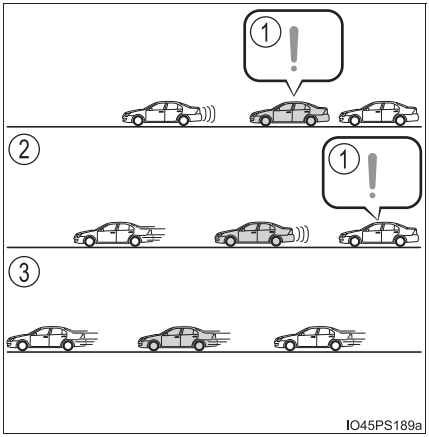


● 通信利用型レーダークルーズコントロール

① 先行車の発進に素早く気づく

② スムーズな加速で追従

③ 短時間で渋滞解消



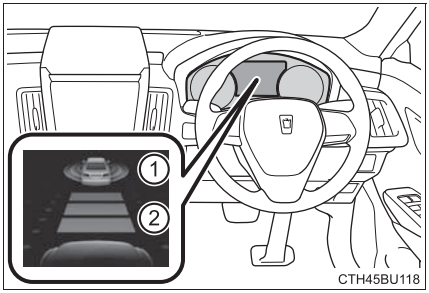
■ 通信利用型レーダークルーズコントロールの ON/OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの⚙画面（→ P. 89）から、通信利用型クルーズコントロールの ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。

■ システム作動時の表示

① 先行車通信マーク

② 車間距離表示



■ 通信利用型レーダークルーズコントロールの作動目安

レーダークルーズコントロールの車間距離設定に応じて、本機能の作動レベルがかわります。（→ P. 281）

車間距離設定	作動目安
長い	ゆったりとした加減速による追従走行
中間	中間の追従走行
短い	きびきびとした加減速による追従走行

知識

■設定条件について

●シフトレバーが D のとき設定できます。

●Dポジションでレンジ選択をしている場合、レンジが4以上のとき設定できます（パドルシフトスイッチ装着車）。

●車速が約 30km/h 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。
（ただし車速が約 30km/h 未満で設定したときは、設定速度が約 30km/h に設定されます）

■車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■追従走行中の停車制御について

●制御停車中に “＋RES” スイッチを押した場合、約３秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。

●先行車に続いて停車したあと約3秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

●VSC が作動したとき

●TRC が一定時間作動したとき

●TRC または VSC を OFF にしたとき

●走行モードをスノーモードにセットしたとき

●センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき

●プリクラッシュブレーキが作動したとき

●パーキングブレーキが作動したとき

●急坂路で制御停車したとき

●制御停車中に次を検出したとき

・運転席シートベルトを着用していない
・運転席ドアが開いた
・車両が停止したあと約 3 分経過した

上記以外の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

●設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき

●車速が約 30km/h 未満になったとき

●VSC が作動したとき

●TRC が一定時間作動したとき

●TRC または VSC を OFF にしたとき

●プリクラッシュブレーキが作動したとき

上記以外の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■通信利用型レーダークルーズコントロールについて

●本機能によって、車間制御モードの速度や車間距離設定が変更されることはありません。

●先行車が通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していないときは、本機能は作動しません。

●先行車や周囲の車両の走行状態によっては、スムーズな追従走行が行われない場合や、自車の速度や先行車との車間距離に影響がおよぶ場合があります。必要に応じてブレーキ・アクセルを操作してください。

■通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しないおそれがある状況

次のような状況では、通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しない、または通信利用型レーダークルーズコントロールから車間制御モードに切りかわる場合があります。

●先行車との通信が途絶したとき

●センサーが先行車を誤って検知したとき

●トンネルやビル街などで、自車または先行車の GPS 受信状態や通信状態が悪化しているとき

●雪道などスリップしやすい路面を走行しているとき

●急な坂道を走行しているとき

●追従していた先行車が車線変更などで離脱したとき

●通信していた先行車との間に、通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していない車両が割りこんできたとき

■ブレーキが作動したとき

ブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。（→ P. 247, 556）

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

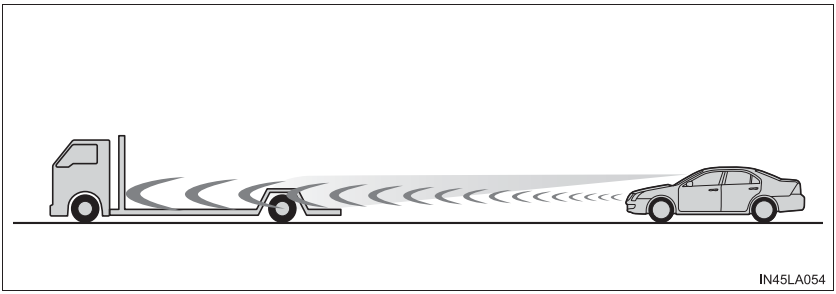
次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→ P. 282）も作動しないおそれがあります。

●先行車が急に割り込んできたとき

●先行車が低速で走行中のとき

●同じ車線に停車中の車がいるとき

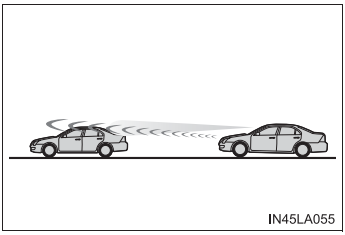
●先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）



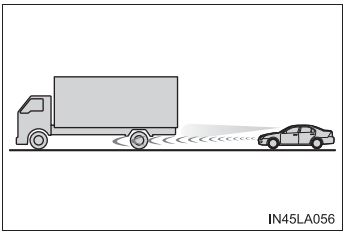
●同じ車線を二輪車が走行中のとき

●周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーの検知のさまたげになる場合

●自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）



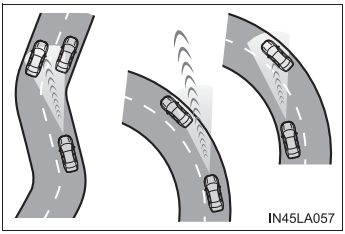
●先行車の車高が極端に高いとき



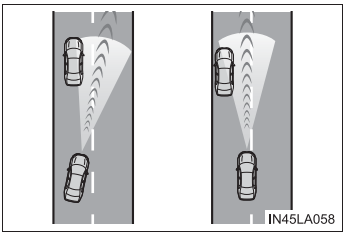
■車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。
センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

●カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



●ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合



●先行車が急ブレーキをかけた場合

●道路脇に構造物がある道（トンネル・橋など）を走行する場合

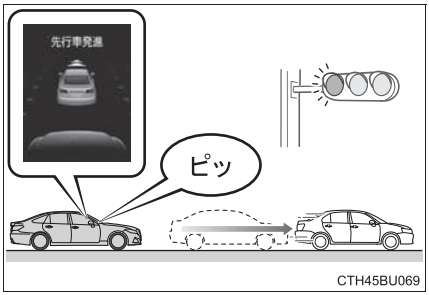
●アクセルペダルを踏んで加速したあと、車速が設定速度にもどるとき

先行車発進告知機能

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、警告ブザーとマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停止し続けた場合にお知らせします。



知識

■作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- ●シフトレバーがP･R以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトレバーがNで停止しているとき
- ●ブレーキホールドが作動中のとき
- ●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していて、制御停車中のとき

■先行車が発進していても告知しない場合があるとき

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- ●自車と先行車の停止位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき
- ●先行車との車間距離が極端に短くなり、先行車を正しく認識できないとき
- ●坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- ●先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）やボデーカラーなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- ●先行車がオートバイ・自転車などのとき
- ●先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき
- ●悪天候（雨･霧･雪･砂嵐など）･煙･水蒸気などにより、先行車を認識できないとき
- ●前方カメラとレーダー前面に雨滴、雪などが付着し、先行車を正しく認識できないとき
- ●前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき
- ●プリクラッシュセーフティが一時的に使用できないときや、故障などによりPCS 警告灯が点滅または点灯しているとき
- ●右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき

■先行車が発進していなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

●悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）により、先行車の発進を誤認識したとき

●坂道やカーブなどにより、先行車ではないものを先行車と認識しているとき

●前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車ではないものを先行車と認識しているとき

●先行車がいない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき

●自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■先行車発進告知機能の設定を変更するには

●先行車発進告知機能の ON/OFF

システムの ON/OFF を切りかえることができます。（→ P. 89）

●先行車発進告知機能の告知距離

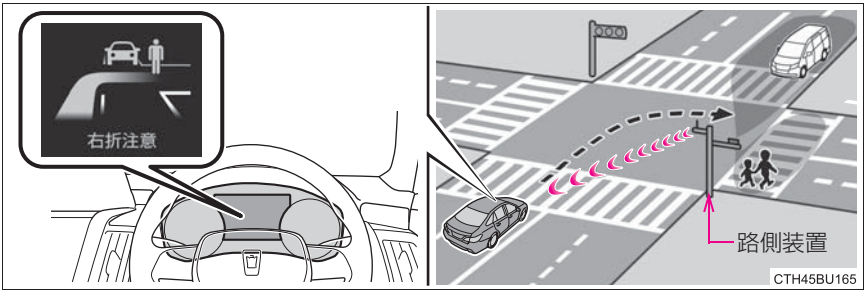
告知する距離を切りかえることができます。（→ P. 89）

ITS Connect★

ITS Connect の概要

ITS Connect は、交通情報や周辺車両の情報を受信することにより、安全運転や快適な運転を支援するシステムです。

◆ 安全運転を支援する通知・案内・注意喚起



ITS Connect は、道路に設置された DSSS※ 用路側装置や通信機を搭載した車両と無線通信することで、見通しが悪い交差点の交通状況などの情報を受信します。

受信した情報は、状況に応じて通知・案内や注意喚起としてマルチインフォメーションディスプレイなどに表示され、運転者に注意をうながすことにより安全運転を支援します。

※ DSSS（Driving Safety Support Systems）とは、運転者の認知・判断の遅れや誤りによる交通事故を未然に防止することを目的とするシステムで、警察庁が推進しているプロジェクトです。

◆ 通信利用型レーダークルーズコントロール

先行車との通信により受信した加速／減速情報をレーダークルーズコントロールの制御に利用し、よりスムーズな追従走行に寄与することで快適な運転を支援します。詳細は P. 284 を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
ITS Connect はあらゆる状況で安全運転の支援をするものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ITS Connect は安全運転の支援を目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件によりかわり、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
「システムが正常に作動しないおそれがあるとき」（→ P. 304）をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

■ITS Connect について

●次のような状況では、ITS Connect は作動しません。

・交差点に DSSS 用路側装置が設置されていないとき
・先行車や接近してくる車両に通信機が搭載されていないとき

●交差点に進入する方向によっては、作動する通知・案内・注意喚起が異なる場合があります。

■右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）について

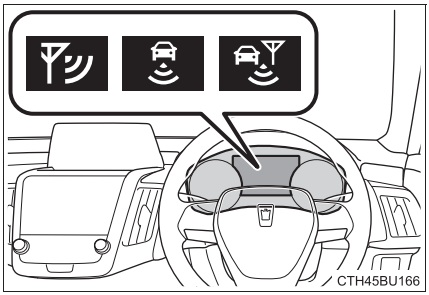
DSSS 用路側装置が設置された交差点であっても、DSSS 用路側装置の種類や交差点に進入する方向によっては、対向車のみを検知し、歩行者に対する注意喚起をしない場合があります。
そのため、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。「割り込み表示による通知・案内・注意喚起」（→ P. 297）をお読みいただき、必ず自らの目視による安全確認を行ってください。

■右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）・出会い頭注意喚起について

通信機を搭載した車両が接近してきても、地図データと実際の道路状況が異なるときは、交差点付近であることが判断できず、注意喚起をしなかったり、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。

ITS Connect アイコンの見方

ITS Connect の機能が利用可能なとき、マルチインフォメーションディスプレイに次のアイコンを表示して通信の接続状態をお知らせします。



アイコン	接続状態
	道路に設置された DSSS 用路側装置から必要な情報を取得できている
	通信機を搭載した車両から必要な情報を取得できている
	道路に設置された DSSS 用路側装置、および通信機を搭載した車両、両方から必要な情報を取得できている

割り込み表示による通知・案内・注意喚起

状況に応じて、次の通知・案内・注意喚起をマルチインフォメーションディスプレイに割り込み表示します。

ヘッドアップディスプレイ装着車：右折時注意喚起、赤信号注意喚起、一時停止注意喚起、出会い頭注意喚起はヘッドアップディスプレイにも割り込み表示します。

■ 右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）

交差点で右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、対向車や歩行者がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車や右折先の歩行者を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

交差点に設置されている DSSS 用路側装置（感知器）の種類によって、注意喚起の表示は次のように異なります。

▶ 対向車および歩行者を感知する交差点

CTH45BU167

▶ 対向車のみを感知する交差点

CTH45BU168

・注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
・一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）

DSSS 用路側装置が設置されていない交差点で、地図データを用いることにより、右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、通信機を搭載した対向車がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

・注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
・一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

CTH45BU168

■ 出会い頭注意喚起

地図データを用いることにより、交差点で停車しているときに、右または左方向から交差点に進入してくる車両がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、接近する右または左方向の車両を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

・注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
・一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

CTH45BU175

■ 赤信号注意喚起

赤信号の交差点手前にさしかかってもアクセルペダルを踏み続けているなど、赤信号を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

CTH45BU169

■ 信号待ち発進準備案内

赤信号で停車したとき、青信号にかわるまでの待ち時間の目安をバー表示で表します。

待ち時間が残り少なくなるとバー表示が消え、まもなく信号がかわることを表します。

CTH45BU170

■ 緊急車両存在通知

緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているときに、ブザーが鳴り、自車に対する緊急車両のおおよその方向・距離・進行方向を表示します。

緊急車両の距離と進行方向が表示されていないときは、自車のすぐ近くに緊急車両がいることを表します。

CTH45BU171

■ 一時停止注意喚起※（ETC2.0 ユニット装着車）

一時停止の交差点手前にさしかかってもアクセルペダルを踏み続けているなど、一時停止を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

CTH45BU172

■ 前方停止車両存在案内※（ETC2.0 ユニット装着車）

見通しが悪いカーブの先などで、渋滞などによって先行車両が停止または低速で走行しているときに、ブザーと表示でお知らせします。

CTH45BU173

■ わき道車両存在案内※（ETC2.0 ユニット装着車）

見通しが悪い交差点のわき道に車両がいるときに、ブザーと表示でお知らせします。

CTH45BU174

※ 一時停止注意喚起・前方停止車両存在案内・わき道車両存在案内について、正常に作動しないおそれがある状況など、詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱書／ナビゲーション／地図の基本操作／ DSSS（Driving Safety Support Systems）運転支援機能について」を参照してください。

通信車両接近通知

交差点などで停車しているときに、通信機を搭載した車両が接近してくると、通信車両のおおよその方向を表示します。

接近してくる方向が正面の場合は、右側方向指示灯を点滅させているときのみ表示します。

CTH45BU176

■ 通信車両接近通知の使い方

- 割込表示の通信車両接近通知を ON にしているときに、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み表示でお知らせします。
- 通信車両接近通知の表示設定方法については、マルチインフォメーションディスプレイの 表示設定（→ P. 99）をご覧ください。

各機能の設定変更

マルチインフォメーションディスプレイの⚙から「ITS Connect」または「クルーズ（ITS）」を選択することで、次の機能の設定を変更することができます。（→ P. 89）

設定項目		設定内容
ITS Connect	信号情報	次の機能の ON/OFF の切りかえ ※1 （初期設定：ON） ・ 赤信号注意喚起 ・ 信号待ち発進準備案内
	道路環境情報	次の機能の ON/OFF の切りかえ ※1 （初期設定：ON） ・ 一時停止注意喚起 ※2 ・ 右折時注意喚起 ・ 出会い頭注意喚起 ・ 前方停止車両存在案内 ※2 ・ わき道車両存在案内 ※2
	緊急車両通知	緊急車両存在通知の ON/OFF の切りかえ （初期設定：ON）
	通知感度	次の機能の通知感度（高い／低い）の切りかえ ※3, 4 （初期設定：高い） ・ 赤信号注意喚起 ・ 一時停止注意喚起 ※2 ・ 右折時注意喚起 ・ 出会い頭注意喚起
クルーズ（ITS）		通信利用型レーダークルーズコントロールの ON/OFF の切りかえ （初期設定：ON）

※1「信号情報」または「道路環境情報」に含まれる各機能を個別に ON/OFF することはできません。

※2 ETC2.0 ユニット装着車

※3「高い」に設定すると通知タイミングが早くなり、「低い」に設定すると通知タイミングが遅くなります。

※4 各機能の通知タイミングを個別に変更することはできません。

知識

■交差点ごとの作動する通知・案内・注意喚起について

道路に設置されている DSSS 用路側装置の種類により発信している情報が異なるため、交差点によって作動する通知・案内・注意喚起は異なります。

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況などでは、車両の位置や向きを正しく特定できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

・高いビルや高い街路樹に囲まれているとき
・トンネルや高架下を通過しているとき
・エンジンを始動してから、しばらく走行するまでのあいだ

●例えば次のような状況などでは、正しく通信ができず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

・周囲に大型車が走行しているときなど、通信がさえぎられたとき
・通信を妨害する電波が発せられているとき
・DSSS 用路側装置の向きがかわってしまっているとき
・DSSS 用路側装置がメンテナンス中や故障しているとき
・他車両の通信機が故障しているとき

●右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

・交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
・周囲の環境や天候、DSSS 用路側装置の劣化などの影響により、対向車や歩行者の検知性能が低下しているとき
・対向車や歩行者が周囲の建物や別の車両に隠れているとき
・DSSS 用路側装置の検知範囲外に対向車や歩行者がいるとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

・交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
・地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

●出会い頭注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

・交差点手前で一旦停止せずに通過しようとしたとき
・地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

●赤信号注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

・遅い速度で走行しているとき
・停車しているとき
・交差点付近の側道や駐車場内の通路など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所を走行しているとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●信号待ち発進準備案内は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

・前方の信号機が青信号、黄信号または矢印信号のとき
・青信号にかわるまでの待ち時間が残り少ないとき
・停車していないとき
・交差点付近の側道や駐車場内の通路など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所を走行しているとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●緊急車両存在通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

・緊急車両と自車の距離が一定以上離れているとき
・緊急車両が自車から遠ざかる方向に走行しているとき
・立体交差付近を走行しているとき
・緊急車両から受信した情報が誤っているとき

●通信車両接近通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

■ITS Connect 機器に関する情報

●本製品は、トロンフォーラム（www.tron.org）の T-License2.0 に基づき T-Kernel ソースコードを利用しています。

●本機は、ITS Connect 推進協議会が規定する相互接続性確認試験に適合しています。
機種名：DTU-1010
型式認定番号：10005

●本システムは周波数760MHzの電波を発信するため、お車を海外へ持ち込んだ場合はその国の関連法規に違反する場合があります。

■ITS Connect に関するお問い合わせについて

ITS Connect に関するお問い合わせ（機器の調子・機能・使用方法や道路上の通信設備の整備計画など）はトヨタ販売店にお問い合わせください。

⚠ 注意

■ITS Connect 機器取り扱いの注意

●ITS Connect 機器は電波法の基準に適合しています。ITS Connect 機器に貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。

●ITS Connect 機器を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

Stop & Start システム

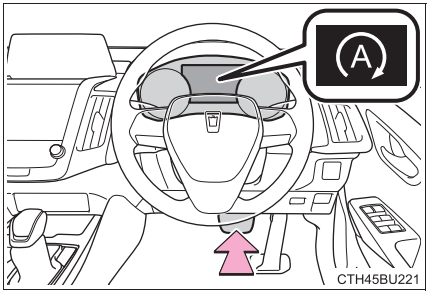
赤信号や交差点などの一時的な停車中、燃費向上やアイドリング騒音低減のため、エンジンスイッチを操作することなく、ブレーキペダルなどの操作によってエンジンを停止・再始動させるシステムです。

Stop & Start システムの作動

■ エンジンが停止する

シフトレバーを D で走行中、ブレーキペダルを踏み車両を完全に停止させると、エンジンが自動的に停止します。

Stop & Start 表示灯が点灯します。



■ エンジンが再始動する

ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動します。

Stop & Start 表示灯が消灯します。

■ ブレーキホールドシステムが作動しているとき

- Stop & Start システムによるエンジン停止中に、ブレーキペダルから足を離しても、エンジン停止状態を継続します。
- Stop & Start システムによるエンジン停止中に、アクセルペダルを踏むと、エンジンが再始動します。
- Stop & Start システムによるエンジン停止中に、エンジンが自動的に再始動してもブレーキホールドシステムによるブレーキ保持は継続します。但し、ブレーキホールドシステムの作動条件（→ P. 214）が満たされなくなった場合を除きます。

■ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）が作動しているとき

● レーダークルーズコントロールによる停車時、ブレーキペダルを踏まなくてもエンジンが自動的に停止します。

● 先行車が発進すると、エンジンが再始動します。

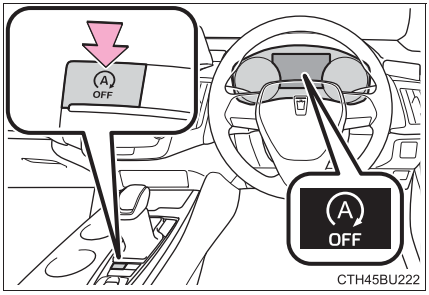
● Stop & Start システムによりエンジンが自動的に再始動してもレーダークルーズコントロールによる停車は継続します。

Stop & Start システムを非作動にするには

Stop & Start システムを非作動にするには Stop & Start キャンセルスイッチを押す

Stop & Start キャンセル表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、作動可能状態にもどり、マルチインフォメーションディスプレイの Stop & Start キャンセル表示灯が消灯します。



■ Stop & Start システムの自動再開

Stop & Start システムを Stop & Start キャンセルスイッチによって非作動にしていても、一度エンジンスイッチを OFF にしてからエンジンを始動することによって、Stop & Start システムは自動的に作動可能状態にもどります。

■ Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき

● Stop & Start システムによるエンジン停止中、Stop & Start キャンセルスイッチを押すとエンジンが再始動します。

● Stop & Start システムが非作動のとき、もう一度 Stop & Start キャンセルスイッチを押すと、Stop & Start システムが作動可能状態にもどりますがエンジンは停止しません。
次に車両が停止したときに、Stop & Start システムによってエンジンが停止します。

坂道発進補助機能

Stop & Start システムによるエンジン停止後、エンジンが再始動し駆動力が発生するまでのあいだ、ブレーキ力を一時的に保持し坂道での車両後退を抑制します。
駆動力が発生すると、保持していたブレーキ力を自動的に解除します。

- 坂道だけでなく、平坦な場所でも作動します。
- ブレーキから音が発生することがありますが異常ではありません。
- ブレーキペダルの踏み応えがかわったり、振動が発生したりすることがありますが異常ではありません。

知識

■作動条件

●次の条件がすべて満たされたとき、Stop & Start システムが作動可能状態になります。

・ブレーキペダルをしっかりと踏んでいるとき
（レーダークルーズコントロールシステム［全車速追従機能付］による停車中を除く）
・エンジンが十分暖まっているとき
・外気温が－５℃以上のとき
・シフトレバーが D または P のとき
・ が OFF のとき
・ボンネットが閉まっているとき（→ P. 311）
・運転席シートベルトを着用しているとき
・運転席ドアが閉まっているとき
・アクセルペダルを踏んでいないとき

●次の状況では、Stop & Start システムによるエンジン停止が行われない場合がありますが、異常ではありません。

・外気温が高い、または低いときに、エアコンを使用しているとき
・定期的な充電中のとき
・バッテリーが十分に充電されていないとき（例：長期間の駐車後などバッテリーの充電量が低下、電気負荷が大きい、バッテリー液温が低い、バッテリーが劣化）
・ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
・勾配が急な坂道で停車したとき
・ハンドル操作をしているとき
・渋滞などで、断続的に停車するとき
・標高が高いとき
・エンジン冷却水温やトランスミッション油温が低いとき、または高すぎるとき
・バッテリー液温が低いとき、または高すぎるとき
・バッテリー端子をはずし接続したあとしばらくのあいだ
・バッテリーを交換したあとしばらくのあいだ
・消費電力が大きいとき
・ドライブモードをスポーツモードまたはスノーモードにしたとき

●Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動します（Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください）。

・エアコンを ON にしたとき
・ を ON にしたとき
・ハンドル操作したとき
・シフトレバーを D 以外にしたとき（P にした場合を除く）
・シフトレバーを P 以外にしたとき（P レンジで Stop & Start システムによるエンジン停止中）
・運転席シートベルトをはずしたとき
・運転席ドアを開けたとき
・アクセルペダルを踏んだとき
・Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき
・坂道などで車両が動き出したとき
・インテリジェントパーキングアシスト 2★を作動させたとき
・先行車が発進したとき（先行車発進通知機能有効時、またはレーダークルーズコントロール [全車速追従機能付] による停車中のみ）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動する場合があります（Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください）。

・ブレーキペダルをさらに強く踏み込む、またはポンピングブレーキをしたとき
・エアコンを使用しているとき
・バッテリーの充電量が低下しているとき

■インテリジェントパーキングアシスト2★作動中のStop & Startシステムの作動について

インテリジェントパーキングアシスト 2 作動中は、Stop & Start システムの作動を中止します。

■ボンネットを開けたときは

●Stop & Start システムによるエンジン停止中にボンネットを開けたときは、Stop & Start システムによるエンジン停止状態からエンスト状態に移行され、エンジンが自動で再始動しません。その場合は通常のエンジン始動操作（→ P. 196）でエンジンを始動させてください。

●ボンネットが開いている状態でエンジンを始動したときは、ボンネットを閉めても Stop & Start システムは作動しません。ボンネットを閉め一度エンジンスイッチを OFF にし、約 30 秒以上待ってからエンジンを始動してください。

■使用にあたり知っておいていただきたいこと

●長時間停車する場合には、エンジンスイッチを OFF にし、エンジンを停止してください。

●Stop & Start システムが作動できないときやキャンセルされたとき、または Stop & Start システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意を促します。（→ P. 313）

●Stop & Start システムによるエンジン停止中にエンジンスイッチを押した場合、エンジンは自動で再始動しないため、通常のエンジン始動操作（→ P. 196）でエンジンを始動してください。

●Stop & Start システムによりエンジンが再始動するとき、一時的にアクセサリーソケットやアクセサリーコンセントなどが使用できないことがありますが異常ではありません。

●電装品・無線機の取り付け・取りはずしは Stop & Start システムに悪影響をおよぼす可能性がありますので、詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■Stop & Startシステムによるエンジン停止中、フロントウインドウガラスが曇ったとき

を ON にしてください。（→ P. 442）

断続的にフロントウインドウガラスが曇るときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

■Stop & Startシステムによるエンジン停止中、エアコン吹き出し口から臭いが発生したとき

Stop & Start キャンセルスイッチを押して Stop & Start システムの作動を停止してください。

■Stop & Start システムによるエンジン停止中のエアコン作動について

●オート設定で空調システムを使用しているときに、Stop & Start システムによりエンジンが停止した場合は、冷房時の温度上昇や暖房時の温度低下を抑えるため、ファンの風量を弱めたり、停止したりすることがあります。

●空調の効きをより良くしたいときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

■エアコンが ON のときのアイドリングストップ時間の長さの切りかえについて

マルチインフォメーションディスプレイの（→ P. 89）から、エアコンが ON のときのStop & Start システムによるエンジン停止時間の長さを切りかえることができます（エアコンが OFF のときの Stop & Start システムによるエンジン停止時間の長さは切りかえできません）。

■Stop & Start システム保護機能

●大音量でオーディオを使用しているとき、バッテリーの消費を抑えるためにオーディオを自動的に OFF にする場合があります。この場合、エンジンスイッチをOFFにして3秒以上経過してからアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにし、オーディオを再開させてください。

●バッテリーの端子をはずして再接続したときに、オーディオが作動しないことがあります。この場合、エンジンスイッチを OFF にし、次の操作を 2 回くり返すことでオーディオが作動します。

・エンジンスイッチをイグニッション ON モードにし、再度エンジンスイッチを OFF にする

■バッテリーを交換するとき

→ P. 588

■アイドリングストップ時間など Stop & Start システムの作動表示

→ P. 102

■マルチインフォメーションディスプレイのメッセージについて

次のとき、マルチインフォメーションディスプレイに とメッセージが表示されることがあります。

●Stop & Start システムによるエンジン停止が行われないとき

メッセージ	状況
ブレーキをもう少し踏んでください	**ブレーキペダルを踏む力が足りない** ブレーキペダルを踏み足すと作動開始します。
専用バッテリー非装着	**Stop & Start システム専用品以外のバッテリーを装着した可能性がある** Stop & Start システムが作動しません。トヨタ販売店で点検を受けてください。
バッテリー充電中	・**バッテリーの充電量が低下している可能性がある** バッテリーの充電を優先するため、一時的にアイドリングストップを禁止していますが、エンジンをしばらく作動させると回復します。 ・**リフレッシュ充電中の可能性がある（参考シーン：バッテリー交換したあとしばらくの期間、またはバッテリー端子をはずしたあとしばらくのあいだなど）** 約5～60分間のリフレッシュ充電が完了すると作動可能状態になります。 ・**長期間（60 分以上）にわたって継続的に表示される場合は、バッテリーが劣化している可能性がある** トヨタ販売店で点検を受けてください。
アイドリングストップできません	・**一時的にアイドリングストップを禁止している** エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。 ・**ボンネットが開いている状態でエンジンを始動した可能性がある** ボンネットを閉め一度エンジンスイッチをOFF にして、30 秒以上待ってからエンジンを始動すると作動可能状態になります。

メッセージ	状況
作動準備中	**・ブレーキペダルをさらに強く踏み込んだ、またはポンピングブレーキをした** 走行することによりブレーキ倍力装置の負圧が所定値まで生成されると作動可能状態になります。
エアコン優先	**・外気温が高い、または低いときにエアコンを使用している** エアコンの設定温度と室内温度の差が小さくなると作動しやすくなります。 **・を ON にしている**

●Stop & Startシステムによるエンジン停止中にエンジンが自動的に再始動したとき

メッセージ	状況
作動準備中	**・ブレーキペダルをさらに強く踏み込んだ、またはポンピングブレーキをした** 走行することによりブレーキ倍力装置の負圧が所定値まで生成されると作動可能状態になります。
エアコン優先	**・エアコンを ON にした、またはエアコンを使用している** **・を ON にした**
バッテリー充電中	**・バッテリーの充電量が低下している可能性がある** バッテリーの充電を優先させるため、エンジンを再始動しました。エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。

■システムに異常があるおそれについて

次のときはシステムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

●マルチインフォメーションディスプレイに「アイドリングストップ故障 販売店で点検してください」が表示された

●Stop & Start キャンセル表示灯が点滅している

警告

■Stop & Start システムが作動しているとき

●Stop & Start システムによるエンジン停止中（Stop & Start 表示灯が点灯しているあいだ）は、ブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
エンジンが自動的に始動する場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●Stop & Start システムによるエンジン停止中（Stop & Start 表示灯が点灯しているあいだ）は、車から離れないでください。
エンジンが自動的に始動する場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●換気が悪い場所では、Stop & Start システムを非作動にしてください。
エンジンが自動的に再始動する場合があるため、排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■Stop & Start システムを正常に作動させるために

次のようなときは Stop & Start システムが正常に作動しないおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

●運転席シートベルトを着用しているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点滅するとき

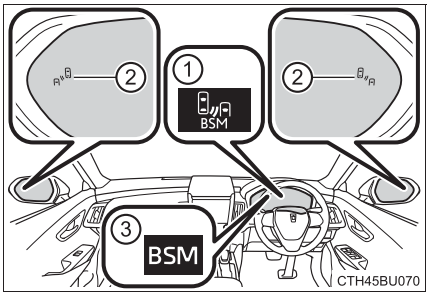
●運転席シートベルトをはずしているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点灯しないとき

●運転席ドアを閉めているときに、マルチインフォメーションディスプレイにドア開警告表示が表示される、またはインテリアランプのドア連動スイッチが ON のときにインテリアランプが点灯するとき（→ P. 459）

●運転席ドアを開けているときに、マルチインフォメーションディスプレイにドア開警告表示が表示されない、またはインテリアランプのドア連動スイッチが ON のときにインテリアランプが点灯しないとき（→ P. 459）

BSM（ブラインドスポットモニター）★

ブラインドスポットモニターは、リヤバンパー内側にあるレーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。



① マルチインフォメーションディスプレイ

ブラインドスポットモニターの ON/OFF を切りかえます。

② ドアミラーインジケーター

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

③ BSM 表示灯

ブラインドスポットモニターが ON のときに点灯します。

ブラインドスポットモニターの ON/OFF を切りかえるには

1 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して ⚙ を選択する

2 メーター操作スイッチの 〈 または 〉 を押して BSM を選択する

3 メーター操作スイッチの OK を押す

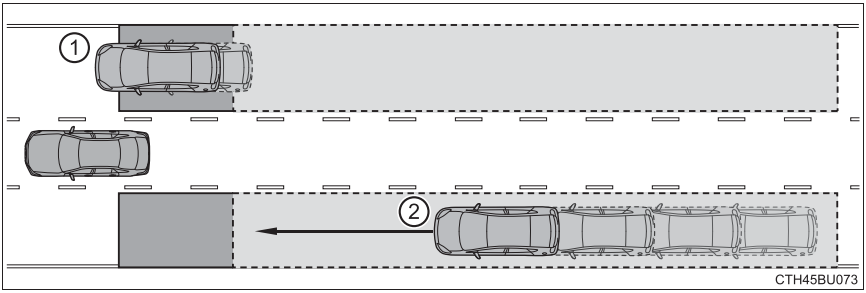
OK を押すたびに ON/OFF が切りかわります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ブラインドスポットモニターの作動

■ 検知できる車両

ブラインドスポットモニターはレーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。

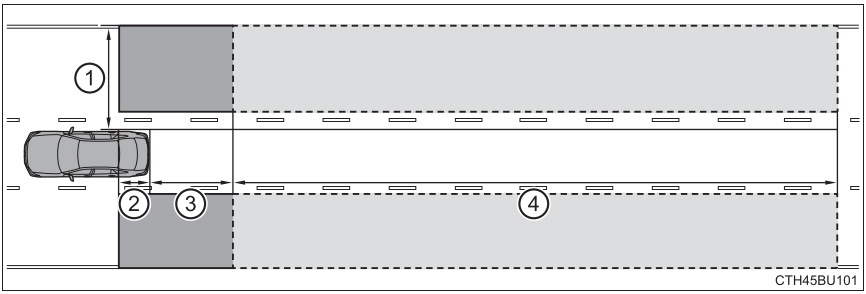


① ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両

② 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

■ 検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



検知できる範囲：

① 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域 ※1

② リヤバンパーから約 1m 前方の領域

③ リヤバンパーから約 3m 後方の領域

④ リヤバンパーから後方約 3m ～ 60m の領域 ※2

※1 車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

※2 自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状況で点灯、点滅します。

知識

■ブラインドスポットモニターの作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●ブラインドスポットモニターが ON のとき

●シフトレバーが R 以外の位置のとき

●車速が約 16km/h 以上のとき

■センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

●隣の車線を走行する他車に自車が追い越されるとき

●小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき

●他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■センサーが検知しない条件

ブラインドスポットモニターは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型の二輪車・自転車・歩行者など ※

●対向車

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●同じ車線を走行する後続車 ※

●2 つ隣の車線を走行する他車 ※

●大きい速度差で自車が追いこす他車 ※

※ 状況によっては検知することがあります。

■ブラインドスポットモニターが有効に作動しないおそれがある状況

●次のような状況では有効に検知しないおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
・複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
・自車と他車の速度差に変化があるとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
・停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
・検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
・ブラインドスポットモニターを ON にした直後

●特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・タイヤがスリップ（空転）しているとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「BSM　現在使用できません」が表示されたとき

センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます（→ P. 321）。センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「BSM 故障　販売店で点検してください」が表示されたとき

センサーの故障や電圧異常などが考えられます。トヨタ販売店にて点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→ P. 89）

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

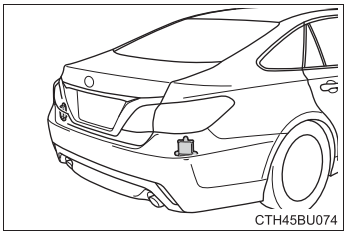
ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

警告

■レーダーセンサーの取り扱い

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。



- センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく
  センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。（→ P. 320）その場合、汚れや雪を落とした後、ブラインドスポットモニターの作動条件でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。
- センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
  センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
  次のような場合には、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。
  ・センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
  ・センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている
- センサーを分解しない
- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）やアルミテープなどを貼ったりしない
- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない
- リヤバンパーの塗装修理の際にはトヨタ設定色以外への変更は行わないでください。

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので、消さないでください。
製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。

R 202-LSC077

クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイ、ヘッドアップディスプレイ★およびナビゲーション画面の距離表示とブザー音、音声案内で運転者にお知らせします。

システムの構成部品

■ センサーの種類

① フロントコーナーセンサー

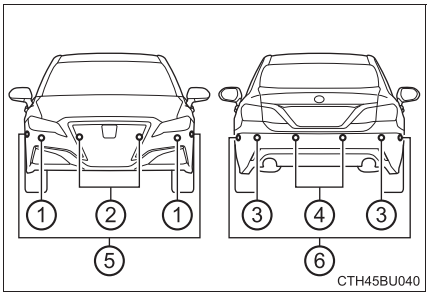
② フロントセンターセンサー

③ リヤコーナーセンサー

④ リヤセンターセンサー

⑤ フロントサイドセンサー（インテリジェントパーキングアシスト２装着車）

⑥ リヤサイドセンサー（インテリジェントパーキングアシスト２装着車）

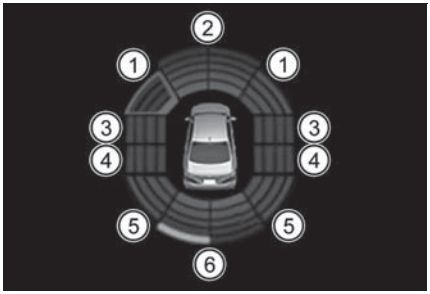


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ クリアランスソナーの表示のしかた

壁などの静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイ、ヘッドアップディスプレイ★、またはナビゲーション画面に表示されます。

● マルチインフォメーションディスプレイおよびヘッドアップディスプレイ★の表示



① フロントコーナーセンサー作動表示

② フロントセンターセンサー作動表示

③ フロントサイドセンサー（インテリジェントパーキングアシスト２装着車）

④ リヤサイドセンサー（インテリジェントパーキングアシスト２装着車）

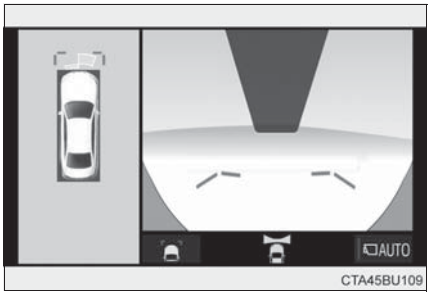
⑤ リヤコーナーセンサー作動表示

⑥ リヤセンターセンサー作動表示

● ナビゲーション画面の表示

作動対象を検知するとナビゲーション画面上に自動表示されます。

例：パノラミックビューモニター装着車



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

システムを作動させるには

メーター操作スイッチを使って ON/OFF を切りかえます。（→ P. 89）

1 ∧ または ∨ を押して ⚙ を選択する

2 〈 または 〉 を押して P/⚠ を選択し、OK を押す

クリアランスソナーが OFF の時は、マルチインフォメーションディスプレイ上にクリアランスソナー OFF 表示灯（→ P. 75）が表示されます。

OFF（停止）に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ から P/⚠ を ON（作動）にし、システム作動状態にしないとクリアランスソナーは復帰しません（エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度イグニッション ON モードにしても、復帰しません）。

⚠ 警告

■クリアランスソナーをお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車両の速度が約 10km/h をこえないようにしてください。
- センサーの検知範囲、作動速度には限界があります。車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください。
- センサーの検知範囲にはアクセサリー用品などを取り付けないでください。
- バンパー真下付近は検知しません。
  センサーより低いものや細い杭などは、一度検知しても接近すると突然検知しなくなることがあります。

■クリアランスソナーを OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 市販のフェンダーポール・無線機アンテナ・フォグランプを車に付けたとき
- バンパーやセンサー部付近にものをぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき
- けん引フックを取り付けたとき
- 字光式ナンバープレートを取り付けたとき

警告

■**クリアランスソナー使用時の注意**

次のとき、センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

●静止物を検知していない状態で、クリアランスソナーの作動表示が点灯もしくは点滅し、ブザーが鳴ったとき

●センサー部付近にものをぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき

●バンパーをぶつけたとき

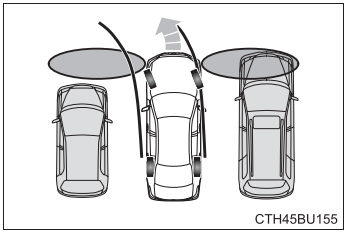
●ブザー音がしないのに表示が点灯もしくは点滅したままのとき（ミュート選択時は除く）

■**サイドセンサーについて（インテリジェントパーキングアシスト 2 装着車）**

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

●エンジンスイッチをイグニッション　ON モードにした直後の発進時、フロントサイドセンサーで検知できないような小さい車両や静止物が隣にあるとき

右図の場合、前進しても左側にある車両を検知できないため、巻き込み警報機能は作動しません。


CTH45BU155

●サイドセンサーで検知できない位置に静止物がある場合や、人がいる場合

●サイドエリアのスキャン完了後でも、車・人・動物などが車両の横からサイドエリアに侵入してきた場合は検知できません。

■**洗車時の注意**

●高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

●スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

知識

■作動条件

- ●エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
- ●クリアランスソナーが ON のとき
- ●車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- ●シフトレバーが P 以外にあるとき
- ●ハンドルを約90° 以上切っているとき(インテリジェントパーキングアシスト2 装着車のフロントサイドセンサー、リヤサイドセンサー)

■マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー使用できません ソナーの汚れを除去してください」が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。
この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。
また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。
氷・雪・泥がないのに異常表示が出ている場合は、センサーの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■センサーの検知について

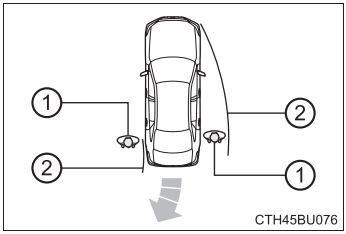
- ●センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
- ●静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。
- ●センサーが静止物に近づきすぎると検知できないことがあります。
- ●静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 30cm 以内に接近するおそれがあります。
- ●オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。
- ●他システムのブザーの音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。

■巻き込み警報機能（インテリジェントパーキングアシスト 2 装着車）

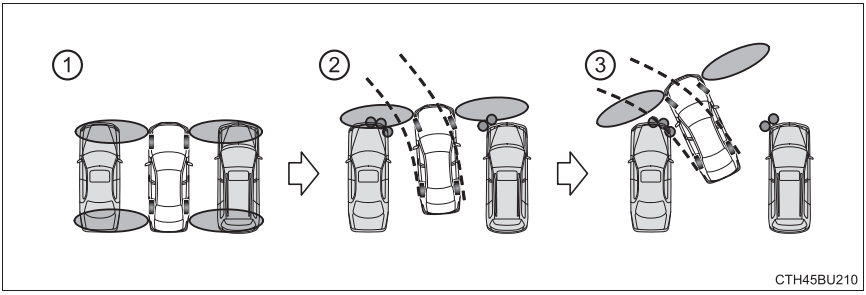
サイドエリアの静止物が車両の経路内にある場合に、表示とブザーで運転者に知らせます。

① 静止物

② 計算した車両経路



走行中にサイドセンサーで静止物を検知します。車両が移動して静止物がサイドセンサーで検知できない位置にあった場合も、車両の位置を計算することで静止物の位置を算出し、車両の経路内に静止物がある場合に、巻き込み警報機能が作動します。



●：サイドセンサーで検知した静止物

① 停車時はサイドエリアの静止物の検知は行いません。

② 車両移動中に静止物を検知

③ サイドセンサーで、静止物を直接検知していない状態でも、表示とブザーで知らせます。

■サイドエリアの静止物の検知について（インテリジェントパーキングアシスト 2 装着車）

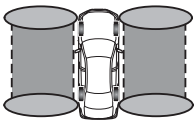
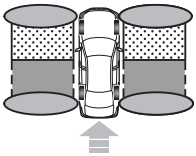
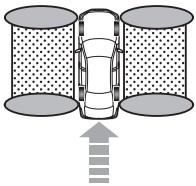
●サイドエリアの静止物は、センサーで直接検知するのではなく、車両前後のサイドセンサーで検知したあと、車両の位置を計算することで静止物の位置を算出します。そのためエンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたあと、しばらく走行してセンサーでサイドエリアのスキャンが完了するまでは、サイドエリアに静止物があっても検知できない場合があります。

●サイドセンサーで車・人・動物を検知したときは、車・人・動物などがサイドセンサーの検知範囲から出ても検知している状態が継続します。

●サイドエリアをスキャン中は、マルチインフォメーションディスプレイの表示が次のようになります。

スキャンが完了すると、約 3 秒間マルチインフォメーションディスプレイの表示が継続されたあとにセンサー作動表示は消灯します。

▶ 前進しているとき

	サイドエリアのスキャンが未完了の状態	車両前半分のスキャンが完了した状態	サイドエリアのスキャンが完了した状態
マルチインフォメーションディスプレイの表示			
車両の状態※	 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにした直後	 車体の全長の半分の距離を前進した状態	 車体の全長分の距離を前進した状態

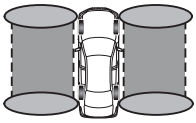
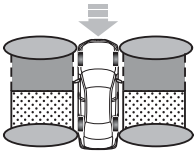
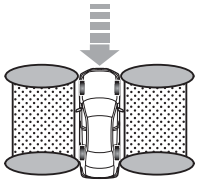
●：サイドセンサーの検知エリア

●：サイドエリア（サイドエリアのスキャンが未完了の部分）

●：サイドエリア（サイドエリアのスキャンが完了した部分）

※ イラストは説明のための例であり、実際の検知エリアとは異なります。

▶ 後退しているとき

	サイドエリアのスキャンが未完了の状態	車両うしろ半分のスキャンが完了した状態	サイドエリアのスキャンが完了した状態
マルチインフォメーションディスプレイの表示			
車両の状態※	 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにした直後	 車体の全長の半分の距離を後退した状態	 車体の全長分の距離を後退した状態

●：サイドセンサーの検知エリア

●：サイドエリア（サイドエリアのスキャンが未完了の部分）

●：サイドエリア（サイドエリアのスキャンが完了した部分）

※ イラストは説明のための例であり、実際の検知エリアとは異なります。

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

●センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。

●センサーを手などで覆ったとき

●炎天下や寒冷時

●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが付近に存在するとき

●どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき

●冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき

●車両姿勢が大きく傾いたとき

●背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき

●センサーに静止物が近付きすぎたとき

■正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

●針金・フェンス・ロープなどの細いもの

●綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

●鋭角的な形のもの

●背の低いもの

●背が高く上部が張り出しているもの
特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

距離表示の見方

■ 静止物を検知できる範囲

① 約 100cm

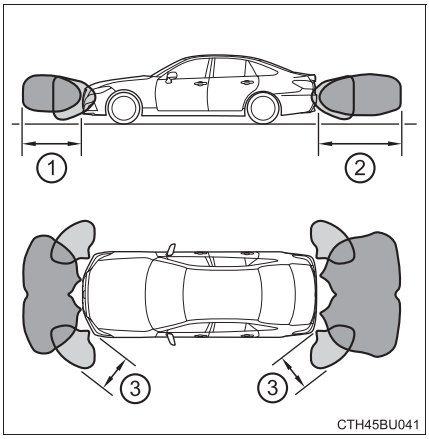
② 約 150cm

③ 約 60cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

サイドエリアの静止物の検知については、P. 327 を参照してください。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。



■ 画面表示

静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイおよびナビゲーション画面、またはヘッドアップディスプレイ★の作動表示が点灯（一部、バーや枠が点滅）します。イラストは例であり、表示により異なります。ナビゲーション画面はパノラミックビューモニター装着車を例としています。

インテリジェントパーキングアシスト 2 装着車では、サイドエリアのスキャンが完了するまでの間は、フロントサイドセンサー作動表示、リヤサイドセンサー作動表示は表示されません。

● 静止物までのおおよその距離：約 150cm～60cm※（リヤセンターセンサー）

マルチインフォメーションディスプレイ	ナビゲーション画面	ヘッドアップディスプレイ

※ 自動ミュート機能あり（→ P. 334）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● 静止物までのおおよその距離：約 100cm ～ 60cm※（フロントセンターセンサー）

マルチインフォメーションディスプレイ	ナビゲーション画面	ヘッドアップディスプレイ

※ 自動ミュート機能あり（→ P. 334）

● 静止物までのおおよその距離：約 60cm ～ 45cm※（フロントサイドセンサー、リヤサイドセンサー以外）、約 115cm ～ 70cm※（フロントサイドセンサー、リヤサイドセンサー）

マルチインフォメーションディスプレイ	ナビゲーション画面	ヘッドアップディスプレイ

※ 自動ミュート機能あり（→ P. 334）

● 静止物までのおおよその距離：約 45cm ～ 30cm※（フロントサイドセンサー、リヤサイドセンサー以外）、約 70cm ～ 30cm※（フロントサイドセンサー、リヤサイドセンサー）

マルチインフォメーションディスプレイ	ナビゲーション画面	ヘッドアップディスプレイ

※ 自動ミュート機能あり（→ P. 334）

● 静止物までのおおよその距離：約 30cm ～ 15cm※1

マルチインフォメーションディスプレイ ※2	ナビゲーション画面 ※3	ヘッドアップディスプレイ

※1 自動ミュート機能あり（→ P. 334）

※2 点灯および枠が遅い点滅

※3 点灯およびバーとその周辺が遅い点滅

● 静止物までのおおよその距離：約 15cm 以下 ※1

マルチインフォメーションディスプレイ ※2	ナビゲーション画面 ※3	ヘッドアップディスプレイ

※1 自動ミュート機能あり（→ P. 334）

※2 点灯および枠が早い点滅

※3 点灯およびバーとその周辺が早い点滅

音声案内とブザー音

■ ブザー動作と静止物までの距離

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

ブザー音と同時に音声案内を行います。

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約 30cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。
- ブザー吹鳴後、静止物との距離が近づかない場合は、自動でブザーが消音されます（自動ミュート機能）。

■ ブザー音量調整

マルチインフォメーションディスプレイ上でブザー音量の調整ができます。

クリアランスソナー、RCTA のブザー音を一括で調整します。
（RCD のブザー音も同様に切りかわります）

メーター操作スイッチを使って設定を変更します。（→ P. 85）

1. ∧または∨を押して⚙を選択する
2. 〈または〉を押してP))を選択し、OK押し続ける
3. ∧または∨を押して音量を選択し、OKを押す

押すごとに大・中・小の間で音量が切りかわります。

■ ブザー音の一時ミュート（消音）

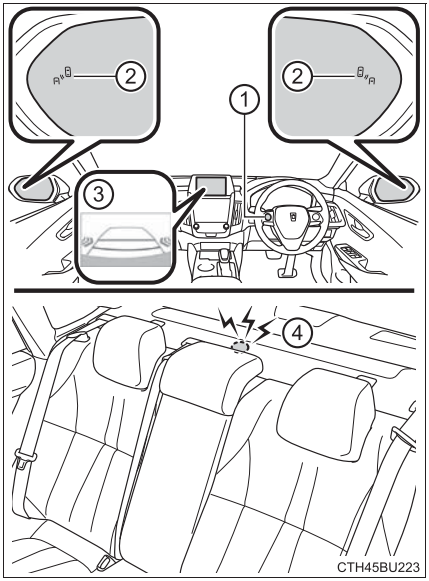
作動対象を検知した場合、マルチインフォメーションディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

OKを押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。
一時ミュート（消音）が解除されるとき：
・シフトポジションを切りかえたとき
・車速が一定値以上になったとき
・センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
・使用中の機能を OFF にしたとき
・エンジンスイッチを OFF にしたとき

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）はリヤバンパー内側にあるブラインドスポットモニターのレーダーセンサーを使用し、運転者の目視だけでは感知しづらい領域の確認を補助する機能です。後退時に運転者を支援します。

システムの構成部品



① メーター操作スイッチ

メーター操作スイッチを操作して、マルチインフォメーションディスプレイ上で RCTA の ON/OFF を切りかえます。

② ドアミラーインジケーター

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーターが点滅します。

③ ナビゲーション画面

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ナビゲーション画面に検知した側の RCTA アイコン（→ P. 336）が点灯します。

イラストは両後方から車両が接近している例です。

④ RCTA ブザー

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ブザーが鳴ります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

設定のしかた

メーター操作スイッチを使って ON/OFF を切りかえます。（→ P. 89）

1 ∧ または ∨ を押して ⚙ を選択する

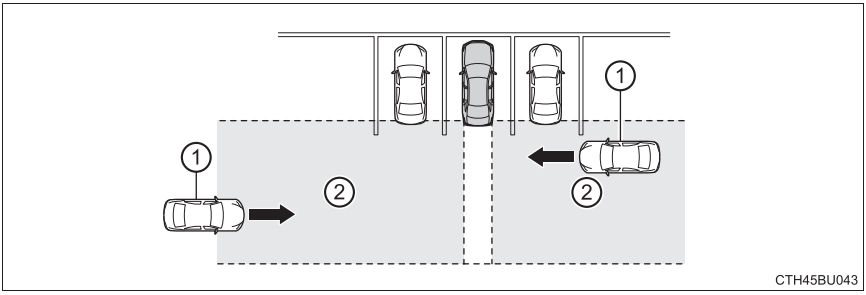
2 〈 または 〉 を押して RCTA を選択し、OK を押す

RCTA が OFF のときは、RCTA OFF 表示灯（→ P. 75）が点灯します。エンジンスイッチがイグニッション ON モードになるたび、RCTA は ON になります。

RCTA について

■ RCTA の作動

RCTA はレーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



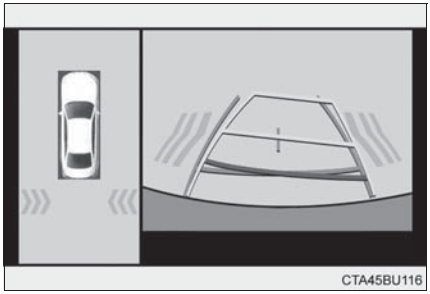
① 接近車両

② 接近車両を検知できる範囲

■ RCTA アイコンの表示

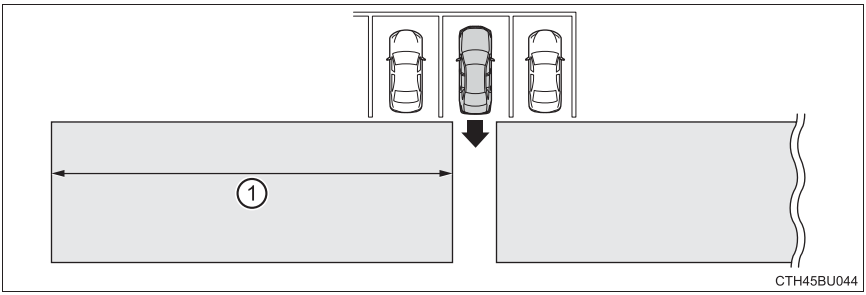
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ナビゲーション画面上に次の表示をします。

例：両方向から車両が接近しているとき



■ RCTA で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両	速度	①警報距離（概算）
早い	28km/h	20m
遅い	8km/h	5.5m

知識

■ ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「RCTA 現在使用できません」が表示されたときは

センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

■ レーダーセンサーについて

→ P. 321

■RCTA の作動条件

RCTA は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

●RCTA が ON のとき

●シフトレバーが R のとき

●自車の車速が約 8km/h 以下のとき

●接近する他車の車速が約 8km/h ～ 28km/h のあいだのとき

■ブザー音量調整

マルチインフォメーションディスプレイ上でブザー音量の調整ができます。

RCTA、クリアランスソナーのブザー音を一括で調整します。
（RCD のブザー音も同様に切りかわります）

メーター操作スイッチを使って設定を変更します。（→ P. 85）

1 ∧または∨を押して⚙を選択する

2 〈または〉を押してRCTAを選択し、OK押し続ける

3 ∧または∨を押して音量を選択し、OKを押す

押すごとに大・中・小の間で音量が切りかわります。

■ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチインフォメーションディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

OKを押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。
一時ミュート（消音）が解除されるとき：

・シフトポジションを切りかえたとき
・車速が一定値以上になったとき
・センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
・使用中の機能を OFF にしたとき
・エンジンスイッチを OFF にしたとき

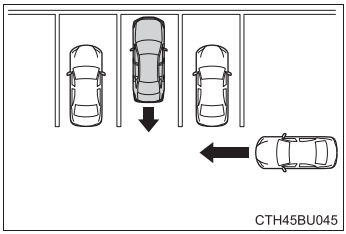
■RCTA が検知しない車両について

RCTA は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●真後ろから接近する車両

●自車の隣の駐車スペースで後退する車両

●障害物のためにセンサーが検知できない車両



●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●小型の二輪車・自転車・歩行者など ※

●自車から遠ざかる車両

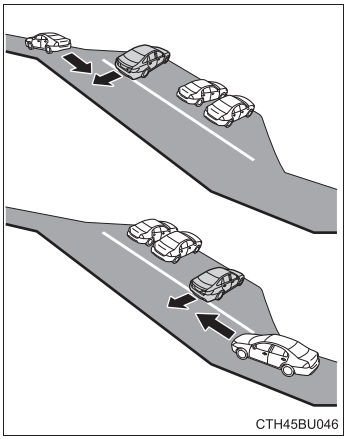
●自車の隣の駐車スペースから接近する車両 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

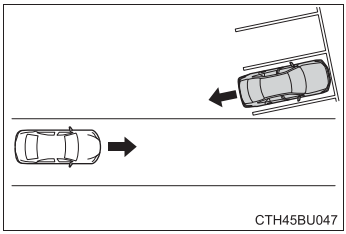
■RCTA が正常に作動しないおそれがある状況

●RCTA は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

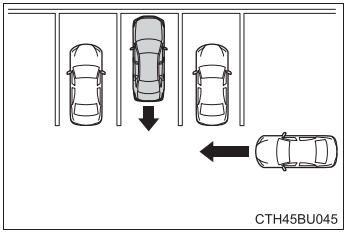
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
・複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
・車両が高速で接近するとき
・車両後部にけん引フックを装着しているとき
・勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



・浅い角度での駐車時



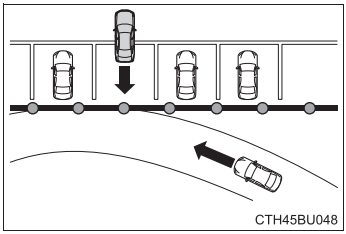
・RCTA を ON にした直後
・RCTA を ON にした状態で、エンジンを始動した直後
・障害物のためにセンサーが検知できない車両



●RCTA は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

・自車の横を車両が通過するとき

・駐車場に面した道を車両が走行しているとき



・車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき

・車両後部にけん引フックを装着しているとき

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

RCTA は自車の右後方または左後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

RCTA を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

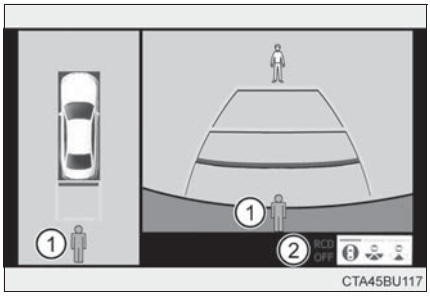
■安全にお使いいただくために

センサー周辺に障害物を置かないでください。

RCD（リヤカメラディテクション）★

車両後退時、リヤカメラが後方の歩行者を検知すると、ブザーとナビゲーション画面上の表示により注意喚起を行います。

ナビゲーション画面



① 歩行者検知表示

車両後方の歩行者を検知すると、自動的に表示されます。

② RCD OFF 表示灯

RCD が OFF の時は、RCD OFF 表示灯が表示されます。

エンジンスイッチがイグニッション ON モードになるたび、RCD は ON になります。

システムを作動させるには

メーター操作スイッチを使って ON/OFF を切りかえます。（→ P. 89）

1 ∧ または ∨ を押して ⚙ を選択する

2 〈 または 〉 を押して RCD を選択し、OK を押す

RCD が OFF のときは、メーター上に RCD OFF 表示灯（→ P. 75）が点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

歩行者を検知した場合

車両後方エリアに歩行者がいる場合や、車両後方に向かって歩行者が接近してくるのをリヤカメラが検知した場合、下記のようにブザーとナビゲーション画面の歩行者検知表示で運転者に注意を促します。

① 歩行者が①エリアにいる場合

ブザー：繰り返し吹鳴

歩行者検知表示：3 回点滅後、点灯

② 歩行者が②エリアにいる場合

ブザー（自車静止時）：3 回吹鳴

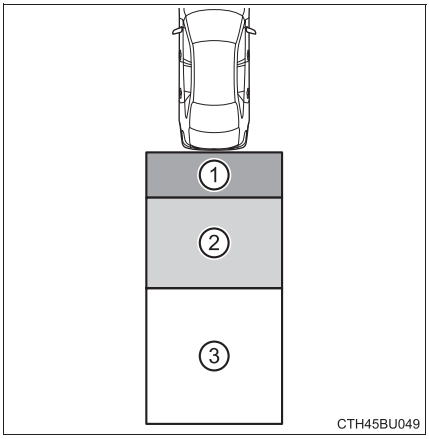
ブザー（自車移動時および歩行者接近時）：繰り返し吹鳴

歩行者検知表示：3 回点滅後、点灯

③ ③エリアにいる歩行者と自車が、接触する可能性があるとシステムが判断した場合

ブザー：繰り返し吹鳴

歩行者検知表示：3 回点滅後、点灯



知識

■**作動条件**

●エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

●RCD が ON のとき

●シフトポジションが R にあるとき

■**ブザーの音量調整について**

マルチインフォメーションディスプレイの⚙からブザー音量を変更することができます。（→ P. 338）
RCD のブザー音は RCTA のブザー音と連動します。

■**マルチインフォメーションディスプレイに「リヤカメラ検知現在使用できません レンズの汚れを除去してください」が表示されたときは**

リヤカメラのレンズに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。リヤカメラのレンズの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。場合によっては、汚れを取り除いた後も、復帰までに一定距離の走行を必要とすることがあります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「リヤカメラ検知 現在使用できません」が表示されたときは

●バッテリー脱着後などに表示された時は、ハンドルを左右いっぱいに回してください。

●シフトポジションがR時のみ表示される場合は、リヤカメラのレンズに汚れが付着している可能性があります。汚れを取り除いてください。

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば、次のような人はカメラが正しく検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

・前かがみになっている、またはしゃがんでいる人
・寝転んでいる人
・走っている人
・自車や建物の影から突然現れる歩行者
・自転車やスケートボード等に乗っている人
・合羽やロングスカートなどを着ていて、全身の輪郭があいまいな歩行者
・カートや荷物、傘等により体の一部が隠れている歩行者
・夜間の歩行者や周囲の色とよく似た色の服装の歩行者

●例えば、次のような状況ではカメラが対象となる歩行者を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

・悪天候（雨、雪、霧等）
・レンズに汚れ（泥、融雪剤等）や傷があるとき
・強い光がカメラに直接あたっているとき
・明暗差があるとき（ガレージや地下駐車場の開いたシャッター付近等）
・夜間（日没後）や薄暗い駐車場

●例えば、次のようなものに対しては、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。

・立体物（柱、パイロン、フェンス、駐車車両等）
・移動物（通行車両、バイク等）
・動いている物（旗、排気ガス、大粒の雨や雪、路面の雨水等）
・路面に模様があるとき（白線、横断歩道、石畳、路面電車のレール、補修痕、落ち葉、砂利等）
・グレーチングや側溝
・水たまりや濡れた路面への物体の映り込み
・段差
・影

●例えば、次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。

・路肩や段差があるとき
・車両姿勢が大きく傾いたとき（積載、急ブレーキなど）
・勾配変化があるとき
・ローダウンサスペンションや純正と異なる径のタイヤ等を取り付けているとき
・車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウン）
・リヤカメラ付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート、フォグランプ等）を取り付けているとき
・リヤバンパーに市販の保護パーツ(バンパートリム等)を取り付けているとき
・カメラの位置や向きがずれているとき
・けん引フックを取り付けているとき
・カメラレンズ上に水滴が流れているとき
・カメラが汚れているとき（泥、融雪剤等）
・点滅する光源があるとき（ハザードランプ等）

●検知を妨げる状況

・オーディオの音量が大きい場合や周囲が騒がしい場合、ブザーの警報音が聞こえない場合があります。
・高温／低温環境では、ディスプレイの表示が見にくい場合があります。

PKSB（パーキングサポートブレーキ）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ制御で作動対象との衝突被害の軽減に寄与するシステムです。壁などの静止物を検知するパーキングサポートブレーキ（静止物）、後退時に後方接近車両を検知するパーキングサポートブレーキ（後方接近車両）、後方歩行者を検知するパーキングサポートブレーキ（後方歩行者）があります。

◆ パーキングサポートブレーキ（静止物）

→ P. 353

◆ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）★

→ P. 361

◆ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）★

→ P. 367

システムを作動させるには

パーキングサポートブレーキ（静止物）、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）を一括でON/OFF します。

メーター操作スイッチを使って ON/OFF を切りかえます。（→ P. 89）

1 ∧ または ∨ を押して ⚙ を選択する

2 〈 または 〉 を押して を選択し、OK を押す

PKSB システムを OFF した場合、PKSB OFF 表示灯（→ P. 75）が点灯します。

OFF（停止）に切りかえて、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ から を ON（作動）にし、システム作動状態にしないと PKSB（パーキングサポートブレーキ）は復帰しません（エンジンスイッチの操作では復帰しません）。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、ナビゲーション画面、マルチインフォメーションディスプレイおよびヘッドアップディスプレイ★にメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

● エンジン出力抑制制御作動中（加速制限制御）

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

ナビゲーション画面表示：表示なし

マルチインフォメーションディスプレイ表示：「加速抑制中です」

ヘッドアップディスプレイ表示：表示なし

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴あり

● エンジン出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

ナビゲーション画面表示：「ブレーキ！」

マルチインフォメーションディスプレイ表示：「ブレーキ！」

ヘッドアップディスプレイ表示：「ブレーキ！」

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：ポーン（単発音）

● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

ナビゲーション画面表示：「ブレーキ！」

マルチインフォメーションディスプレイ表示：「ブレーキ！」

ヘッドアップディスプレイ表示：「ブレーキ！」

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：ポーン（単発音）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

ナビゲーション画面表示：「ブレーキを踏んでください」

マルチインフォメーションディスプレイ表示：「アクセルが踏まれています ブレーキを踏み直してください」
アクセルが踏まれていない場合は「ブレーキを踏んでください」が表示されます。

ヘッドアップディスプレイ表示：「ブレーキを踏み直してください」
アクセルが踏まれていない場合は「ブレーキを踏み続けてください」が表示されます。

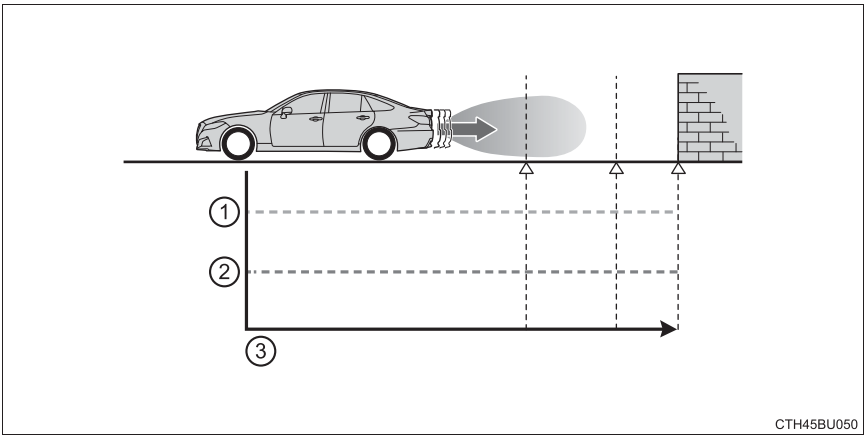
PKSB OFF 表示灯：点灯

ブザー：ポーン（単発音）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物、後方接近車両や後方歩行者）を検知したとき、エンジンの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます（エンジン出力抑制制御：図 2）。また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます（ブレーキ制御：図 3）。

● 図 1（PKSB（パーキングサポートブレーキ）非作動時）

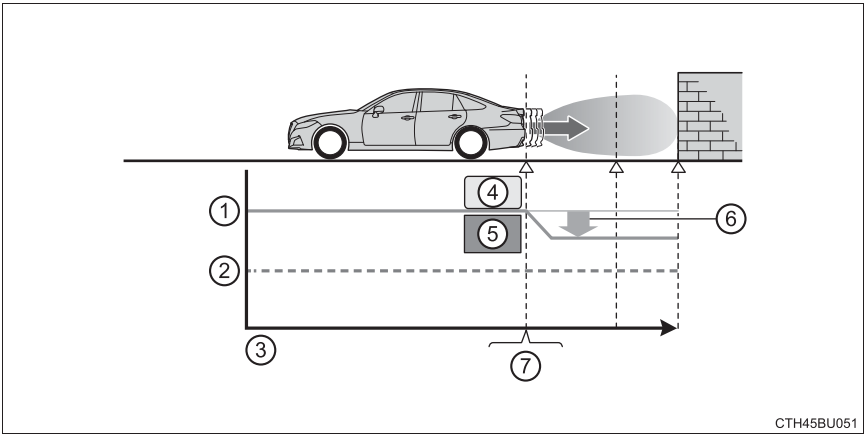


① エンジン出力

② 制動力

③ 時間

● 図２（エンジン出力抑制制御時）



①エンジン出力

②制動力

③時間

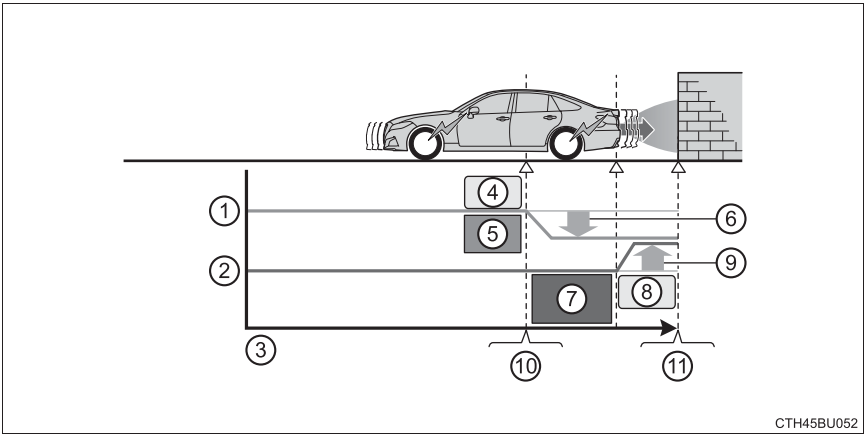
④エンジン出力抑制制御開始

⑤作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき

⑥エンジン出力を抑える

⑦例：マルチインフォメーションディスプレイ表示「ブレーキ！」

● 図 3（エンジン出力抑制制御かつブレーキ制御時）



① エンジン出力

② 制動力

③ 時間

④ エンジン出力抑制制御開始

⑤ 作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき

⑥ エンジン出力を抑える

⑦ 作動対象と衝突の可能性が非常に高いとシステムが判断したとき

⑧ ブレーキ制御開始

⑨ ブレーキ制御を上げる

⑩ 例：マルチインフォメーションディスプレイ表示「ブレーキ！」

⑪ 例：マルチインフォメーションディスプレイ表示「アクセルが踏まれています ブレーキを踏み直してください」

知識

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止して、PKSB OFF 表示灯が点灯します。また、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した場合でもブレーキ制御は 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）の復帰について

システム作動により PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止したあとに、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を復帰させたい場合は、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を再度 ON にする（→ P. 346）か、エンジンスイッチをいったん OFF にしてから、再度イグニッション ON モードにしてください。
また、次の状況でも自動的に PKSB（パーキングサポートブレーキ）が復帰し、PKSB OFF 表示灯が消灯します。

- シフトポジションを P にした
- 進行方向の作動対象がなくなった状態で車両を走行させた
- 車両の進行方向が切りかわった ※

※ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）を除く

■マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ現在使用できません」が表示され、PKSB OFF 表示灯が点滅したときは

- センサー部に氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、作動対象を検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。
- シフトポジションがR時のみ表示される場合は、リヤカメラの汚れを取り除いてください。シフトポジションが R 時以外も表示される場合は、クリアランスソナーセンサーのバンパー周辺の汚れを取り除いてください。
- センサーの汚れを取り除いても表示が出るとき、センサーが汚れていなくても表示がでるときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- バッテリーを脱着したあとにシステムの初期化がされていないことが考えられます。システムの初期化を行ってください。初期化を行っても表示が消えない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。約 35km/h 以上の車速で 5 秒以上直進走行することで初期化できます。また、車両停止状態でハンドルを左右いっぱいに回してください。

警告

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）を安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。

●PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。

注意

■マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ現在使用できません」が表示され、PKSB OFF 表示灯が点滅したときは

エンジンスイッチをイグニッション ON にした直後に、上記表示が出ることがあります。その場合は周囲を確認しながら注意して走行してください。一定距離の走行で使用可能となりますが、使用できない場合は安全な場所に車を停止し、カメラレンズの汚れを取り除いてください。

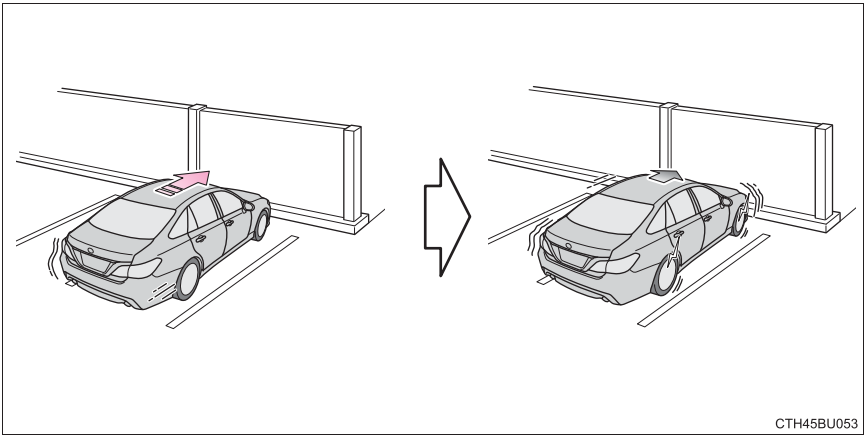
パーキングサポートブレーキ（静止物）

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトレバーの入れ間違いによる発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

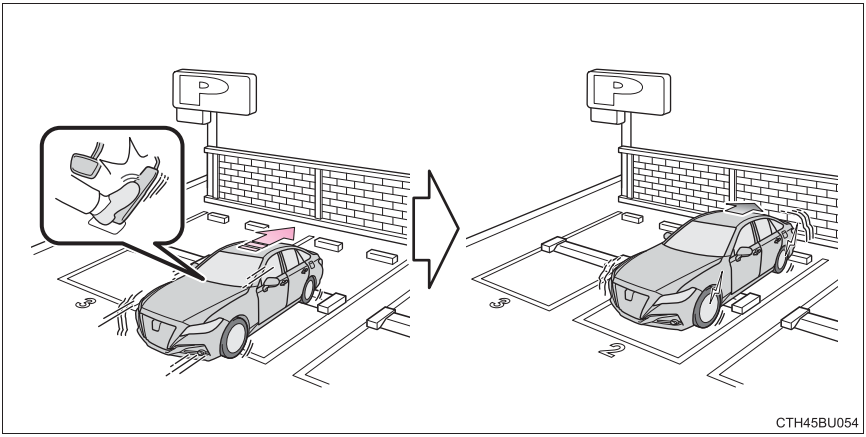
システム作動例

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

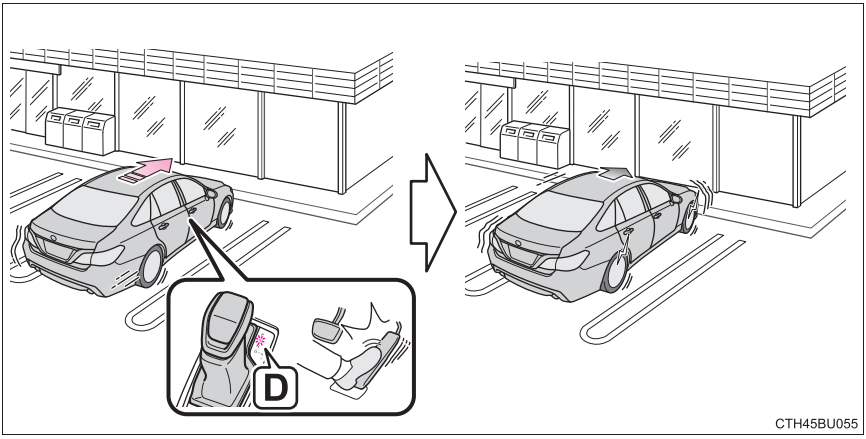
■ 低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



■ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



■ 誤ってシフトレバーを D に入れ前進してしまったとき



センサーの種類

→ P. 322

知識

■パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→ P. 73, 75）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●エンジン出力抑制制御

・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
・車速が 15km/h 以下
・車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（2 ～ 4m 先まで）
・衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御

・エンジン出力抑制制御作動中
・衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●エンジン出力抑制制御

・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（2 ～ 4m 先まで）

●ブレーキ制御

・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（2 ～ 4m 先まで）

■パーキングサポートブレーキ（静止物）の復帰について（→ P. 351）

■パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→ P. 331）とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（静止物）は作動を開始していない場合があります。

■パーキングサポートブレーキ（静止物）が検知しないおそれのある作動対象について

次のようなものは、センサーが検知しない場合があります。

●歩行者

●綿、雪など音波を反射しにくいもの

●地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凸凹なもの、波打っているもの

●背の低いもの

●針金、フェンス、ロープ、標識の支柱などの細いもの

●バンパーに非常に近いもの

●鋭角的な形のもの

●背が高く上部が張り出しているもの

■クリアランスソナーのブザーについて

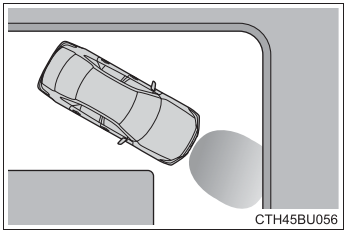
クリアランスソナーの ON/OFF に関係なく（→ P. 324）、パーキングサポートブレーキ（静止物）を停止させていなければ（→ P. 346）、前側センサーまたは後側センサーが作動対象を検知してブレーキ制御とエンジン出力抑制制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、作動対象とのおよその距離をお知らせします。

■衝突の可能性がなくてもパーキングサポートブレーキ（静止物）のシステムが作動する状況

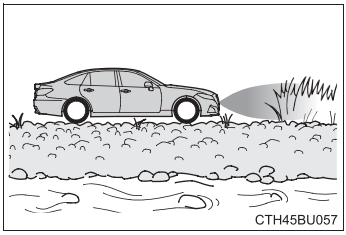
次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

●周辺環境の影響

・狭い道路を走行するとき



・砂利道・草むらなどを走行するとき



・垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETC のバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
・道路脇に構造物があったとき（狭いトンネル・狭い鉄橋・狭い道路などを走行したとき）
・縦列駐車時
・地面にわだちや穴がある場合
・排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
・急な登坂路や降坂路を走行するとき
・冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき

●天候の影響

・センサーに氷、雪、泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
・どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
・霧、雪、砂嵐などの悪天候の状況
・風が強いとき

●他の音波の影響を受けたとき

・他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
・センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート＜特に蛍光灯タイプ＞・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けているとき

●車両の変化

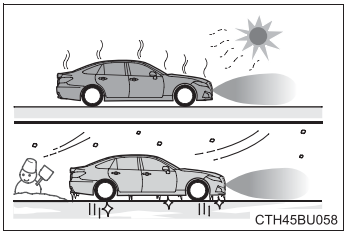
・車両姿勢が大きく傾いたとき
・積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・衝突などで、センサーの方向ズレが発生したとき

■パーキングサポートブレーキ（静止物）のシステムが正常に作動しないおそれのある状況

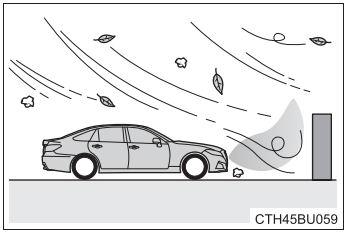
次のような状況では、システムが正常に作動しない場合があります。

●天候の影響

・炎天下や寒冷時でセンサー周辺部が著しく高温または低温の場合



・風が強いとき



・センサーに氷、雪、泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
・どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
・霧、雪、砂嵐などの悪天候の状況
・センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）

●周辺環境の影響

・作動対象物と車両のあいだに、検知できない対象物がある場合
・車、二輪車、自転車、歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき
・背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
・凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
・センサーに静止物が近づきすぎたとき

●他の音波の影響

・他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
・センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート＜特に蛍光灯タイプ＞･フォグランプ･フェンダーポール･無線アンテナなど）を取り付けたとき

●車両の変化

・車両姿勢が大きく傾いたとき
・積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・衝突などで、センサーの方向ズレが発生したとき
・バンパプロテクター、バンパトリム、サイクルキャリア、除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき
・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤ等を取り付けたとき
・センサーにペイントやステッカーなどを貼ったとき

警告

■パーキングサポートブレーキ（静止物）のシステムを正しく作動させるために

センサー（→ P. 322）について、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●改造・分解・塗装などをしない

●純正品以外に交換しない

●センサー周辺へ衝撃を与えない

●センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておく

■サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、センサーが作動対象物を正しく検知できなくなり、システムが正しく作動しなくなるおそれがあり危険です。サスペンションの改造はしないでください。

警告

■万一、踏切内などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が誤って作動したときは

万一、踏切内などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が誤って作動しても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、そのまま前進することで脱出できます。また、ブレーキペダルを踏むことで、ブレーキ制御は解除されるため、再度アクセルペダルを踏むことで前進し、脱出できます。

■洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

■パーキングサポートブレーキ（静止物）を OFF にするとき

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- けん引フックを取り付けた場合
- 洗車機を使用する場合

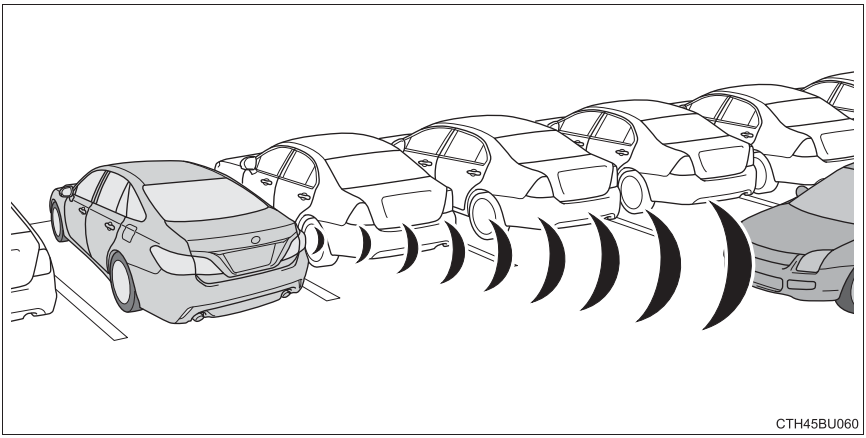
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）★

レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、システムが衝突の危険性があると判断した場合にブレーキ制御をすることで、接近車両への衝突を緩和し衝突被害軽減に寄与します。

システム作動例

次のようなときに進行方向の車両を検知してシステムが作動します。

■ **後退時、近接車両接近中にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき**



センサーの種類

→ P. 321

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→ P. 73, 75）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●エンジン出力抑制制御

・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
・車速が 15km/h 以下
・後側方から接近する車両の車速が 8km/h 以上
・シフトポジションが R のとき
・接近車両への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御

・エンジン出力抑制制御作動中
・接近車両への衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●エンジン出力抑制制御

・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
・自車後側方への接近車両がなくなったとき

●ブレーキ制御

・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
・自車後側方への接近車両がなくなったとき

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の復帰について（→ P. 351）

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の検知範囲は、RCTA の検知範囲（→ P. 337）とは異なります。そのため、RCTA が障害物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）は作動を開始していない場合があります。

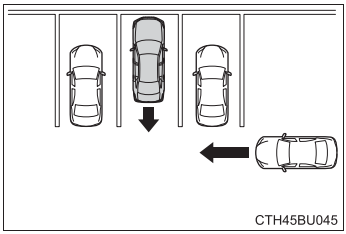
■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）が検知しない車両について

次のような車両や車両以外のものは検知対象としません。

●真後ろから接近する車両

●自車の隣の駐車スペースで後退する車両

●障害物のためにセンサーが検知できない車両



●自車近くで急加速または急減速した車両

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物

●小型の二輪車、自転車、歩行者など

●自車から遠ざかる車両

●自車の隣の駐車スペースから接近する車両

●レーダーセンサーと接近物との距離が近すぎる場合

●自車後側方から接近車両の速度が約 8km/h 未満のとき

●自車後側方から接近車両の速度が約 24km/h より大きいとき

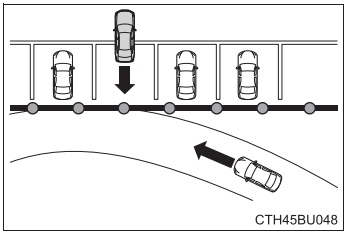
■RCTA のブザーについて

RCTA の ON/OFF に関係なく（→ P. 336）、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させていなければ（→ P. 346）、ブレーキ制御が作動すると、ブザーが鳴り注意喚起をおこないます。

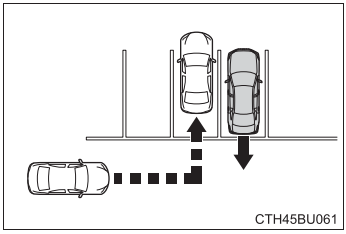
■衝突の可能性がなくてもパーキングサポートブレーキ（後方接近車両）のシステムが作動する状況

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

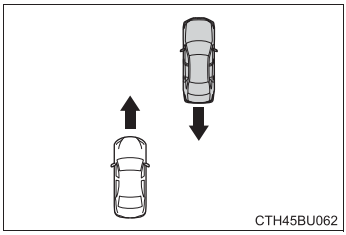
●駐車場に面した道を車両が走行しているとき



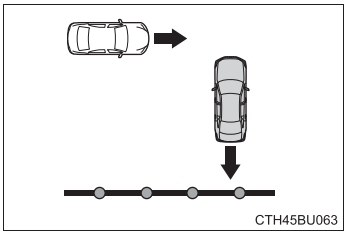
●自車近くで旋回していく移動物が存在するとき



●自車の横を車両が通過するとき



●車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき



●自車近くに室外機などの回転体が存在するとき

●センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）のシステムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、レーダーセンサーが作動対象を正しく検知せず、システムが正常に作動しない場合があります。

●作動対象が停止しているとき

●炎天下や寒冷時

●リヤバンパーに氷、雪、泥などが付着したとき

●リヤバンパーに大雨や水しぶきが掛ったとき

●車両姿勢が大きく傾いたとき

●レーダーセンサー付近にけん引フック、バンパプロテクター、バンパトリム、サイクルキャリア、除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき

●ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤ等を取り付けたとき

●車高が極端に変化している場合（ノーズアップ、ノーズダウン等）

●レーダーセンサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート、フォグランプ、フェンダーポール、無線アンテナ等）を取り付けたとき

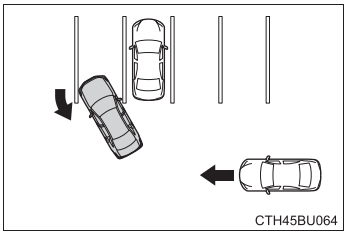
●レーダーセンサーの位置や向きがずれているとき

●複数台の車両が狭い間隔で連続で接近するとき

●車両が高速で接近するとき

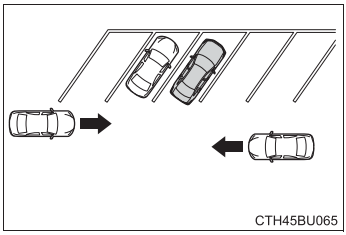
●レーダーセンサーが検知しない可能性がある状況または作動対象

・自車角度がついた場合等、後方付近からの接近車両

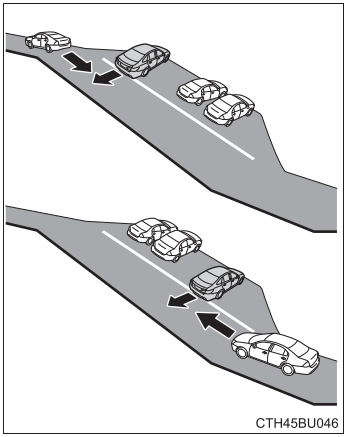

CTH45BU064

・自車が旋回しているとき

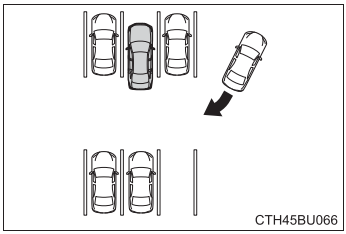
・斜めの駐車場から出庫するとき


CTH45BU065

・勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



・旋回しながら車両が近づいてきた場合



警告

■**レーダーセンサーについて**

レーダー（→ P. 321）について、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、レーダーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●改造・分解・塗装などをしない

●純正品以外に交換しない

●レーダー周辺へ衝撃を与えない

●レーダーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておく

●レーダー周辺に衝撃を受けたときは、センサーの故障などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

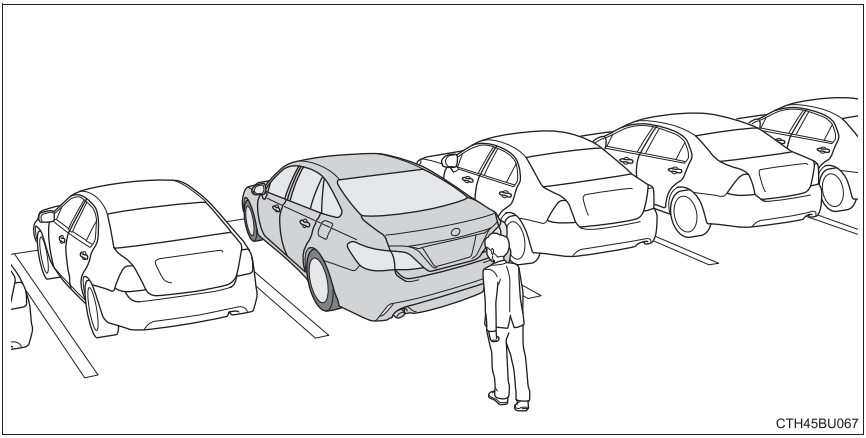
●レーダーセンサーの取り扱い（→ P. 321）をお守りください。

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）★

車両後退時、リヤカメラが検知した車両後方にいる歩行者と接触する可能性が高いとシステムが判断した場合は、警報やブレーキ制御により、後方歩行者との衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与します。

システム作動例

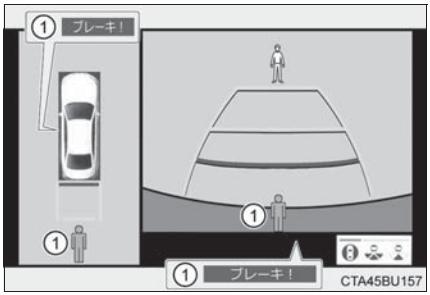
後退時、歩行者が車両後方に接近中、ブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったときにシステムが作動します。



ナビゲーション画面

車両後方の歩行者を検知すると自動的に表示され、回避操作を促します。マルチインフォメーションディスプレイにも同様に表示されます。

① 歩行者検知表示とブレーキ表示



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→ P. 73, 75）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●エンジン出力抑制制御

・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
・車速が 15km/h 以下
・シフトポジションが R のとき
・システムが自車後方の歩行者を検知し、衝突する可能性があるとシステムが判断したとき

●ブレーキ制御

・エンジン出力抑制制御作動中
・後方歩行者との衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●エンジン出力抑制制御

・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
・後方歩行者がいなくなった、または検知できなくなったとき

●ブレーキ制御

・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
・後方歩行者がいなくなった、または検知できなくなったとき

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の復帰について（→ P. 351）

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲は、RCD の検知範囲（→ P. 343）とは異なります。そのため、RCD が障害物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば、次のような人はカメラが正しく検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

・前かがみになっている、またはしゃがんでいる人
・寝転んでいる人
・走っている人
・自車や建物の影から突然現れる歩行者
・自転車やスケートボード等に乗っている人
・合羽やロングスカートなどを着ていて、全身の輪郭があいまいな歩行者
・カートや荷物、傘等により体の一部が隠れている歩行者
・夜間の歩行者や周囲の色とよく似た色の服装の歩行者

●例えば、次のような状況ではカメラが対象となる歩行者を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

・悪天候（雨、雪、霧等）
・レンズに汚れ（泥、融雪剤等）や傷があるとき
・強い光がカメラに直接あたっているとき
・明暗差があるとき（ガレージや地下駐車場の開いたシャッター付近等）
・夜間（日没後）や薄暗い駐車場

●例えば、次のようなものに対しては、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。

・立体物（柱、パイロン、フェンス、駐車車両等）
・移動物（通行車両、バイク等）
・動いている物（旗、排気ガス、大粒の雨や雪、路面の雨水等）
・路面に模様があるとき（白線、横断歩道、石畳、路面電車のレール、補修痕、落ち葉、砂利等）
・グレーチングや側溝
・水たまりや濡れた路面への物体の映り込み
・段差
・影

●例えば、次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。

・路肩や段差があるとき
・車両姿勢が大きく傾いたとき（積載、急ブレーキなど）
・勾配変化があるとき
・ローダウンサスペンションや純正と異なる径のタイヤ等を取り付けているとき
・車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウン）
・リヤカメラ付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート、フォグランプ等）を取り付けているとき
・リヤバンパーに市販の保護パーツ(バンパートリム等)を取り付けているとき
・カメラの位置や向きがずれているとき
・けん引フックを取り付けているとき
・カメラレンズ上に水滴が流れているとき
・カメラが汚れているとき（泥、融雪剤等）
・点滅する光源があるとき（ハザードランプ等）

警告

■万一、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）が誤って作動したときは

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）作動後はすぐにブレーキを踏んでください（ブレーキを踏むとシステムは解除されます）。

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）を正しくお使いいただくために

システムを過信しないでください。道路状況、車両状態および天候状態などによっては作動しない場合があります。リアカメラの検知性能には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

また、メーター内にあるインジケーターが点滅、およびカメラ画像上に使用できないことをお知らせするメッセージが表示されている場合はシステムが使用できませんが、お知らせがない場合でも、システムを過信せず必ず周囲の安全を確認しながら運転してください。

インテリジェントパーキングアシスト2★

インテリジェントパーキングアシスト2について

■ 機能概要

インテリジェントパーキングアシスト2は、画面表示や音声、ブザー音による操作案内および、ハンドル操作を自動で行うことにより、画面上で確認した目標駐車位置付近への後退駐車や縦列駐車からの出庫を補助するシステムです（シフトレバー操作、および前進・後退時の速度調整は自動で行いません）。

また、パノラミックビューモニターで、車両前方や車両後方、車両上方の映像を表示することにより、車両周辺の確認を補助します。パノラミックビューモニターについては、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

- インテリジェントパーキングアシスト2は自動駐車装置ではありません。後退駐車や縦列駐車からの出庫を行うための補助装置です。
- 設定した目標駐車位置付近に向けハンドル操作をアシストするシステムのため、駐車時の路面や自車の状況・目標駐車位置までの距離などにより、設定した目標駐車位置に到達できない場合があります。

■ パーキングサポートブレーキについて

インテリジェントパーキングアシスト2が作動しているときは、パーキングサポートブレーキの ON/OFF に関係なく、システムが衝突の可能性がある障害物を感知したとき、パーキングサポートブレーキのエンジン出力抑制制御・ブレーキ制御が作動します。（→ P. 373）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

- 後退または前進するときは、必ず車両の後方や前方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退または前進してください。
- 周辺の車両や障害物、人などに接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、IPA スイッチ（→ P. 374）を押してシステムを解除してください。
- カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります（詳しくは、「ナビゲーションシステム取扱書／周辺監視／パノラミックビューモニター」を参照してください）。
- インテリジェントパーキングアシスト 2 はシステムで停車を行いません。目標駐車位置および切返し位置では、ブレーキペダルを踏んで停車してください。
- 低い障害物（縁石やブロックなど）は検知できないことがあるため、周囲の安全を直接確認し、接触のおそれがある場合は、ブレーキペダルを踏んで停車してください。

インテリジェントパーキングアシスト 2 のアシストモードと機能一覧

アシストモード	駐車種類	機能	機能概要	参照ページ
車庫入れアシストモード	並列駐車	バック駐車機能	後退開始位置からアシストを開始し、目標駐車位置までアシストを行います。 また、認識した駐車区画から目標を選択・変更できます。	P. 380
		前進誘導機能	目標駐車位置の正面に停車した状態からアシストを開始し、後退開始位置への案内を含めたバック駐車アシストを行います。	P. 379
縦列駐車アシストモード	縦列駐車	縦列駐車機能	目標駐車位置の検出と後退開始位置を案内し、後退からアシストを開始し、目標駐車位置までアシストを行います。	P. 389
縦列出庫アシストモード	縦列出庫	縦列出庫機能	縦列駐車状態からアシストを開始し、駐車スペースから出られる位置までアシストを行います。	P. 397

知識

■インテリジェントパーキングアシスト 2 作動中のパーキングサポートブレーキについて

インテリジェントパーキングアシスト 2 作動中は、パーキングサポートブレーキの ON/OFF（→ P. 346）に関係なく、システムが衝突の可能性がある障害物を感知したとき、パーキングサポートブレーキのエンジン出力抑制制御・ブレーキ制御が作動します。

●パーキングサポートブレーキ作動後はインテリジェントパーキングアシスト 2 の作動を一時的に中止し、パーキングサポートブレーキの作動がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。（→ P. 347）

●パーキングサポートブレーキが解除されたあと、インテリジェントパーキングアシスト 2 が作動可能な場合は、マルチインフォメーションディスプレイにシフト操作を促すメッセージが表示されます。マルチインフォメーションディスプレイの表示に従いシフトレバーを操作し、再度 IPA スイッチ（→ P. 374）を押すことでインテリジェントパーキングアシスト 2 の作動を継続できます。

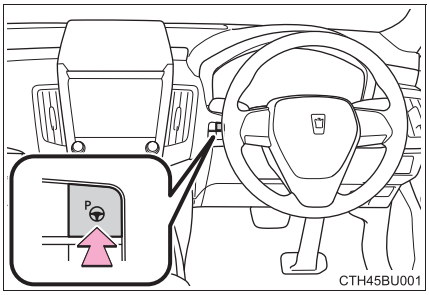
●パーキングサポートブレーキの作動による中止が 3 回発生した場合、インテリジェントパーキングアシスト 2 の作動を解除します。

アシストモードの切りかえ

■ IPA スイッチによる切りかえ

スイッチを押す

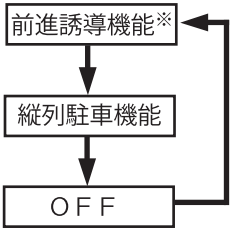
機能の切りかえ、アシストモードの中止／再開ができます。



エンジンスイッチがイグニッション ON モード、シフトレバーが P、R 以外で車速が約 30km/h 以下のとき、IPA スイッチを押すごとに、次のように機能が切りかわります。

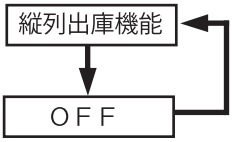
選択中の機能がマルチインフォメーションディスプレイの作動表示部（→ P. 375）に表示されます。

▶ シフトレバーが P 以外で IPA スイッチを押したとき



※ 前進誘導機能の作動条件（→ P. 386）を満たしたときに切りかえできます。作動条件を満たしていない場合は、縦列駐車機能に切りかわります。

▶ シフトレバーが P で IPA スイッチを押したとき



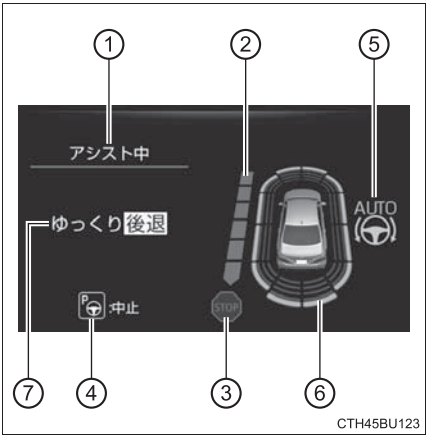
■ シフトレバー操作による機能の切りかえ（リバース連動機能 ON 時）

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき、シフトレバーを R にすると、バック駐車機能に切りかわります。

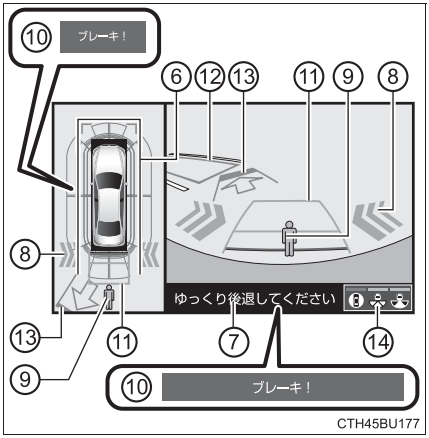
ガイド画面について

マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーション画面にガイド画面が表示されます。

▶ マルチインフォメーションディスプレイ表示



▶ ナビゲーション画面



① 作動表示部

インテリジェントパーキングアシスト 2 の作動状態を示します。

② アシスト段階表示

車両停止位置・アシスト終了位置まで の段階を目盛りの数で表示します。

③ ストップ表示

点灯したときは、すみやかにブレーキ ペダルを踏んで車両を停止してください。

④ IPA スイッチアイコン

IPA スイッチを操作することでアシストモードの切りかえができます。また、システムの中止／再開ができるときに表示されます。

⑤ ハンドル AUTO 操作表示

ハンドルの自動操作が作動しているとき表示されます。

⑥ クリアランスソナー表示

→ P. 323

⑦ アドバイス表示

表示内容に従って操作を行ってください。画面の例では、「ブレーキペダルを踏んで車速を調整しながら、車両周辺の安全を確認してください」という内容をお知らせしています。

⑧ RCTA（リヤクロストラフィックアラート）表示

→ P. 336

⑨ RCD（リヤカメラディテクション）表示

→ P. 342

⑩ PKSB（パーキングサポートブレーキ）表示

→ P. 347

⑪ ガイド線

詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

⑫ 目標駐車枠

⑬ 切り返しの位置

⑭ 画面モード切りかえスイッチ

パノラミックビュー＆バックビュー／バックビュー／ワイドバックビューが切りかわります。詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

知識

■メーター内のインテリジェントパーキングアシスト2表示灯(→P. 75)について

インテリジェントパーキングアシスト2によるハンドルの自動操作が作動しているときに点灯します。制御が終了したときは、しばらく点滅したあとに消灯します。

■クリアランスソナーの割り込み表示について

インテリジェントパーキングアシスト 2 作動中は、クリアランスソナーの ON/OFF（→ P. 324）に関係なく、クリアランスソナーが障害物を感知すると、ガイド画面に自動的にクリアランスソナー表示が割り込み表示されます。（→ P. 323）

■音声案内について

システムの作動状態、運転者への操作案内を音声でお知らせします。

- 音量はナビゲーションシステムの設定に連動します。
- マルチインフォメーションディスプレイの⚙から音声案内の ON/OFF を設定できます。（→ P. 89）

■リバース連動機能（→ P. 385）を ON/OFF するには

マルチインフォメーションディスプレイの⚙からリバース連動機能の ON/OFF を設定できます。（→ P. 89）

アシストモードの中止・中断

次のときにアシストモードが中止または、中断されます。

▶アシストが中止されるとき
・画面を切りかえた
・システムの温度保護機能が働いた
・システム異常
・車庫入れアシストモードで目標駐車位置を確定せずに後退した
・システムがアシスト継続できない駐車環境と判断した

アシストが中止されたときは、ハンドルをしっかり持って、ブレーキペダルを踏んで車両を停車してください。
すでにシステムは中止されていますので、はじめからやり直すか、引き続き駐車するときは通常どおりハンドルを操作してください。

▶アシストが中断されるとき
・ハンドルを操作した
・アシスト中に車速が 7km/h をこえた
・パーキングサポートブレーキが作動した

アシストが中断されたときは、IPA スイッチを押すことでアシストを再開できます。

知識

■アシスト中に制限速度を超過しそうになったとき

ブザーが鳴り、制限速度をこえてしまう可能性があることをお知らせするアドバイスが表示されます。
アドバイスが表示されたときは、ただちにブレーキペダルを踏んで減速してください。減速しないまま加速し続けると、一定の速度をこえた時点でアシストが中断されます。
(→ P. 409)

CTH45BU211

並列駐車のしかた（車庫入れアシストモード）

■ 機能概要

車庫入れアシストモードは次の 2 つの機能があります。

▶ 前進誘導機能（→ P. 381）

目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、前進誘導機能を使用することができます。
また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

① 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、IPA スイッチを押して、車庫入れ駐車を選択

検出した駐車スペース、または道幅（駐車スペース向い側までの距離）が狭い場合は案内されません。

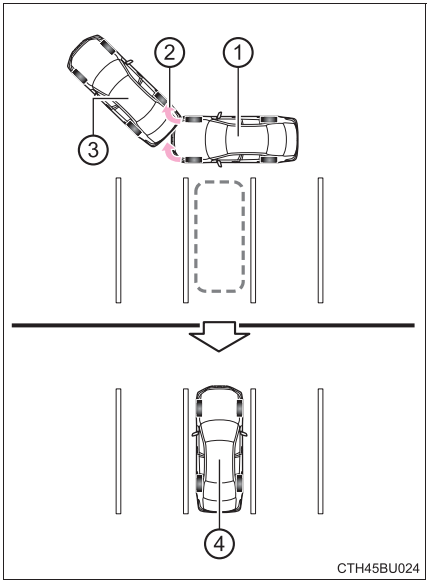
② ハンドルの自動操作が作動します。

③ 後退開始位置に着いたことを音により案内します。

④ 駐車完了

アシストモードが終了します。

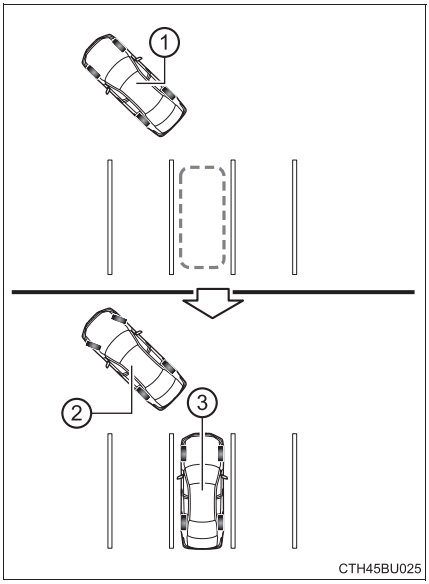
駐車スペースの状況により、③のあと後退を開始してから駐車完了までのあいだに、前進または後退方向への切り返しが必要な場合は、前進開始位置・後退開始位置の案内、およびハンドルの自動操作をくり返します。



▶ バック駐車機能（→ P. 385）

目標駐車位置の前方で停車し、シフトレバーを R にすると、バック駐車機能を使用することができます（リバース連動機能 ON 時）。
また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

駐車スペースに区画線があるときに使用できます。



① 目標駐車位置の前方で停止し、シフトレバーを R にする

リバース連動機能によりインテリジェントパーキングアシスト2が作動します。

② トヨタマルチオペレーションタッチでお好みの駐車スペースを選択する

目標駐車位置を確定するとアシストが開始されます。

③ 駐車完了

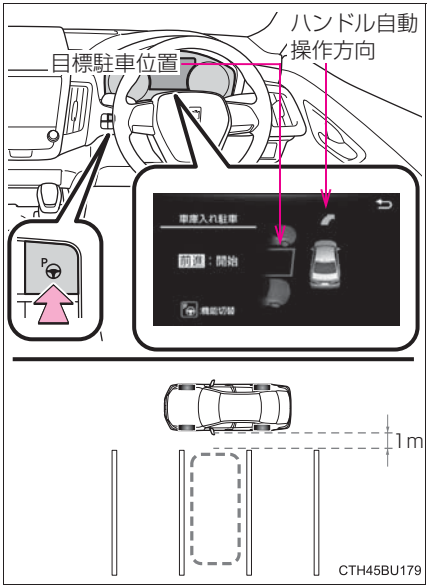
アシストモードが終了します。

駐車スペースの状況により、②でアシストを開始してから駐車完了までのあいだに、前進または後退方向への切り返しが必要な場合は、前進開始位置・後退開始位置の案内、およびハンドルの自動操作をくり返します。

■ 前進誘導機能を使用して駐車する

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で車両を停車し、IPA スイッチを押し、マルチインフォメーションディスプレイの表示が「車庫入れ駐車」に切りかわったことを確認する

前進誘導機能に切りかわると**「前進誘導モードです 前進するとアシストを開始します」**と音声が出力されます。

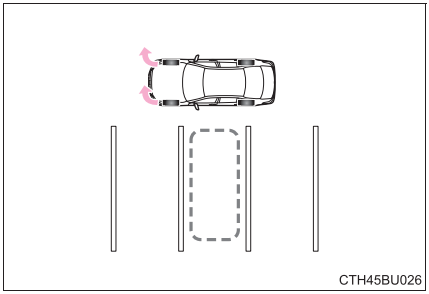


- 表示内のハンドル自動操作方向の矢印の向き、および目標駐車位置を確認してください。
- IPA スイッチを、押すごとにモードが切りかわります。（→ P. 374）
- シフトレバーが D※ 以外、または車速が検知されたときは、IPA スイッチを押しても車庫入れ駐車の表示には切りかわりません。

※ D は M ポジションを含みます。

- 方向指示レバー（→ P. 209）を操作して車両の左右いずれか駐車したい方向を選択できます。
- 駐車スペースが狭い場合や、アシストに十分なエリアがない場合はシステムを使用できません。マルチインフォメーションディスプレイの表示内容を参考に別の駐車スペースで使用してください。

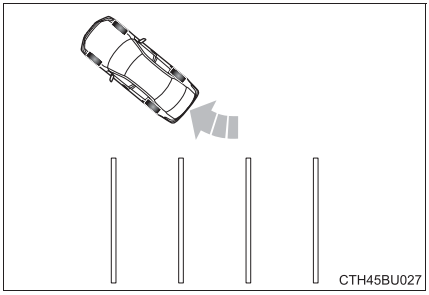
2 通常の運転操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、前方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり前進すると**「“ピー” 」**という音が鳴り、メーター内のインテリジェントパーキングアシスト 2 表示灯が点灯し、アシストが開始されます。



- ハンドルの自動操作が開始されると、表示内にハンドル AUTO 操作表示（→ P. 375）とアシスト段階表示（→ P. 375）が表示されます。
- アシストを中止するには、IPA スイッチを押します。

  アシストが中止されると**「“ピピッ” アシストを中止します」**と音声が出力されます。
- 車速が速すぎると、**「“ピピッ” アシストを中止します アシストを再開する場合は IPA スイッチを操作します」**と音声が出力され、アシストが中断されます。
- 制限車速が超過しそうになったときは、**「“ポーン” “ポーン” 」**という音が鳴り、制限速度をこえてしまう可能性があることをお知らせするアドバイスが表示されます。（→ P. 378）
- アシスト開始時にスペースが狭かった場合、**「“ピピッ” アシストを中止します」**と音声が出力され、アシストが中断されます。

3 **「“ポーン” 」**という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 375）が点灯したらブレーキペダルを踏んで停車する

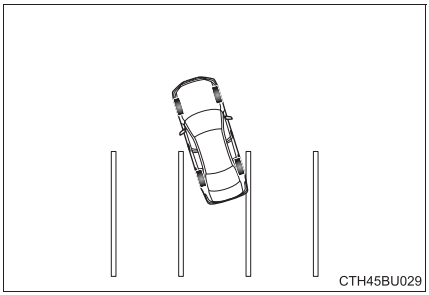


4 **「シフトをリバースにしてください」**と音声が出力されたらシフトレバーを R にする

5 **「ゆっくり後退してください」**と音声が出力されたら通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退する

▶ 目標駐車位置に一度で入りきらず、切り返しが必要な場合：手順 6 へ
切り返しが不要な場合は手順：12 へ（→ P. 384）

6 **「“ ポーン ”」**という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 375）が点灯したらブレーキペダルを踏んで停車する



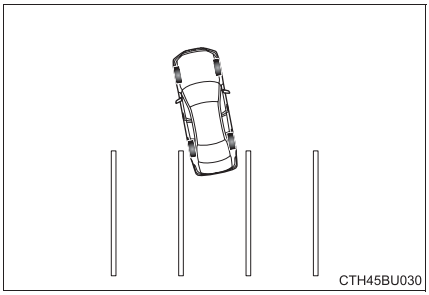
7 **「シフトをドライブにしてください」**と音声が出力されたらシフトレバーを D※ にする

※ D は M ポジションを含みます。

現在停車している位置でアシストを終了したい場合は、シフトレバーを P にしてください。

8 **「ゆっくり前進してください」**と音声が出力されたら通常の運転操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、前方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり前進する

9 **「“ ポーン ”」**という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 375）が点灯したらブレーキペダルを踏んで停車する



10 **「シフトをリバースにしてください」**と音声が出力されたら、シフトレバーを R にする

11 **「ゆっくり後退してください」**と音声が出力されたら通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退する

駐車スペースの状況により、手順6から11をくり返す場合があります。

12 車両がほぼ目標駐車位置に入り、**「“ピー”」**という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 375）が点灯したらブレーキペダルを踏んで停車する

車庫入れアシストモードが終了します。

- ブザーは安全のため、目標駐車位置より若干手前で出力されます。また、その時点でシステムの作動も終了するため、ハンドルをしっかり持ち、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながらゆっくり後退し、希望の位置に駐車します。
- 必ず目視やミラーで車両の前後を確認しながら後退してください。

■ バック駐車機能を使用して駐車する

リバース連動機能（→ P. 387）が ON のとき、シフトレバーを R にするとバック駐車機能が作動し、複数の駐車区画から目標を選択・変更することができます。

車庫入れアシストモードで使用できます。

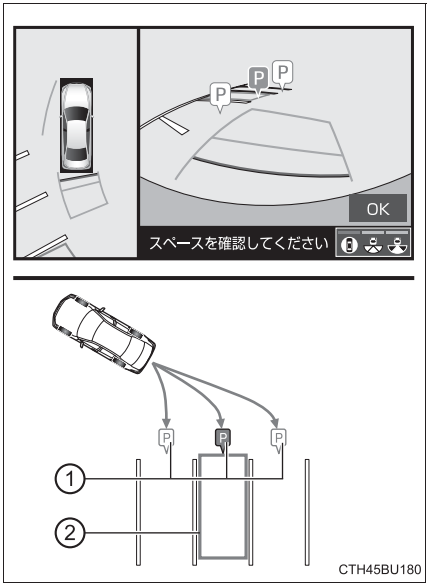
1 シフトレバーを R にする

「バック駐車モードです」と音声が出力され、駐車枠の候補が表示されます。

① 認識した駐車区画

現在選択されている駐車区画が青色で表示されます。

② 目標駐車枠

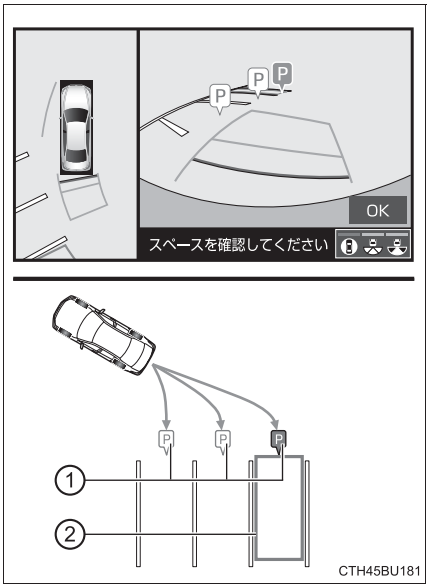


2 トヨタマルチオペレーションタッチで駐車区画を選択して、目標駐車位置を変更する

① 認識した駐車区画

現在選択されている駐車区画が青色で表示されます。

② 目標駐車枠



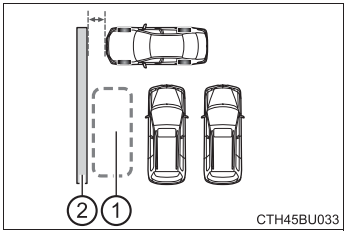
3 トヨタマルチオペレーションタッチで「OK」を選択して目標を確定すると、**「後退するとアシストを開始します」**と音声が出力されます。その後、ブレーキペダルから徐々に足を離しゆっくり後退すると、**「“ピー”」**という音が鳴りアシストが開始されます。

トヨタマルチオペレーションタッチで「OK」を選択したあとの手順は前進誘導機能を使用して駐車する手順の5以降と同様です。（→ P. 383）

知識

■車庫入れアシストモードの作動条件

- 機能を正しく作動させるために、ゆっくり（すぐに停車できる車速で）走行してください。
- 車両が移動しているときは、使用することができません。
- カメラでの白線認識により駐車場の区画線を検出し、駐車区画を特定しております。正常に検出できなかった場合（→ P. 411）は作動できません。
  ただし、前進誘導機能を使用するとき、目標駐車位置の隣に駐車車両や壁などが検知された場合は作動します。
- 前進誘導機能を使用するとき、駐車スペースの状況により、車両前方に駐車に必要なスペースがない場合は、目標駐車位置に到達できないことがあります。

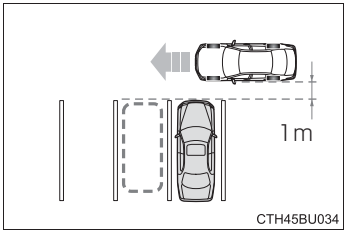


① 目標駐車位置

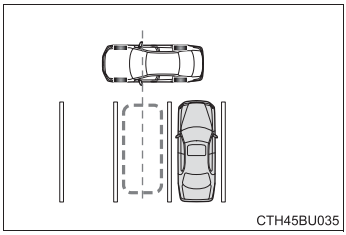
② 壁

■前進誘導機能を使用するときのコツ

1 駐車車両がある場合、駐車車両と約 1m 間隔をあけて目標駐車位置に近づいてください。
駐車車両との間隔があきすぎていると、フロントサイドセンサー・リヤサイドセンサーが駐車車両を検出できない場合があります。



2 目標駐車位置の中央が真横に見える位置で停車してください。
また、IPA スイッチを押すときは、車両が完全に停車した状態で押してください。



■バック駐車機能について

●検出した駐車区画が 1 つの場合は、目標駐車位置の選択・変更はできません。
●検出した駐車区画が複数の場合は、最も適した駐車区画を目標駐車位置としてシステムが選択します（最初にシフトレバーを R にしたときに選択されます）。

■リバース連動機能を ON/OFF するには

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ からリバース連動機能の ON/OFF を設定できます。（→ P. 89）

警告

低い障害物（縁石やブロックなど）は検知できないことがあるため、周辺の安全を直接確認し、接触のおそれがある場合はブレーキペダルを踏んで停車してください。

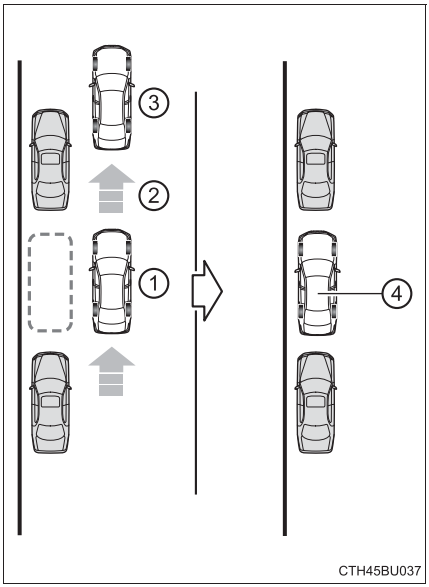
注意

- 青の枠が駐車車両にかかっているなど、目標駐車位置を誤認識している場合は、駐車位置を変更してください。
- 青の枠の中や自車と目標駐車位置との間に障害物がないことを必ず確認してください。青の枠の中や自車と目標駐車位置の間に障害物がある場合は、接触するため車庫入れアシストモードは使用しないでください。
- 路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では、車庫入れアシストモードは使用しないでください。
- 狭いスペースに駐車するときは隣接車両に接近します。接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車してください。
- 駐車車両など周辺の環境によって駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。必要に応じて手動で整列してください。

縦列駐車のしかた（縦列駐車アシストモード）

■ 機能概要

駐車スペースが検出できれば、アシスト開始位置までの前進を案内し、アシストを開始する縦列駐車アシストモードを使用することができます。
また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。



① 道路または路肩と平行にまっすぐ前進して目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で車両を停車し、IPA スイッチを 2 回押して、縦列駐車アシストモードを選択

② 道路または路肩と平行にまっすぐ前進し駐車スペースを検出

③ アシスト可能な後退開始位置に着いたことを音と表示により案内し、案内に従ってシフトレバーを切りかえ、移動を開始するとハンドルの自動操作が開始されます。

検出した駐車スペース、または道幅（駐車スペース向い側までの距離）が狭い場合は案内されません。

④ 駐車完了

アシストモードが終了します。

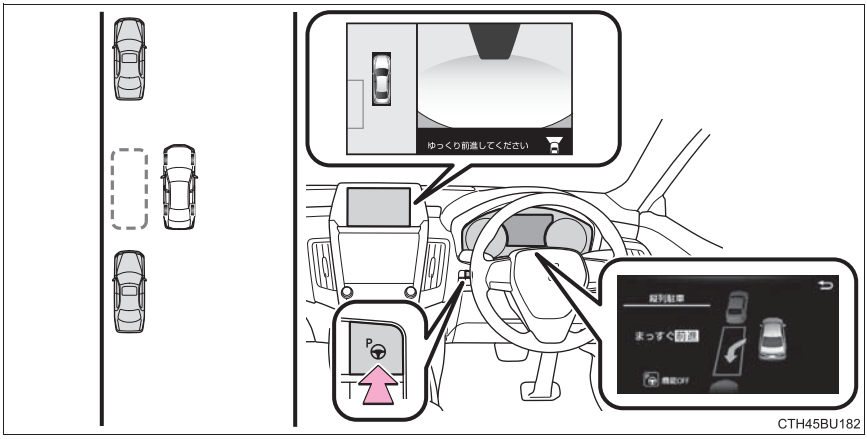
駐車スペースの状況により、③のあと後退を開始してから駐車完了までのあいだに、前進または後退方向への切り返しが必要な場合は、前進開始位置・後退開始位置の案内、およびハンドルの自動操作をくり返します。

■ 縦列駐車機能を使用して駐車する

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、IPA スイッチを 2 回押し、マルチインフォメーションディスプレイの表示が「縦列駐車」に切りかわったことを確認する

縦列駐車機能に切りかわると、**「縦列駐車モードです ゆっくり前進してください」**と音声が出力されます。

- IPA スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→ P. 374）
- 車速が約 30km/h 以上のときは、IPA スイッチを押しても「縦列駐車」の表示には切りかわりません。

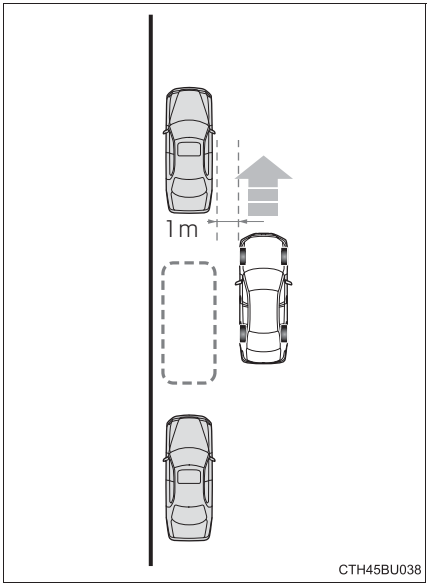


2 道路（または路肩）と平行で、駐車車両との間隔が約 1m の位置に車両を移動させ、まっすぐ前進する

- ゆっくり前進してください。
- 駐車スペースの探索が開始されます。

  スペース探索中に、方向指示レバー（→ P. 209）で車両左右の駐車スペースを選択できます。

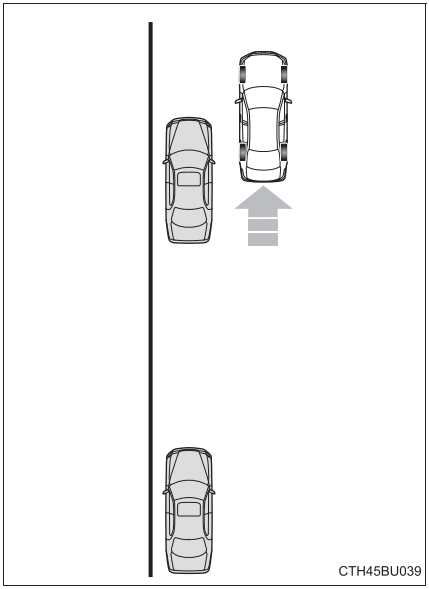
- 機能を中止する場合は、IPA スイッチを 1 回押して、機能を OFF にしてください。
- 駐車スペースを検出すると画面が切りかわります。



CTH45BU038

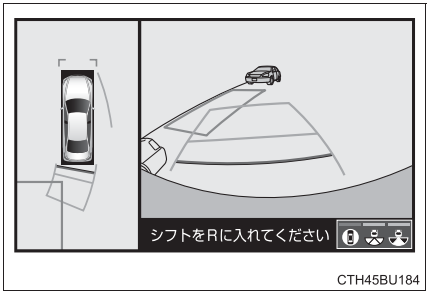
CTH45BU183

3 **「“ ポーン ”」**という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 375）が点灯したらブレーキペダルを踏んで停車する



4 **「後退するとアシストを開始します」**と音声が出力されたらシフトレバーを R にする

5 青の枠が駐車したい場所に合っていることを確認する



6 通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退すると**「“ ピー ”」**という音が鳴り、メーター内のインテリジェントパーキングアシスト 2 表示灯が点灯し、アシストが開始されます。

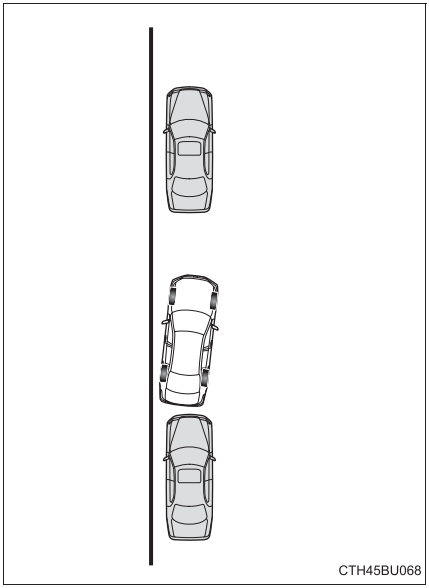
- ハンドルの自動操作が開始されると、表示内にハンドル AUTO 操作表示（→ P. 375）とアシスト段階表示（→ P. 375）が表示されます。
- アシストを中止するには IPA スイッチを押します。

  アシストが中止されると**「“ ピピッ ” アシストを中止します」**と音声が出力されます。

7 通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、駐車スペース内に障害物がないことを確認してから、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながらゆっくり後退する

- 後退車速が速すぎると、**「“ピピッ” アシストを中止します アシストを再開する場合は IPA スイッチを操作します」**と音声が出力され、アシストが中断されます。
- 画面に表示されている青の枠は自車の大きさとほぼ同じサイズで表示されます（目標駐車位置設定時に表示される青の枠は、一般的な路面の駐車枠の大きさで表示されます）。
- 目標駐車位置に一度で入りきらず、切り返しが必要な場合：手順 8 へ
  切り返しが不要な場合：手順 14 へ

8 **「“ポーン”」**という音が鳴り、表示内のストップ表示（→P. 375）が点灯したらブレーキペダルを踏んで停車する



9 **「シフトをドライブにしてください」**と音声が出力されたらシフトレバーを D※ にする

※ D は M ポジションを含みます。

現在停車している位置でアシストを終了したい場合は、シフトレバーを P にしてください。

10 **「ゆっくり前進してください」**と音声が出力されたら通常の運転操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、前方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり前進する

11 **「“ポーン”」**という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 375）が点灯したらブレーキペダルを踏んで停車する

12 **「シフトをリバースにしてください」**と音声が出力されたらシフトレバーを R にする

13 **「ゆっくり後退してください」**と音声が出力されたら通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退する

駐車スペースの状況により、手順 8 から 13 をくり返す場合があります。

14 車両がほぼ目標駐車位置に入り、**「“ピー”」**という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 375）が点灯したらブレーキペダルを踏んで停車する

縦列駐車アシストモードが終了します。

- 停車したあと、任意で前進または後退し、希望の位置に車両を移動してください。
- 必ず目視やミラーで車両の前後を確認しながら後退してください。

知識

■縦列駐車アシストモードの作動条件

●縦列駐車アシストモードを正しく動作させるために、道路（または路肩）と平行に駐車車両との間隔が約 1m の位置をゆっくり（すぐに停車できる車速で）走行してください。

●車速が約 30km/h 以上のときは、使用することができません。

●フロントサイドセンサー・リヤサイドセンサーにより駐車車両を検出し、駐車位置を特定しているため、検出できない場合（→ P. 417）は、案内されません。

●駐車車両がない場合は、駐車車両を特定できないため縦列駐車アシストモードは作動できません

●駐車スペースの周囲の環境によってはスペースを検出できず、縦列駐車アシストモードが作動できないことがあります。

●車速が約 30km/h 以上になる、または IPA スイッチにより機能を OFF にするまで案内が継続されます。

■IPA スイッチを押すタイミングについて

縦列駐車アシストモードを使用して駐車するときの手順で、次のときもアシストモードが作動することがありますが、その際はマルチインフォメーションディスプレイの表示に従って駐車操作を行ってください。

●手順 1 で、目標駐車位置の手前を通りこして IPA スイッチを押した
手順 1 で、停車せずに車両移動中に IPA スイッチを押す場合、1 回押すだけで「縦列駐車」を選択でき、そのまま手順 2 に移ることができます。

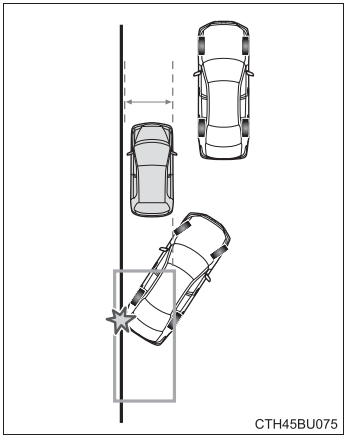
●IPA スイッチを押していない状態のまま、手順 3 の位置まで車両を移動し、シフトレバーを R にしてから IPA スイッチを押した

警告

低い障害物（縁石やブロックなど）は検知できないことがあるため、周辺の安全を直接確認し、接触のおそれがある場合はブレーキペダルを踏んで停車してください。

注意

- 青の枠の中や自車と目標駐車位置との間に障害物がないことを必ず確認してください。
  青の枠の中や自車と目標駐車位置の間に障害物がある場合は、接触するため縦列駐車アシストモードは使用しないでください。
- 路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では、縦列駐車アシストモードは使用しないでください。
- 駐車車両の車幅が狭いときや駐車車両が路肩側に極端に近いときは、駐車をアシストする位置も路肩に接近します。接触、脱輪しそうなときはブレーキペダルを踏んで停車し、IPA スイッチを押してシステムを解除してください。



- 駐車スペースの奥側に壁などがある場合は、通路に少しはみ出した位置に目標駐車位置が設定されることがあります。
- 駐車車両など周辺の環境によって駐車位置がずれたり車両が傾くことがあります。必要に応じて手動で整列してください。
- 駐車スペースに障害物、段差や縁石があるときでも、隣接車両に合わせた位置にアシストします。
  接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、IPA スイッチでシステムを中止してください。

縦列出庫のしかた（縦列出庫アシストモード）

■ 機能概要

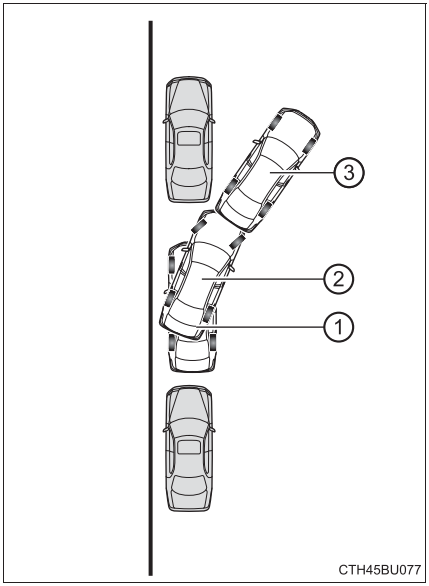
縦列駐車から出庫する際、出庫したい方向を選択することで発進可能な位置までのハンドル操作をアシストします。

① シフトレバーがPの状態でIPAスイッチを押して、縦列出庫を選択し、方向指示レバーで希望の出庫方向を選択する

② 案内に従ってシフトレバーを切りかえると、ハンドルの自動操作が作動します。

③ 発進可能な位置に到達したことを音と表示で案内します。

駐車スペースの状況により、②でハンドルの自動操作が開始してから発進可能な位置に到達するまでのあいだに、前進または後退方向への切り返しが必要な場合は、前進開始位置・後退開始位置の案内、およびハンドルの自動操作をくり返します。



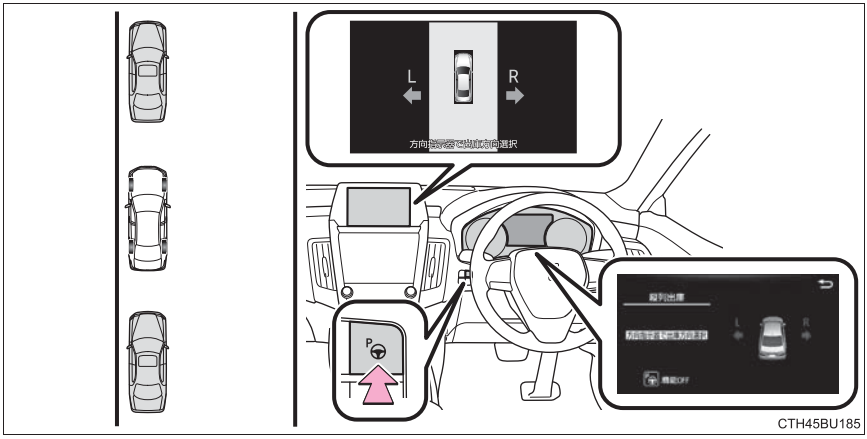
■ 縦列出庫機能を使用して出庫する

⚠ 注意

縦列駐車から出庫する以外の目的では、縦列出庫機能を使用しないでください。万が一、誤ってアシストを開始してしまった場合は、ブレーキペダルを踏んで停車し、IPA スイッチを操作してアシストを中止してください。

1 シフトレバーが P の状態で IPA スイッチを押し、マルチインフォメーションディスプレイの表示が「縦列出庫」の画面に切りかわったことを確認する

縦列出庫機能に切りかわると**「縦列出庫モードです 方向指示レバーで方向を選択してください」**と音声が出力されます。



2 方向指示レバー（→ P. 209）を操作して左右いずれか出庫したい方向を選択する

3 表示内のアドバイス表示（→ P. 375）に従って、シフトレバーを R（または D※）にすると、**「“ピー”」**という音が鳴りアシストが開始されます。

手順 4 以降は、方向指示レバーで出庫方向を選択後、アドバイス表示に「シフト→［R］」が表示されたときの場合です。

※ D は M ポジションを含みます。

● ハンドルの自動操作が開始されると、表示内にハンドル AUTO 操作表示（→ P. 375）とアシスト段階表示（→ P. 375）が表示されます。

● アシストを中止するには IPA スイッチを押します。

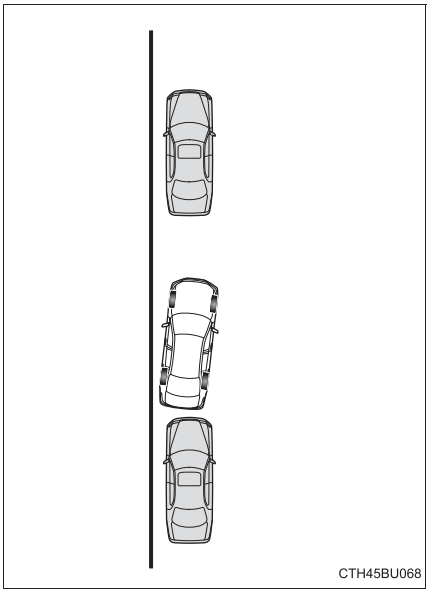
アシストが中止されると**「“ ピピッ ” アシストを中止します」**と音声が出力されます。

4 通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退してください。

● 後退車速が速すぎると、**「“ ピピッ ” アシストを中止します アシストを再開する場合は IPA スイッチを操作します」**と音声が出力され、アシストが中断されます。

● 制限車速が超過しそうになったときは、**「“ポーン” “ポーン”」**という音が鳴り、制限速度をこえてしまう可能性があることをお知らせするアドバイスが表示されます。（→ P. 378）

5 **「“ ポーン ”」**という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 375）が点灯したらブレーキペダルを踏んで停車する



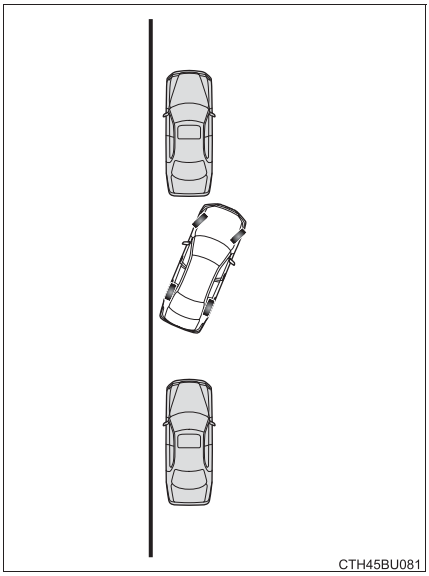
6 **「シフトをドライブにしてください」**と音声が出力されたらシフトレバーを D※ にする

※ D は M ポジションを含みます。

7 **「ゆっくり前進してください」**と音声が出力されたら通常の運転操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、前方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり前進する

▶ 一度で出庫できず、切り返しが必要な場合：手順 8 へ（→ P. 400）
切り返しが不要な場合：手順 14 へ（→ P. 402）

8 **「“ ポーン ”」**という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 375）が点灯したらブレーキペダルを踏んで停車する

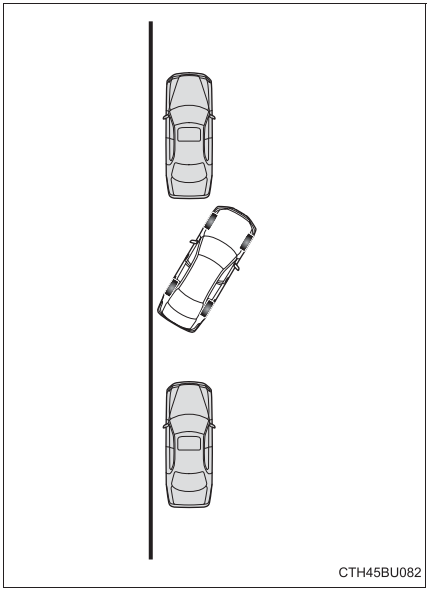


9 **「シフトをリバースにしてください」**と音声が出力されたらシフトレバーを R にする

10 **「ゆっくり後退してください」**と音声が出力されたら通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退する

駐車スペースの状況により、手順 5 から 10 をくり返す場合があります。

11 **「“ ポーン ”」**という音が鳴り、表示内のストップ表示（→P. 375）が点灯したらブレーキペダルを踏んで停車する

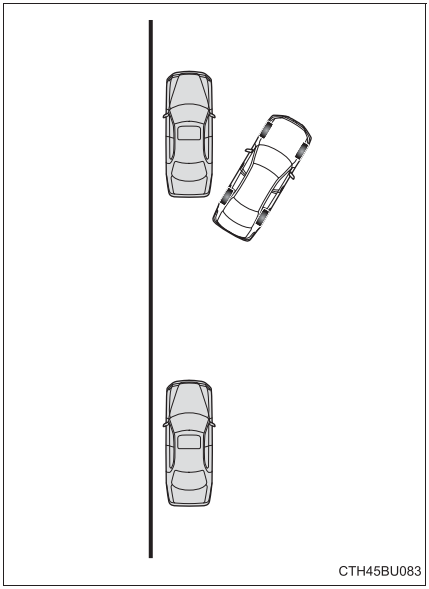


12 **「シフトをドライブにしてください」**と音声が出力されたらシフトレバーを D※ にする

※ D は M ポジションを含みます。

13 **「ゆっくり前進してください」**と音声が出力されたら通常の運転操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、前方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり前進する

14 車両がほぼ出庫可能位置に到達し、**「“ピー” アシストを終了します」**と音声が出力され、アシストが終了します。
そのままハンドルを持ち、前進してください。



知識

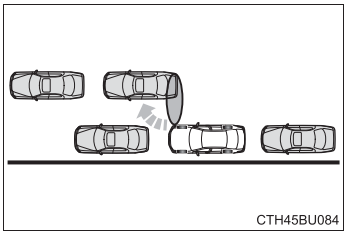
■縦列出庫機能について

アシスト中に、運転者が出庫可能と判断しハンドルを操作すると、その位置でアシストを中止します。

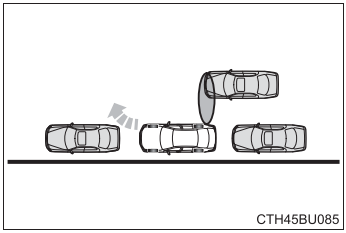
■縦列出庫機能が作動しない状況

次のような状況では縦列出庫機能は作動しません。

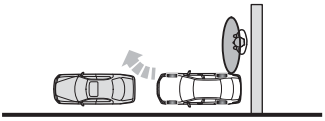
●出庫方向に信号待ちなどの車両がある場合



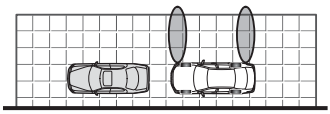
●出庫方向の後方に車両が待っている場合



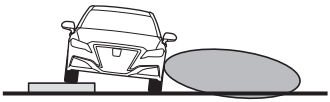
●フロントまたは、リヤのサイドセンサー付近に壁、柱などの障害物がある場合や、人がいる場合


CTH45BU086

●路面が石畳や荒い砂利・グレーチングになっている場合


CTH45BU087

●縁石に乗り上げて駐車し、サイドセンサーが路面を感知している場合


CTH45BU088

●車両の前方に駐車車両がない場合

●車両の前端と駐車車両との間隔があきすぎている場合

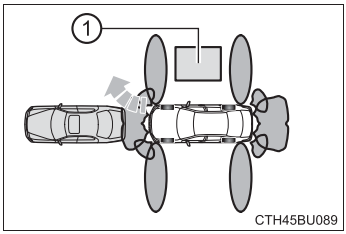
警告

■**縦列出庫機能について**

次のとき、サイドセンサーで障害物を正確に感知できないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

●障害物がセンサーで感知できない位置にある場合

① 障害物

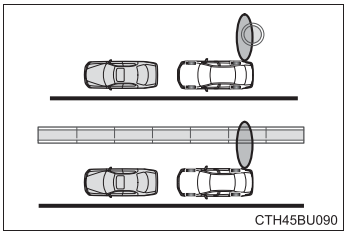


●次のような障害物は正確に感知しないことがあります。

・針金・フェンス・ロープなどの細いものの場合
・綿・雪などの音波を吸収しやすいものの場合
・鋭角的な形のものの場合
・背の低いものの場合
・背が高く上部が張り出しているものの場合
・人・動物などの動いているものの場合

特に人は衣類の種類によっても感知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

●出庫方向の側面に穴や溝がある場合



マルチインフォメーションディスプレイのメッセージについて

インテリジェントパーキングアシスト 2 が作動できないときや、作動が中止または、中断されたときなどにマルチインフォメーションディスプレイに次のメッセージが表示されます。ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。

■ 作動できないとき

メッセージ	状況・対処方法
	システムに異常があるおそれがある → エンジンスイッチをいったん OFF にしてからエンジンを始動してください。 再度表示される場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
	システムに故障のおそれがある → エンジンスイッチをいったん OFF にしてからエンジンを始動してください。 再度表示される場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
	パワーステアリング装置の一時的な過熱が起きた → エンジンスイッチをいったん OFF にし、しばらくしてからエンジンを始動して使用してください。
	エンジンが作動していない → エンジンを始動してください。
	センサー部に氷・雪・泥などが付着している → 氷・雪・泥などを取り除いてください。
	センサー部が凍結している → 凍結部が解ければ正常に復帰します。
	バッテリーを脱着した → 約 35km/h 以上の車速で 5 秒以上直進走行してください。
	ドアミラーが格納した状態でIPAスイッチを操作した → ドアミラーをもとの位置にもどしてから使用してください。

メッセージ	状況・対処方法
	ドアやトランクが開いた状態でIPAスイッチを操作した → ドアやトランクを閉じてから使用してください。
	車速が 30km/h を超過した状態で IPA スイッチを操作した → 車速約 30km/h 以下にして使用してください。
	路面勾配が 30%以上の場所で IPA スイッチを操作した → 急勾配での使用は危険なため、路面勾配が30%未満の場所に移動して使用してください。
	駐車スペースがない場所で IPA スイッチを操作した → 駐車スペースがないためアシストできません。横幅が約 2.6m 以上の駐車スペース、または認識できる駐車枠がある場所に移動して使用してください。
	道幅の狭い駐車スペースで IPA スイッチを操作した → 道幅が狭いためアシストできません。道幅が約4.5m以上の駐車スペースの近くで使用してください。 自車前方に障害物が存在し、後退開始位置まで前進できないような場所でIPAスイッチを操作した → 前方に障害物があるためアシストできません。駐車スペースの前で停車した際に、前方に障害物がないような駐車スペースで使用してください。
	自車が駐車するのには狭すぎる駐車スペースで IPA スイッチを操作した → 駐車スペースがないためアシストできません。横幅が約 2.6m 以上の駐車スペース、または認識できる駐車枠がある場所に移動して使用してください。

メッセージ	状況・対処方法
	縦列出庫で自車前後の間隔が狭いときにIPAスイッチを操作した → 自車前後スペースが狭く、アシストによる出庫ができません。周囲の安全を確認した上で手動で出庫してください。
	縦列出庫で、前方近くに障害物が存在しない、または自車側方に障害物が存在し、出庫ができない状況で IPA スイッチを操作した → 容易に出庫できる、または側方に障害物があるため、アシストによる出庫ができません。周囲の安全を確認した上で手動で出庫してください。

■ 作動が中止されたとき

メッセージ	状況・対処方法
	アシスト中に運転者がシフトレバーを P にした、または IPA スイッチを操作した
	縦列アシストモードの駐車スペース探索中に車速が 30km/h をこえた
	駐車スペースが狭い場所でアシストを開始した → 横幅が約2.6m以上の駐車スペースがある場所に移動して使用してください。
	縦列出庫アシストモードにおいて、方向指示レバーで出庫方向を選択せずにシフトレバーを操作した → 案内どおりに操作してください。
	アシスト開始時に、案内と逆方向に進行した → 案内どおりに操作、進行してください。

■ 作動が中断されたとき

メッセージ	状況・対処方法	
	アシスト中に運転者がハンドルに力を加えた	→ 停車してハンドルに力を加えないように手を添えた状態で IPA スイッチを押すとアシストを再開できます。
	アシスト中に車速が7km/h をこえた	
	アシスト中断中、ハンドルに力を加えた状態でIPAスイッチを押した	→ ハンドルに力を加えないように手を添えた状態で停車するとアシストが再開します。
	アシスト中断中、車両が移動している状態で IPA スイッチを押した	
	アシスト中断中（再開可能）	→ 停車してハンドルに力を加えないように手を添えた状態で IPA スイッチを押すとアシストを再開できます。
	アシスト中に、前方障害物に接近しすぎた	→ シフトレバーをＲにしてから、IPA スイッチを押すと、アシストを再開できます。
	アシスト中に、後方障害物に接近しすぎた	→ シフトレバーをＤにしてから、IPA スイッチを押すと、アシストを再開できます。

■ インテリジェントパーキングアシスト２作動中にナビゲーション画面が黒くなったときは

無線の電波による影響を受けているか、システムになんらかの異常が発生しているおそれがあります。
無線のアンテナをカメラの近くに設置している場合は、できるだけ離して設置してください。無線のアンテナがカメラの近くになく、エンジンスイッチを一度 OFF にしてから、再度エンジンを始動しても画面が正常に表示されない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

使用上の注意点について

以下の内容は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書／周辺監視／パノラミックビューモニター」を参照してください。

- 画面の映る範囲について
- カメラについて
- 画面と実際の路面との誤差について
- 画面と実際の立体物との誤差について

■ 白線認識が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、路面の駐車枠を検出することができない場合があります。

- 白線のない駐車場（駐車枠がロープ、ブロックなどでつくられている場合）
- 白線がかすれや汚れなどによってはっきり見えないとき
- 路面が白っぽく白線とのコントラスト差が小さいとき（コンクリート路面に黄色線など）
- 路面の駐車枠線が黄色など白以外の色のとき
- 夜間や地下、立体駐車場など周囲が暗いとき
- 降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあるとき
- 朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき
- 積雪や融雪剤があるとき
- 路面補修痕、路面表示などやポールなどの障害物があるとき
- 路面の色や明るさが一様でないとき
- カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズが曇っているとき
- 自車の影や木陰などの影響を受けてしまった場合
- カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき

次のような状況では、目標駐車位置を誤認識する場合があります。

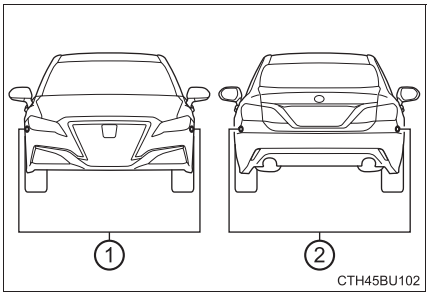
- 路面補修痕、路面表示などやポールなどの障害物があるとき
- 降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあるとき
- 路面の色や明るさが一様でないとき
- 勾配がついている駐車場
- 駐車車両の影響を受けてしまった場合（駐車車両の影、駐車車両のグリルやサイドステップなど）
- 白線がかすれや汚れなどによってはっきり見えないとき
- 自車の影や木陰などの影響を受けてしまった場合

■ センサーについて

センサーにより駐車車両を検出して、駐車位置を特定しやすくします。

① フロントサイドセンサー

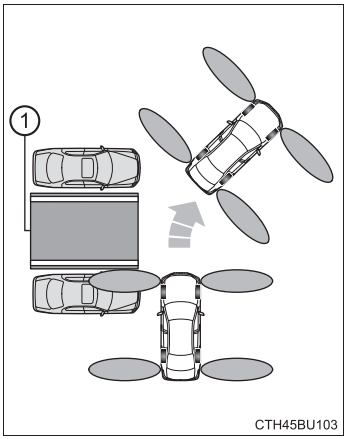
② リヤサイドセンサー



知識

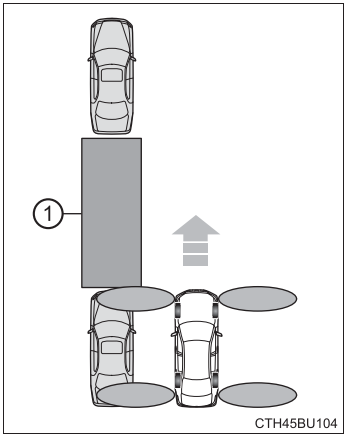
●車庫入れアシストモード時のセンサー感知範囲について

① 目標駐車位置



●縦列駐車アシストモード時のセンサー感知範囲について

① 目標駐車位置

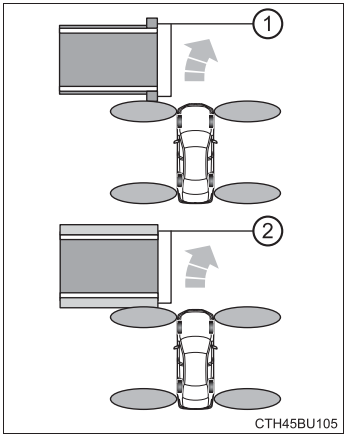


●駐車車両が目標駐車位置の奥にある場合は、距離が遠くなるため検出できないことがあります。また、駐車車両の形状や条件によっては検出距離が短くなったり、検出できないことがあります。

●柱や壁など駐車車両以外は検出できないことがあります。また、検出できても目標駐車位置がずれることがあります。

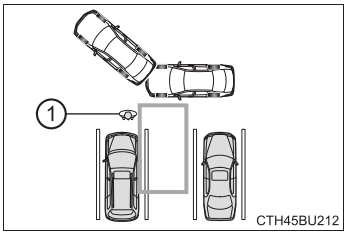
① 柱

② 壁



●歩行者などを検出して目標駐車位置がずれることがあります。

① 歩行者



警告

- インテリジェントパーキングアシスト２を過信しないでください。一般の車と同様、必ず後方や周辺の安全を直接確認しながら慎重に前進または、後退してください。
- ナビゲーション画面だけを見ながら後退することは絶対にしないでください。画面に映っている映像と実際の状況は異なることがあり、画面だけを見て後退すると車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。後退するときは、必ず目視やミラーなどで後方や周辺の安全を直接確認してください。
- 前進または、後退するときは、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり前進または、後退してください。
- 周辺の車両や障害物、人などに接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、IPA スイッチを押してシステムを中止してください。
- 駐車区画のある平坦な駐車場で使用してください。
- 使用中はハンドルが自動的に回転するため、次の点に注意してください。
  - ・ネクタイ、スカーフ、腕などを巻き込むおそれがあります。上体をハンドルに近づけないでください。また、お子様がハンドルに近づかないよう注意してください。
  - ・爪が長いとハンドルが回転する際にけがをするおそれがあります。
  - ・万一のときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、IPA スイッチを押してシステムを中止してください。
- 駐車するときは、必ず目標駐車位置に車を駐車できるかを確認してから操作を行ってください。
- 次のような状況では、使用しないでください。
  - ・駐車場以外の場所
  - ・砂地、砂利地のような駐車枠のない整備されていない駐車場
  - ・傾斜、段差のある平坦でない駐車場
  - ・凍結したり、すべりやすい路面、または雪道
  - ・真夏の炎天下でアスファルトがとけているようなとき
  - ・目標駐車位置（青の枠の中）や自車と目標駐車位置との間に障害物があるとき
  - ・人や車両などの通行量の多いとき
  - ・駐車不可能な場所（車両が入らない程狭い。崖など）
  - ・カメラのレンズの汚れ、西日、影、雪などで画面が見にくいとき
  - ・タイヤチェーン、応急用タイヤを使用しているとき
  - ・トランクが完全に閉まっていないとき
- メーカー出荷時装着タイヤ以外のタイヤは使用しないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。また、タイヤを交換すると、画面に表示される線や枠の表示位置に誤差が生じることがあります。タイヤを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

●設定した駐車スペースへアシストするシステムのため、駐車時の路面や自車の状況、駐車スペースまでの距離などにより、駐車スペースを認識できなかったり、最後までアシストできない場合があります。

●次のような状況では、設定した位置にアシストできない場合があります。

・タイヤが極端に摩耗していたり、空気圧が低いとき
・極端に重いものを積んでいるとき
・車両の片側にだけ荷物などを積んで車両が傾いているとき
・駐車場にロードヒーター（路面凍結防止用のヒーター）が設置されているとき
・タイヤを縁石などに強く当てて、ホイールアライメントが正常でないとき

上記の場合以外で設定位置と車両の位置が大きくずれる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。とくに動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

●インテリジェントパーキングアシスト２が正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがありますので、次のことにご注意ください。

・カメラ部を強くたたいたり、物をぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
・カメラ部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。
・カメラレンズを洗うときは、大量の水でカメラの汚れを流した後、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってください。
カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷ついて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。
・カメラレンズを強くこすったり、硬いブラシや研磨剤などでみがいたりするとレンズが傷付き、映像に悪影響をおよぼすおそれがあります。
・カメラ部に有機溶剤・ボディワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
・寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
・カメラ部をぶつけたときは、カメラの位置、取り付け角度がずれているおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。
・洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。高水圧のためカメラの故障の原因となることがあります。

警告

●センサーが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがありますので、次のことにご注意ください。

・センサー部付近を強くたたいたり、物をぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
・高圧洗浄機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。バンパーをぶつけたときは、センサーの故障などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
・センサーに氷、雪、泥などが付着したときは、画面に「現在使用できません」と表示されることがあります。センサー部についた異物を取り除いてください。

●次のとき、センサーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

・サイドエリアのスキャン（→ P. 328, 329）が完了するまでのあいだは、サイドエリアに障害物があっても障害物を感知できません。
・サイドエリアのスキャン完了後でも、車・人・動物などが車両の横からサイドエリアに進入してきた場合は感知できません。
・センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
とくに低温時には凍結などにより異常表示が出たり、駐車車両があっても感知しないことがあります。
・センサーを手でふさいだとき
・車両姿勢が大きく傾いたとき
・炎天下や寒冷時
・凸凹道、坂道、砂利道、草むら走行時など
・他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、他車のセンサーなどの超音波を発生するものが近付いたとき
・雨や水しぶきがかかったとき
・市販のフェンダーポール、無線機用アンテナを車に付けたとき
・センサーに駐車車両が近付きすぎたとき
・目標駐車位置の隣に駐車車両があるにもかかわらず、駐車枠が目標駐車位置から大きくずれた位置に表示されるときは、センサーの角度がずれているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
・センサーが感知する範囲には、アクセサリー用品などを取り付けないでください。

警告

- システムは適切な経路で切り返し位置の案内を出しますが、隣接車両への接近など、ユーザーが不安に感じた場合は、任意のタイミングでシフトを切りかえてください。ただし、切り返し回数が多くなったり、駐車精度が悪化することがあります。
- 駐車スペース内に障害物が存在しても、検出できずにアシストすることがあります。

システム初期化について

■ 初期化が必要なとき

次の場合には、必ず初期化作業を行ってください。
（詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書／周辺監視／パノラミックビューモニター」を参照してください）

- バッテリーの脱着中にハンドル操作を行ったとき
- バッテリーの電圧が低下したとき
- バッテリーを脱着したとき
- ステアリングセンサーを脱着したとき
- ステアリングセンサーの信号に異常が発生したとき

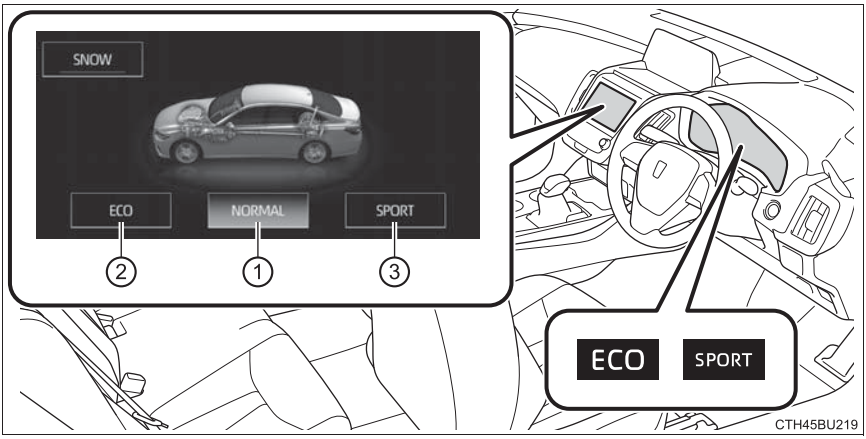
注意

- 初期化作業を行っても、画面が切りかわらないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 初期化作業を行って、通常の画面にもどったときは、一度アシストモードを使用して、目標駐車位置に以前と同じようにアシストされることを確認してください。平坦路で使用しても、以前より斜めになったり、横方向にずれる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ドライブモードセレクト

走行・使用状況に合わせて次のモードを選択できます。

▶ NAVI・AI-AVS 非装着車



① ノーマルモード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスが良く、市街地を走行する場合に適しています。

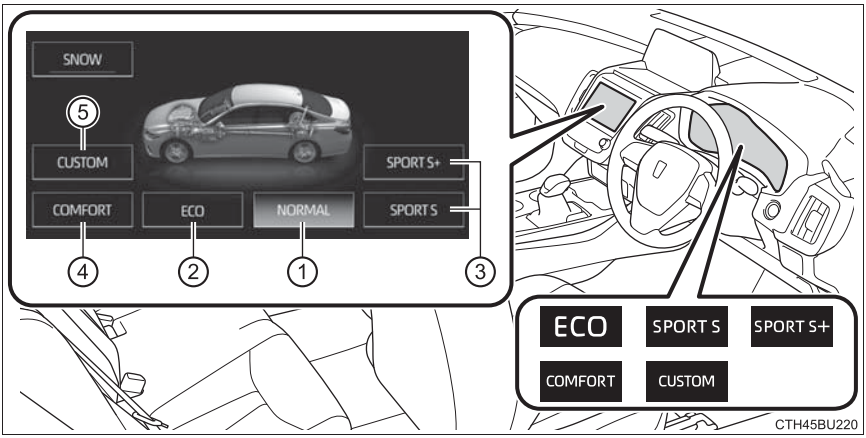
② エコドライブモード

スロットル特性を穏やかに設計することで、エコ運転中のドライバーのアクセル操作をアシストします。またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費の向上を意識した走行に適しています。

③ スポーツモード

トランスミッションとエンジンの制御により、アクセルレスポンスを向上させ、力強い加速が可能です。また、ステアリングのフィーリングも変化し、コーナーの多い道などで、きびきびした走りを楽しみたいときに適しています。

▶ NAVI・AI-AVS 装着車



① ノーマルモード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスが良く、市街地を走行する場合に適しています。

② エコドライブモード

スロットル特性を穏やかに設計することで、エコ運転中のドライバーのアクセル操作をアシストします。またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費の向上を意識した走行に適しています。

③ スポーツモード

・スポーツ S モード
トランスミッションとエンジンの制御により、アクセルレスポンスを向上させ、力強い加速が可能です。

・スポーツ S+ モード
トランスミッションとエンジンに加え、ステアリングやサスペンションを総合的に制御することにより操縦性・安定性の確保に貢献し、よりスポーティーな走りを楽しみたいときに適しています。

④ コンフォートモード

サスペンションを制御することにより、より快適な乗り心地になります。市街地走行に適しています。

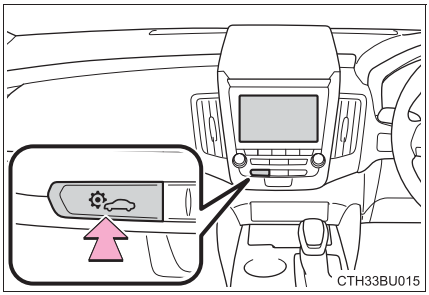
⑤ カスタムモード

以下の機能をお好みで設定し、走行することができます。カスタムモードはナビゲーションシステムの操作で設定します。（→ P. 602）

機能	設定
パワートレーン制御	Power
	Normal
	Eco
シャシー制御	Sport
	Normal
	Comfort
エアコン作動	Normal
	Eco

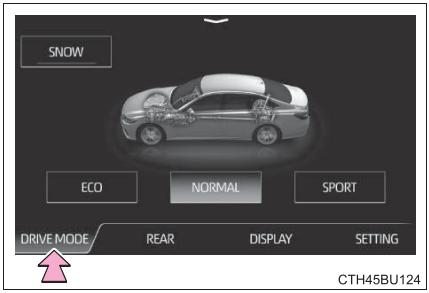
走行モードの選択

1 車両設定スイッチを押す

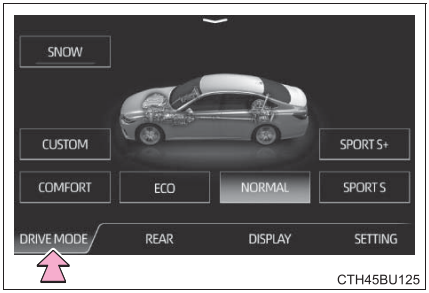


2 「DRIVE MODE」を選択し、走行モードを選択する

▶ NAVI・AI-AVS 非装着車



▶ NAVI・AI-AVS 装着車



イラストの意匠は装備などにより異なります。

知識

■エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいときは、風量の調整、エコ空調モードまたはエコドライブモードの解除をしてください。（→ P. 438）

■スポーツモード／スポーツ S モード／スポーツ S+ モード／カスタムモードの自動解除

スポーツモード／スポーツ S モード／スポーツ S+ モード／カスタムモードは、エンジンスイッチを OFF にするとノーマルモードにもどります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

◆ セカンダリーコリジョンブレーキ

SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ、二次衝突による被害の軽減に寄与します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ NAVI・AI-AVS（AVS：アダプティブバリアブルサスペンションシステム）★

路面の状態や運転操作などに応じ、ショックアブソーバーの減衰力を4 輪独立に制御することで、なめらかな乗り心地と優れた安定感の確保に貢献し、車両の姿勢維持に寄与します。
また、ドライブモードセレクトでスポーツ S ＋モードを選択したときには、スポーツ走行に適した減衰力に切りかわります。
（→ P. 419）

◆ VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）

ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロール・EPS を総合的に制御します。
すべりやすい路面の走行などで急な運転操作をした際に、ブレーキ・エンジン出力・ハンドル操作力を制御することで、車両の安定性確保に貢献します。

◆ 後方車両への接近警報★

同じ車線を走行する後方車両をレーダーセンサーで検出し、追突の可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながします。このときマルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、後方車両の接近を運転者に知らせます。

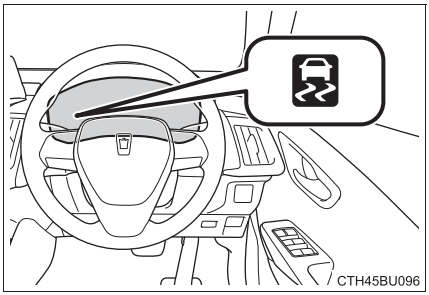
◆ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

TRC・VSC が作動しているとき

TRC･VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



TRC を停止するには

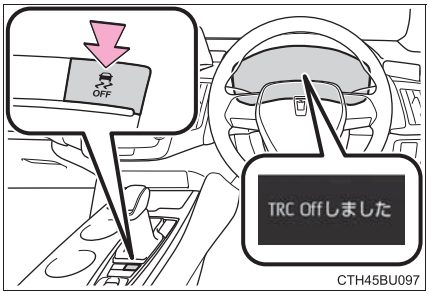
ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに [OFF] を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRCを停止するには [OFF] を押す

マルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」と表示されます。

もう一度 [OFF] を押すと、システム作動可能状態にもどります。



知識

■TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に [VSC OFF] を押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」と表示されます。※

もう一度 [VSC OFF] を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキも停止します。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 257）

■ [VSC OFF] を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに TRC OFF 表示がされたとき

TRC が作動できない状態になっています。トヨタ販売店にご相談ください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- ●シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- ●車両停止状態
- ●アクセルペダルを踏んでいない
- ●パーキングブレーキがかかっていない

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- ●シフトレバーを P または N の位置にした
- ●アクセルペダルを踏んだ
- ●パーキングブレーキをかけた
- ●ブレーキペダルから足を離して最大 2 秒経過した

■バッテリー端子の脱着をしたときは

ハンドルの直進位置がずれる場合がありますが、そのまま走行することで自動的に修正されます。

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

●エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる
・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

●エンジンスイッチを OFF にしたとき

●（TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。
その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件

車速が約 10km/h 以上で、SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知したとき（車速が約 10km/h 未満では作動しません）

■セカンダリーコリジョンブレーキの自動解除

次のとき、自動的にセカンダリーコリジョンブレーキが解除されます。

●車速が約 10km/h 未満になったとき

●作動して一定時間経過したとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

■NAVI・AI-AVS★の NAVI 協調機能について

ナビゲーションの道路コーナー情報により、コーナーの前からあらかじめ減衰力を制御します。これにより、優れたコーナーリング性能を確保します。ナビゲーションにおいてルート探索可能な道路で作動します。

■後方車両への接近警報の作動条件

次の条件を満たしたときシステムが作動します。

●自車から見た後方車の接近速度が約 30km/h ～ 100km/h の間

●自車の車速が約 10km/h 以下、または前進時でブレーキを踏んでいる

■後方車両への接近警報が正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・後方車両と自車の中心がずれているとき
・斜め後方から車両が近付いてくるとき
・自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
・後方車両の周辺に他車が存在するとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

●特に次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
・右左折待ちで停車したときなどに、自車の真うしろを車両が通過するとき
・道路脇に停車したときなどに、車両が真横を通過するとき
・後方車両が近距離から自車を追い越したとき
・後方車両が近距離まで急接近したとき

■マルチインフォメーションディスプレイに「FHL 現在使用できません」が表示されたときは

後方車両への接近警報が一時的に使用不可と判断されています。
この場合、センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。（→ P. 321）センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速 55km/h 以上

●ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●ブレーキペダルを離した

●車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき(雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど)

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能でありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

警告

■**TRC や VSC を OFF にするときは**

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■**セカンダリーコリジョンブレーキについて**

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**タイヤまたはホイールを交換するときは**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 600）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■**タイヤとサスペンションの取り扱い**

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
  - ・エンジンオイル
  - ・冷却水
  - ・ウォッシャー液
- バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を使用してください。

  タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
  （タイヤについて：→ P. 508）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをＰに入れて駐車し、必ず輪止め※1をしてください。
  輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをＰに入れた状態でシフトレバーが動かないこと※2を確認してください。

※1 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

※2 ブレーキペダルを踏まないでＰからシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- うしろ２輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- 取り付け後約 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

注意

■タイヤチェーンの使用について

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。
ガラスがひび割れるおそれがあります。

■ワイパーアームを立てるとき

ワイパーをサービスポジションに切りかえてから立ててください。(→P. 236)
停止位置を切りかえずに立てると、ワイパーアームとボンネットが干渉し、傷が付くおそれがあります。

室内装備・機能 5

5-1. エアコンの使い方

フロントエアコン 436
リヤエアコン 449
ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーション 452

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 458
・インテリアランプ 459
・パーソナルランプ 460

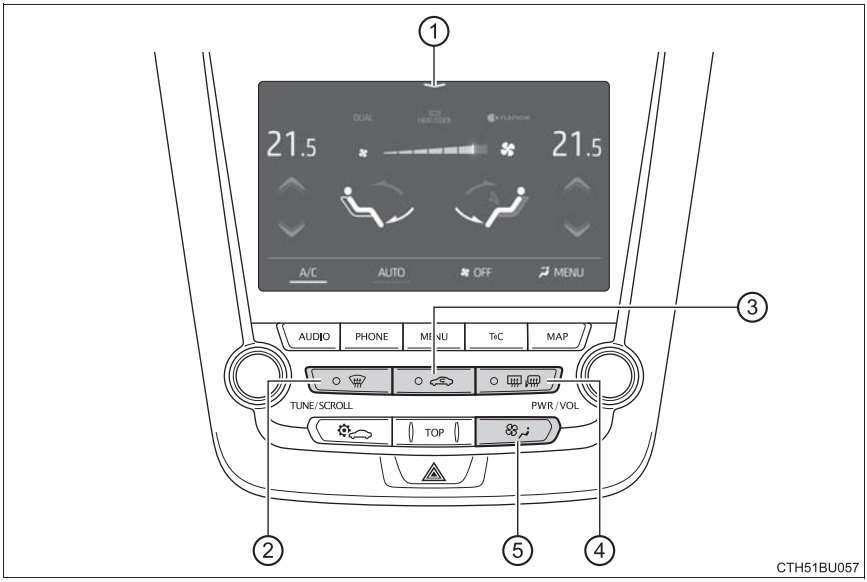
5-3. 収納装備

収納装備一覧 462
・グローブボックス 463
・コンソールボックス 464
・カップホルダー／ボトルホルダー 465
・小物入れ 467
トランク内装備 468

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 470
・サンバイザー 470
・バニティミラー 470
・時計 471
・アクセサリーソケット 471
・アクセサリーコンセント 472
・おくだけ充電（ワイヤレス充電器） 473
・リヤアームレスト 479
・リヤサンシェード／リヤドアサンシェード 480
・アシストグリップ 483
・コートフック 483
トヨタマルチオペレーションタッチ 484

フロントエアコン



① 操作画面

② フロントウインドウガラス曇り取りスイッチ

③ 内外気切りかえスイッチ

④ リヤウインドウガラス曇り取りスイッチ

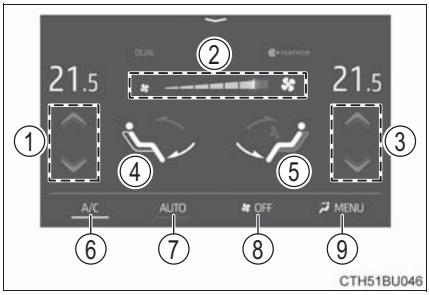
⑤ エアコン画面表示スイッチ

操作画面内のスイッチが作動状態のとき、各スイッチの作動表示灯が点灯します。

TOP エアコン画面について

1 エアコン画面表示スイッチを押し、TOP エアコン画面を表示させる

2 操作画面を選択し、エアコンの設定をする



① 助手席温度調整

設定温度を上げるときは を、下げるときは を選択します。

連動モード時に操作すると、独立モードに切りかわり、画面に「DUAL」が表示されます

② 風量切りかえ

風量を増やすときは を、下げるときは を選択します。

レベルインジケーターをなぞり操作（タッチした状態で左右になぞる）しても風量が切りかわります。

③ 運転席温度調整

設定温度を上げるときは を、下げるときは を選択します。

④ 助手席側操作画面切りかえ（→ P. 438）

⑤ 運転席側操作画面切りかえ（→ P. 438）

⑥ A/C

冷房・除湿します。

「A/C」が選択されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

⑦ AUTO

エアコンが作動し、吹き出し口と風量が自動で調整されます。

⑧ OFF

エアコンの作動を停止します。

⑨ MENU

画面が切りかわり、風量や吹き出し口の切りかえなどができます。

エアコン操作について

エアコン画面表示スイッチを押し、TOP エアコン画面を表示させる

■ 運転席側／助手席側操作画面

「MENU」を選択する

助手席側操作画面を表示する場合は、「PASSENGER」を選択します。

TOP エアコン画面で、、または を選択しても表示できます。

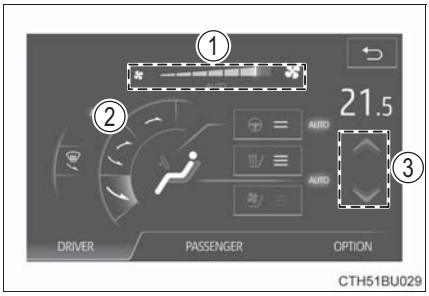
画面については、運転席側を代表して説明してあります。

① 風量を切りかえる（運手席側操作画面のみ）

レベルインジケーターをなぞり操作（タッチした状態で左右になぞる）しても風量が切りかわります。

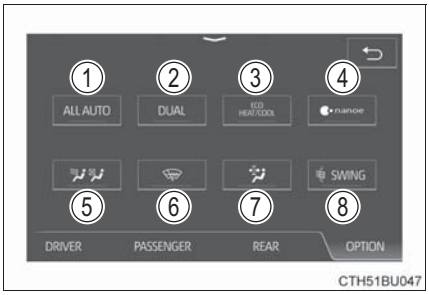
② 吹き出し口を切りかえる

③ 温度を調整する



■ OPTION 操作画面

「MENU」を選択し、「OPTION」を選択する



① エアコンの設定温度、外気温、車室内の温度などに応じて、各席のシートヒーターやシートベンチレーション、ステアリングヒーターを自動で制御させる★

② 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（→ P. 440）

選択する度に、独立モードと連動モードが切りかわります。

③ エコ空調モードに設定する（→ P. 447）

④「nanoe（ナノイー）」を作動させる★（→ P. 446）

⑤ フロント席集中送風モード（S-FLOW）を設定する（→ P. 440）

⑥ フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐ★（→ P. 442）

⑦ 花粉を除去する（→ P. 442）

⑧ 中央吹き出し口を自動で首ふりする★

イラストの意匠は装備などにより異なります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オート設定で使用する

1 エアコン画面表示スイッチを押し、TOP　エアコン画面を表示させ、「AUTO」を選択する

2 温度を設定する

3 ファンを止めたいときは、TOP エアコン画面の「OFF」を選択する

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると「AUTO」の作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

■ 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）

次のいずれかの操作をすると、左右独立モードが ON になり、TOP エアコン画面に「DUAL」が表示されます。

● OPTION 操作画面（→ P. 439）で「DUAL」を選択する

左右独立モードになりスイッチの作動表示灯が点灯します。

● 助手席側の設定温度を変更する

フロント席集中送風モード（S-FLOW）

エアコンの送風がフロント席に優先されるよう、送風を自動的に制御する機能です。助手席に乗員がいない場合は、運転席のみへの送風に切りかわることがあります。無駄な冷暖房を抑えることで、燃費の向上に貢献します。

フロント席集中送風モードは、次のような状況で作動します。

● リヤ席に乗員を検知していない

● フロントウインドウガラスの曇り取りが作動していない

● 花粉除去モードが作動していない

作動中は、が点灯します。

■ 手動でフロント席集中送風モードの作動／非作動を切りかえる

フロント席集中送風モードは、スイッチ操作によりフロント席のみへの送風と全席への送風を切りかえることができます。このとき、送風の自動制御は作動しなくなります。

OPTION 操作画面（→ P. 439）のを選択し、送風を切りかえます。

● 表示灯が点灯：フロント席のみへの送風

● 表示灯が消灯：全席への送風

知識

■送風の自動制御について

●車室内を快適に保つために、エンジン始動直後や外気温によっては、乗員がいないシートにも送風されることがあります。

●エンジン始動後に乗員が車室内を移動した場合や乗降した場合は、乗員の有無を正しく検知できず、送風の自動制御は作動しません。

■送風の手動制御について

手動でフロント席のみへの送風に切りかえた場合でも、リヤ席に乗員がいると自動的に全席に送風されることがあります。

■送風を自動制御にもどすには

1 表示灯が消灯している状態でエンジンスイッチを OFF にする

2 60 分以上経過後にエンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

を押す

ボタンを押すたびに外気導入・内気循環に切りかわります。
内気循環を選択しているとき、の表示灯が点灯します。

外気導入時でも、室内の温度が高いときは、内気循環になります。

■ 花粉除去モードを使用するには

OPTION 操作画面（→ P. 439）で、を選択する

花粉除去モードが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。
内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取るには

を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください（自動的に外気導入に切りかわる場合もあります）。
風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。

曇りが取れたら再度を押すと前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときにご使用ください。

を押す

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターはしばらくすると自動的に OFF になります。

■ ウインドシールドデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐためにご使用ください。

1. エアコン画面表示スイッチを押し、TOP エアコン画面を表示させ、「MENU」を選択する
2. 「OPTION」を選択する
3. を選択する

ウインドシールドデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。
ウインドシールドデアイサーはしばらくすると自動的に OFF になります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤエアコンを操作するには（リヤエアコン装着車）

1 エアコン画面表示スイッチを押し、TOP エアコン画面を表示させる

2 「MENU」を選択し、「REAR」を選択する

① リヤエアコンの風量を切りかえる（→ P. 450）

② AUTO

リヤエアコンが作動し、風量が自動で調整されます。（→ P. 450）
暖房時は、送風が停止する場合があります。

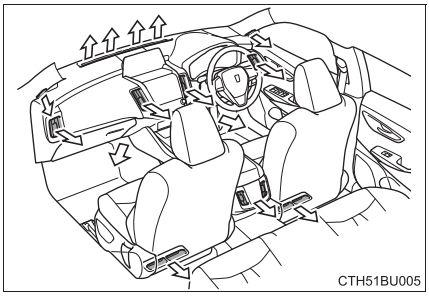
③ OFF

リヤエアコンの作動を停止します。

吹き出し口について

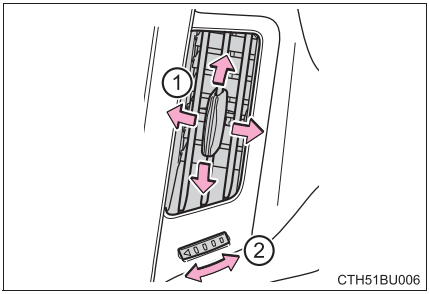
■ 吹き出し口の位置

吹き出し切りかえスイッチの選択により、風が出る位置や風量が変化します。

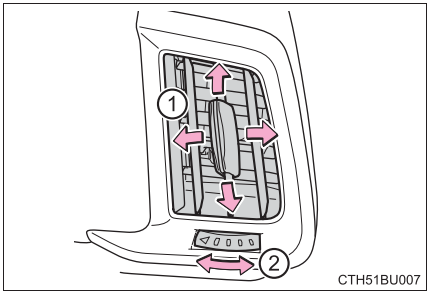


■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

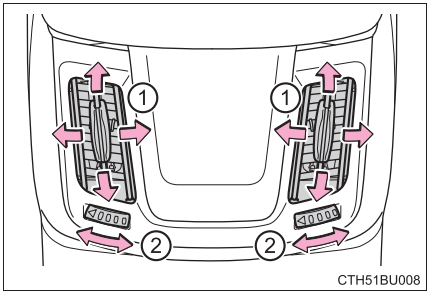
▶ 中央吹き出し口



▶ 左右吹き出し口



▶ リヤ吹き出し口



① 風向きの調整

② 吹き出し口の開閉

知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、「AUTO」を選択した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■温度調整について

左右独立モードのとき、後席の吹き出し口の温度は、運転席側に連動しています。（天井部のリヤエアコン吹き出し口を除く）

■ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、「A/C」を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- 「A/C」を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

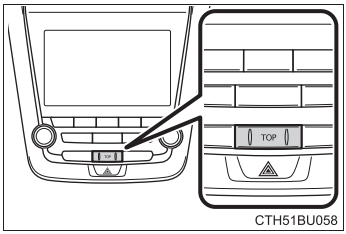
トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

■外気温度が 0 ℃近くまで下がったとき

「A/C」を選択しても除湿機能が働かない場合があります。

■TOP スイッチについて

TOP スイッチの設定（→ P. 487）により、TOP スイッチを押したとき、TOP エアコン画面を表示するように変更できます。



■ を選択したときは

●「AUTO」がONで吹き出し口が のときに を選択するとガラスへの送風が止まります。

●「AUTO」が ON で、吹き出し口が 以外のときに を選択すると足元へ送風しながらガラスへも送風し、ガラスを曇りにくくします。ガラスへの送風を止めたいときはもう一度 を選択します。

■花粉除去モードについて

●外気温が低いときは、フロントウインドウガラスの曇りを防止するために次のような作動をする場合があります。

・内気循環に切りかわらない
・除湿機能が作動する
・約 1 分後に作動が停止する

●雨天時はガラスが曇るため、「A/C」を選択してください。

●湿度が非常に高いときに使うとガラスが曇る場合があります。

●花粉除去モードが OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

■「ナノイー」※1 について

エアコンには「ナノイー」技術が搭載されています。この技術は運転席中央側の吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放出し、室内を爽やかな空気で満たします ※2。

●「ナノイー」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。

・吹き出し口が上半身に送風、上半身と足元に送風、または足元に送風のとき
・運転席側の吹き出し口が開いているとき

●「ナノイー」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

●作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

※1「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

※2 温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■エアコンフィルターついて

→ P. 520

■エコドライブモード時のエアコン作動について

●エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。

・エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

●空調の効きをより良くしたいときは、次の操作を行ってください。

・風量を調整する
・エコドライブモードを解除する
・エコ空調モードを解除する

■カスタマイズ機能

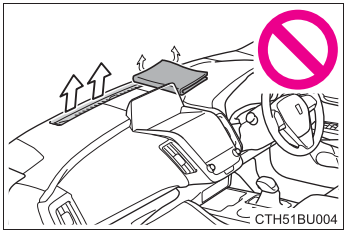
お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→ P. 602）

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

●外気の湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

●フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



■リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター／ウインドシールドデアイサー★作動中の警告

●ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

●フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■「ナノイー」★について

このシステムは、高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

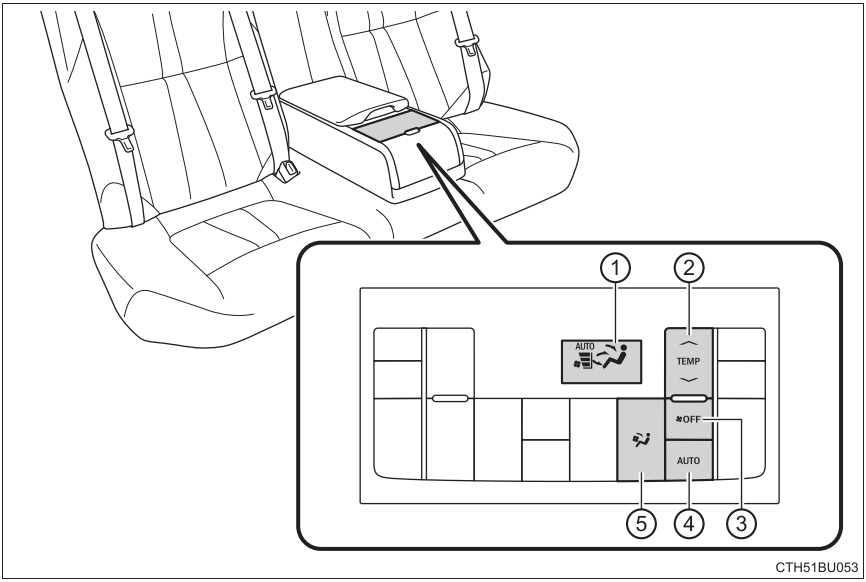
エンジン停止中は、必要以上にエアコンを使用しないでください。

■「ナノイー」★の損傷を防ぐために

運転席の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤエアコン★



① ディスプレイ
② 温度調整
③ リヤエアコンの停止
④ リヤエアコンの自動作動
⑤ リヤエアコンの風量を切りかえる

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オート設定を使うとき

リヤ操作部にある AUTO を押す

運転席の設定温度をもとに風量が自動的に調整されます。

作動を停止するときは、OFF を押します。

・ フロント席から操作することもできます。（→ P. 443）

■ リヤエアコンの自動作動について

「A/C」が ON のとき設定温度により作動します。

お好みの設定で使うとき

■ 温度調整

リヤ操作部にある TEMP を押す

設定温度を上げるときは “∧”、下げるときは “V” を押します。

■ 風量を切りかえる

「A/C」が ON のとき、リヤ操作部にある を押す

スイッチを押すごとに次のように切りかわります。
A/C 弱→ A/C 中→ A/C 強→停止

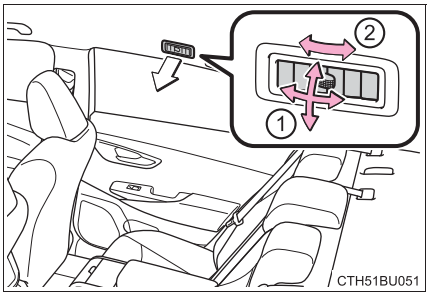
リヤエアコン作動時は、天井吹き出し口から冷風が送風されます。

・ フロント席から操作することもできます。（→ P. 443）

風向きの調整

① 風向きの調整

② 吹き出し口の開閉



⚠ 注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、必要以上にリヤエアコンを使用しないでください。

ステアリングヒーター★／シートヒーター★／シートベンチレーション★

ハンドル左右のグリップ部やシートを温めたり、シート内部に装備されたファンで換気することにより、シート表面の通気をよくできます。

警告

- 低温やけどを負うおそれがあるため、次の方がステアリングヒーター／シートヒーターに触れないようにご注意ください。
  - ・乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
  - ・皮膚の弱い方
  - ・疲労の激しい方
  - ・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方
- 異常過熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。
  - ・長時間連続使用しない
  - ・毛布・クッションなどを使用しない

注意

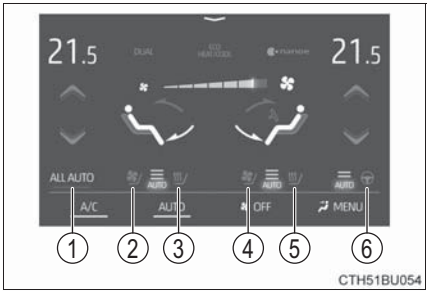
- シートヒーター／シートベンチレーションの故障を防ぐために凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。
- バッテリーあがりを防ぐためにエンジンが停止した状態で使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

TOP エアコン画面について

TOP エアコン画面の設定（→ P. 487）で「マルチ」を選択すると、TOP エアコン画面で、ステアリングヒーター、シートヒーター、シートベンチレーションの操作ができます。

エアコン画面表示スイッチを押し、TOP エアコン画面を表示させる



① ALL AUTO

エアコンの設定温度、外気温、車室内の温度などに応じて、各席のシートヒーターやシートベンチレーション、ステアリングヒーターが自動で制御されます。

② 助手席シートベンチレーション風量切りかえ（→ P. 456）

③ 助手席シートヒーター温度調整（→ P. 455）

④ 運転席シートベンチレーション風量切りかえ（→ P. 456）

⑤ 運転席シートヒーター温度調整（→ P. 455）

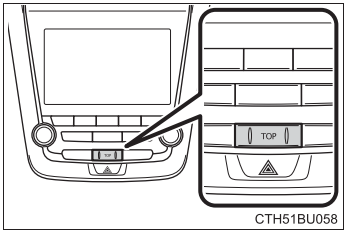
⑥ ステアリングヒーター温度調整（→ P. 454）

イラストの意匠は装備などにより異なります。

知識

■TOP スイッチについて

TOP スイッチの設定（→ P. 487）により、TOP スイッチを押したとき、TOP エアコン画面を表示するように変更できます。



ステアリングヒーター

1 エアコン画面表示スイッチを押し、TOP エアコン画面を表示させ、「MENU」を選択する

TOP エアコン画面で、を選択しても表示できます。

2 を選択する

選択するごとに、作動状態とレベルインジケーターが次のように切りかわります。
AUTO →強（2 個点灯）→弱（1 個点灯）→ OFF

オート作動：エンジンスイッチがイグニッション ON モードにしたときの外気温・車室内温度に応じて、自動で作動します。

TOP エアコン画面の設定（→ P. 487）で「マルチ」を選択したときは、TOP エアコン画面で、を選択しても切りかえることができます。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■スイッチ表示が点滅した場合

スイッチを OFF にし、もう一度スイッチを選択してください。点滅がさらに続く場合はシステムの異常が考えられます。作動を停止し、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■TOP スイッチについて

→ P. 453

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→ P. 602）

シートヒーター

■ フロントシート

エアコン画面表示スイッチを押し、TOP エアコン画面を表示させ、「MENU」を選択する

助手席を操作する場合は、「PASSENGER」を選択します。

TOP エアコン画面で、、または を選択しても表示できます。

▶ 運転席

選択するごとに、作動状態とレベルインジケーターが次のように切りかわります。
AUTO →強（3 個点灯）→中（2 個点灯）→弱（1 個点灯）→ OFF

TOP エアコン画面の設定（→ P. 487）で「マルチ」を選択したときは、TOP エアコン画面で、を選択しても切りかえることができます。

CTH51BU042

▶ 助手席

選択するごとに、作動状態とレベルインジケーターが次のように切りかわります。
AUTO →強（3 個点灯）→中（2 個点灯）→弱（1 個点灯）→ OFF

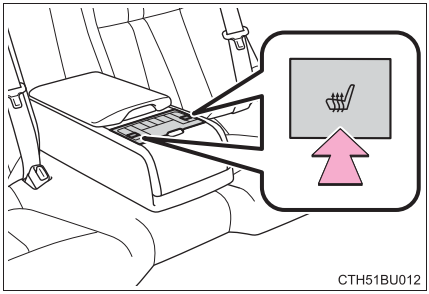
TOP エアコン画面の設定（→ P. 487）で「マルチ」を選択したときは、TOP エアコン画面で、を選択しても切りかえることができます。

CTH51BU043

■ リヤシート（リヤシートヒーター装着車）

押すごとに、ON/OFF が切りかわります。

作動中は、レベルインジケーターが点灯します。
シートが暖まると自動的に「弱」になります。


CTH51BU012

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■シートヒーターの AUTO（タイマー制御）について

シートヒーターの作動状態は、自動で強→中→弱→ OFF の順に切りかわります。切りかわるまでの時間は、シートヒーターを作動させたときの室内温度などにより異なります。

■TOP スイッチについて

→ P. 453

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→ P. 602）

シートベンチレーション（フロントシート）

エアコン画面表示スイッチを押し、TOP エアコン画面を表示させ、「MENU」を選択する

助手席を操作する場合は、「PASSENGER」を選択します。

TOP エアコン画面で、、または を選択しても表示できます。

▶ 運転席

選択するごとに、作動状態とレベルインジケーターが次のように切りかわります。
AUTO →強（3 個点灯）→中（2 個点灯）→弱（1 個点灯）→ OFF

TOP エアコン画面の設定（→ P. 487）で「マルチ」を選択したときは、TOP エアコン画面で、を選択しても切りかえることができます。

▶ 助手席

選択するごとに、作動状態とレベルインジケーターが次のように切りかわります。
AUTO →強（3 個点灯）→中（2 個点灯）→弱（1 個点灯）→ OFF

TOP エアコン画面の設定（→ P. 487）で「マルチ」を選択したときは、TOP エアコン画面で、を選択しても切りかえることができます。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

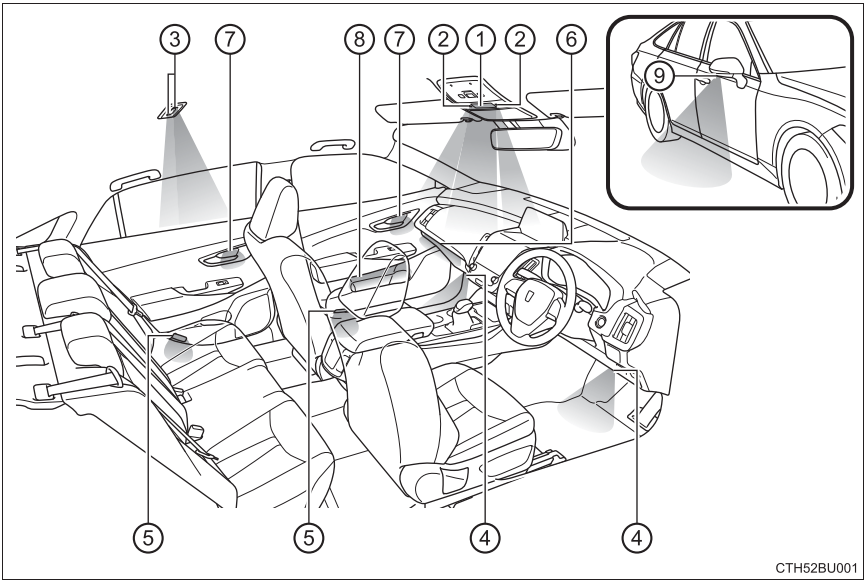
■TOP スイッチについて

→ P. 453

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→ P. 602）

室内灯一覧



① インテリアランプ
（→ P. 459）

② フロントパーソナルランプ
（→ P. 460）

③ リヤパーソナルランプ
（→ P. 460）

④ 足元照明

⑤ ドアカーテシランプ

⑥ インストルメントパネルオーナメント照明★

⑦ ドアハンドル照明★

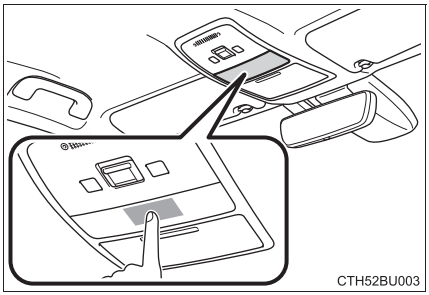
⑧ ドアトリム照明★

⑨ ドアミラー照明★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

インテリアランプ

ランプを点灯・消灯する（ランプにタッチする）

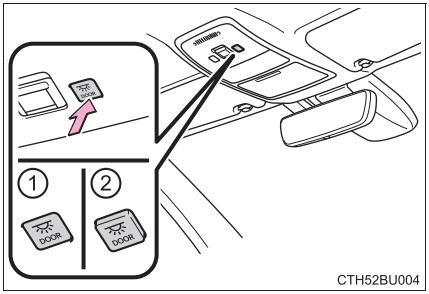


ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる

① ON

② OFF

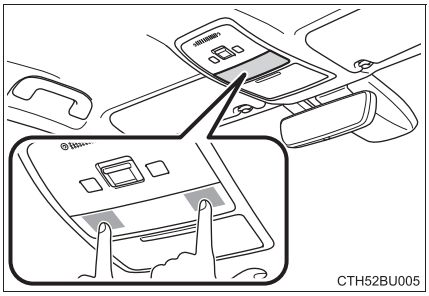
ON のときはリヤドアの開閉に連動して、リヤパーソナルランプも点灯・消灯します。



パーソナルランプ

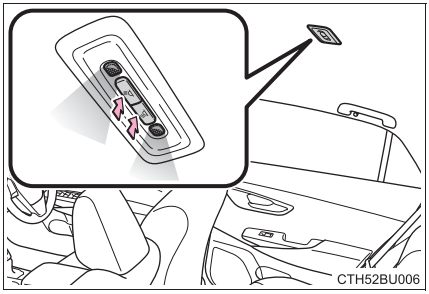
▶ フロント

ランプを点灯・消灯する（ランプにタッチする）



▶ リヤ

ランプを点灯・消灯する



知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■足元照明・インストルメントパネルオーナメント照明★・ドアハンドル照明★・ドアトリム照明★について

シフトレバーをPからP以外にすると減光されます。

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンスイッチを OFF にしたときに、室内灯が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■インテリアランプとフロントパーソナルランプが正常に反応しないおそれのある状況

●レンズ面に水や汚れなどが付着しているとき

●濡れた手で操作したとき

●手袋などを装着しているとき

■室内灯の自動点灯について

SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。
手動操作で消灯することもできますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。
（衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります）

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→ P. 602）

注意

■バッテリーあがりを防止するために

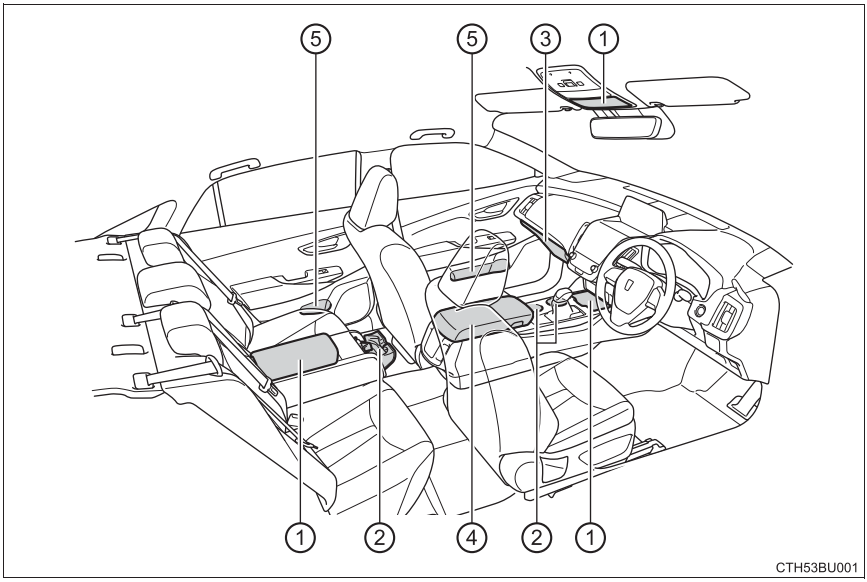
エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

■ランプのレンズの取りはずしについて

インテリアランプとフロントパーソナルランプのレンズを絶対に取りはずさないでください。ランプが故障する原因となります。レンズを取りはずす必要がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

収納装備一覧



① 小物入れ★ （→ P. 467）

② カップホルダー （→ P. 465）

③ グローブボックス （→ P. 463）

④ コンソールボックス （→ P. 464）

⑤ ボトルホルダー／ドアポケット （→ P. 465）

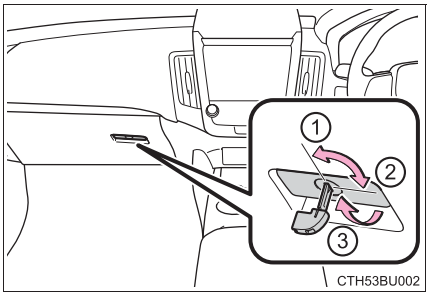
警告

- メガネ･ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
  放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
  - ・室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
  - ・室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- 収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。
  急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

グローブボックス

① メカニカルキーで解錠
② メカニカルキーで施錠
③ 開ける（レバーを引く）



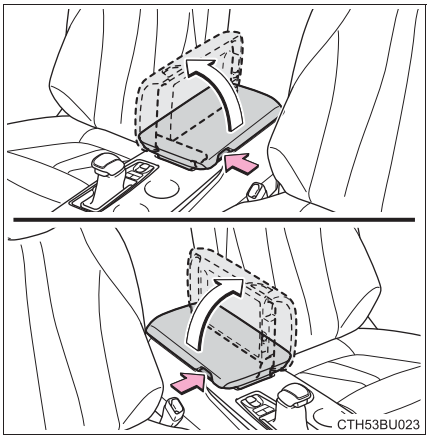
知識

- 車幅灯点灯時は、グローブボックス内のランプが点灯します。
- グローブボックス内に、トランクオープナーメインスイッチがあります。（→ P. 131）

コンソールボックス

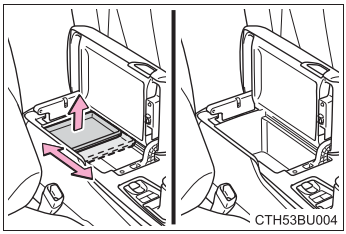
ボタンを押してフタを開ける

左右どちらからでも開けることができます。



知識

トレイはスライドさせたり、取りはずすことができます。



警告

コンソールボックスのフタを開閉するときは、指などを挟まないように注意してください。

注意

破損を防ぐために、コンソールボックスのフタの上に乗ったり、無理な力をかけたりしないでください。

カップホルダー／ボトルホルダー

■ フロントカップホルダー

カップホルダーにペットボトルなどを載せていちばん下まで押し下げる

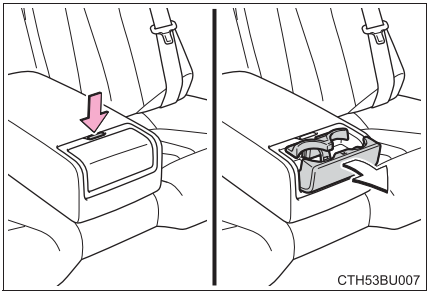
フタをしていないカップで、カップホルダーを押し下げないでください。

カップホルダーをもとの位置にもどすには、ボタンを押します。

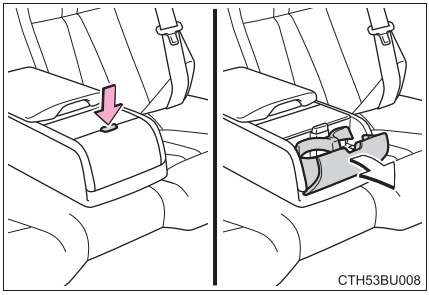
■ リヤカップホルダー

アームレストを手前に倒してボタンを押す

▶ リヤパワーシート非装着車

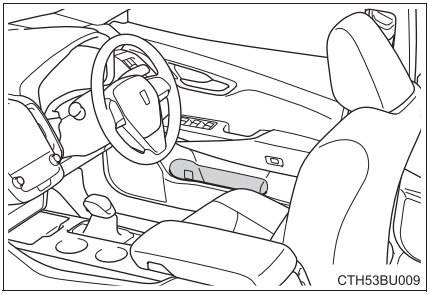


▶ リヤパワーシート装着車

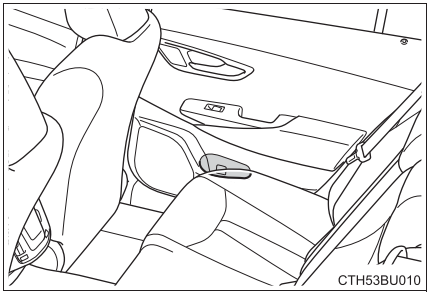


■ ボトルホルダー

▶ フロント



▶ リヤ



知識

■ボトルホルダーとして使用するときは

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

警告

フロントカップホルダー：カップや缶、ペットボトル以外のものを置かないでください。
リヤカップホルダー：カップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために、温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

注意

■フロントカップホルダーの破損を防ぐために

●カップホルダー以外の目的で使用しないでください。

●上下方向に過度の負荷をかけないでください。

■フロントカップホルダーの故障や誤作動を防ぐために

カップホルダーの改造や分解をしないでください。カップホルダーが正常に作動しないおそれがあります。

■リヤカップホルダーの破損を防ぐために

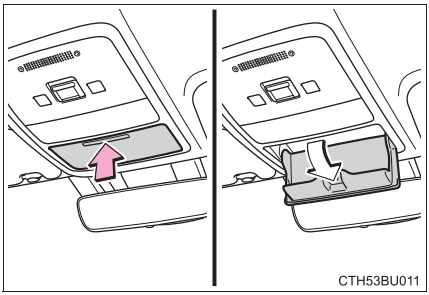
リヤカップホルダーが出ている状態で、リヤアームレストを格納しないでください。

■ボトルホルダーについて

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

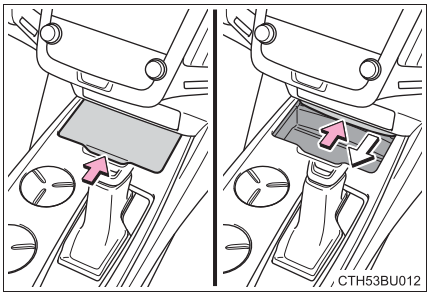
小物入れ

▶ 天井（ムーンルーフ非装着車）



押して開ける

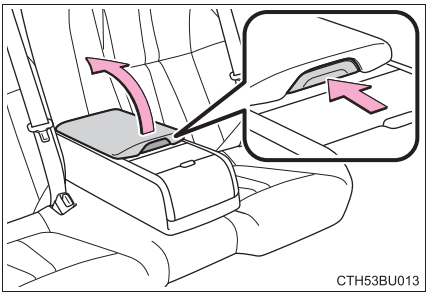
▶ フロントセンター（おくだけ充電［ワイヤレス充電器］非装着車）



開ける：
ロックされるまで前へ押す

閉める：
前側へ押す（ロックが解除され、自動で閉まります）

▶ リヤ席（リヤパワーシート装着車）



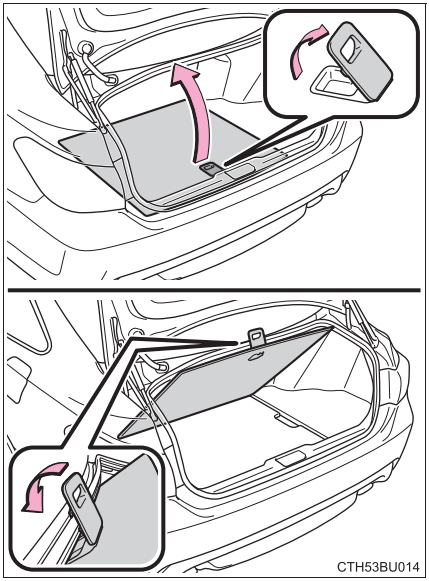
アームレストを手前に倒しノブを押して開ける

トランク内装備

ラゲージマット

フックを持ってラゲージマットを持ち上げる

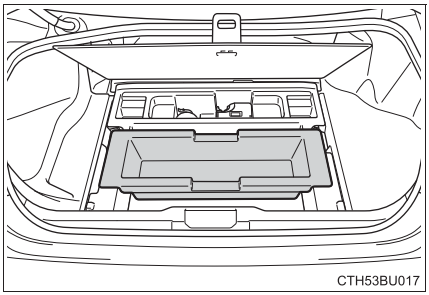
フックを使ってラゲージマットを固定することができます。



ラゲージトレイ

ラゲージマットを持ち上げ使用する

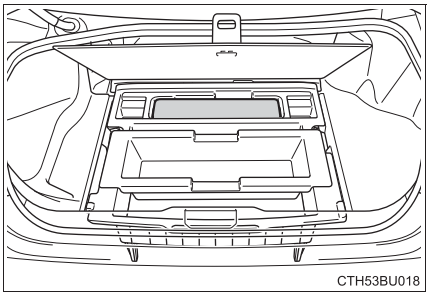
ラゲージトレイは取りはずすことができます。



三角表示板収納スペース

三角表示板を収納することができます。

大きさや形状によっては、収納できない場合があります。



注意

■ **トランクを閉めるときは**

ラゲージマットのレバーをトランクの端にかけたままにしないでください。ラゲージマットが破損するおそれがあります。

■ **ラゲージマットについて**

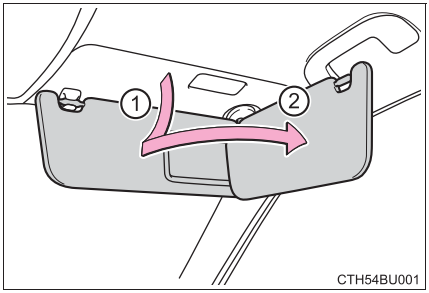
ラゲージトレイを取りはずしたまま、ラゲージマットを取り付けないでください。ラゲージマットが変形するおそれがあります。

その他の室内装備

サンバイザー

① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

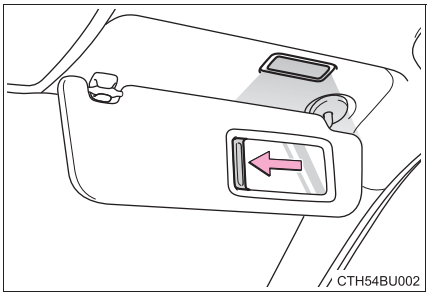
② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



バニティミラー

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとバニティミラーランプが点灯します。



知識

エンジンスイッチが OFF の場合、バニティミラーランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

注意

バッテリーあがりを防止するために、エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

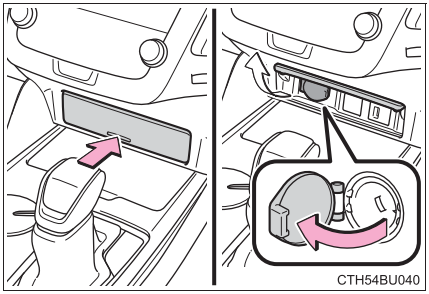
時計

マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーション画面に表示されます。
時刻の調整は、別冊の「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

アクセサリーソケット

DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

フタを押して開け、中のフタを開けて使用する



知識

■アクセサリーソケットを使用するとき

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモードのとき

■エンジンスイッチを OFF にするとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。
接続したままにしておくと、エンジンスイッチを正常に OFF することができなくなる場合があります。

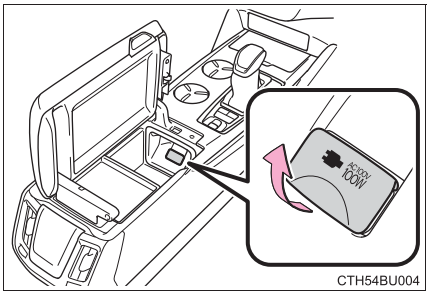
注意

- ショートや故障をふせぐために、ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。
- バッテリーあがりを防止するために、エンジンが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

アクセサリーコンセント★

AC100Vで最大消費電力100W以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する



知識

- 作動条件：エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
- Stop & Start システムの作動により、エンジン停止状態からエンジンが再始動するとき、一時的にアクセサリーコンセントが使用できないことがありますが、異常ではありません。

注意

- アクセサリーコンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。
- ヒューズが切れるのを防ぐために、AC100Vで最大消費電力100W以上の電気製品を使用しないでください。消費電力が 100W をこえる電気製品を使用すると、保護回路が作動して電源を遮断します。
- バッテリーあがりを防止するために、エンジンが停止した状態で、アクセサリーコンセントを長時間使用しないでください。
- 次のようなAC100Vの電気製品は、消費電力が100W以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。
  - ・起動時のピーク電力が高い電気製品
  - ・精密なデータを処理する計測機器
  - ・電源周波数の切りかえ（50/60Hz）のある機器
  - ・極めて安定した電力供給を必要とするその他の電気製品

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

おくだけ充電（ワイヤレス充電器）★

ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）によるワイヤレス充電規格 Qi に適合した携帯電話やスマートフォンなどの携帯機器を充電エリアに置くだけで、携帯機器を充電することができます。

充電エリアより大きい携帯機器には本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。
ご使用になる携帯機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■「Qi」マークについて

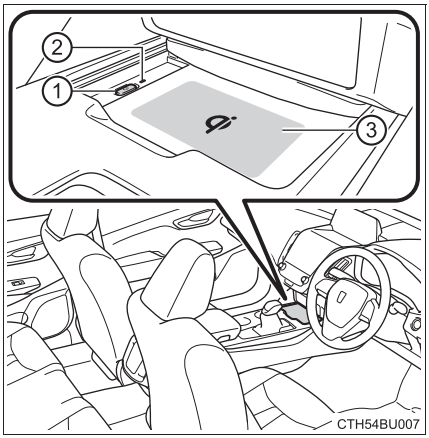
「Qi」、Qi マークは、ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）の登録商標です。

■「おくだけ充電」マークについて

「おくだけ充電」、「おくだけ充電」ロゴは、株式会社 NTT ドコモの登録商標です。

■ 各部の名称

① 電源スイッチ
② 作動表示灯
③ 充電エリア



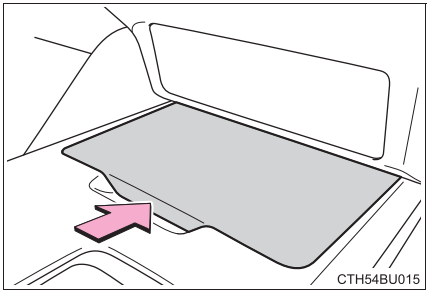
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 充電する

1 フタを開ける

フタがロックされるまで前へ押します。

フタをもう一度前側へ押すとロックが解除され、自動で閉まります。

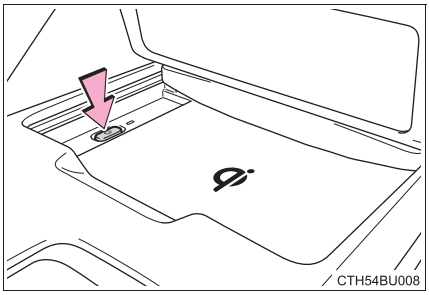


2 電源スイッチを押す

押すごとに ON と OFF に切りかわります。

ON にすると作動表示灯が緑色に点灯します。

ワイヤレス充電器の電源の状態（ON/OFF）はエンジンスイッチを OFF にしても記憶されます。

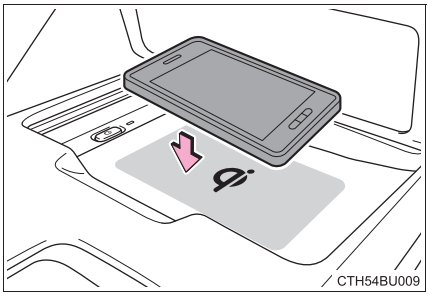


3 充電エリアに携帯機器を置く

携帯機器の充電面が下になるように置いてください。

充電中は作動表示灯が橙色に点灯します。

充電が行われないときは、できるだけ充電エリアの中央付近に携帯機器を置き直してください。



充電が完了すると作動表示灯が緑色に点灯します。

● 再充電機能

・充電が完了し、充電停止状態が一定時間経過すると充電を再開します。
・携帯機器が移動すると、いったん充電が停止しますが、ただちに充電を再開します。

■ 作動表示灯の点灯状況

作動表示灯	状況
消灯	ワイヤレス充電器の電源が OFF のとき
緑（点灯）	待機中（充電可能状態）
	充電完了時 ※
橙（点灯）	充電エリアに携帯機器を置いたとき（携帯機器を検出中）
	充電中

※ 携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

● 作動表示灯が点滅したときは

エラーが発生すると作動表示灯が橙色に点滅します。次の表に基づき、対処をしてください。

作動表示灯	想定される原因	対処方法
1 秒間に 1 回の点滅をくり返す（橙色）	**ワイヤレス充電器の故障**	トヨタ販売店へお問い合わせください。
3 回連続の点滅をくり返す（橙色）	**異物検知** 携帯機器と充電エリアの間に異物がある	携帯機器と充電エリアの間にある異物を取り除いてください。
	携帯機器のずれ 置かれた場所から携帯機器がずれている	携帯機器を充電エリアの中央付近に置き直してください。
4回連続の点滅をくり返す（橙色）	**ワイヤレス充電器内の温度上昇**	いったん充電を停止し、しばらく待ってから充電を開始してください。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモードのとき

■使用できる携帯機器について

●ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器を使用できます。ただし、すべての Qi 準拠機器と互換性を保証しているものではありません。

●携帯電話やスマートフォンをはじめとする携帯機器を対象とした 5W 以下の低電力給電を対象としています。

■スマートエントリー＆スタートシステムの使用について

スマートエントリー＆スタートシステムが作動中は、一時的に充電が停止することがありますが、異常ではありません。

■携帯機器にカバーやアクセサリーを付けるときは

携帯機器に、「Qi」非対応のカバーやアクセサリーを付けた状態で充電しないでください。カバーやアクセサリーの種類によっては充電できない場合があります。充電エリアに携帯機器を置いても充電が行われないときは、カバーやアクセサリーをはずしてください。

■充電中に、AM ラジオにノイズが入るときは

ワイヤレス充電器の電源を OFF にして、ノイズが低減するか確認してください。ノイズが低減する場合は、充電中にワイヤレス充電器の電源スイッチを約 2 秒間押し続けることで、充電の周波数を切りかえてノイズを低減することができます。
また、その際、作動表示灯が橙色に 2 回点滅します。

■充電についての留意事項

充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器が温かくなりますが、異常ではありません。
充電中に携帯機器が温かくなったときは、携帯機器側の保護機能により、充電が停止することがあります。この場合、携帯機器の温度が十分に下がってから、再度、充電を行ってください。

■作動中の音について

電源スイッチを押して電源を ON にしたときや、携帯機器を検出中は “ ジー ” と作動音がしますが、異常ではありません。

■清掃について

→ P. 499

警告

■**運転中の注意**

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

■**電波がおよぼす影響について**

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

■**故障ややけどを防ぐために**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと装置の故障や損傷、車両火災、発熱によるやけど、または感電につながるおそれがあります。

- 充電中に、充電エリアと携帯機器の間に金属物をはさまない
- 小物入れがわりにものを置かない
- 強い力や衝撃をかけない
- 分解や改造、取りはずしをしない
- 指定された携帯機器以外は充電しない
- 磁気を帯びたものを近付けない
- 充電エリアに、ほこりがかぶった状態で充電しない
- ワイヤレス充電器に異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておく
- 布などをかぶせて充電しない
- 充電エリアにアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない

⚠注意

■機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

- ●携帯機器が満充電のとき
- ●充電エリアと携帯機器の間に異物があるとき
- ●充電により、携帯機器の温度が高温になっているとき
- ●携帯機器の充電面を上にして置いたとき
- ●携帯機器の置き場所が充電エリアからずれているとき
- ●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- ●携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
  - ・アルミ箔などの金属の貼られたカード
  - ・アルミ箔を使用したタバコの箱
  - ・金属製の財布やかばん
  - ・小銭
  - ・カイロ
  - ・CD や DVD などのメディア
- ●近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

また、上記以外で、充電が正常に行われない、または、作動表示灯が点滅したままのときは、ワイヤレス充電器の異常が考えられます。トヨタ販売店へお問い合わせください。

■故障やデータ破損を防止するために

- ●充電中に、充電エリアにクレジットカード・ETC カードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近付けると、磁気の影響によりデータが消えるおそれがあります。また、腕時計などの精密機器を近付けると、こわれたりするおそれがありますので、近付けないでください。
- ●携帯機器は車室内に放置しないでください。炎天下など車室内が高温となり、故障の原因となります。

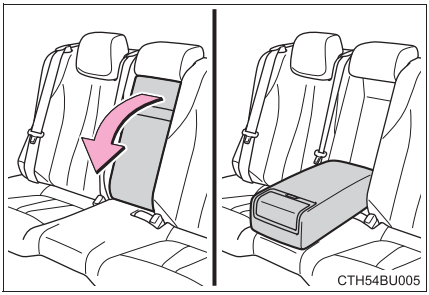
■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

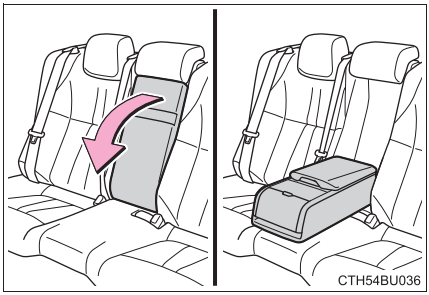
リヤアームレスト

手前に倒して使用します。

▶ リヤパワーシート非装着車



▶ リヤパワーシート装着車



注意

アームレストの破損を防ぐために、過度の負荷をかけないでください。

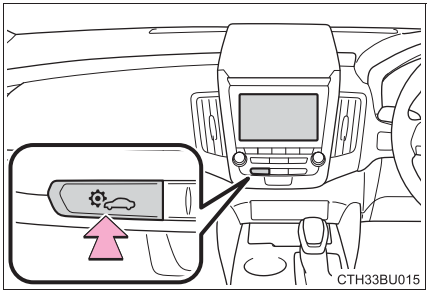
リヤサンシェード★／リヤドアサンシェード★

■ リヤサンシェード

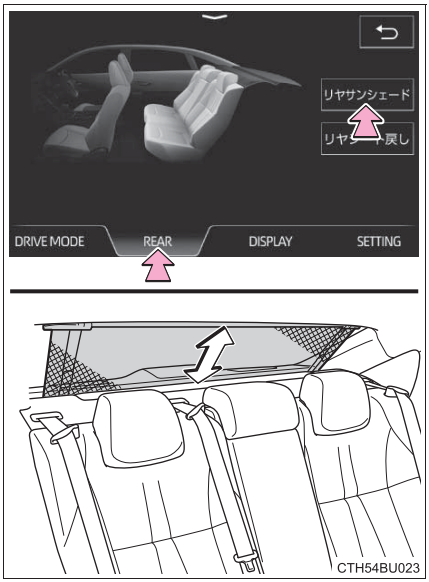
スイッチ操作でリヤサンシェードが上昇／下降します。

● フロント席からの操作

1 車両設定スイッチを押す



2 「REAR」を選択し、「リヤサンシェード」を選択する

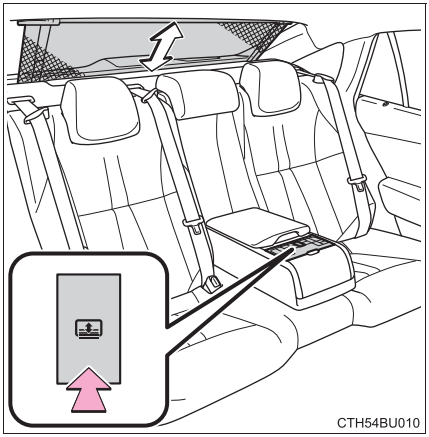


イラストの意匠は装備などにより異なります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● リヤ席からの操作

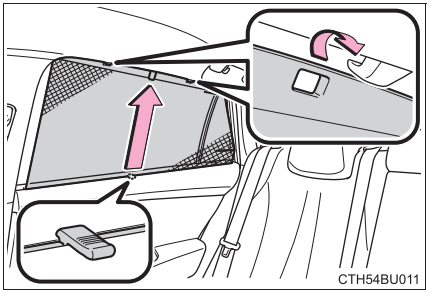
スイッチを押す



■ **リヤドアサンシェード**

ツマミをしっかりと持って引き出し、フックにかける

もどすときはフックからはずし、ゆっくり収納します。



知識

■ **リヤサンシェードの作動条件**

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ **エンジンスイッチ OFF 後の作動**

エンジンスイッチを OFF にしたあと、約 1 分間リヤサンシェードをリヤ席から操作できます。

■リバース連動機能

リヤサンシェードが上がった状態でシフトレバーをRにすると、後方を見やすくするためにリヤサンシェードが下降します。

ただし、次のいずれかを行うと、リヤサンシェードは再度上昇します。

●スイッチをもう一度押す※

●シフトレバーをPに入れる

●シフトレバーをR以外にし、15km/h以上で走行する

※ スイッチ操作後はリバース連動機能が作動しない場合があります。作動可能状態にするには、再度上記の操作を行ってください。

警告

リヤサンシェードが作動しているときは、留め金部分や溝に指を置かないでください。
巻き込まれてけがをするおそれがあります。

注意

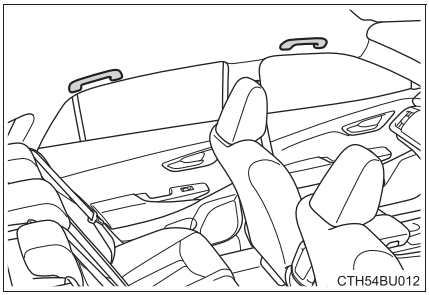
●バッテリーあがりを防止するために、エンジンが停止しているときは、リヤサンシェードを操作しないでください。

●正常に機能させるために、次のことをお守りください。

・リヤサンシェードのモーターや他の部分に負荷をかけすぎない
・開閉のさまたげになる部分にものを置かない
・リヤサンシェード・リヤドアサンシェードにものを貼らない
・溝をきれいに保つ
・長時間リヤサンシェードの操作を続けない

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



警告

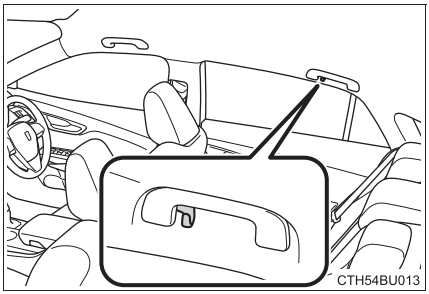
アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。
アシストグリップが破損し、転倒などしてけがをするおそれがあります。

注意

アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけたりしないでください。

コートフック

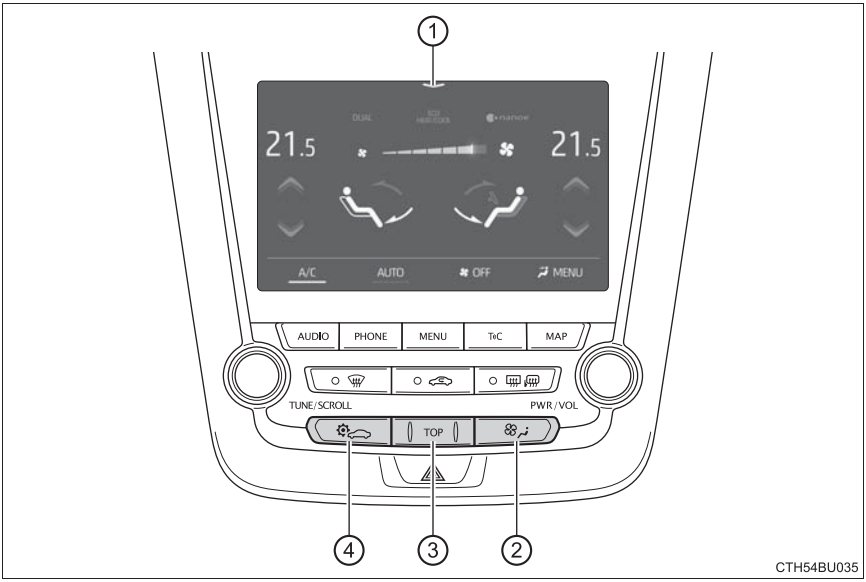
コートフックは、リヤ右側のアシストグリップに付いています。



警告

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

トヨタマルチオペレーションタッチ



① 操作画面
② エアコン画面表示スイッチ
③ TOP スイッチ
④ 車両設定スイッチ

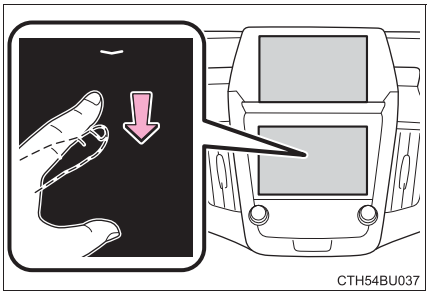
エアコンの操作

エアコン画面表示スイッチを押し、エアコン操作画面を表示させる
（→ P. 437）

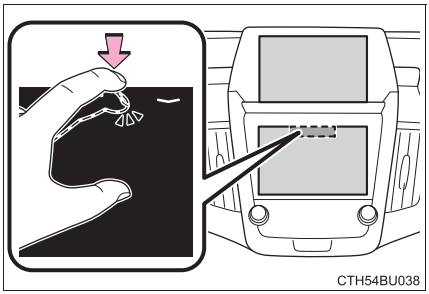
操作画面の切りかえ

次のいずれかの操作を行うことで、操作画面をナビゲーション画面と同じ表示に切りかえることができます。

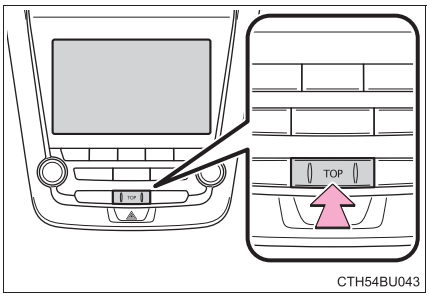
● 操作画面を下方向へフリック操作する


CTH54BU037

● 操作画面の上部中央付近をタッチする


CTH54BU038

● TOP スイッチを押す



CTH54BU043

TOP スイッチを押すと、操作画面をもとの画面に戻すことができます。

各機能の操作、設定

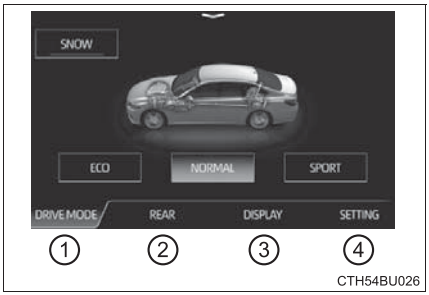
車両設定スイッチを押し、各機能の操作、設定画面を表示させる

① 走行モードの選択
（→ P. 203, 422）

② 後席の操作★（→ P. 145, 480）

③ 画質の調整（→ P. 486）

④ 設定の変更（→ P. 487）

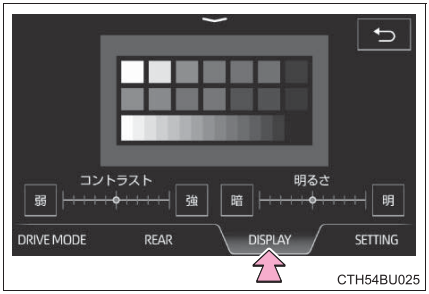


イラストの意匠は装備などにより異なります。

画質の調整

1 車両設定スイッチを押し、各機能の操作、設定画面を表示させる

2 「DISPLAY」を選択し、各調整スイッチを選択する



イラストの意匠は装備などにより異なります。

項目	スイッチ	機能
コントラスト	強	強くする
	弱	弱くする
明るさ	明	明るくする
	暗	暗くする

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

設定の変更

画面の操作規制や操作感度などの設定を変更できます。

1 車両設定スイッチを押し、各機能の操作、設定画面を表示させる

2 「SETTING」を選択し、各項目の設定内容を選択する

イラストの意匠は装備などにより異なります。

CTH54BU042

項目	設定内容	説明
操作画面継続表示	する	一定時間画面操作を行わなかったとき、操作画面が継続して表示されるように設定したり、操作画面が自動でTOPエアコン画面に切りかわるまでの時間を調整することができます。
	5 分	
	1 分	
	20 秒	
TOP スイッチ設定	下画面オープン・クローズ	TOP スイッチを押したとき、画面に表示される内容を変更することができます。 ナビゲーション画面の表示について詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。
	上画面：MAP 下画面：エアコン	
	上画面：HOME 下画面：エアコン	
TOP エアコン画面★	シンプル	TOPエアコン画面に表示される内容を変更することができます。(→ P. 453)
	マルチ	
スイッチ感度レベル	3（高）	画面の操作感度を調整することができます。
	2（普通）	
	1（低）	
オープンソフトウェア情報	–	第三者ソフトウェアに関するお知らせを表示します（該当する場合、ソフトウェアの入手方法のご案内も含みます）。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■操作画面について

●画面保護のため、操作画面は指で軽くタッチしてください。

●操作画面の反応がないときは、一度画面から手を離してから再度タッチしてください。

●各操作画面から を選択すると、ひとつ前の画面にもどります。

●一定時間画面操作を行わなかった場合、操作画面が自動で TOP エアコン画面に切りかわります。操作画面継続表示の設定（→ P. 487）により操作画面が継続して表示されるように変更したり、操作画面が自動で切りかわるまでの時間を調整することができます。
TOP エアコン画面からナビゲーション画面の表示にもどす場合は、再度、操作画面の切りかえ（→ P. 485）を行ってください。

●次のときは、操作画面が反応しなかったり、誤作動することがあります。

・手袋を着用しているとき
・爪で操作したとき
・他の指や手のひらが、他のスイッチに近づいたとき
・汚れや水分が付着しているとき
・操作画面の表面にフィルムなどを貼ったとき
・操作画面の表面を塗装したとき
・近くにテレビ塔・発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
・無線機や携帯電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●操作画面が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているときは、操作画面が反応しなかったり、誤作動することがあります。

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●清掃の際、操作画面をふくことで、操作画面が反応することがあります。

●操作画面に手を近づけた状態で、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにすると、操作画面が反応しないことがあります。その場合、操作画面から手を離し、エンジンスイッチを OFF にしてからイグニッション ON モードにしてください。

■液晶画面について

●液晶画面は、斜め方向からみると画面が白っぽく見えたり、黒っぽく見えたりします。

●太陽の光などの外光が画面にあたると画面が見にくくなります。

●偏光レンズを使用したサングラスなどを装着すると、画面が暗く見えたり、見にくくなったりします。

■オープニング画面について

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションONモードにすると、オープニング画面が表示されます。

警告

安全のため、運転者は走行中に極力操作をしないでください。走行中はハンドルの操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中に画面を見るときは、必要最小限の時間にしてください。

注意

■**画面を清掃するときは**

画面の汚れは、プラスチックレンズ用メガネふきなどのやわらかく乾いた布で軽くふき取ってください。
手で強く押したり、かたい布などでこすると表面に傷が付くことがあります。
また、液晶画面はコーティング処理してあります。ベンジンやアルカリ性溶液などが付着すると画面が損傷するおそれがあります。

■**バッテリーあがりを防ぐために**

エンジンが停止しているときは、長時間操作をしないでください。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた
外装の手入れ.....492
内装の手入れ.....497
6-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット 501
ガレージジャッキ.....504
エンジンルームカバー 505
ウォッシャー液の補充 506
タイヤについて.....508
タイヤの交換.....512
タイヤ空気圧について 518
エアコンフィルターの
交換 520
電子キーの電池交換.....523
ヒューズの点検・交換.....526
電球（バルブ）の交換.....530

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■セルフリストアリングコート

お車のボデーには、洗車などによる小さなすり傷を自然に復元する、傷付きにくい塗装を使用しています。

- 新車時から５～８年のあいだ、効果が持続します。
- 傷が復元するまでの時間は、傷の深さや周囲の温度により変化します。
  なお、お湯をかけて塗装を暖めると、復元するまでの時間が短くなる場合があります。
- 鍵や硬貨などによる深い傷は復元できません。
- 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

■自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、アンテナ・リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や傷付いたり、破損したりするおそれがあります。

■高圧洗浄機を使うとき

●室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

●駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。
近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

■洗車などで車に水をかけたとき

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

●電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する
（電子キーの盗難に注意してください）

●電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→ P. 138）

■ホイール・ホイールキャップについて

●メッキ用クリーナーを使用しないでください。ホイールが変色するおそれがあります。

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。

●洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。

●塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。

・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
・硬いブラシを使用しない
・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

●撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

・フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
・汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
・コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
・金属製の道具で霜取りをしない

●水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

●中性洗剤を水で約 5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

●乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る

●油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

■ワイパーを立てるときは

→ P. 236

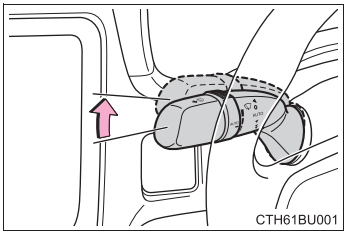
警告

■洗車をするとき

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■フロントウインドウガラスを清掃するとき（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



●雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき

●水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき

●フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき

●車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ブラインドスポットモニター★について

リヤバンパーの塗装に傷がつくと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。傷がついた場合はブラインドスポットモニターを使用せず、トヨタ販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙･油煙･粉じん･鉄粉･化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

・ホイールの補修を行った場合、補修箇所が目立つおそれがあります。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

■自動洗車機を使用するとき（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。（→ P. 231）
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

注意

■高圧洗浄機を使用するときは

- 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
  高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。
  - ・駆動系部品
  - ・ステアリング部品
  - ・サスペンション部品
  - ・ブレーキ部品
- モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。
- フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

室内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
  水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

サテン仕上げ金属コーティング部分の手入れ

- 水で湿らせたやわらかい布または合成セーム皮で汚れをふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面に残った水分を完全にふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
  ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。
シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■スーパー UV カットガラスについて

- ドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉をくり返さないでください。

■デジタルインナーミラー★のお手入れについて

→ P. 167

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**車両への水の浸入**

●床･トランク内など､車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると､故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。(→ P. 31)電気の不具合により、SRSエアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●おくだけ充電（ワイヤレス充電器）★（→ P. 473）をぬらさないでください。発熱によるやけど、または感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）**

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート・デジタルインナーミラー★・ハンドル以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
・シート・デジタルインナーミラー★：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤
・ハンドル：シンナーなどの有機溶剤、アルコール類を含むクリーナー

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。
インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。
また、レンズにはふれないでください。（→ P. 243）

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■スーパー UV カットガラスを清掃するときは

ドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

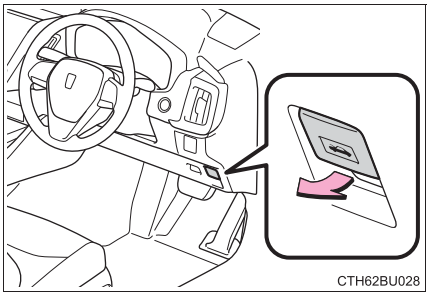
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ボンネット

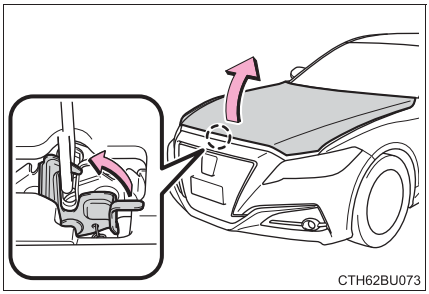
室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

1 ボンネット解除レバーを引く

ボンネットが少し浮き上がります。


CTH62BU028

2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける


CTH62BU073

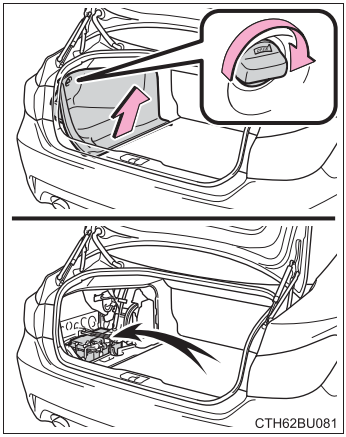
知識

■ボンネット開警告ブザー

ボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5km/h をこえるとマスターウォーニングが点滅し、警告ブザーが鳴ります。

■バッテリーについて

●この車両のバッテリーはトランク（助手席側）のカバー内にあり、エンジンルームには搭載されていません。



●バッテリーがあがってしまったときは、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。（→ P. 582）

警告

■走行前の確認

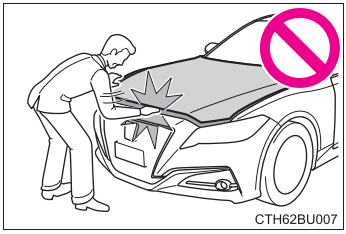
ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



■バッテリーの取り扱いについて

→ P. 586

注意

■**ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために**

●ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

●ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。

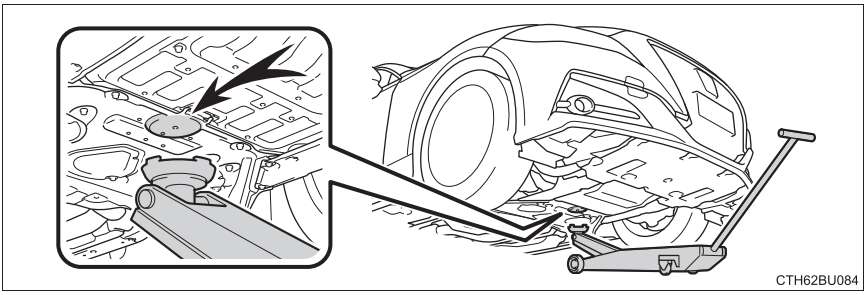
・ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
・ロッド部を軍手などでふれない
・ボンネットにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
・ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

ガレージジャッキ

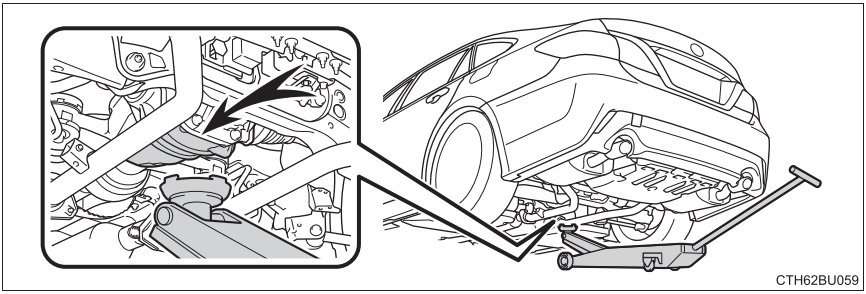
ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

◆ フロント側



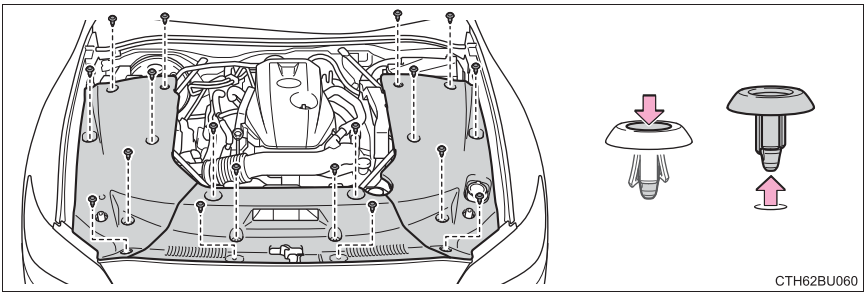
◆ リヤ側



エンジンルームカバー

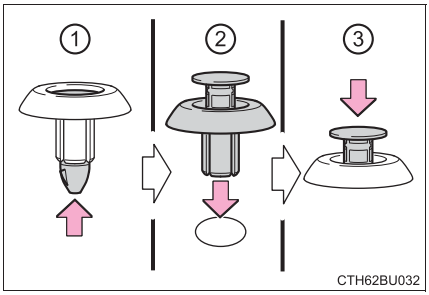
ヒューズの交換・点検などを行うとき作業がしづらい場合に取りはずします。

エンジンルームカバーの取りはずし方



クリップの取り付け方

① 中央部分を押し上げる
② 挿し込む
③ クリップ中央部分を押す



警告

■けがを防ぐために

エンジンルームカバーを取りはずす前に、エンジンスイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■エンジンルームカバー取り付け後の確認

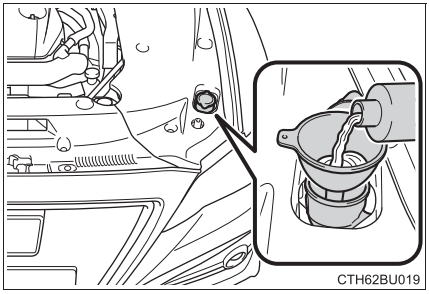
もとの場所に確実に取り付けられていることを確認してください。

ウォッシャー液の補充

補充のしかた

次の場合、ウォッシャー液を補充してください。

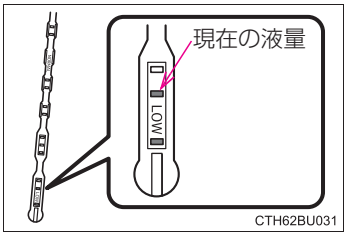
- ウォッシャー液が出ない
- 液面がゲージのLOWの位置に近づいたとき


CTH62BU019

知識

■ゲージの使い方

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。
残量がゲージの先端から 2 つめの穴部より下まわった（LOW の位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補給してください。



CTH62BU031

警告

■ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■**ウォッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■**ウォッシャー液の薄め方**

必要に応じて水で薄めてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を FR 車は 10,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

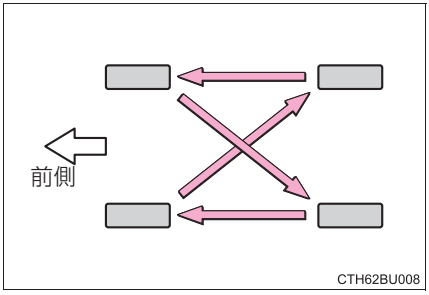
- タイヤ空気圧

  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



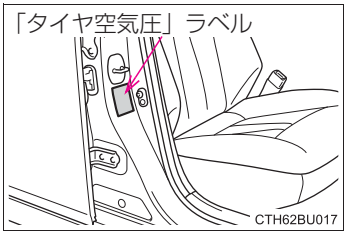
知識

■タイヤ空気圧の数値

タイヤサイズ	空気圧※ kPa（kg/cm^2）	
	前輪	後輪
215/60R16 95H	250（2.5）	
215/55R17 94V	240（2.4）	
225/45R18 91W	240（2.4）	

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※ タイヤが冷えているときの空気圧



■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■低扁平タイヤについて（18 インチタイヤ装着車）

- 低扁平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。特に空気圧は定期的に点検してください。2 週間に 1 回（最低でも 1ヶ月に 1 回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。
- 雪道や凍結路では、普通のタイヤとくらべてグリップ力が低下します。冬用タイヤを使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。
走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

■低扁平タイヤについて（18 インチタイヤ装着車）

低扁平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため次のことに注意してください。

- 適切なタイヤ空気圧で使用する
  空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。
- 段差や凹凸のある路面、路上に空いた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避ける
  タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

タイヤの交換

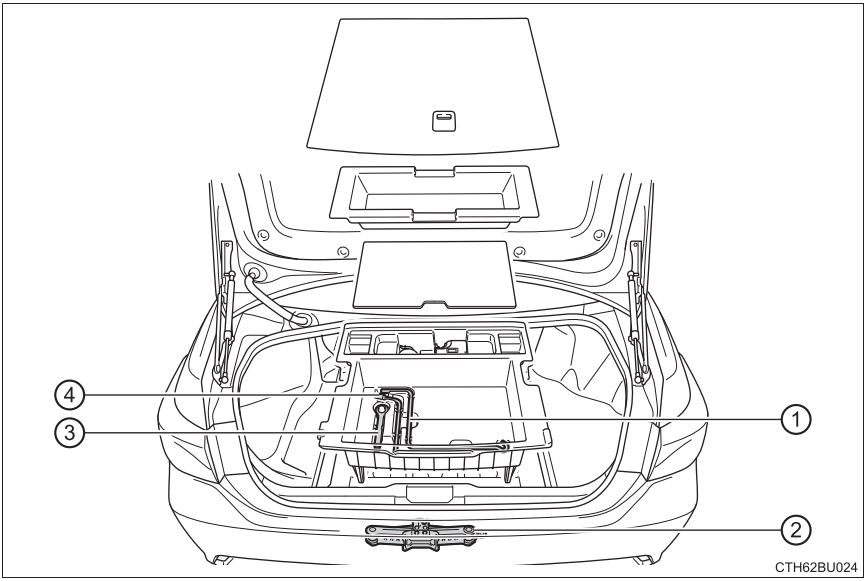
ジャッキを使用してお車を持ち上げるときは、正しい位置にジャッキを取り付けてください。

正しい位置に取り付けないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを停止する

■ 工具とジャッキ位置



① ジャッキハンドル
② ジャッキ
③ けん引フック
④ ホイールナットレンチ

警告

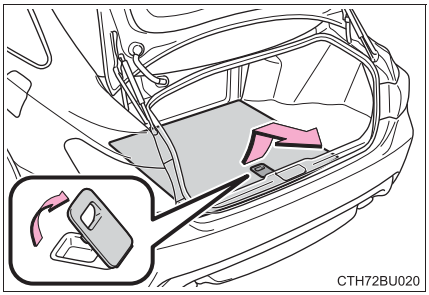
■**ジャッキの使用について**

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

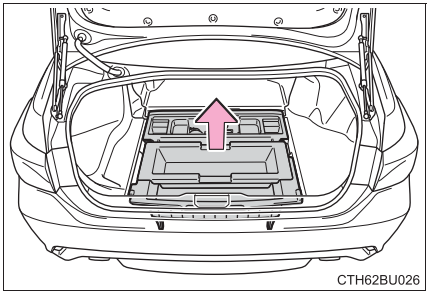
- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキの取り出し方

1 フックを持ってラゲージマットを持ち上げて取りはずす



2 ツールトレイを取りはずす



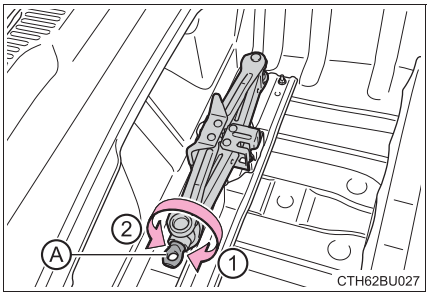
3 ジャッキを取りはずす

① 締まる

② ゆるむ

ジャッキの締め付けが固く、ゆるめることができないときは、ジャッキのA部の穴にドライバーなどを挿入してゆるめてください。

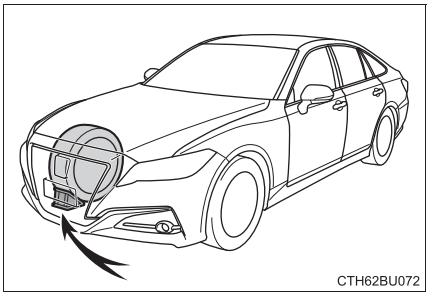
ジャッキを収納するときは、ジャッキと固定具がかみ合うよう確実に固定してください。



タイヤの交換

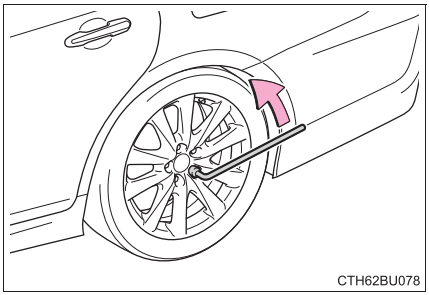
1 輪止め※をする

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

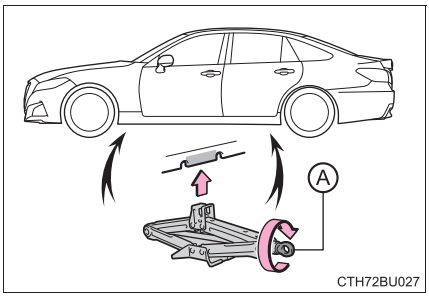


交換するタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

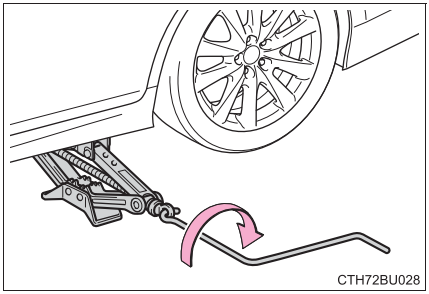
2 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



3 ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

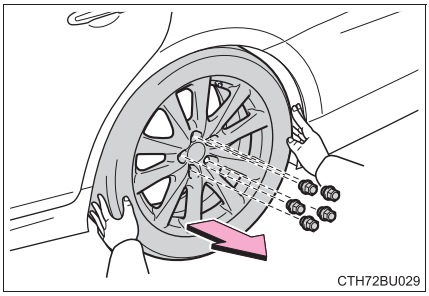


4 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる


CTH72BU028

5 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。


CTH72BU029

警告

■**タイヤ交換について**

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

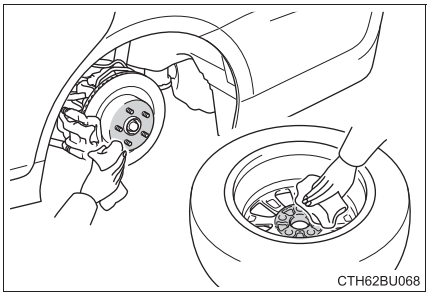
●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下するおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
・ホイールの交換後は、すぐに 103N・m（1050kgf・cm）の力でナットを締める
・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける

タイヤの取り付け

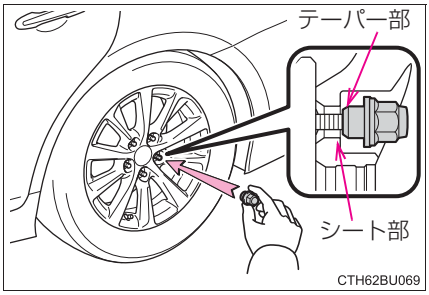
1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。


CTH62BU068

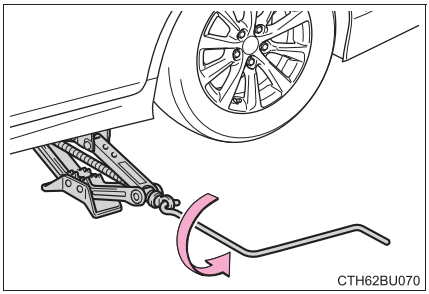
2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす



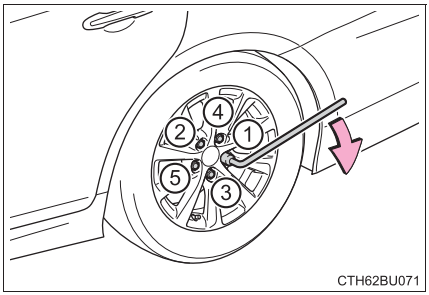
CTH62BU069

3 車体を下げる


CTH62BU070

4 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
103N・m（1050kgf・cm）



CTH62BU071

5 すべての工具・ジャッキを収納する

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。低扁平タイヤの場合、2 週間に 1 回、または長距離ドライブの前には必ず空気圧を点検してください。（→ P. 600）

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正がどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

警告

■**タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。
タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
  （路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

注意

■**タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。
バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

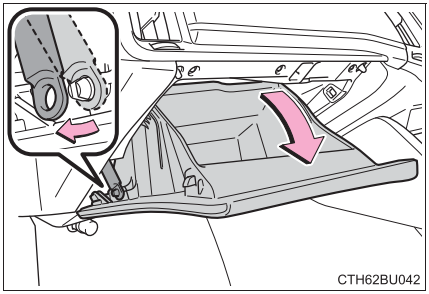
エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換のしかた

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはずす

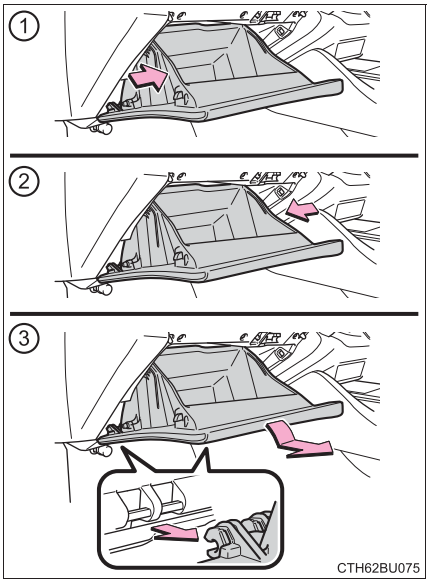


3 グローブボックスを取りはずす

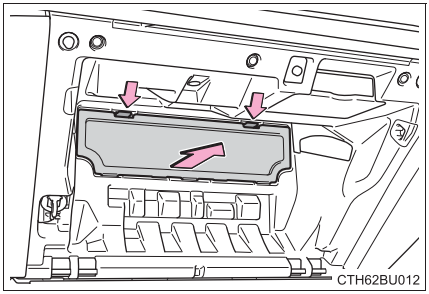
① 左側面を内側に引いて上部のツメをはずす

② 右側面も同様にツメをはずす

③ 下部のツメを下方向に引きながらはずして取りはずす



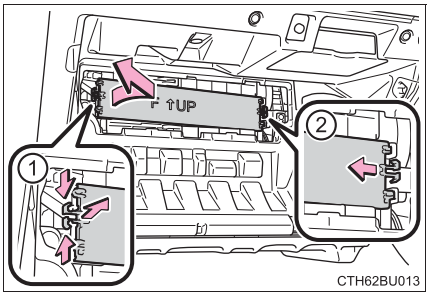
4 ツメを押してロックをはずし、パネルを取りはずす



5 フィルターカバーを取りはずす

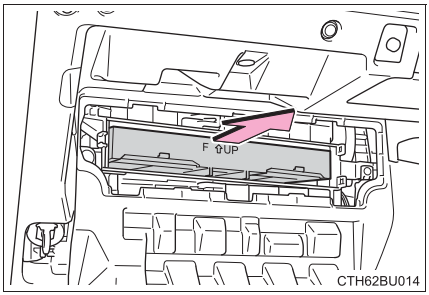
① フィルターカバーの固定を解除する

② フィルターカバーを矢印の方向にずらし、ツメからフィルターカバーを抜く



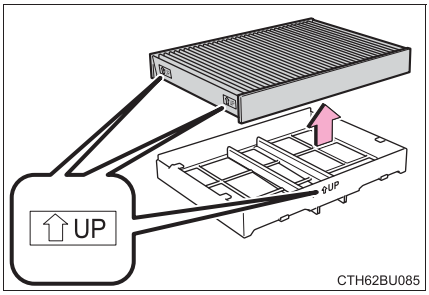
6 フィルターケースを取りはずす

フィルターの上に異物が付着している場合があります。



7 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



8 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

15,000km［7,500km※1］ごと、ただし 12ヶ月をこえないこと ※2

※1 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

※2 芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

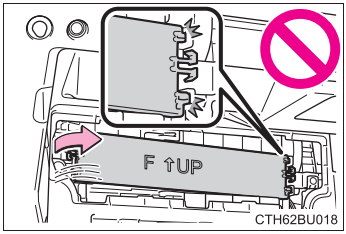
注意

■エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは交換するタイプです。
  水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーの固定を解除するときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力が加わらないよう注意してください。ツメが破損するおそれがあります。



電子キーの電池交換

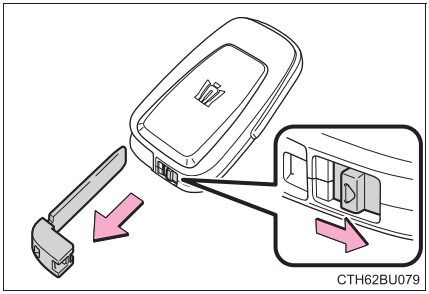
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。
電池はご自身で交換できますが、部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池 CR2032

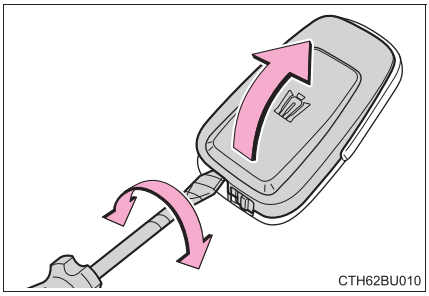
電池交換のしかた

1 ロックを解除してメカニカルキーを抜く


CTH62BU079

2 カバーをはずす

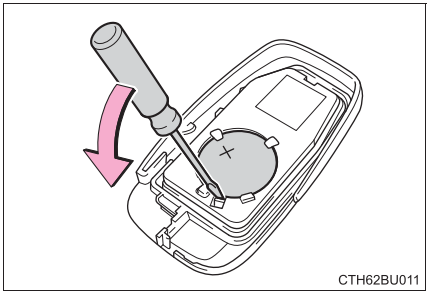
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。


CTH62BU010

3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。



4 カバーを取り付け、メカニカルキーを差し込む

5 ボタン（🔒または🔓）を操作して、ドアが施錠または開錠されることを確認する

知識

■電池を交換するときは

電池などの小さな部品を紛失しないようにしてください。

■リチウム電池 CR2032 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■カードキー★の電池交換が必要なときは

カードキーの電池は市販されていないため、トヨタ販売店で交換してください。

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

●スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

⚠警告

■取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠注意

■**電池を交換するときは**

適切なサイズのマイナスドライバーを使用してください。
無理な力がかかると、カバーが変形したり破損したりするおそれがあります。

■**交換後、正常に機能させるために**

次のことを必ずお守りください。

●ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。

●電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない

●電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

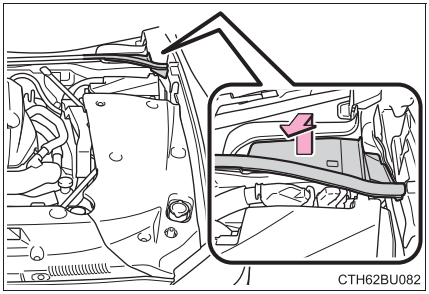
ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

1 エンジンスイッチを OFF にする

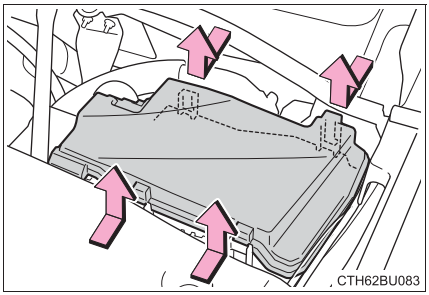
2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム（1）

① サービスカバーを上に押し上げツメをはずした後、手前に引きながら取りはずす

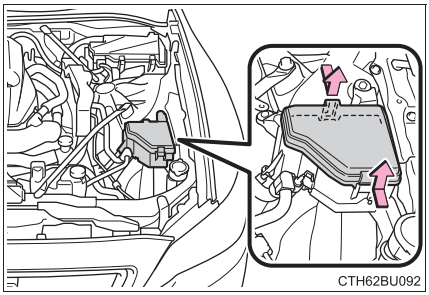


② ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

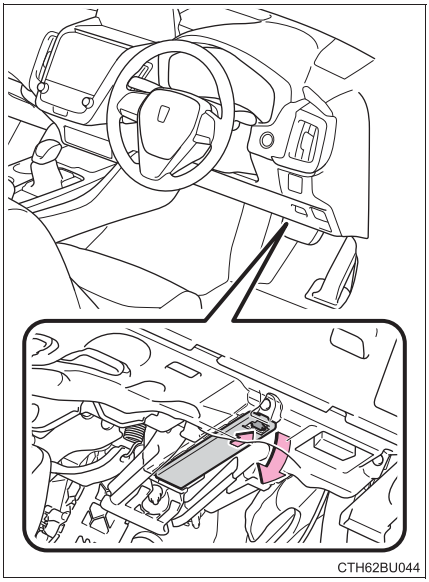


▶ エンジンルーム（2）

エンジンルームカバーを取りはずし（→ P. 505）、ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

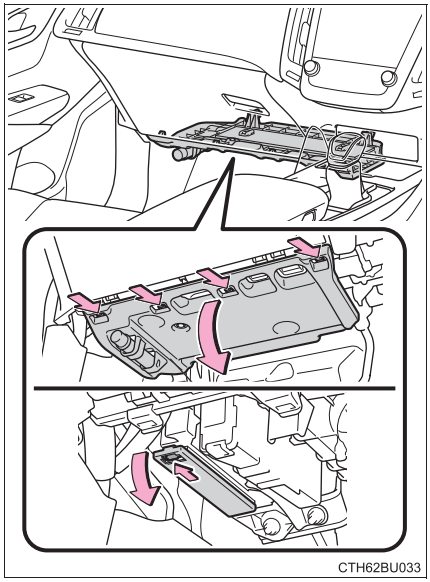


▶ 運転席足元



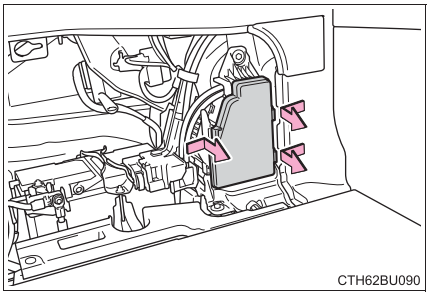
ツメを押しながら、カバーを取りはずす
取りはずすときや、取り付けるときはツメを押してください。

▶ 助手席足元



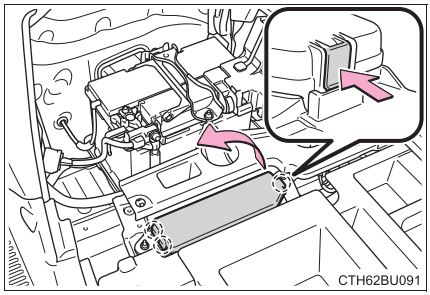
足元のカバーを取りはずし、ツメを押しながら、カバーを取りはずす
取りはずすときや、取り付けるときはツメを押してください。

▶ トランク内（1）



左側のカバーを取りはずし、ヒューズボックスのカバーを取りはずす

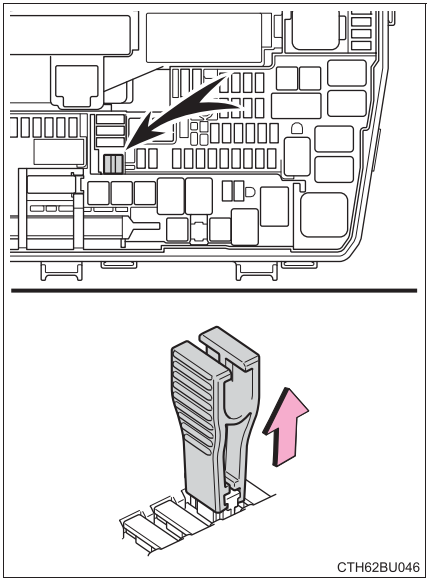
▶ トランク内（2）



ラゲージマットと左側のカバーを取りはずし（→ P. 502）、ヒューズボックスのカバーを取りはずす

3 ヒューズを引き抜く

エンジンルーム内のヒューズボックス（1）にあるヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

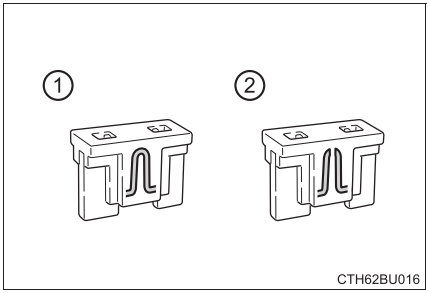


4 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



知識

■ヒューズを交換したあとは

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→ P. 530）

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球（バルブ）を交換するときは

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

警告

■**車の故障や、車両火災を防ぐために**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

■**ヒューズを交換する前に**

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

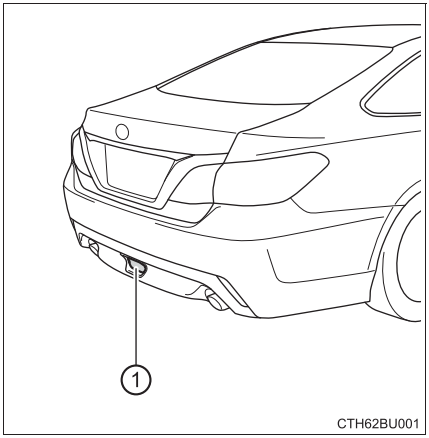
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 601）

バルブ位置

① リヤフォグランプ★

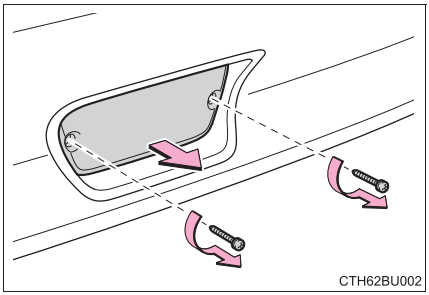


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

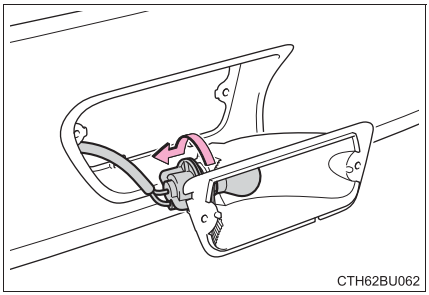
電球交換のしかた

■ リヤフォグランプ★

1 ネジ（2 本）をはずしてランプのレンズ部分を取りはずす

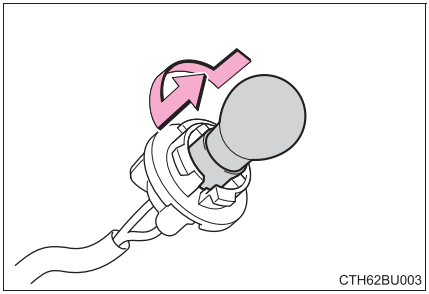

CTH62BU002

2 ランプ本体を取り出し、ソケットを左にまわして取りはずす


CTH62BU062

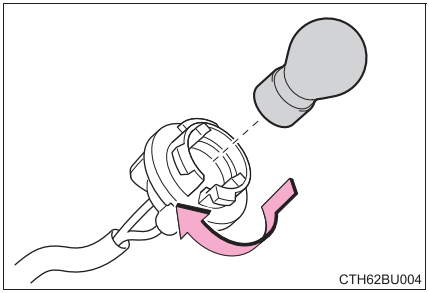
3 電球を取りはずす

電球を押し込みながら左にまわして取りはずします。


CTH62BU003

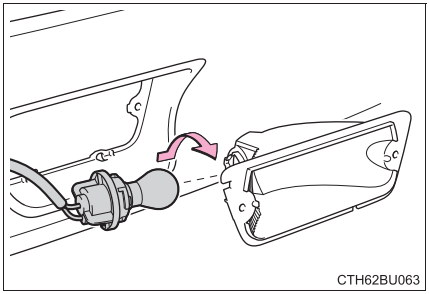
4 新しい電球を取り付ける

電球を押し込みながら右にまわして取り付けます。

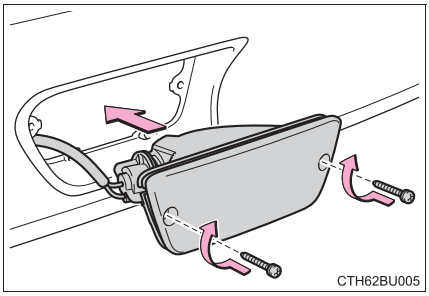

CTH62BU004

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

5 ソケットを右にまわして取り付ける



6 ランプ本体とレンズ部分をもとの位置にもどし、ネジ(2 本)を取り付ける



■ **次の電球を交換するには**

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプ（前照灯）
- 車幅灯／ LED デイライト★
- フロント方向指示灯／非常点滅灯
- フロントフォグランプ
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- 尾灯
- 制動灯
- リヤ方向指示灯／非常点滅灯
- 後退灯
- ハイマウントストップランプ
- 番号灯

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■LED ランプについて

リヤフォグランプ★以外のランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

警告

■電球を交換するとき

- ランプを消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
  やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
  また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

- 電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。
- 発熱による損傷を防ぐため、バルブを取り付ける前にバルブのワット数を確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

万一の場合には 7

7-1. まず初めに

故障したときは.....536
非常点滅灯
（ハザードランプ）.....537
発炎筒.....538
車両を緊急停止するには.....540
水没したときは.....541

7-2. 緊急時の対処法

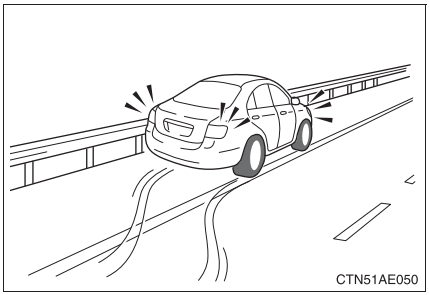
けん引について.....542
フューエルポンプ
シャットオフシステム.....549
警告灯がついたときは.....550
警告メッセージが
表示されたときは.....556
パンクしたときは.....561
エンジンが
かからないときは.....577
電子キーが正常に
働かないときは.....579
バッテリーが
あがったときは.....582
オーバーヒートした
ときは.....589
スタックしたときは.....593

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

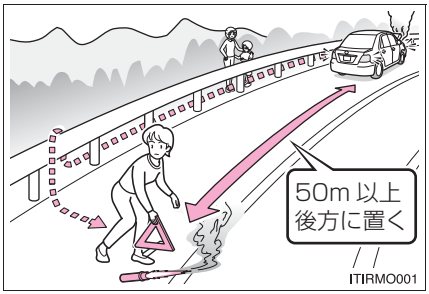
非常点滅灯（→ P. 537）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

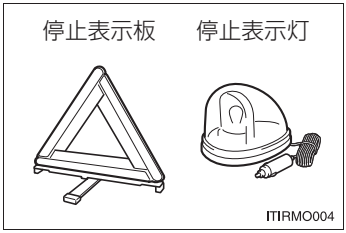
- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→ P. 538）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - ・見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - ・発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

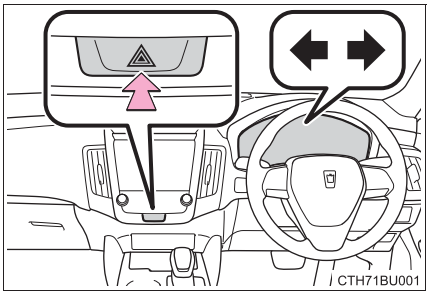


非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

■非常点滅灯について

●エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

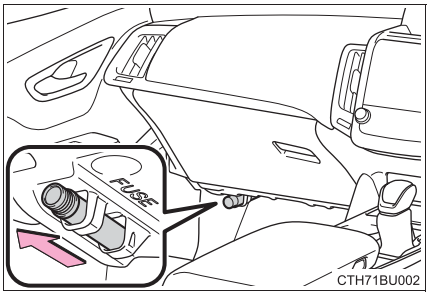
●SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。

非常点滅灯スイッチを 2 回押すか、約 20 分経過すると消灯します。
（衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります）

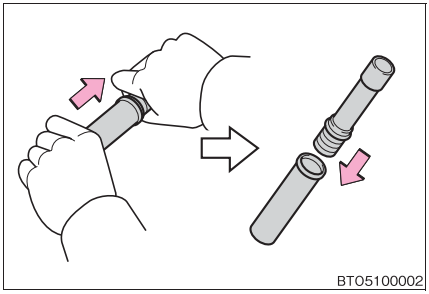
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してください。

1 助手席足元の発炎筒を取り出す

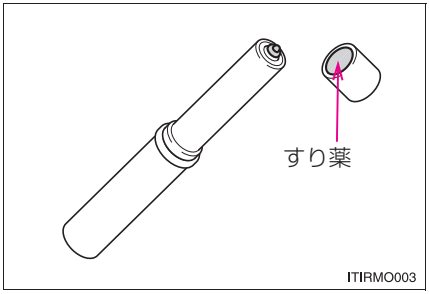


2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

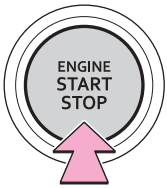
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 エンジンを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する



2 秒以上押すまたは
3 回以上連続で押す

CTH71BU003

5 車を安全な道路脇に停める

警告

■**走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき**

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没したときは

万一、車両が水没したときは、落ち着いて次のように対処してください。

- まずシートベルトをはずしてください。
- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて窓から車外に出てください。
- パワーウインドウスイッチでドアガラスが開けられない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

警告

■緊急脱出用ハンマー※の使用について

この車両のフロントドアガラス・リヤドアガラス・リヤウインドウガラスは緊急脱出用ハンマー※で割ることはできますが、フロントウインドウガラスは合わせガラスのため、緊急脱出用ハンマー※で割ることができません。

※ 詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■窓から車外に出るときは

着座位置、乗員の体格等によっては、窓から車外に脱出できない場合があります。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

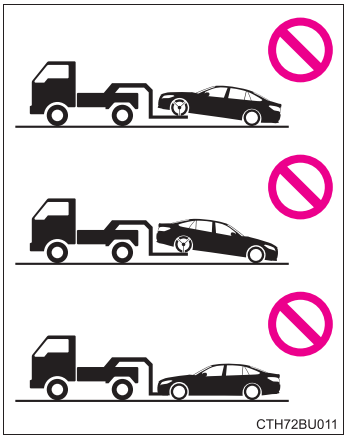
やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

必ず 4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、車の向きがかわり事故につながったりするおそれがあります。



■他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
  けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- エンジンスイッチを OFF にしないでください。
  ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

⚠注意

■車両の損傷を防ぐために

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない
・速度 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する
・前進方向でけん引する
・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で 4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■リヤ側けん引フックについて（輸送用フック／緊急用フック）

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

●やむを得ない場合以外は使用しないでください。

●緊急用フックで他車をけん引しないでください。

■Stop & Start システム装着車をけん引するときは

システム保護のため、けん引される前にいったんエンジンスイッチを OFF にしてから、エンジン始動またはエンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてください。

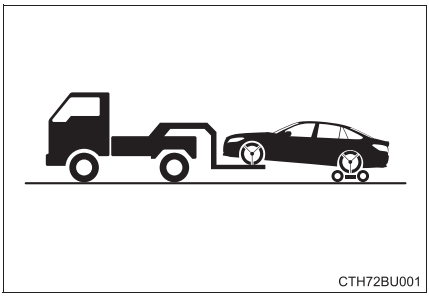
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- エンジンはかかるが車が動かない
- 異常な音がする

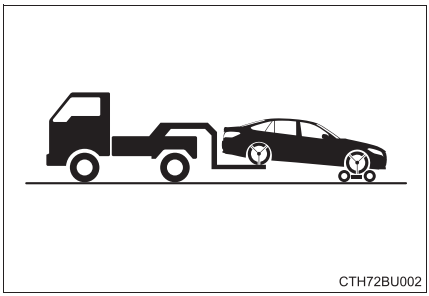
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは



台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するときは

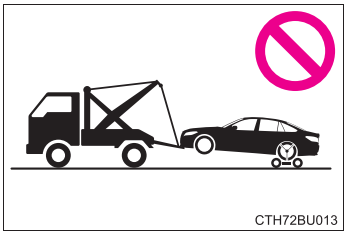


台車を使用して前輪を持ち上げる

⚠ 注意

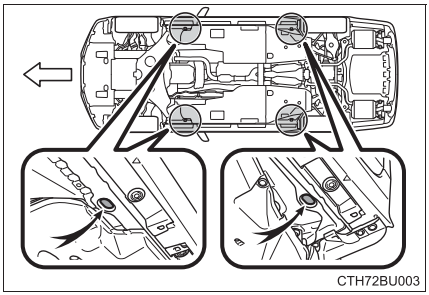
■ **レッカー車でけん引するとき**

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

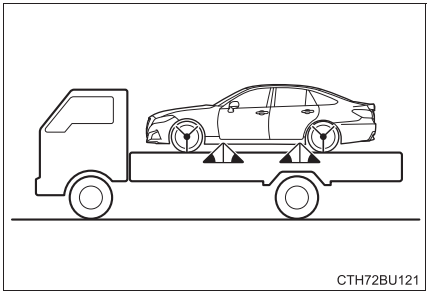


車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する


CTH72BU003

鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が 45°　になるように固縛する


CTH72BU121

⚠ 注意

■車両運搬車に車を固定するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

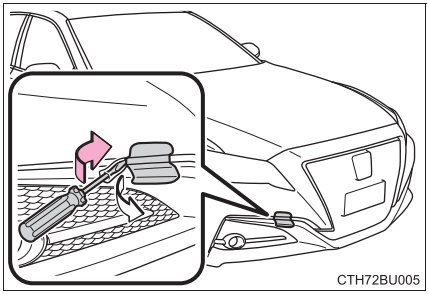
他車にけん引してもらうとき

他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

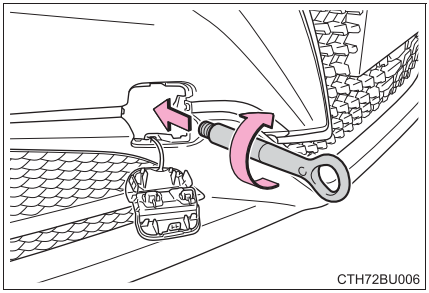
1 トランク内のホイールナットレンチ、けん引フックを取り出す （→ P. 563）

2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

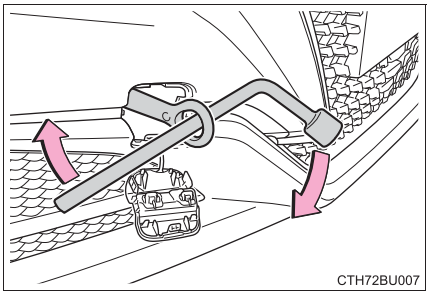
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。


CTH72BU005

3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める


CTH72BU006

4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

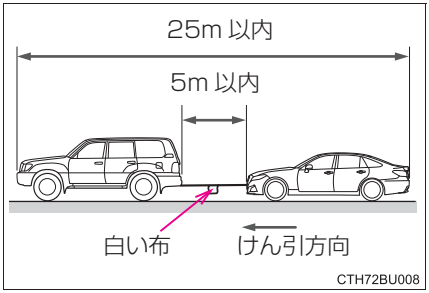

CTH72BU007

5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方（30cm×30cm）以上



CTH72BU008

7 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンを始動する

エンジンが始動しないときは、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてください。

PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。（→ P. 346）

8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

オートモードを OFF にしてください。（→ P. 210）

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→ P. 207

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

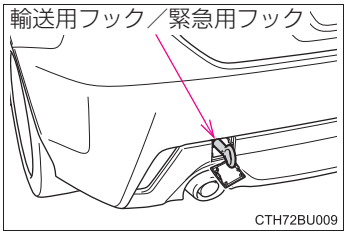
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

トランクに搭載されています。（→ P. 563）

■リヤ側けん引フックについて（輸送用フック／緊急用フック）

このフックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するために、または雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。



■リヤ側けん引フックを取り付けるには

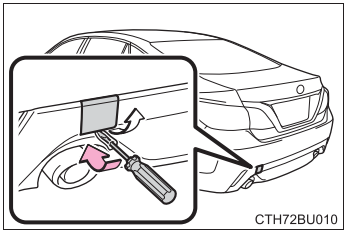
輸送用フック、緊急用フックを取り付けるときは、手順に従って取り付けてください。

1 トランク内のホイールナットレンチ、けん引フックを取り出す（→P. 563）

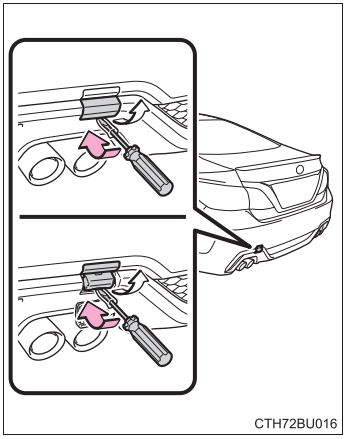
2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

▶タイプA



▶タイプB



3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める（→P. 546）

4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける（→P. 546）

フューエルポンプシャットオフシステム

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

エンジンを始動するには

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

1 エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にする

2 エンジンを再始動する

注意

■エンジンを始動する前に

車両下をよく確認してください。
地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告内容・対処方法
（赤色）	**ブレーキ警告灯（警告ブザー）** ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
（黄色）	**ブレーキ警告灯** 電動パーキングブレーキシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	高水温警告灯 ※1（警告ブザー） エンジン冷却水の高温異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→ P. 589）に従ってください。**
	充電警告灯 ※1（警告ブザー） 充電系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**
	油圧警告灯 ※1（警告ブザー） エンジンオイル圧力の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**
	エンジン警告灯（警告ブザー） ・エンジンの異常 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**

警告灯	警告内容・対処方法
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯（警告ブザー） ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	ポップアップフード警告灯（警告ブザー） ポップアップフードが作動した **→ ポップアップフードは、一度作動すると再使用できません。トヨタ販売店で交換してください。** ポップアップフードの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	ABS ＆ブレーキアシスト警告灯 ・ABS の異常（警告ブザー） ・ブレーキアシストの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	ブレーキオーバーライドシステム警告灯 ※1 ・アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたことにより、ブレーキオーバーライドシステムが作動 **→ アクセルペダルを離し、ブレーキペダルを踏んでください。** ・ブレーキオーバーライドシステムの異常（警告ブザー） **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	ドライブスタートコントロール警告灯 ※1 ・アクセルペダルを踏んだ状態でシフト操作が行われたことにより、ドライブスタートコントロールが作動（警告ブザー） **→ ただちにアクセルペダルを離してください。** ・ドライブスタートコントロールの異常（警告ブザー） **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	PKSB 警告灯 ※1 **（警告ブザー）** PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した （→ P. 351, 556） **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**
（赤色／黄色）	**パワーステアリング警告灯（警告ブザー）** EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

警告灯	警告内容・対処方法
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 10L 以下になった **→ 燃料を補給する**
	運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※2） 運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する** **助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。**
	リヤ席シートベルト非着用警告灯 ※3（警告ブザー ※4） リヤ席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**
（橙色）	**LTA 表示灯 ※1（警告ブザー）** LTA（レーントレーシングアシスト）の異常 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→ P. 269）**
OFF （点滅）	**Stop & Start キャンセル表示灯 ※1（警告ブザー）** Stop & Start システムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
OFF （点滅）	**クリアランスソナー OFF 表示灯 ※1（警告ブザー）** ブザーが鳴った場合： クリアランスソナーの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** ブザーが鳴らなかった場合： センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→ P. 326）**

警告灯	警告内容・対処方法
RCTA OFF （点滅）	**RCTA OFF 表示灯 ※1★（警告ブザー）** ブザーが鳴った場合： RCTA（リヤクロストラフィックアラート）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** ブザーが鳴らなかった場合： レーダーセンサー周辺のリヤバンパー（→ P. 337）に汚れや付着物がある **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→ P. 337）**
RCD OFF （点滅）	**RCD OFF 表示灯 ※1★（警告ブザー）** ブザーが鳴った場合： RCD（リヤカメラディテクション）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** ブザーが鳴らなかった場合： カメラの汚れなどによりシステムが一時的に使用できない **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→ P. 343, 556）**
OFF （点滅）	**PKSB OFF 表示灯（警告ブザー）** ブザーが鳴った場合： PKSB（パーキングサポートブレーキ）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** ブザーが鳴らなかった場合： センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→ P. 351, 556）**
OFF （点滅または点灯）	**PCS 警告灯** 警告ブザーが鳴った場合： プリクラッシュセーフティの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** 警告ブザーが鳴らない場合： プリクラッシュセーフティが一時的、または対処を行うまで作動停止している **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→ P. 247, 556）** プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。 **→ P. 257**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告内容・対処方法
	スリップ表示灯 警告灯が点灯した場合： ・VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムの異常 ・TRC（トラクションコントロール）システムの異常 ・ABS（アンチロックブレーキシステム）の異常 ・ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** 警告灯が点滅した場合： VSC・TRC システムが作動していることを表します。
（点滅）	**パーキングブレーキ表示灯（警告ブザー ※5）** パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性があります。 **→ パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。** パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。
HOLD （点滅）	**ブレーキホールド作動表示灯（警告ブザー）** ブレーキホールドシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	マスターウォーニング（警告ブザー） システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。 **→ P. 556**

※1 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※2 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

※3 ナビゲーション画面の横に表示されます。

※4 リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：
リヤ席シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯している状態）のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

※5 パーキングブレーキをかけたまま車速が 5km/h をこえると、警告ブザーが鳴ります。

知識

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅し、ブザーが鳴ることがあります。

●助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

警告

■ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

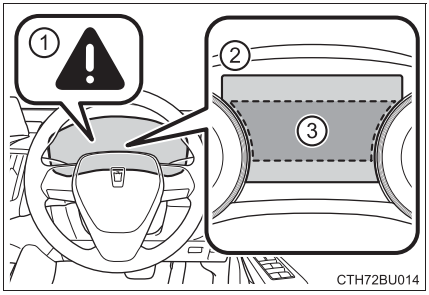
ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。
ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。



① マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

② マルチインフォメーションディスプレイ

③ 対処方法

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージに従ってください。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。販売店で点検をするように表示されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

	専用警告灯	警告ブザー ※	警告内容
点灯	—	あり	走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。
—	点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点滅	—	あり	車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯	—	なし	電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。
点滅	—	なし	車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

上記の点灯状況、ブザーの吹鳴状況と異なる場合があります。その際は表示された内容に従ってすみやかに対応してください。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■専用警告灯について

次の内容のメッセージが表示されたときは、マスターウォーニングが点灯・点滅しません。その場合は個別の専用警告灯表示を行います。

●ABS の異常
ABS ＆ブレーキアシスト警告灯が点灯します。（→ P. 551）

●ブレーキ系統の異常
ブレーキ警告灯が点灯します。（→ P. 550）

●燃料の残量が少なくなった
燃料残量警告灯が点灯します。（→ P. 552）

■「販売店で点検してください」の警告メッセージが表示されたとき

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■取扱書の確認を指示する警告メッセージが表示されたとき

●次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。
ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

・「故障のためブレーキ力が低下　安全な場所に停車して取扱書を確認」
・「エンジン油圧不足　安全な場所に停車して取扱書を確認してください」
・「充電システム故障　安全な場所に停車し取扱書を確認」

●次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。
ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

・「エンジン系故障」
・「バッテリー系故障」
・「アクセル系故障」
・「スマートエントリー＆スタートシステム故障　取扱書を確認」

●「エンジン冷却水高温　安全な場所に停車して取扱書を確認してください」が表示されたときは、対処方法（→ P. 589）に従ってください。

●「AT オイル高温　取扱書を確認してください」が表示されたときは、対処方法（→ P. 206）に従ってください。

■「駐車時は P レンジに入れてください」が表示されたとき

シフトレバーが P 以外でエンジンスイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いたときにメッセージが表示されます。
駐車時は P にしてください。

■「バッテリー保護のため自動で電源を Off しました」が表示されたとき

自動電源 OFF 機能が作動したときにメッセージが表示されます。
次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約 5 分間その回転数を保持しバッテリーを充電してください。

■「新しいキーが登録されました　詳しくは販売店に問い合わせください」が表示されたとき

追加で新しく電子キーが登録された場合、車外から開錠して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが 1 週間程続きます。
電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをトヨタ販売店で確認してください。

■「ヘッドランプシステム故障　販売店で点検してください」が表示されたとき

次のシステムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

●LED ヘッドランプ

●ヘッドランプオートレベリングシステム

●AHS（アダプティブハイビームシステム）★

●AHB（オートマチックハイビーム）★

■前方カメラの異常を示すメッセージが表示されたとき

次のシステムが一時的、または対処を行うまで使用できません。
（→ P. 247, 553）

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●AHS（アダプティブハイビームシステム）★

●AHB（オートマチックハイビーム）★

●RSA（ロードサインアシスト）

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

●先行車発進告知機能

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■「クルーズコントロール現在使用できません」が表示されたとき

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）のシステムが一時的に使用不可と判断されています。しばらく走行してからレーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を再度設定してください。

■「エンジンオイル量不足　補充するか、交換してください」が表示されたとき

エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。
また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

■警告ブザーについて

→ P. 555

警告

■警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

メッセージの内容に従って対処してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■「電力消費が大きいため一部の空調・ヒータ作動を制限中です」がひんぱんに表示されるとき

充電系の異常やバッテリーが劣化している可能性があります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

パンクしたときは

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）。パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。（→ P. 562）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■**タイヤがパンクしたときは**

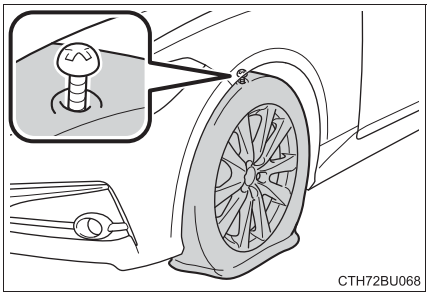
パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーをＰにする
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

・タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。


CTH72BU068

・パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。

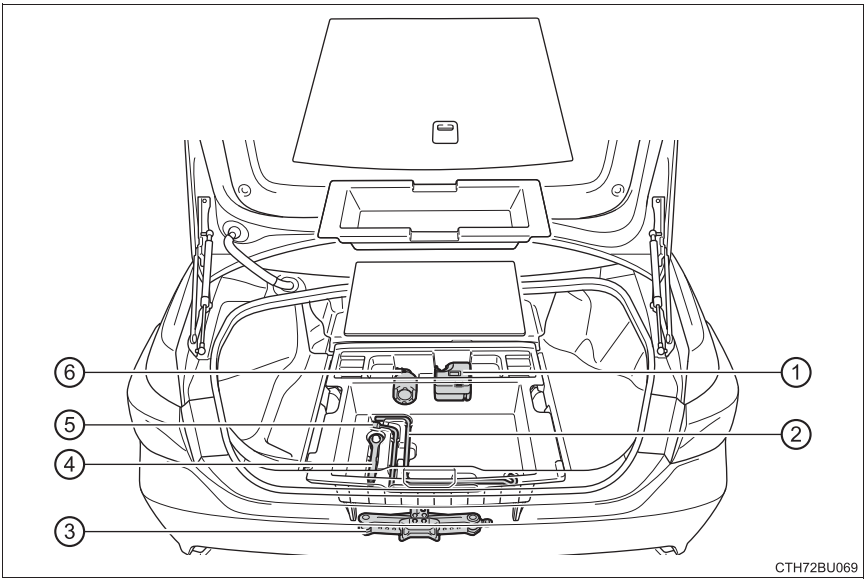
知識

■応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置



① タイヤパンク応急修理キット（コンプレッサー）

② ジャッキハンドル

③ ジャッキ ※

④ けん引フック

⑤ ホイールナットレンチ

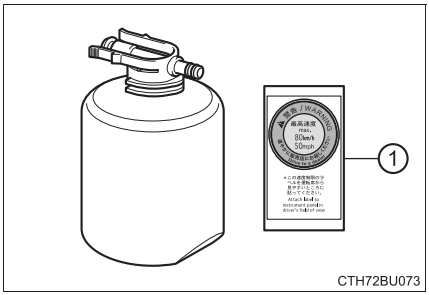
⑥ タイヤパンク応急修理キット（ボトル）

※ ジャッキの使い方（→ P. 512）

タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

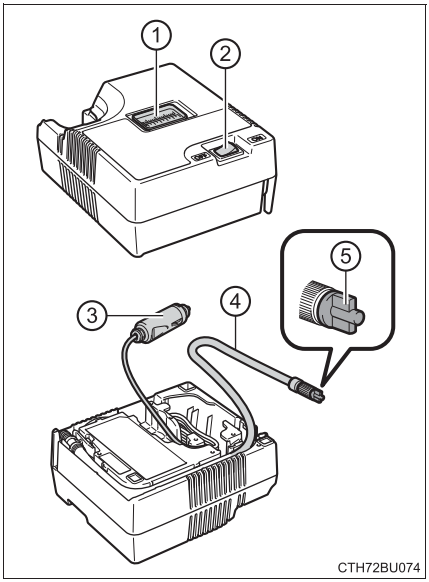
■ ボトル

① 速度制限ラベル



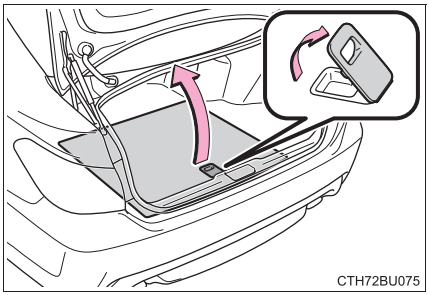
■ コンプレッサー

① 空気圧計
② 電源スイッチ
③ 電源プラグ
④ ホース
⑤ 空気逃がしキャップ

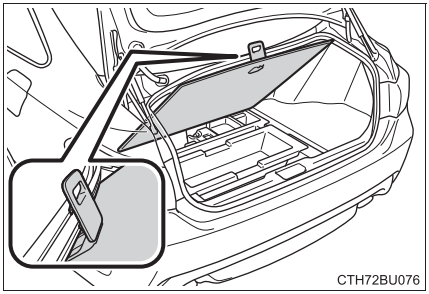


タイヤパンク応急修理キットの取り出し方

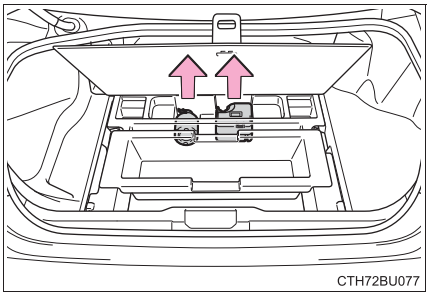
1 フックを持ってラゲージマットを持ち上げる



2 フックを使ってラゲージマットを固定する

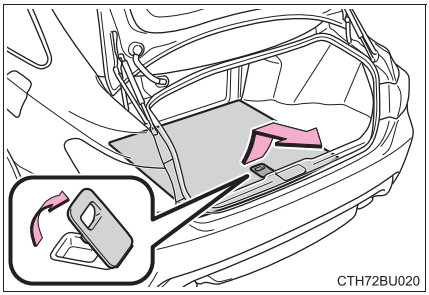


3 応急修理キットを取り出す

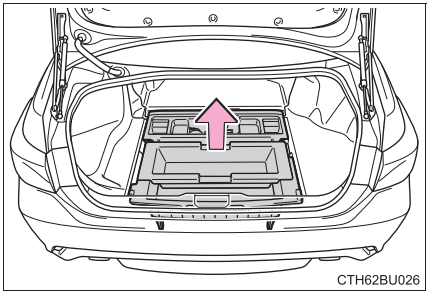


ジャッキの取り出し方

1 フックを持ってラゲージマットを持ち上げて取りはずす



2 ツールトレイを取りはずす



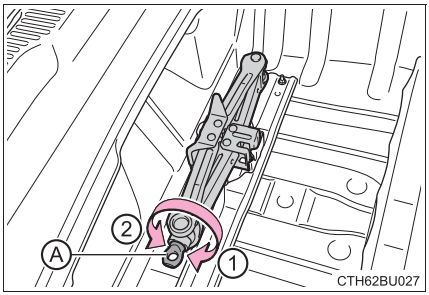
3 ジャッキを取りはずす

① 締まる

② ゆるむ

ジャッキの締め付けが固く、ゆるめることができないときは、ジャッキのA部の穴にドライバーなどを挿入してゆるめてください。

ジャッキを収納するときは、ジャッキと固定具がかみ合うよう確実に固定してください。

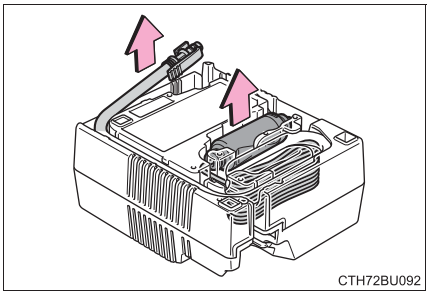


応急修理するときは

1 応急修理キットをビニール袋から取り出す

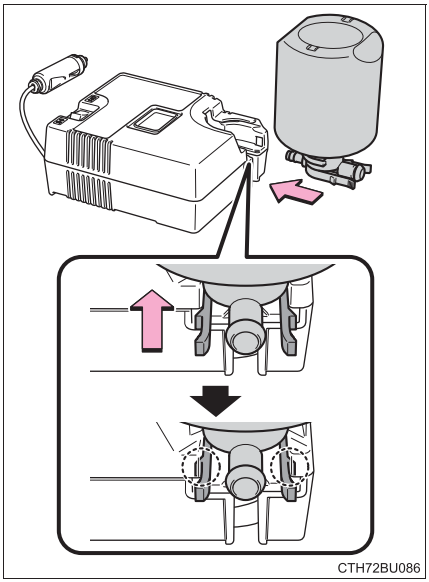
ボトルに同封されているラベルは指定の位置へ貼り付けます。（手順 10 へ）

2 コンプレッサーからホースを取りはずし、電源プラグを取り出す



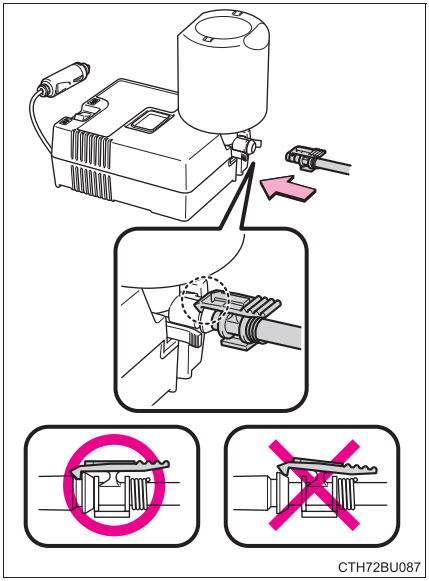
3 ボトルをコンプレッサーに接続する

図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルのツメが穴に隠れていることを確認してください。

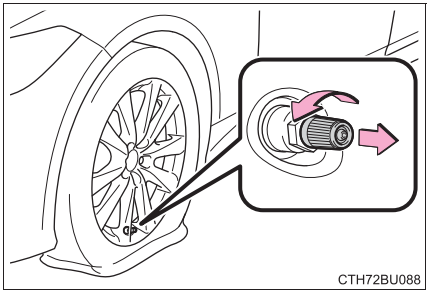


4 ホースをボトルに取り付ける

図のように、ボトルにホースがしっかり接続しているか確認してください。

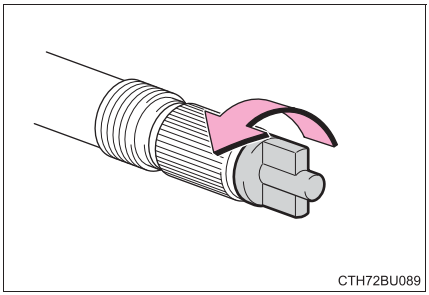


5 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす



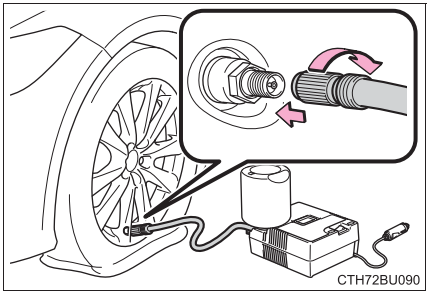
6 ホースをのばし空気逃がしキャップを取りはずす

空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

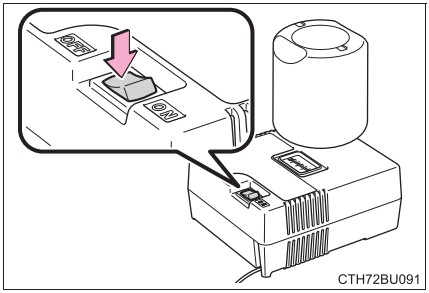


7 ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

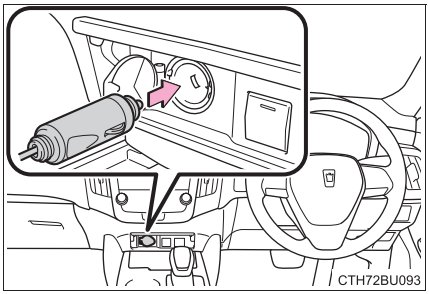
ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。



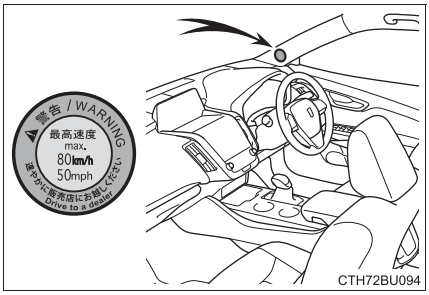
8 コンプレッサーのスイッチがOFF であることを確認する



9 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む（→ P. 471）

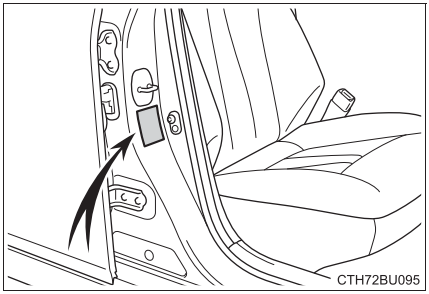


10 運転席から見やすい位置に、付属のラベルを貼り付ける



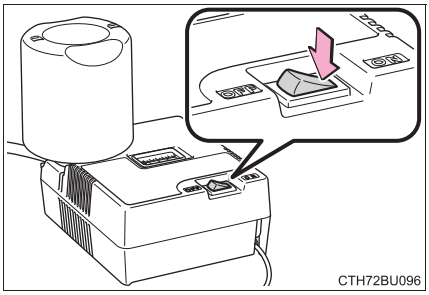
11 タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。（→ P. 509）



12 エンジンを始動する（→ P. 196）

13 コンプレッサーのスイッチをONにし、パンク補修液と空気を充填する



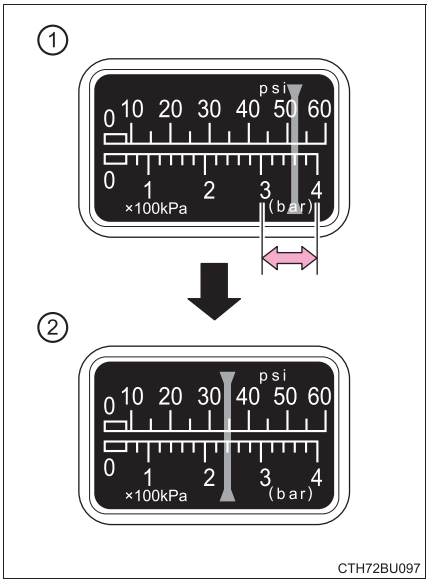
14 空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する

① 一時的に空気圧計が 300 ～ 400kPa (3.0 ～ 4.0kg/cm^2) まで上昇し、徐々に減少します。

② スイッチを ON にしてから約 1 ～ 5 分程度で実際の空気圧になります。

空気圧を確認するときは、コンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

充填までに必要な時間は、約 5 ～ 20 分です（外気温により異なります）。25 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にして、トヨタ販売店にご連絡ください。



空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。（→ P. 573, 600）

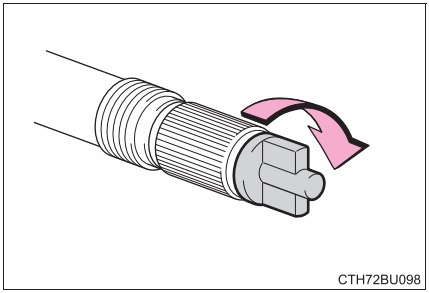
15 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

17 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。

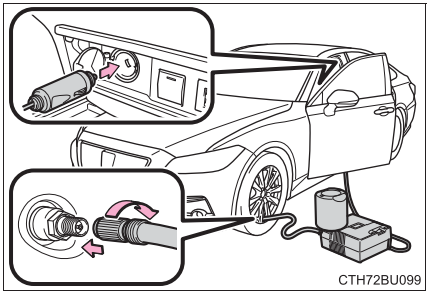

CTH72BU098

18 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままトランクに収納する

19 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5km、速度 80km/h 以下で安全に走行する

20 走行後、平坦な場所に停車して再度、応急修理キットを接続する

ホースを接続する前に、空気逃がしキャップを取りはずしてください。

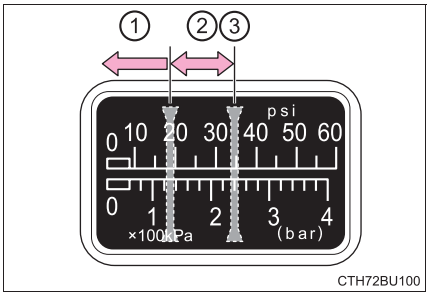

CTH72BU099

21 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にしてから再度 OFF し、空気圧を確認する

① 空気圧が 130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

② 空気圧が 130kPa（1.3kg/cm^2）以上、指定空気圧未満の場合：手順 22 へ

③ 空気圧が指定空気圧（→ P. 509）の場合：手順 23 へ

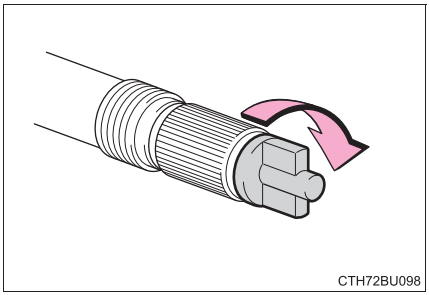


CTH72BU100

22 コンプレッサーのスイッチをONにして指定空気圧まで空気を充填し、再度約 5km 走行後にあらためて手順 20 から実施する

23 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。


CTH72BU098

24 ボトルとコンプレッサーを接続したままトランクに収納する

25 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、走行距離が約 100km 以内、80km/h 以下の速度で、トヨタ販売店まで慎重に運転する

タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

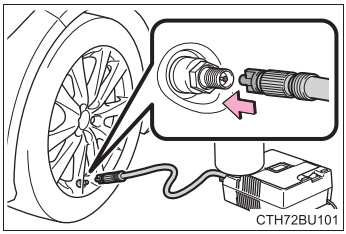
トヨタ販売店でタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

知識

■空気を入れすぎてしまったとき

1 タイヤからホースを取りはずす

2 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く



3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する
指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■応急修理キットの点検について

●パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。有効期限はボトルに表示されています。

●有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

●有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

■補修液を廃棄するときは

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、トヨタ販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

■応急修理キットについて

●パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。

●外気温度が－30℃～60℃のときに使用できます。

●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

●パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。

●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。

●応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

警告

■タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

■応急修理キットについて

●応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■パンク補修液について

●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

●もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

警告

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

●車両を安全で平坦な場所に停止させてください。

●走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。

●空気充填中にホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。

●空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。

●作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

●破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。

●応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。

●応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。

●速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

●車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。

・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
・空気圧を確認してください。130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

⚠注意

■応急修理をするとき

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。
  取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- 応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

■応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットはビニール袋に入れて砂ぼこりや水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→ P. 196）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
  再度、正しい手順（→ P. 196）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。
  （→ P. 64）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 582）

スターターがまわらない場合

電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→ P. 579）

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 582）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。
緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する
2. シフトレバーがＰの位置にあることを確認する
3. エンジンスイッチをアクセサリーモードにする
4. ブレーキペダルをしっかり踏んでエンジンスイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

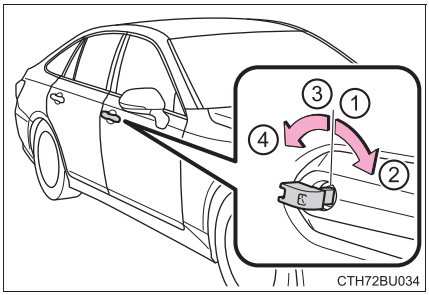
電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→ P. 139）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアやトランクを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠、トランクの解錠とキー連動操作

■ ドアの施錠・解錠

メカニカルキー（→ P. 117）を使って次の操作ができます。



① 全ドア施錠

② ドアガラスとムーンルーフ★が閉まる（まわし続ける）※

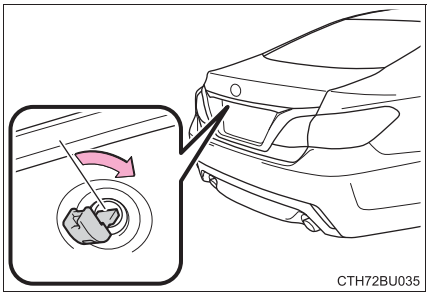
③ 全ドア解錠

④ ドアガラスとムーンルーフ★が開く（まわし続ける）※

※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→ P. 602）

■ トランクの解錠

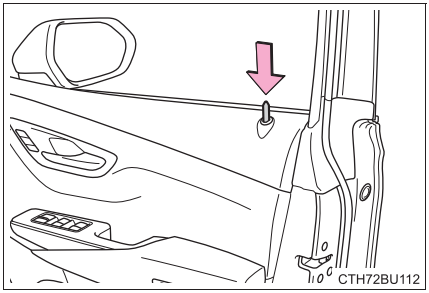
メカニカルキーを時計まわりにまわして開ける（→ P. 66）



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **ドアの施錠**

1 ドアを開けた状態でロックボタンを押し下げる



▶ フロント席ドア

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

▶ リヤ席ドア

2 ドアを閉める

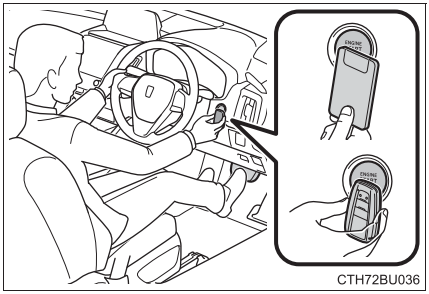
エンジン始動の方法

1 シフトレバーが P の状態でブレーキペダルを踏む

2 電子キーのクラウンエンブレム面で、エンジンスイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、イグニッション ON モードへ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定が非作動になっているときは、アクセサリーモードへ切りかわります。



3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに が表示されていることを確認する

4 エンジンスイッチを押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■エンジンの停止方法

通常のエンジンの停止方法と同様に、シフトレバーをPにしてエンジンスイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→P. 523）

■オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。（→P. 65）

■エンジンスイッチのモードの切りかえについて

エンジン始動方法の手順3で、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→P. 197）

■電子キーが正常に働かない場合

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。（→P. 602）
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。（→P. 138）

警告

■メカニカルキーを使ってドアガラスやムーンルーフ★を操作するとき

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

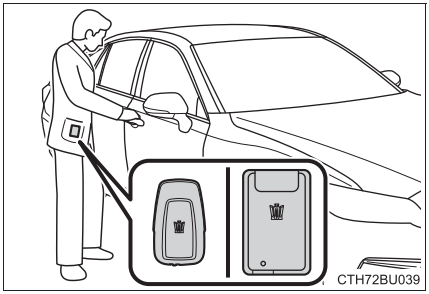
バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

1 電子キーを携帯していることを確認する

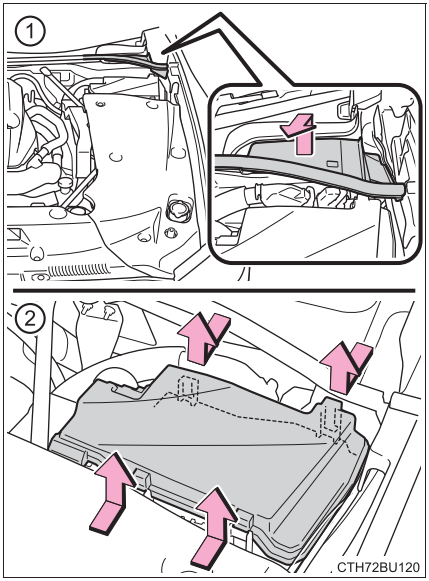
ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。(→P. 67)



2 ボンネットを開けてヒューズボックスのカバーを取りはずす

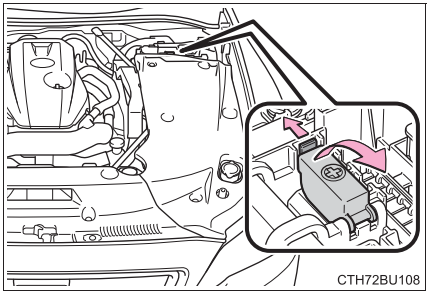
① サービスカバーを上に押し上げツメをはずした後、手前に引きながら取りはずす

② ツメを押しながら、カバーを持ち上げ取りはずす

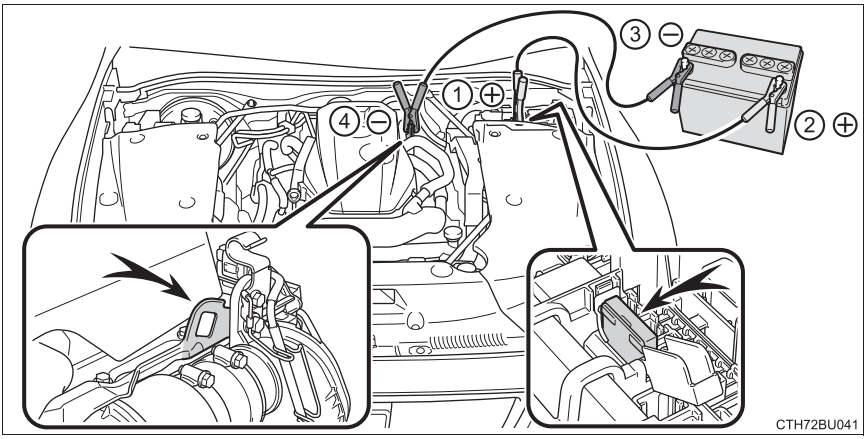


3 ヒューズボックス内の救援用端子カバーを開ける

ツメを軽く引きながら、カバーを開けます。



4 ブースターケーブルを次の順につなぐ



① 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子につなぐ

② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

5 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

6 エンジンスイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

7 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったんイグニッション ON モードにしてからエンジンを始動する

8 エンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

9 救援用端子カバーを閉じ、ヒューズボックスのカバーをもとどおりに取り付ける

エンジンが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。（Stop & Start システムによるエンジン停止中を除く）
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーについて

→ P. 502

■バッテリーがあがってしまったときは

●コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

●初期設定が必要な機能があります。（→ P. 611）

■バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

■バッテリーあがり時や取りはずし時など

●バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●バッテリー脱着後、最初の始動操作ではエンジンが始動できないことがありますが異常ではありません。再度始動操作を行ってください。

●車両は常にエンジンスイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがり時、バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを OFF にしてから行ってください。
バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

●バッテリー交換したあと、またはバッテリー端子をはずしたあとは、約 5 ～ 60 分間、Stop & Start システムが作動しないことがあります。

■バッテリーを交換するときは

●一括排気タイプのバッテリー（欧州規格）を使用してください。

●装着されているバッテリーは、Stop & Start システム専用品です。純正品と同等またはそれ以上の性能を持つバッテリーと交換してください。
適切なバッテリーをご使用いただかない場合、バッテリー保護のために Stop & Start システムの作動が制限されます。さらにバッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはエンジンが再始動しなくなるおそれがあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

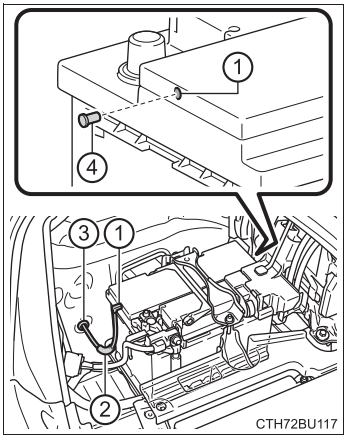
●交換前と同一のケースサイズ（LN3）、20 時間率容量（20HR）が同等（65Ah）以上、かつ性能基準値（CCA）が同等（600A）以上のバッテリーを使用してください。

・大きさが異なると、バッテリーが正しく固定されません。
・20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない時期が短い期間であってもバッテリーがあがって、エンジンの始動ができなくなるおそれがあります。

●取っ手の付いているバッテリーを使用してください。
取っ手が付いていないバッテリーを使用すると、バッテリーを取り出しにくくなります。

●交換後は、バッテリーの排気穴に次のものを確実に取り付けてください。

・排気ホースは、交換前のバッテリーに取り付けられているものを使用してください。
・排気穴栓は、交換したバッテリーに付属のもの、または交換前のバッテリーに取り付けられているものを使用してください（交換するバッテリーによっては、排気穴がふさがれたものもあります）。



① 排気穴
② 排気ホース
③ 車両穴部
④ 排気穴栓★

詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**バッテリー端子をはずすときは**

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがある他、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■**バッテリーあがりの処置をしたあとは**

早めにトヨタ販売店でバッテリーの点検を受けてください。
バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けるとバッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■**バッテリーの取り扱いについて**

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、バッテリー液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

警告

■**バッテリーを交換するときは**

●液栓やインジケーターがステーに近いと、バッテリー液（硫酸）がもれだすおそれがあります。

●バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

●交換後は、交換したバッテリーの排気穴に排気ホースと排気穴栓を確実に取り付けてください。正しく取り付けられていないと、ガス（水素）が車内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。

■**バッテリーの－端子について**

ボデー側に接続されたバッテリーの－端子をはずさないでください。誤ってはずすと＋端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■**救援用端子について**

この車の救援用端子は、他の車から応急的にバッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計（→ P. 79）の針がレッドゾーンに入った：エンジン出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

1 安全な場所に停車し、エアコンをOFFにしてから、エンジンを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

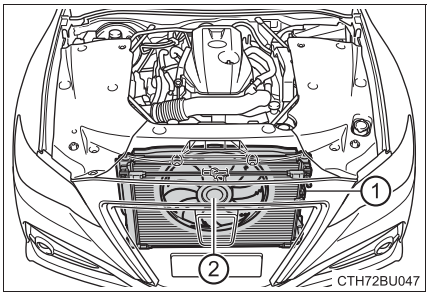
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。



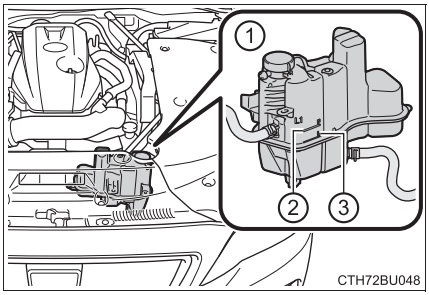
4 冷却水の量がリザーバータンクの “FULL/F” （上限）と “LOW/L” （下限）のあいだにあるかを点検する

① リザーバータンク

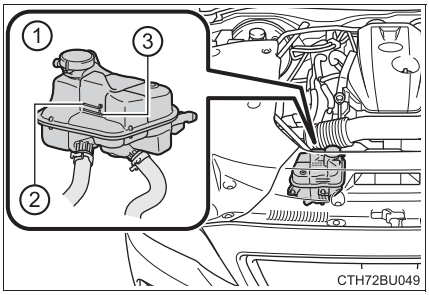
② “FULL/F” （上限）

③ “LOW/L” （下限）

▶ エンジン



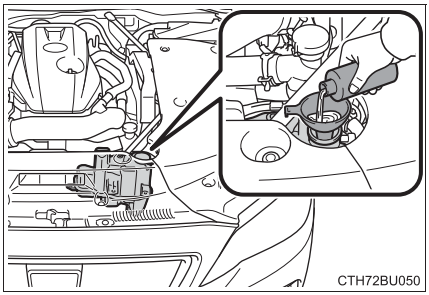
▶ インタークーラー



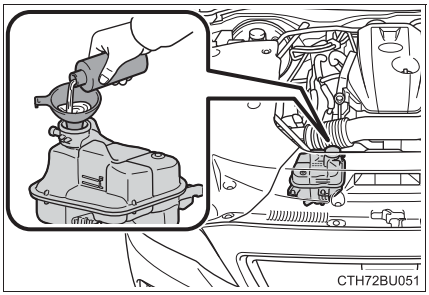
5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

▶ エンジン



▶ インタークーラー



6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON/OFF をくり返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷地はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、トヨタ販売店に連絡する

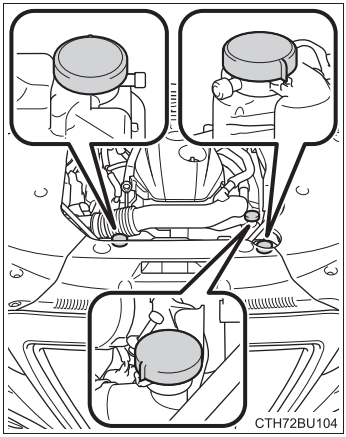
ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

警告

■エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジンおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップや冷却水注入口のキャップまたはインタークーラーリザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。



注意

■**冷却水を入れるとき**

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■**冷却系統の故障を防ぐために**

次のことをお守りください。

●異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない

●冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

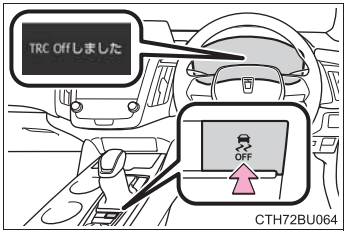
ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

1. パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にして、エンジンを停止する
2. 後輪周辺の土や雪などを取り除く
3. 後輪の下に木や石などをあてがう
4. エンジンを再始動する
5. シフトレバーを D または R に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいとき

を押して TRC を OFF にしてください。



警告

■脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■**オートマチックトランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

●後輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。

●上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 8

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....596
8-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能一覧.....602
8-3. 初期設定
初期設定が必要な項目.....611

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
・無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク） ・バイオ混合ガソリン（プレミアム）※	66

※エタノールの混合率 10%以下または、ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L]（参考値※）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： トヨタ純正モーターオイル SN PLUS 0W-20 —API SN PLUS/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20 適合： トヨタ純正モーターオイル SN 5W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30	4.3	4.6

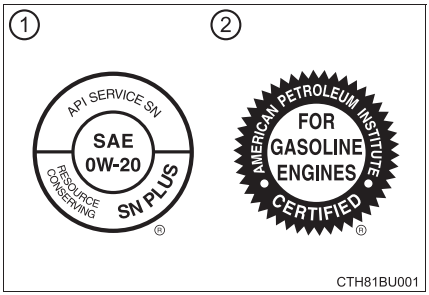
※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SN PLUS/RC、SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。0W-20 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。0W-20 が入手困難な場合は、5W-30 もご使用いただけます。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。

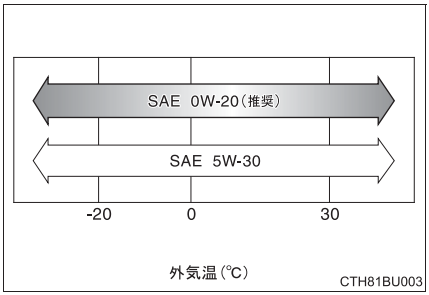
① API マーク

② ILSAC CERTIFICATIONマーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

・0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。

・0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは高速または高負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄		容量 [L]（参考値）
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12°C 濃度 50%　－ 35°C	エンジン	8.5
	インタークーラー	3.4

オートマチックトランスミッション

指定銘柄	容量 [L]（参考値 ※）
トヨタ純正オートフルード　WS	8.65

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■オートマチックトランスミッションフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

リヤディファレンシャル

オイルタイプ・推奨粘度	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT（API GL-5, SAE 75W-85）	1.35

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ※	100 以上

※ エンジン回転時に 490N（50kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）
2.5 4.7※

※ 寒冷地仕様車またはヘッドランプクリーナー装着車

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
			前輪	後輪
標準タイヤ	215/60R16 95H	16×7J	250（2.5）	
	215/55R17 94V	17×7J	240（2.4）	
	225/45R18 91W	18×8J	240（2.4）	

電球（バルブ）※

電球		W（ワット）数
車外	リヤフォグランプ★	21
車内	トランクランプ	5

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

名称	型式	エンジン	駆動方式
クラウン	ARS220	8AR-FTS （2.0L ガソリン）	FR（後輪駆動）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。
また、ナビゲーションシステム・マルチインフォメーションディスプレイの操作により、設定を変更することができる機能もあります。

T-Connect サービスご契約のお客様は、マイカーカスタマイズ機能（T-Connect 対応スマホアプリのご利用、またはトヨタ販売店へのご依頼）により、遠隔で設定変更ができます。
遠隔での設定変更が可能な項目に関してはT-Connect対応スマホアプリでご確認ください。

設定変更のしかた

安全に操作することができる場所に停車し、シフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけます。

■ ナビゲーションシステムで設定するには

1. MENU ボタンを押し、「設定・編集」を選択する
2. 「設定・編集」画面の「車両」を選択する
3. 「車両カスタマイズ」または「ドライブモードカスタマイズ」★を選択する
4. 「車両カスタマイズ」を選択した場合、設定を変更したいカテゴリーを選択する
5. 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する
6. 機能の作動内容を選択する

   作動・非作動を変更できる機能では、「する」（作動）・「しない」（非作動）を選択します。

   音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、「+」または「−」を選択してレベルを調整します。

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

→ P. 89

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

① ナビゲーションシステムの操作で設定変更可能

② トヨタ販売店で設定変更可能

■ オートアラーム（→ P. 65）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除	なし	あり	—	○

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ（→ P. 83）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
提案サービス	あり	あり（停車中のみ）	○	○
		なし		

■ ドアロック（→ P. 122, 130, 579）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
メカニカルキーによる解錠	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	—	○
車速感応オートドアロック	あり	なし	○	○
シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）	なし	あり	○	○
シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠（シフト操作連動アンロック）	あり	なし	○	○
運転席ドアを開けたときの全ドア解錠（運転席ドア開連動アンロック）	なし	あり	○	○
全ドア解錠したときトランク解錠、全ドア施錠したときトランク施錠（ドアロック連動トランク）	あり	なし	—	○

■ ランプ（→ P. 217）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
LED デイライト★	あり	なし	—	○
おもてなし照明の制御★	あり	なし	—	○
ランプ消し忘れ防止機能	運転席ドアと連動	エンジンスイッチと連動	—	○

■ スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通（→ P. 122, 130, 136）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
作動の合図（ブザー音量調整）	レベル 5	OFF	○	○
		レベル 1 ～ 7		
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし	○	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	—	○
		120 秒		
半ドア警告ブザー	あり	なし	—	○

■ スマートエントリー＆スタートシステム（→ P. 136）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
スマートエントリー＆スタートシステム	あり	なし	○	○
解錠されるドアの選択	全席解錠	運転席のみ解錠	○	○
解錠されるドアを運転席のみに選択時、ドアハンドルを握って保持することで全席解錠する時間	非作動	1.5 秒	—	○
		2.0 秒		
		2.5 秒		
連続ロック操作の有効回数	2 回	無制限	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ワイヤレスドアロック（→ P. 116, 122, 130）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ワイヤレス機能	あり	なし	—	○
解錠時の操作	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	○
トランク解錠時の操作	1 回押し続ける（短）	1 回押し	—	○
		2 回押し		
		1 回押し続ける（長）		
		非作動		

■ フロントシート★（→ P. 147）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
降車時の運転席シート移動量調節	標準	OFF	○	○
		少なめ		

■ メモリーコール機能★（→ P. 149）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
連動するドアの選択	運転席ドア	全ドア	—	○

■ ハンドル★（→ P. 147, 156）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
降車時のハンドル作動	チルトのみ	テレスコピックのみ	○	○
		チルト＆テレスコピック		
		なし		

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドアミラー（→ P. 172）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
オート電動格納作動	ドアの施錠・解錠と連動	OFF	—	○
		エンジンスイッチと連動		

■ パワーウインドウ（→ P. 175）、ムーンルーフ★（→ P. 179）共通

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ドアキー連動開閉機能	なし	あり	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	○
ワイヤレスリモコン連動作動合図（ブザー）	あり	なし	—	○

■ ランプ自動点灯・消灯システム（→ P. 217）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ライトセンサーの感度調整	標準	－２～２	○	○
ライトを点灯するまでの時間	標準	長め	—	○
ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能	なし	あり	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ AHS（アダプティブハイビームシステム）★（→ P. 220）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
アダプティブハイビームシステム	あり	なし ※	—	○
前方車両と遮光ハイビームとの間隔	広い	狭い	—	○
		普通		
車速に応じた、ハイビームの明るさと照らす範囲の調整	約 15km/h から作動	約 30km/h から作動	—	○
		約 80km/h から作動		
カーブを走行しているとき、進行方向側のハイビームを明るく照らす	あり	なし	—	○
先行車との距離に応じた、ロービームの照らす範囲の調整	あり	なし	—	○
雨天時用のハイビーム配光制御	あり	なし	—	○
市街地用の配光制御	あり	なし	—	○

※ オートマチックハイビームとして作動します。（→ P. 225）

■ クリアランスソナー（→ P. 322）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
フロントセンターセンサーの検知可能距離	遠い	近い	—	○
リヤセンターセンサーの検知可能距離	遠い	近い	—	○
ソナー表示の切りかえ	すべて表示	表示なし	—	○

■ ドライブモードセレクト★（→ P. 419）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
カスタムモード時のパワートレーン制御	Normal	Power	○	—
		Eco		
カスタムモード時のシャシー制御	Normal	Sport	○	—
		Comfort		
カスタムモード時のエアコン作動	Normal	Eco	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ エアコン（→ P. 436）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
「AUTO」が ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	○	○
「AUTO」を ON にしたとき、「A/C」が連動して ON になる	する	しない	○	○

■ シートヒーター★／シートベンチレーション★（→ P. 455, 456）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
AUTO モード時の運転席シートヒーター温度調整／運転席シートベンチレーション風量調整	標準	－２（涼しめ）～＋２（暖かめ）	○	○
AUTO モード時の助手席シートヒーター温度調整／助手席シートベンチレーション風量調整	標準	－２（涼しめ）～＋２（暖かめ）	○	○
AUTO モード時の左側リヤシートヒーター温度調整	標準	－２（涼しめ）～＋２（暖かめ）	○	○
AUTO モード時の右側リヤシートヒーター温度調整	標準	－２（涼しめ）～＋２（暖かめ）	○	○

■ ステアリングヒーター★（→ P. 454）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ステアリングヒーターAUTO モード時の温度調整	標準	－２（低め）～＋２（高め）	○	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ イルミネーション（→ P. 458）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
室内灯の消灯までの時間	15 秒	OFF	○	○
		7.5 秒		
		30 秒		
エンジンスイッチ OFF 後の作動	あり	なし	—	○
解錠時の照明の点灯	あり	なし	—	○
接近時の照明の点灯	あり	なし	—	○
足元照明、インストルメントパネルオーナメント照明★、ドアハンドル照明★、ドアトリム照明★の点灯	あり	なし	—	○
ドアミラー照明の消灯までの時間	15 秒	OFF	○	○
		7.5 秒		
		30 秒		
接近時のドアミラー照明の点灯	あり	なし	—	○
解錠時のドアミラー照明の点灯	あり	なし	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■車両カスタマイズについて

●「車速感応オートドアロック」と「シフトレバーをＰ以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）」を両方とも「あり」にした場合、次のように作動します。

・シフトレバーをＰ以外に入れると全ドアが施錠されます。
・全ドアが施錠された状態で発進した場合、車速感応式自動ドアロックは作動しません。
・発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感応オートドアロックが作動します。

●「スマートエントリー＆スタートシステム」の設定が「なし」の場合、「解錠されるドアの選択」の設定はできません。

●解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」・「作動の合図音量（ブザー音量調整）」の設定に依存します。

■ナビゲーションシステムでカスタマイズ設定を行うとき

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰにしてください。また、バッテリーあがりを防ぐため、エンジンが作動している状態で操作を行ってください。

警告

■ナビゲーションシステムでカスタマイズ設定を行うとき

エンジンが作動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照先
PKSB（パーキングサポートブレーキ）	・バッテリーを脱着したとき	P. 351
インテリジェントパーキングアシスト２★	・バッテリーの脱着中にハンドル操作を行ったとき ・バッテリーの電圧が低下したとき ・バッテリーを脱着したとき	P. 418
パノラミックビューモニター★		別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは
（症状別さくいん）.....614
車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....618
アルファベット順さくいん.....621
五十音順さくいん.....623

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

・ナビゲーション
・オーディオ＆ビジュアル
・音声操作システム
・バックガイドモニター
・パノラミックビューモニター
・ハンズフリー
・T-Connect
・ETCシステム／ETC2.0システム

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→ P. 118）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→ P. 120）

施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→ P. 523）
- エンジンスイッチがイグニッション ON モードになっていませんか？

  施錠するときは、エンジンスイッチを OFF にしてください。（→ P. 197）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？

  施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→ P. 139）

リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？

  チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→ P. 125）

誤ってトランク内にキーを閉じ込めた

- キー閉じ込み防止機能が働き、通常通りトランクを開けることができます。キーを取り出してください。（→ P. 132）

故障かな？と思ったら

エンジンが始動できない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→ P. 196）
- シフトレバーは P になっていますか？（→ P. 199）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→ P. 137）
- ステアリングロックされていませんか？（→ P. 199）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
- このときは、一時的な方法でエンジンを始動することができます。（→ P. 580）
- バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 582）

ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない

● エンジンスイッチはイグニッション ON モードになっていますか？

エンジンスイッチがイグニッション ON モードでブレーキを踏んでも解除できないとき（→ P. 207）

エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

● 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→ P. 199）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

● ウインドウロックスイッチが押されていませんか？

ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→ P. 175）

エンジンスイッチが自動的に OFF になった

● 一定時間アクセサリーモードまたはイグニッションONモード（エンジンが作動していない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→ P. 198）

警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

● 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 618）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージが表示されたとき

● 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 550、556 をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

● 車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→ P. 561）

立ち往生した

● ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 593）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P. 65
ドアを開閉したとき	電子キーを車内に置き忘れている	P. 556
	シフトポジションが P 以外になっている	P. 556
	窓・ムーンルーフ★が開いている（エンジン停止中のみ）	P. 177, P. 181
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P. 65
トランクを閉めたとき	電子キーをトランク内に置き忘れている	P. 132
エンジンを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P. 523
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 137
	電子キーを車内に置き忘れている	P. 556
	シフトポジションが P 以外になっている	

※ スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアまたはトランクを解錠する、またはエンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするか、エンジンを始動すると、警報を解除することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・トランク・ボンネットが確実に閉まっていない	P. 123, 132, 501
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 213
	運転席・助手席・後席のシートベルトを着用していない ※	P. 554
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P. 206
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 190
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用している	P. 282
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P. 248
車線から逸脱しそうになったとき	LTA（レーントレーシングアシスト）を使用している	P. 262
制限速度より一定の速度を超過したとき	RSA（ロードサインアシスト）が作動した	P. 270
進入禁止区域に進入したとき		
追い越し禁止の道路で追い越しをかけたとき		

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

状況	原因	詳細
対向車や右折先の歩行者がいるときに右折しようとしたとき	ITS Connect★が作動した	P. 294
左右から交差点に進入する車がいるときに発進しようとしたとき		
赤信号の交差点に進入しそうになったとき		
緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているとき		
一時停止の交差点に停止せず進入しそうになったとき		
見通しの悪いカーブの先などで先行車両が停止または低速で走行しているとき		
見通しが悪い交差点のわき道に車両がいるとき		
静止物との距離が近付いたとき	クリアランスソナーが作動した	P. 322
後退時に左右からの車を検知したとき	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★が作動した	P. 335
後退時に後方の歩行者を検知したとき	RCD（リヤカメラディテクション）★が作動した	P. 342

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

A/C
（エアコン）. 436, 449
ABS
（アンチロックブレーキシステム）. 423, 551
AHB
（オートマチックハイビーム）. 225
AHS
（アダプティブハイビームシステム）. 220
AI-AVS
（アーティフィカルインテリジェンスアダプティブバリアブル
サスペンションシステム）. 424, 428
AI-SHIFT
（アーティフィカルインテリジェンスシフト）. 208
AVS
（アダプティブバリアブルサスペンションシステム）. 424
BSM
（ブラインドスポットモニター）. 316
EDR
（イベントデータレコーダー）. 8
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）. 424, 551
ETC
（エレクトロニックトールコレクション）※
FR
（フロントエンジンリヤドライブ）. 601
HUD
（ヘッドアップディスプレイ）. 105
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーション）. 598
IPA
（インテリジェントパーキングアシスト 2）. 371
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）. 44
LTA
（レーントレーシングアシスト）. 258, 552

PCS
（プリクラッシュセーフティ）. 248, 553
PKSB
（パーキングサポートブレーキ）. 346, 551
RCD
（リヤカメラディテクション）. 342, 553
RCTA
（リヤクロストラフィックアラート）. 335, 553
RSA
（ロードサインアシスト）. 270
S-FLOW
（フロント席集中送風モード）. 440
S-VSC
（ステアリングアシステッドビークルスタビリティ
コントロール）. 423, 554
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）. 31, 551
Toyota Safety Sense
RSA（ロードサインアシスト）. 270
AHS（アダプティブハイビームシステム）. 220
AHB（オートマチックハイビーム）. 225
LTA（レーントレーシングアシスト）. 258
先行車発進告知機能. 291
PCS（プリクラッシュセーフティ）. 248
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）. 275
TRC
（トラクションコントロール）. 424, 554
VDIM
（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）. 424
VSC
（ビークルスタビリティコントロール）. 423, 554

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処置）..... 582
アームレスト 479
RSA（ロードサインアシスト）..... 270
RCD（リヤカメラディテクション）..... 342
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）..... 335
ITS Connect..... 294
アイドリングストップ
　アイドリングストップ時間..... 102
　Stop & Start キャンセルスイッチ..... 308
　Stop & Start キャンセル表示灯..... 75
　Stop & Start システム 307
　Stop & Start 表示灯 75
アウターミラー（ドアミラー）..... 172
　RCTA（リヤクロストラフィックアラート）..... 335
　格納のしかた..... 172
　操作 172
　ブラインドスポットモニター（BSM）..... 316
　ポジションメモリー 147
　ミラーヒーター 442
　リバース連動機能 173
アクセサリーコンセント.....472
アクセサリーソケット.....471
アクセサリーモード 197
アシストグリップ 483
足元照明.....458
アダプティブハイビームシステム（AHS）.....220
アダプティブバリアブルサスペンションシステム（AVS）.....424
アラーム
　オートアラーム.....65
　音さくいん 618
　警告ブザー 550, 556
アンチロックブレーキシステム（ABS）.....423
　ABS &ブレーキアシスト警告灯 551
アンテナ（スマートエントリー&スタートシステム）.....136

い

イージークローザー
ドア 127
トランク 132
イグニッションスイッチ
（エンジンスイッチ）..... 196
エンジンのかけ方 196
自動電源 OFF 機能 198
車両を緊急停止するには 540
モードの切りかえ 197
位置交換
（タイヤローテーション）..... 508
イベントデータレコーダー
（EDR）..... 8
イルミネーテッド
エントリーシステム 461
インジケーター（表示灯）..... 75
インテリアランプ 458
操作 459
インテリジェントパーキング
アシスト 2（IPA）..... 371
縦列出庫機能 397
縦列駐車機能 389
前進誘導機能 381
操作 374
バック駐車機能 385
インナーミラー 158, 160

う

ウインカー（方向指示灯）..... 209
電球（バルブ）の交換 532
方向指示レバー 209
ウインドウ 175
ウインドシールド
デアイサー 442
ウォッシャー 231
パワーウインドウ 175
リヤウインドウ
デフォッガー 442
ウインドウロックスイッチ 175
ウインドシールド
デアイサー 442
ウォーニングメッセージ 556
ウォーニングランプ
（警告灯）..... 72, 550
ウォッシャー 231
液の補給 506
スイッチ 231
タンク容量 600
冬の前の準備・点検 432

動けなくなったときは
（スタック）..... 593
雨滴感知式ワイパー..... 231
運転..... 184
雨の日の運転..... 185
運転を補助する装置 423
寒冷時の運転..... 432
正しい運転姿勢 24
手順 184
運転支援システム表示..... 107
運転席シートベルト
非着用警告灯..... 552
運転席シートポジション
システム 148

え

エアコン 436, 449
花粉除去機能..... 442
曇り取り
（フロントガラス）..... 442
「ナノイー」..... 446
フィルターの交換 520
フロントエアコン 436
フロント席集中送風モード
（S-FLOW）..... 440
リヤエアコン 449
エアコン・デフォッガー 436
エアバッグ.....31
SRS エアバッグ警告灯 551
お子さまのための注意 32
改造・廃棄 34
作動条件 35
正しい姿勢 24
配置.....31
HUD（ヘッドアップ
ディスプレイ）.....105
エコドライブ
インジケーター 103
エコドライブ
インジケーターランプ.....75
エコドライブ
インフォメーション.....87
エコドライブモード 419
LED デイライト.....218
LTA（レーントレーシング
アシスト）.....258
警告メッセージ.....269
操作.....264
エレクトリックパワー
ステアリング（EPS）.....424
機能.....424
パワー
ステアリング
警告灯 551, 555, 555
パワーステアリング
警告灯ブザー.....551

エンジン
イグニッションスイッチ（エンジンスイッチ）..... 196
エンジンイモビライザーシステム 64
エンジンがかからない（エンジンが始動できない）..... 577
エンジン警告灯 550
エンジンスイッチ（イグニッションスイッチ）..... 196
エンジンの始動方法 196
エンジンルームカバー..... 505
オーバーヒート 589
緊急時の停止方法 540
タコメーター 79
フューエルポンプシャットオフシステム..... 549
ボンネット..... 501
エンジンイモビライザーシステム 64
エンジンオイル 597
警告メッセージ.....560
冬の前の準備・点検.....432
メンテナンスデータ 597
油圧警告灯 550
油圧警告灯ブザー.....550
容量.....597
エンジン回転計（タコメーター）.....79
エンジンスイッチ 196
イグニッション.....196
エンジンのかけ方.....196
エンジンフード（ボンネット）.....501
開け方 501
警告ブザー 501
エンジンルーム
エンジンルームカバー 505
エンジンルームから蒸気が出ている.....589

お

オーディオシステム連携表示 86
オートチルトアウェイ＆
リターン機構..... 156
オートアラーム..... 65
オートエアコン..... 436
オーディオ ※
オートドアロック・
アンロック機能..... 125
オートマチック
トランスミッション 202
M モード..... 205
シフトダウン
制限警告ブザー 206
スノーモード..... 203
操作 202
パドルシフトスイッチ..... 204
メンテナンスデータ 599
オートマチックハイビーム
(AHB) 225
オートレベリングシステム
（ヘッドランプ）..... 218
作動 218
オーバーヒート..... 589
オープナー
給油口..... 240
トランク..... 130
ボンネット..... 501
オイル（エンジンオイル）..... 597
おくだけ充電
（ワイヤレス充電器）.....473
お子さまを乗せるとき.....43, 45
ウインドウロック
スイッチ 175
お子さまの安全のために 43
キーの電池 524
子供専用シート.....44
シートベルトの着用.....26
ステアリングヒーター・
シートヒーターに
関する警告.....452
チャイルドシート.....44
チャイルドシートの
取り付け 46, 57
チャイルドプロテクター 125
発炎筒の取り扱いに
関する警告.....539
バッテリーに関する警告 587
パワーウインドウに
関する警告..... 177
ODO TRIP スイッチ.....85
オドメーター.....79
ODO/TRIP スイッチ 85
機能..... 101
表示の切りかえ・
リセットスイッチ 85
オドメーター／トリップ
メーターディスプレイ.....83
ODO TRIP スイッチ 85
表示項目 101

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

か

カーテシランプ
　装着位置 458
カーテンシールドエアバッグ 31
カードキー 116
カーペット 498
　洗浄 498
　フロアマットの取り付け方 22
外気温度表示 79
外装の電球（バルブ） 530
　交換要領 530
　ワット数 601
カスタマイズ機能 602
型式 601
カップホルダー 465
カメラ
　AHS（アダプティブハイビームシステム） 220
　AHB（オートマチックハイビーム） 225
　カメラセンサー（PCS） 243
　前方センサー 243
　デジタルインナーミラー 167
　白線認識用カメラ（LTA） 258
ガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー） 442
ガレージジャッキ 504
冠水路走行 194
寒冷時の運転 432

き

キー 116
　エンジンが始動できない 577
　カードキー 116
　キーナンバープレート 116
　キーの構成 116
　キーレスエントリー 122, 136
　キーをなくした 118, 120
　正常に働かない 579
　施錠・解錠ができない 579
　電子キー 116
　電池が切れた 523, 579
　メカニカルキー 117
　ワイヤレスリモコン 116
キーレスエントリー
　スマートエントリー＆スタートシステム 136
　ワイヤレスドアロック 122
きしみやひっかき音が聞こえる（ブレーキパッドウェアインジケーター） 190
給油 238
　給油口が開けられない 241
　給油のしかた 238
　メンテナンスデータ 596

緊急時シートベルト固定機構 28
緊急始動機能（エンジン）..... 578
緊急時の対処
エンジンが始動できない..... 577
オーバーヒートした 589
キーの電池が
切れた..... 523, 579
キーをなくした..... 118, 120
警告灯がついた..... 550
警告メッセージが
表示された..... 556
けん引..... 542
故障したときは..... 536
車両を緊急停止する 540
水没したときは..... 541
スタックした..... 593
電子キーが正常に
働かない..... 579
発炎筒..... 538
バッテリーがあがった..... 582
パンクした..... 561
緊急ブレーキシグナル..... 424

く

クーラー 436
空気圧（タイヤ）..... 600
メンテナンスデータ 600
区間距離計
（トリップメーター）..... 79
ODO/TRIP スイッチ 85
機能..... 79
切りかえ・
リセットスイッチ..... 85
曇り取り
フロントガラス..... 442
ミラーヒーター..... 442
リヤウインドウ
デフォッガー..... 442
クラクション（ホーン）..... 156
クリアランスソナー 322
警告灯 552
警告ブザー 334
警告メッセージ..... 326
操作..... 324
表示灯 75
クリアランスランプ
（車幅灯）..... 217
ランプスイッチ..... 217
クリップ
エンジンルームカバー 505
フロアマット 22
クルーズコントロール..... 275
警告メッセージ..... 289, 560
レーダークルーズ
コントロール
（全車速追従機能付き）..... 275
グローブボックス 463
グローブボックスランプ..... 463

け

警音器（ホーン）..... 156
計器類（メーター）..... 79
警告灯..... 73
照度調整..... 80
設定 89
表示灯..... 75
ヘッドアップ
ディスプレイ 105
マルチインフォメーション
ディスプレイ 83
メーター..... 79
警告灯 73, 550
RCTA OFF 表示灯..... 553
RCD OFF 表示灯 553
ABS &
ブレーキアシスト..... 551
SRS エアバッグ 551
LTA 表示灯..... 552
エンジン..... 550
クリアランスソナー OFF
表示灯..... 552
高水温..... 550
シートベルト非着用 552
充電 550
Stop & Start
キャンセル表示灯 552
スリップ表示灯.....554
ドライブスタート
コントロール.....551
燃料残量 552
パーキングブレーキ.....550
パーキングブレーキ
表示灯 554
パワーステアリング.....551
PKSB.....551
PKSB OFF 表示灯 553
PCS.....553
プリテンショナー.....551
ブレーキ 550
ブレーキオーバーライド
システム 551
ブレーキホールド
作動表示灯.....554
ポップアップフード.....551
マスターウォーニング.....554
油圧.....550
リヤシートベルト非着用 552

警告ブザー
RCD（リヤカメラディテクション）..... 343
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）..... 336
ABS &ブレーキアシスト..... 551
SRS エアバッグ..... 551
LTA（レーントレーシングアシスト）..... 262
運転席・助手席・後席シートベルト非着用..... 552
エンジン..... 550
クリアランスソナー 334
高水温..... 550
シートベルト非着用 555
シフトダウン制限 206
車線逸脱警報機能 262, 268
衝突警報..... 248
スマートエントリー&スタートシステム..... 137
接近警報（レーダークルーズコントロール）..... 282
先行車発進告知機能 291
手放し運転警告（LTA)..... 268
ドライブスタートコントロール 551
トランク開..... 132
パーキングブレーキ未解除走行時 213
パワーステアリング 551
半ドア 123
半ドア走行時 127
PKSB（パーキングサポートブレーキ）.....553
PCS.....553
ふらつき警告機能.....263
プリクラッシュセーフティ.....553
プリクラッシュブレーキ 248
ブレーキ 190, 550
ブレーキオーバーライドシステム 551
ブレーキホールド.....554
ポップアップフード.....551
ボンネット開 501
窓開 177
ムーンルーフ開..... 181
油圧.....550
リバース 206
レーダークルーズコントロール.....289
警告メッセージ 556
化粧ミラー（バニティミラー）.....470
けん引.....542
けん引のしかた.....542
フック 545

こ

コートフック 483
交換
　エアコンフィルター 520
　キーの電池 523
　タイヤ 512
　電球（バルブ） 530
　ヒューズ 526
　ワイパーゴム 236
工具（ツール） 563
後席用サンシェード 480
航続可能距離 87
子供専用シート 44
　選択方法 49
　取り付け方 46, 57
小物入れ 467
コンソールボックス 464
コンライト
（自動点灯・消灯装置） 217

さ

サイドエアバッグ 31
サイド方向指示灯 209
　電球（バルブ）の交換 532
　方向指示レバー 209
サイドミラー（ドアミラー） 172
　RCTA（リヤクロス
　　トラフィックアラート） 335
　格納のしかた 172
　操作 172
　ブラインドスポット
　　モニター（BSM） 316
　ポジションメモリー 147
　ミラーヒーター 442
　リバース連動機能 173
坂道発進補助機能 424
サスペンションコントロール
（PCS） 249
三角表示板収納スペース 469
サンシェード
　電動サンシェード 480
　ムーンルーフ 180
　リヤ 480
　リヤドア 481
　ルーフ 180
サンバイザー 470

し

シート
子供専用シート 44
正しい運転姿勢 24
チャイルドシート 44
調整 143, 145
手入れ..... 497
ドライビングポジション
システム 148
パワーイージー
アクセスシステム..... 147
フロントシート 143
ヘッドレスト 152
ポジションメモリー 147
メモリーコール機能 149
シートヒーター..... 455
シートベルト 26
お子さまの着用 28
緊急時シートベルト
固定機構 28
シートベルト
非着用警告灯 552
高さ調整..... 26
正しく着用するには 26
着け方・はずし方 26
手入れ..... 498
妊娠中の方の着用 29
非着用警告灯 552
シートベルト非着用警告灯.....552
シートベルトプリテンショナー
機能.....28
プリテンショナー警告灯 551
シートベンチレーション.....456
シートポジションメモリー.....147
室内灯（インテリアランプ）.....458
始動のしかた.....196
シフトポジション 202
シフトレバー.....202
シフトレンジの切りかえ 202
シフトロックシステム
（解除ボタン）.....207
操作.....202
リバース警告ブザー 206
シフトレバーが
シフトできないときは.....207
シフトロックシステム.....207
締め付けトルク（ホイール）.....515
車間距離切りかえスイッチ.....281
車線逸脱警報機能 262, 268
ジャッキ
ガレージジャッキ.....504
車載ジャッキ 563
ジャッキハンドル 563

車幅灯 217
LED デイライト..... 218
電球（バルブ）の交換..... 532
ランプスイッチ 217
車両型式 601
車両仕様（スペック）..... 596
車両データの記録..... 7
車両を緊急停止するには 540
収納装備 462
ジュニアシート..... 44
瞬間燃費 87
仕様（車両仕様）..... 596
衝撃感知ドアロック
解除システム..... 126
初期化
パワーウインドウ 176
ムーンルーフ..... 181
初期設定 611
助手席シートベルト
非着用警告灯..... 552
侵入センサー
（オートアラーム）..... 68

す

水温計.....79
スイッチ
IPA(インテリジェント
パーキングアシスト 2).....371
イグニッション.....196
ウインドウロック.....175
ウインドシールド
デアイサー.....442
ウォッシャー 231
AHS（アダプティブ
ハイビームシステム）.....221
AHB（オートマチック
ハイビーム）.....225
AC100V 471
エアコン画面表示.....436
LTA.....264
エンジンスイッチ.....196
オーディオ ※
ODO TRIP 85
給油口オープナー.....240
クルーズコントロール.....275
シート調整 143
シートヒーター.....455
シートベンチレーション 456
シートポジションメモリー 148

車間距離切りかえ（レーダー
クルーズコントロール）..... 281
車両設定..... 484
助手席側面..... 143
侵入センサー OFF..... 68
ステアリングヒーター..... 454
Stop & Start キャンセル 308
電話 ※
トーク ※
ドアミラー..... 172
ドアロック..... 124
ドライビングポジション..... 147
トランクオープナー 130
トランクオープナー
メイン..... 131
パーキングブレーキ 210
パドルシフト..... 204
パワーウインドウ 175
ハンドル位置調整 155
非常点滅灯
（ハザードランプ）..... 537
VSC OFF..... 425
フォグランプ..... 229
ブレーキホールド 214
ヘッドアップディスプレイ 105
ヘッドランプ 217
ヘルプネットボタン ※
ホーン（警音器）..... 156
方向指示レバー.....209
ポジションメモリー..... 148
ムーンルーフ 179
メーター操作 85
ランプ 217
リヤウインドウ
デフォッガー.....442
リヤカメラディテクション 342
リヤサンシェード.....480
リヤフォグランプ.....229
レーダークルーズ
コントロール.....275
ワイパー 231
ワイヤレス充電器.....473
スタック.....593
ステアリングアシステッド
ビークルスタビリティ
コントロール（S-VSC）.....423
ステアリングヒーター.....452

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

ステアリングホイール
（ハンドル）..... 155
位置調整..... 155
オートチルトアウェイ&
オートリターン機構..... 156
ステアリングスイッチ..... 85
ステアリングヒーター..... 452
パワーイージーアクセス
システム..... 147
ポジションメモリー 148
ステアリングロック..... 199
解除できないとき 199
警告メッセージ..... 199
Stop & Start システム..... 307
アイドリングストップ
時間..... 102
警告灯..... 552
システム情報表示 102
Stop & Start
キャンセルスイッチ..... 308
Stop & Start
キャンセル表示灯..... 75
Stop & Start 表示灯 75
割り込み表示..... 102
Stop & Start
システム情報表示..... 102
ストップランプ（制動灯）
緊急ブレーキシグナル 424
電球（バルブ）の交換.....532
スノータイヤ（冬用タイヤ).....432
スピードメーター 79
スペック（車両仕様）.....596
スポーツモード.....419
スマートエントリー&
スタートシステム.....136
アンテナの位置.....136
エンジンの始動.....196
カスタマイズ設定.....602
警告ブザー 137
警告メッセージ.....199
緊急始動機能 578
作動範囲 137
正常に働かないとき 579
節電機能 138
電波がおよぼす
影響について.....142
ドアの解錠・施錠.....122
トランクの解錠.....130
スモールランプ（車幅灯).....217
ランプスイッチ.....217
スリップ表示灯 554

せ

清掃
- 外装 492
- シートベルト 498
- 内装 497
- ホイール・ホイールキャップ 493
- レーダーセンサー 244

制動灯
- 緊急ブレーキシグナル 424

セカンダリーコリジョンブレーキ 423

積算距離計（オドメーター）..... 85
- ODO/TRIP スイッチ 85
- 機能 101
- 表示の切りかえ・リセットスイッチ 85

セキュリティインジケーター 64, 65

接近警報（レーダークルーズコントロール）..... 282

先行車発進告知機能 291

センサー
- インナーミラー 159
- 雨滴感知センサー 234
- LTA 258
- カメラセンサー 243
- 侵入センサー 68
- Toyota Safety Sense 242
- デジタルインナーミラー 166
- ブラインドスポットモニター 321
- ライトセンサー 218
- レーダーセンサー 243

洗車 492

前照灯（ヘッドランプ）..... 217
- オートレベリングシステム 218
- スイッチ 217
- ライトセンサー 218
- ランプ消し忘れ防止機能 218
- ランプスイッチ 217

前方センサー 243

そ

走行時間 87

走行モード（ドライブモード）..... 419

速度計（スピードメーター）..... 79

た

ターンシグナルランプ
（方向指示灯）..... 209
方向指示レバー 209
タイヤ
空気圧..... 518, 600
交換 512
締め付けトルク 517
チェーン..... 432
低扁平タイヤ..... 509
点検 508
パンク応急修理キット..... 561
パンクしたときは 561
冬用タイヤ..... 432
ホイールサイズ 600
ローテーション
（位置交換）..... 508
タイヤが空まわりする
（スタックした）..... 593
タイヤ空気圧 518
タイヤチェーン..... 432
タコメーター 79
単位..... 89

ち

チェーン（タイヤチェーン）.....432
チャイルドシート 44
ISOFIX ロアアンカレッジ
での取り付け.....60
シートベルトでの固定.....58
選択方法 49
チャイルドプロテクター.....125
駐車ブレーキ
（パーキングブレーキ）.....210
警告灯 550
警告メッセージ.....212
操作.....210
冬季の注意 432
未解除走行時警告ブザー 213
チルト＆テレスコピック
ステアリング 155

つ

ツール（工具）.....563
通信利用型レーダー
クルーズコントロール.....284

て

テールランプ（尾灯）..... 217
　ランプスイッチ 217
T-Connect※
提案サービス機能..... 101
ディスプレイ
　警告メッセージ 556
　設定 89
　ヘッドアップディスプレイ 105
　マルチインフォメーション
　　ディスプレイ 83
ディファレンシャル
　リヤディファレンシャル..... 599
低扁平タイヤ 509
デイライト 218
手入れ
　外装 492
　シートベルト 498
　デジタルインナーミラー..... 167
　内装 497
　ホイール・
　　ホイールキャップ..... 493
　レーダーセンサー 244
デジタルインナーミラー..... 160
デフォッガー（リヤ
　ウインドウデフォッガー）..... 442
電球（バルブ）
　交換要領（外装バルブ）..... 530
　ワット数 601
点検基準値
　（メンテナンスデータ）..... 596
電子キー..... 116
　作動範囲 137
　正常に働かないとき 579
　節電機能 138
　電池が切れた 579
　電池交換 523
電池交換（キー）..... 523
電動サンシェード 480
　操作 480
電話スイッチ ※

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

と

トークスイッチ ※
ドア 122
イージークローザー 127
オートドアロック・
アンロック機能 125
衝撃感知ドアロック
解除システム 126
スマートエントリー&
スタートシステム..... 122
チャイルドプロテクター..... 125
ドアガラス..... 175
ドアロックスイッチ 124
ドアロックボタン 124
半ドア走行時警告ブザー..... 127
窓開警告ブザー 177
ロックボタン 124
ワイヤレスリモコン 122
ドアカーテシランプ
位置 458
ドアハンドル照明..... 458
ドアポケット 462
ドアミラー..... 172
RCTA（リヤクロス
トラフィックアラート）.....335
格納のしかた 172
操作.....172
電球（バルブ）の交換.....532
ドアミラー照明.....458
ブラインドスポット
モニター（BSM）.....316
ポジションメモリー.....147
ミラーヒーター.....442
リバース連動機能.....173
盗難防止装置
エンジンイモビライザー
システム 64
オートアラーム.....65
時計 471
トップテザーアンカレッジ.....62

Toyota Safety Sense..... 242
RSA（ロードサイン
アシスト）..... 270
AHS（アダプティブ
ハイビームシステム）..... 220
AHB（オートマチック
ハイビーム）..... 225
LTA（レーントレーシング
アシスト）..... 258
先行車発進告知機能 291
PCS（プリクラッシュ
セーフティ）..... 248
レーダークルーズ
コントロール
（全車速追従機能付き）..... 275
トヨタマルチ
オペレーションタッチ 484
ドライビング
ポジションメモリー 147
ポジションメモリー 148
メモリーコール機能 149
ドライブインフォメーション
（マルチインフォメーション
ディスプレイ）..... 87
ドライブスタート
コントロール..... 186, 206
ドライブモードセレクト 419
トラクションコントロール
（TRC）..... 424
トランク..... 130
イージークローザー 132
オープナー 130
キー閉じ込み防止機能 132
警告ブザー 132
電子キーが正常に
働かないとき.....579
トランクオープナーを
使用できなくするには 131
トランク内の装備.....468
メインスイッチ..... 131
ワイヤレスリモコン 131
トランクランプ 132
ワット数 601
トランスミッション
M モード 205
オートマチック
トランスミッション 202
シフトダウン制限
警告ブザー.....205
シフトレバー 202
シフトレバーが
シフトできない.....207
スノーモード 203
操作.....202
パドルシフトスイッチ 204
メンテナンスデータ 599

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

トリップメーター..... 85
ODO/TRIP スイッチ..... 85
機能 101
切りかえ・
リセットスイッチ..... 85

な

内装
収納装備..... 462
手入れ..... 497
「ナノイー」..... 446
ナビゲーションシステム ※
ナビゲーションシステム
連携表示 105

に

ニーエアバッグ..... 31
荷物
積むときの注意..... 195
トランク..... 130
トランク内装備..... 468

ぬ

ぬかるみにはまった
（スタック）..... 593

ね

燃費 87
瞬間燃費 87
平均燃費 87
燃費画面..... 112
燃料 596
給油.....238
種類.....596
燃料計 79
燃料残量警告灯.....552
フューエルポンプ
シャットオフシステム 549
容量.....596
燃料計.....79

は

パーキングサポートブレーキ
（後方接近車両）.....361
パーキングサポートブレーキ
（後方歩行者）.....367
パーキングサポートブレーキ
（静止物）.....353
パーキングサポート
ブレーキ（PKSB）.....346
警告灯 347
警告ブザー 347
警告メッセージ.....347
操作.....346
表示灯 553

パーキングブレーキ..... 210
警告灯..... 550
警告ブザー..... 213
警告メッセージ..... 212
操作 210
冬季の注意..... 432
パーキングブレーキ
表示灯..... 554
未解除走行時警告ブザー..... 213
パーソナルランプ..... 460
バイオ混合ガソリン..... 240
排気ガス 42
ハイビーム（ヘッドランプ）..... 217
AHS（アダプティブ
ハイビームシステム）..... 220
AHB（オートマチック
ハイビーム）..... 225
スイッチ..... 217
ランプスイッチ 217
ハザードランプ
（非常点滅灯）..... 537
スイッチ..... 537
電球（バルブ）の交換..... 532
挟み込み防止機能
パワーウインドウ 175
ムーンルーフ..... 180
発炎筒 538
バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の交換.....532
バックガイドモニター ※
バッテリー.....502
警告灯 550
搭載位置 502
バッテリーがあがった.....582
バッテリーを交換するとき 586
パドルシフトスイッチ.....204
バニティ（化粧用）ミラー.....470
バニティミラーランプ.....470
パノラミックビューモニター ※
バルブ（電球）
交換要領
（外装のバルブ）.....530
ワット数 601
パワーイージーアクセス
システム.....147
パワーウインドウ 175
ウインドウロック
スイッチ 175
警告ブザー 177
閉めることが
できないときは.....176
初期化.....176
操作.....175
ドアロック連動
ドアガラス開閉機能 176
挟み込み防止機能.....175
巻き込み防止機能.....176

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

パワーステアリング..... 424
機能 424
警告灯..... 551
警告ブザー..... 551
警告メッセージ 556
パンクした 561
番号灯（ライセンスプレートランプ）..... 217
ランプスイッチ 217
ハンズフリー ※
ハンドル（ステアリングホイール）..... 155
位置調整..... 155
オートチルトアウェイ＆オートリターン機構..... 156
スイッチ..... 85
ステアリングヒーター..... 452
ドライビングポジションシステム 148
パワーイージーアクセスシステム 147
ポジションメモリー 147
メーター操作スイッチ..... 85

ひ

BSM（ブラインドスポットモニター）.....316
ビークルスタビリティコントロール（VSC）.....423
ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント（VDIM）.....424
PCS（プリクラッシュセーフティ）.....248
ヒーター
エアコン 436, 449
エアコン・デフォッガー 436
オートエアコン.....436
シートヒーター.....455
ステアリングヒーター 454
フロントエアコン.....436
ミラーヒーター.....442
リヤウィンドウデフォッガー.....442
リヤエアコン 449
非常点滅灯（ハザードランプ）
スイッチ 537
電球（バルブ）の交換 532
非接触充電器.....473
尾灯（テールランプ）.....217
ランプスイッチ.....217
ヒューズ.....526
表示灯.....75
日よけ（サンバイザー）.....470
ヒルスタートアシストコントロール 424

ふ

ブースターケーブルの
つなぎ方 582
VSC（ビークルスタビリティ
コントロール）..... 423
フォグランプ 530
スイッチ..... 229
電球（バルブ）の交換..... 530
ワット数..... 601
ブザー
RSA（ロードサイン
アシスト）..... 272
RCD（リヤカメラ
ディテクション）..... 343
RCTA（リヤクロスト
ラフィックアラート）..... 336
運転席・助手席
シートベルト非着用..... 554
クリアランスソナー 334
シートベルト非着用警告..... 554
シフトダウン制限警告..... 206
車線逸脱警報機能 262
衝突警報（PCS）..... 248
スマートエントリー&
スタートシステム 137
接近警報（レーダークルーズ
コントロール）..... 282
先行車発進告知機能 291
手放し運転警告（LTA）..... 268
パーキングブレーキ
未解除走行時警告..... 213
パワーステアリング 555
半ドア走行時警告 127
PKSB..... 347
PCS..... 248
ふらつき警報機能
（LTA）..... 263
ブレーキ警告 550
ボンネット開警告..... 501
窓開警告 177
ムーンルーフ開警告..... 181
油圧..... 550
リバース警告 206
フック
けん引フック 545
コートフック 483
フロアマット固定フック 22
フューエルポンプシャット
オフシステム 549
フューエルメーター 79
フューエルリッド（給油口）..... 238
給油口が開かない..... 241
給油のしかた 238
冬の前の準備
（寒冷時の運転）..... 432
冬用タイヤ..... 432
ブラインドスポット
モニター（BSM）..... 316

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

プリクラッシュセーフティ
（PCS）..... 248
機能 248
設定を変更する 251
PCS 警告灯 553
ブレーキ
緊急ブレーキシグナル..... 424
警告灯..... 550
警告ブザー..... 550
パーキングブレーキ 210
パーキングブレーキ
表示灯..... 554
ブレーキ警告灯 550
ブレーキホールド 214
メンテナンスデータ 600
ブレーキアシスト..... 423
ABS ＆ブレーキアシスト
警告灯..... 551
機能 423
ブレーキ付近から
キーキー音が聞こえる 190
ブレーキフルード..... 600
ブレーキホールド..... 214
フロアマット 22
フロントオートエアコン 436
フロントシート..... 143
シートヒーター..... 455
シートベンチレーション 456
シートポジション
メモリー 147
正しい運転姿勢..... 24
調整..... 143
手入れ 497
ドライビングポジション
システム 148
パワーイージー
アクセスシステム 147
ヘッドレスト 152
ポジションメモリー..... 147
メモリーコール機能..... 147
フロント席集中送風モード
（S-FLOW）..... 440
フロントパーソナルランプ..... 460
スイッチ 460
フロントフォグランプ..... 229
スイッチ 229
フロント方向指示灯 209
方向指示レバー..... 209

へ

平均車速 87
平均燃費 87
ヘッドアップディスプレイ 105
運転支援システム表示..... 107
エコドライブ
インジケーター 106
スイッチ..... 106
設定 106
ナビゲーション
システム連携 105
割り込み表示..... 104
ヘッドランプ 217
AHB（オートマチック
ハイビーム）..... 225
オートレベリング
システム..... 218
クリーナー..... 231
スイッチ..... 217
ライトセンサー 218
ランプ消し忘れ防止機能..... 218
ランプスイッチ 217
ヘッドランプオート
レベリングシステム 218
警告メッセージ 559
ヘッドレスト 152
ベビーシート 44
ヘルプネットスイッチパネル ※
ベンチレーション
（シートベンチレーション）..... 456

ほ

ホーン（警音器）..... 156
ホイール
交換（タイヤ）..... 512
メンテナンスデータ 600
方向指示灯
方向指示レバー..... 209
ポジションメモリー 147
保証 9
ボタン
ロック（ドア）..... 124
ボトルホルダー 465
ポップアップフード 39
ボンネット
開け方 501
警告ブザー 501
ポップアップフード..... 39

ま

マイコンプリセット
ドライビングポジション
システム 148
巻き込み防止機能 176
マスターウォーニング..... 554

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

マルチインフォメーション
ディスプレイ.....83
運転支援システム情報.....86
エコドライブ
インジケーター.....103
オーディオシステム連携.....86
画面の見方.....83
警告メッセージ.....556
Stop & Start
システム情報.....102
設定.....89
提案サービス機能.....101
ドライブ
インフォメーション.....87
ナビゲーション
システム連携.....86
PCS.....90
メーター操作スイッチ.....85
メニューアイコン.....86
レーダークルーズ
コントロール.....275
割り込み表示.....83

み

ミラー
アウターミラー.....172
インナーミラー.....158
デジタルインナーミラー.....160
ドアミラー.....172
バニティミラー.....470
ミラーヒーター.....442

む

ムーンルーフ.....179
警告ブザー.....181
警告メッセージ.....181
初期化.....181
操作.....179
ドアロック連動
ムーンルーフ開閉機能.....180
挟み込み防止機能.....180

め

メーター
計器類 79
警告灯 73
警告メッセージ 556
照度調整 80
設定 89
時計 471
表示灯 75
ヘッドアップ
ディスプレイ 105
マルチインフォメーション
ディスプレイ 83
メーター 79
メーター操作スイッチ 85
メカニカルキー 117
メニューアイコン 86
メモリーコール機能 149
メンテナンスデータ 596

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能 602
雪道ですべって動けない
（スタックした） 593
油脂類 597

ら

ライセンスプレートランプ
（番号灯） 217
ランプスイッチ 217
ラゲージマット 468
ラゲージルーム
（トランク） 130
ラジエーター
オーバーヒート 589
メンテナンスデータ 599
ランプ
インテリアランプ 459
AHS（アダプティブ
ハイビームシステム） 220
AHB（オートマチック
ハイビーム） 225
室内灯 458
電球（バルブ）の交換 530
トランクランプ 132
パーソナルランプ 460
バニティミラーランプ 470
非常点滅灯
（ハザードランプ） 537

フロントパーソナル
ランプ.....460
フロントフォグランプ.....229
ヘッドランプ（前照灯）.....217
方向指示灯（ターンシグナル
ランプ／ウインカー）.....209
ライトセンサー.....218
ランプ消し忘れ防止機能.....218
リヤフォグランプ.....229
ルームランプ.....458
ワット数.....601
ランプ消し忘れ防止機能.....218

り

リバース連動機能
ドアミラー.....172
リヤサンシェード.....482
リヤアームレスト.....479
リヤウインドウ
デフォッガー.....442
リヤエアコン.....449
リヤカメラディテクション.....342
警告メッセージ.....343
操作.....342
リヤサンシェード.....480
リヤシート.....145
調整.....145
ヘッドレスト.....152
リヤシートヒーター.....455
リヤ席シートベルト
非着用警告灯.....552
リヤ席シートベルト
リマインダー.....552
リヤドアサンシェード.....480
リヤパーソナルランプ.....460
リヤフォグランプ.....229
スイッチ.....229
電球（バルブ）の交換.....530
ワット数.....601
リヤ方向指示灯.....209
方向指示レバー.....209

る

ルームミラー
（インナーミラー）.....158, 160
ルームランプ（室内灯）.....458
操作.....459, 460

れ

レーダークルーズ
コントロール..... 275
警告メッセージ..... 289
接近警報..... 282
前方センサー..... 243
レーダーセンサー..... 243
レーントレーシングアシスト
（LTA）..... 258
警告メッセージ..... 269
車線逸脱警報機能..... 262
スイッチ..... 264
操作..... 264
ふらつき警報機能..... 263
マルチインフォメーション
ディスプレイ表示..... 264
冷却水
水温計..... 79
水温警告灯..... 550
冬の前の準備..... 432
メンテナンスデータ..... 599
冷却装置（ラジエーター）
オーバーヒート..... 589
メンテナンスデータ..... 599
レバー
給油口..... 241
シフト..... 202
ハンドル位置調整レバー..... 155
方向指示..... 209
ボンネット解除..... 501
ワイパー..... 231

ろ

ロードサインアシスト
（RSA）..... 270
ロック
ウインドウロック..... 175
シフトロック..... 207
スマートエントリー&
スタートシステム..... 122
チャイルドプロテクター..... 125
ドア..... 122
ワイヤレスリモコン..... 116

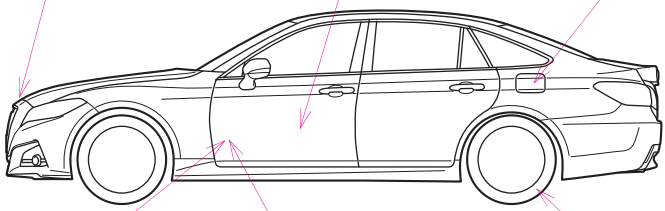
わ

ワイパー&ウォッシャー..... 231
ウォッシャー液の補充..... 506
ワイパー停止位置の切りかえ..... 236
ワイパーブレード
（寒冷地用）..... 235
ワイヤレス充電器
（おくだけ充電）..... 473
ワイヤレスリモコン
作動の合図..... 123
操作..... 116
電池の交換..... 523
半ドア警告ブザー..... 123
半ドア走行時警告ブザー..... 127
ワックス..... 492
ワット数..... 601

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

ボンネットフック	トランクオープナー	給油口
P. 501	P. 130	P. 240



ボンネット解除レバー	給油口オープナー	タイヤ空気圧
P. 501	P. 240	P. 600

燃料の容量（参考値）	66L
燃料の種類	・無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク） ・バイオ混合ガソリン（プレミアム）※ ※ エタノールの混合率　10%以下または、ETBEの混合率22%以下のガソリン（酸素含有率3.7%以下）を使用することができます。 P. 596
タイヤが冷えているときの空気圧	P. 600
エンジンオイル容量（参考値）	P. 597
エンジンオイルの種類	トヨタ純正モーターオイル　P. 597

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

0800-700-7700

オープン時間　365日　9:00～18:00

所在地　〒450－8711　名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）を
ご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
https://toyota.jp/privacy_statement/ にて
掲載しております。

「リコール等情報」については、
https://toyota.jp/recall/index.html にて
掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
https://toyota.jp

ク-26

M 30J22
01999−30J22
CC-2020年 4 月20日
2020年 4 月27日 初版
クラウン（ガソリン車）